日本建築協会

建築と社会

1998 1

特集

新しいまちづくりの予感
東畑建築事務所創立65周年



アルミショツト+ステンレスバイブレーション　泉佐野文化会館(特注品)

UNION

http://www.artunion.co.jp/

－取扱製品－

- 建築用ドアハンドル
- レバーハンドル
- ドアストップ－エッセ
- フロアシステム
- 消火器収納ケース－アルジャン
- サインシステム－ピクト
- ケアシステム－ハンドバー
- クロセットドア
- アーキパーツ
- 都市景観ランドボール・エキスボール
- キャスタル＋メタルアート

新カタログ
ご請求ください。
急送いたします。

ユニオン Union ドアハンドル DoorHandles

進化したワークから、深化したデザイン

人々が日々活動する建物には、それぞれの性格や個性があり、人が最初に手に触れる大切な扉があります。そうした設計コンセプトを基にデザインされたドアハンドルはエントランスに花を咲かせ人の心を楽しませてくれます。ドアハンドルを専門メーカーとして古くから創ってきたユニオンは、時代の進化と共に、これからも深く研究を続けて行きます。なお、数多くのレディーメイドを用意しておりますが、ご希望によりオーダーメイド（デザイン）など、すべてユニオンにお任せください。



チタンショツトブラスト　甲南大学(特注品)

ドアハンドルの
株式会社ユニオン
UNION CORPORATION

■本社
大阪市西区南堀江2-13-22
〒550-0015

■大阪支店・ショールーム
大阪市西区南堀江2-13-22
〒550-0015
℡06(532)3731
℻06(532)0568

■東京支店
東京都江東区白河2-9-5
〒135-0021
℡03(3630)2811
℻03(3630)2816

■東京ショールーム
東京都港区虎ノ門2-3-22
〒105-0001
℡03(3506)1717
℻03(3506)1718

■名古屋営業所・ショールーム
名古屋市中川区舟戸町3-20
〒454-0805
℡052(363)5221
℻052(363)5255

1998年を迎えて

社団法人　日本建築協会会長　市川　宏

新しい年を迎え、会員の皆様のご多幸と建築界の繁栄を心からお祈りいたします。

わが国にとりまして、昨年は内外ともにかつてない不安定な１年であったと思います。国内においては、国家財政の問題、金融不安をはじめ少年犯罪など、まさに「病める日本」の側面が次々に顕在化し、今まで経験したことのないさまざまな社会問題を引き起こした１年でありました。

国際的には、数年来世界の注目を集めてきた香港の中国返還という歴史的な出来事も、皮肉にもこれを境に、東アジア諸国において為替レートの下落などバブル崩壊現象が起こり、「アジア繁栄の奇跡」も今や経済的危機に瀕しています。また一方、しばらく小康状態にあったイラク問題が再び懸念されるなど、アジアの一員として、依然として中東の石油に依存せざるを得ない我が国にとって頭の痛い問題です。

また、本年は我が国社会にとって一大転換を迫られるかも知れない「ビッグバン」と呼ばれる証券取引制度改革の動きが予測されるわけですが、地球規模で動く近年の国際資本の荒波により、多くの不良債権を抱える我が国金融・証券界に予測を超えた影響を与えることも心配です。

このように内外の多難な局面にあって、昨年９月には第二次橋本内閣が発足し、予て懸案の行・財政改革の実現に向け、１府12省への行政組織の再編・圧縮や多角的な規制緩和策について大いに議論がなされております。

国の行・財政改革は必要であり、その動向には関心をもって見守る必要がありますが、しかし公共事業費の大幅抑制があたかも財政改革の決め手のように考えることには、直ちに賛成しえないものがあります。ここまで落ち込んだ不況に対しては、まずは即効的な手だてを講じることが不可欠であり、そのためには、やはり都市基盤の整備や住宅建設の促進策の推進などが必要であり、また一方、われわれとしても民間活力という面から政府の施策に呼応して、自ら出来ることは万難を排して取り組み、官民一体となってこの厳しい社会経済環境から脱却できるよう努力していかねばならないと考えます。

幸い、日本建築協会は計画から設計、施工、環境、維持管理等建築に関するあらゆる分野からの英知が集まっている集団です。今こそ、協力してこの困難な情勢を克服していかねばなりません。

昨年は、協会創立80周年を祝うことができましたが、今後さらに90周年、100周年がそれぞれ記念すべき意義ある年になりますよう、年頭にあたり会員各位の格別のご支援、ご協力をお願いするものであります。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

編集委員会

Openness（開放による自己鍛錬）の精神で

編集委員長
與謝野　久

新年を迎え会員の皆々様には、日頃より格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。
社会をとりまく政治・経済状況はますます厳しさを増すばかりで、このうねりはしばらくの間、建築界にも当然のことながら、大きく押し寄せ続けることでしょう。
こうした状況の中で、内外から建築界に問われているいくつかの課題の中で大きいことは、建築の企画から竣工までの様々な検討・決定過程における「透明性」の確保であるとつくづく感じます。
昨年末、欧米のグローバル企業を一巡して感じたことは、各企業が「speed and change」に取り組む真剣さとともに、「いかに自らの技術のノウハウを社会に開示して、その結果として自らを鍛え上げていくか」という「openness」の精神を徹底している凄まじさでした。
会員の皆様のご支援を得て機関誌「建築と社会」は、充実した内容を維持してきておりますが、本年はこのことばを key-word として編集に臨み、建築界が一般の方々にも解りやすい存在となり、透明性確保の一助にでもなればと感じております。
皆様の更なる積極的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事業委員会

若い会員の増強を望む

事業委員長
多井　幸男

新年を迎え、会員の皆様には日頃より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。
昨年は創立80周年をお互いに祝しましたが、ちょうど中国支部創立50周年にもあたり、広島の新建築の見学・親睦会を開いて、有意義な交流をいたしました。本年は、すでに地元のご協力を得ておりますが、東海地方の見学会を盛大に開きたいと思いますのでご期待下さい。
従来多くのご参加を得ている茶室と有名建築の見学会、シリーズものの企画等は引き続き行いますが、とくに「若い会員の集い」には総力をあげ、将来のために新時代に即した計画をし、皆様と共に大いに努力する所存でございます。
また、常設各委員会は相互の連絡を密にして広範囲な意見をまとめ、一層協会の発展に尽力したいと考えております。
会員各位の更なるご協力とご指導を賜りますようお願いいたしまして、年頭のご挨拶といたします。

教育委員会

建築界の変化への対応を

教育委員長
片倉　健雄

ここ2・3年間の、建築の社会の大きな変化をどうとらえるかは、どの委員会の活動にとっても課題であると思います。私どもの委員会も、当協会の特徴である建築界での横に広い連繋を生かしながら、新しい年の活動を見直してゆきたいと考えます。
「建築工事実務講習会」は中堅技術者を対象にしたものですが、ますます必要性が高まっている工事管理技術への対応と、ノウハウの共有につながる活動と考えています。講習会における支部活動との関係を深める役割も軌道に乗りつつあります。
「工高生デザインコンクール」は全国から広く応募があり、今年は第44回を迎えます。昨年は入選者の半数以上を女子が占めましたが、設計教育の考え方にも時代の変化が影響しはじめているように感じております。
さらに変化を続ける新しい年へ向けて、会員諸氏からもぜひご意見をいただきたいと存じます。

出版委員会

前進を続けないとモノゴトは挫折しますねェ

出版委員長
山田　　修

技術の進歩は速いです。それにつれて技術のノウハウを単行本にするためには、歩みを揃えねばなりません。活力が要ります。いっぽう、出版は忙しい人に頼まないとできないものです。忙しい人は本を書くヒマがありません。本を書くには、とてつもないエネルギーがいるからです。
まさに矛盾のなかにあって、当会は技術書を続けて世に送ろうとしているのですから、その厳しさの現況は、今日の建築業界とまったく同じです。じっと耐えることです。でも、前進を続けないとモノゴトは挫折してしまいますねェ。
会員の皆様がた、「こんな本を出して欲しい」「あんな著者がいるよ」などの情報をどしどしと当委員会までお寄せいただきますことをお願いし、抱負ならぬ豊富を期待いたしております。お頼みしますよ！

建材委員会

環境の視点から材料を見直す

建材委員長
和田　克朗

京都での環境国際会議開催は、各方面に環境とエネルギー問題への関心を高めました。1996年に環境管理システム監査の国際規格「ISO14000」シリーズが発効し、その認定取得の動きが住宅産業や建材業界にも広まっています。
しかしながら、建設業界における産業廃棄物は全産業排出量の21%を占め、またリサイクル率も51%と、他産業に比べて相対的に低いのが現状です。
すべての材料は、何回かの再利用の機会があっても、いずれは廃棄物になる運命をもっています。廃棄物の処分が困難になりつつある現在、建築でも、なるべく梱包材料は現場に持ち込まない、残材を発生させない、再利用、解体の容易さに配慮した材料を使用する工法が広まってきました。
今までは当建材委員会でも、誌面を通じて、低価格、施工の容易さ、強度、外観のよさを重視して、リサイクルの困難な複合材料（金属、木材、プラスティック、窯業材料などが一体になったもの）を新建材とし紹介したこともありましたが、今後は環境の視点で材料を見直していきたい思います。

話題建築を聞く
(第26回)
ハービスOSAKA
苫名　正氏に聞く



「ハービスOSAKA」は1997年5月23日、設計と施工に7年の歳月をかけてグランドオープンした。オフィス、オフィスミュージアム、リビングミュージアム、トラベルミュージアム、ハービスプラザ、ハービスホール、ザ・リッツカールトン大阪で構成される超複合建築である。バブルの前にキックオフ、絶頂期に企画立案、崩壊後に設計、施工中に阪神大震災と波瀾万丈の連続であった。その間、首尾一貫して変わらなかったのが事業主の開発コンセプト「さまざまなシーンの響き合う街」であり、設計チームのデザインコンセプト「世界第一級の絵になる街づくり」であった。大阪が戦中戦後を通じて失い続けた「浪速百景」からなる風景を少しでも復活させたいとの強い想いがあったからである。具体的には風景を「遠景」「中景」「近景」の三段階に秩序だて、どの景を切り取っても絵になると同時に全体としても一体感のある風景的建築となるよう腐心した。今回はこうして造られた建築の出来不出来もさることながら、7年にわたってサイトに張り付いた設計チームの悪戦苦闘ぶりを紹介し、どのように考えどのように対応したかをお話ししたいと思います。　(苫名　正)



苫名　正(とまな　ただし)
1947年京都市生まれ
70　エスプーンカウパラン設計事務所(ヘルシンキ)勤務
71　東京工業大学建築学科卒業
現在　竹中工務店設計部部長
主な作品
・梅田センタービル(BCS賞ほか)
・打出竹友寮(学会建築選集ほか)
・松風ギャラリー(士会連合会作品展優秀賞)
・ハービスOSAKA(日経ニューオフィス賞ほか)

所在地　大阪市北区梅田2-5-25
建築主　阪神電気鉄道㈱
設計監理　竹中工務店
ｱｰﾄﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｽ　TAKENAKA DESIGN
ﾎﾃﾙｲﾝﾃﾘｱ　Hirsch/Bender&Associates ATLANTA Office
ﾎﾃﾙﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟ　Peridian＋東京ランドスケープ研究所
音響設計　永田音響設計
施工　竹中・大林・鹿島・ハンシンJV

日　時　1998年1月21日(水)
見学　17:30―18:30
講演　18:30―20:30
会　場(集合)　ハービスOSAKA 6F会議室
＊大阪駅から徒歩5分
講　師　苫名　正／竹中工務店設計部部長
定　員　50人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員2,000円、一般3,000円
＊コーヒー・ケーキ付、税込
申　込　1月13日(火)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：話題建築を聞く
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を1月14日(水)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階　〒530
FAX.348-0634　TEL.348-0633

30's EYE- 21世紀へのエスキス
第26回
山盛　英司
朝日新聞学芸部記者
メディアの中の建築
新聞文化面の読み方教えます

「30's EYE-21世紀へのエスキス」をテーマに、30代を中心に様々な分野でご活躍の方々をゲスト講師に迎え、従来の講演会形式とは違う「語り合い、情報交換を行う場」をつくりたいと考えています。気軽にご参加下さい。

日　時　1998年1月30日(金)
18:30―20:30
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　山盛英司
定　員　30人＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般1,500円
＊学生は500円引
＊含、飲物・消費税
＊団体会員扱いは1社1名
申　込　1月23日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：30's EYE
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を1月26日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階　〒530
FAX.348-0634　TEL.348-0633
主　催　㈳日本建築協会
若い会員の集い小委員会
主担　松隈　章／竹中工務店設計部



'96ベネチアビエンナーレ建築展「日本館」展示



山盛英司(やまもり　えいじ)
1963　名古屋市生まれ
1988　早稲田大学教育学部卒業
1988　朝日新聞アエラ発行室記者
1993　朝日新聞神戸支局記者
1995　朝日新聞大阪本社学芸部記者
1996　同美術担当

新聞社の学芸部記者になって2年。文化面の美術や学術を担当する駆け出し記者です。日々の事件、事故の客観報道を第一に考える新聞の中で、人々の精神活動の積み重ねである文化を、批評性あるニュースとしていかに報道するか、日々悪戦苦闘しています。
中でも建築の記事には、いつも頭を痛めます。技術用語や建築史などの専門知識が求められる上、哲学や美学を駆使して構築された建築家の思想を理解することは、容易ではありません。しかし、それらをいかに読者が現実感をもって接してもらえる記事にできるか苦心する中で、新聞という媒体の形式や表現の限界、さらには報道の醍醐味を味わうこともできます。
阪神大震災後の歴史的建造物の保存や、'96年のベネチアビエンナーレ建築展など、これまでの取材経験を通して、建築のニュースが新聞記事になるプロセスを知っていただくとともに、文化面と社会面の違い、大阪紙面と東京紙面との違いなど、新聞文化面の読み方をご紹介できればと思っています。
(山盛英司)

滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 見学会

日　時　1998年 2 月17日(火)
　　13:30―16:30
講　師　中林時彦／滋賀県建築課参事
　　仁科真弘／佐藤総合計画
　　坂尾賢一／大林・笹川JV総括所長
定　員　60人
　　＊申込者多数の場合は抽選
集　合　現地
参加費　会員 1,000円、一般 2,000円
申　込　2 月 9 日(月)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名:びわ湖ホール見学会
　　②氏名
　　③個人・団体会員、一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を 2 月10日(火)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　大阪駅前第 3 ビル21階 〒530
　　FAX.348-0634 TEL.348-0633



周囲の景観と調和して、湖畔の美しい景観形成の核となるとともに、各ホールホワイエやロビーからの琵琶湖の眺望が十分開けるように計画・設計されている。
大ホールは 4 面舞台（約2,100㎡）を持ち、最新の舞台設備により、オペラ、バレエ、ミュージカル、クラシック音楽演奏等に優れた空間を提供する。さらに中小ホール、リハーサル室、練習室、舞台芸術サロン、レストラン、ラウンジ等を備え、使用する人々のさまざまな活動の場として対応できるよう多様な機能が確保されている。また、身体障害者や高齢者が親しみやすいように客席や舞台への動線が配慮されている。
ぜひこの機会にご見学ください。

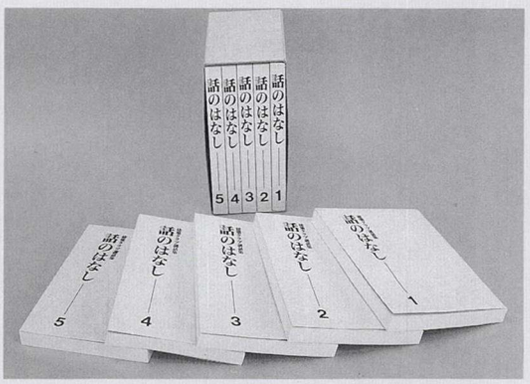
●建築概要
所 在 地　大津市打出浜なぎさ公園打出の森内
設計監理　滋賀県土木部建築課
　　佐藤総合計画
施　　工　大林組・笹川組JV
敷地面積　20,000.00㎡
建築面積　13,960.05㎡
延床面積　28,940.87㎡
構造規模　SRC・S、B2・4F
　　大ホール1,848席 4 面舞台
　　中ホール804席、小ホール323席
工　　期　1995年 3 月～1998年 3 月
オープン　1998年 9 月（予定）

'97～'98年版 日本建築協会会員 名簿の頒布

'97～'98年版会員名簿が出来上がりました。この名簿は、建築界に活躍される会員の現況（出身校・現住所・勤務先・所在地）を紹介するばかりでなく、官公庁・学校・関係諸団体のほか、建築事務所、建設、建材、設備その他関係業者の主要なものを業種別に収録しており、日常業務に大いに役立つものとおもわれます。何卒お買い求め下さるようお願い致します。
なお、すでにお申し込みの方、営業案内欄掲載の各社へは、発行と同時に一部ご送付申し上げておりますので、申し添えます。
体裁　B5判275頁　本文上質紙
定価　3,000円(消費税含む)〒310円

講演記録集 「話のはなし」 頒布します!

昭和47年6月に発足した「建築クラブ」（日本建築協会会員有志の集まり）は、毎月1回、大阪市内のリーガグランドホテルに学者やジャーナリストをはじめ政界・経済界・文芸界・スポーツ・芸能界など広い分野から講師をお招きして、お話を聞く朝食会を開いております。
この朝食会も昨年4月には第300回の記念すべき朝を迎えました。これを記念して、講演速記録を集約し、「話のはなし」という表題のもと、最終的に118回分を5冊1セット（1冊平均約320ページ）の本に編集いたしました。講話の内容はとても多彩で、「おもしろい話」「貴重なはなし」「裏ばなし」などがいっぱい詰まっています。



B6判　5分冊

建築クラブのご好意により、1セット・10,000円でおわけできることになりました。ご希望のかたは電話またはFAXでお申し込み下さい。

申込先：日本建築協会事務局
TEL06-348-0635
FAX06-348-0634

今月の表紙
奈良公園
撮影　絹巻　豊
表紙デザイン　安里俊久

■特集予告
2月号／Concrete
九州
3月号／東海支部会員作品
信州－諏訪とその周辺－
4月号／最近の外構材料

編集委員会（平成9年度）
■副会長　田ノ畑好幸
金多　潔　西岡　道雄
薬袋　公明　野口　太郎
■編集理事　堀内　一夫
荒巻　恭士　※桝井　貴廣
井上　豊　水谷　昇
小島　雄　村上幸三郎
竹中　統一　山根　敏和
立野　一郎　横平　光伸
真塚　達夫　★施工材料分科会
松村　慶三　植田　実
溝神宏至朗　岡崎　康夫
山田　修　小椎八重猛
◎與謝野　久　太刀川丈爾
■編集委員　※十倉　毅
★計画分科会　福井　茂和
☆計画系　米澤　秀暢
伊縫　憲幸　★法令分科会
梅村　宏尚　入江田吉仁
※小浦　久子　江山　雅己
鈴木　克彦　※城戸　史郎
田中　直人　炭崎　勉
松川　敏正　中　勝生
横関　真紀　浜野　幸雄
吉村　英祐　■作品作風小委員会
☆建築計画系　赤木　隆
上杉　秀隆　秋山　克彦
江副　敏史　秋山　茂
大村　昌聡　朝倉　一晃
荻窪　伸彦　小笠原絵理
菅野　忠司　川上比奈子
笹村　欽也　倉渕奈千子
佐藤不二男　杉原　繁
塚本　史郎　富田　昌義
※刃金　国雄　中村　文紀
服部　光宏　藤城　義丈
山本　匡　前川　治彦
☆インテリア・住宅系　前田　幸宏
石川　佳子　増田　敬彦
加藤　力　増田　俊哉
角方　利幸　○宮地雄一郎
北浦かほる　■会員企画小委員会
小梶　吉隆　伊藤　郁郎
小島　保人　池田　聡実
下村　陽子　○稲木　裕子
中村　孝之　大谷由紀子
中村　雅人　糟谷　浩史
※畑　康之　花野　元一
西田　和子　高岡　伸一
渡邊　秀俊　高田　光雄
★構造分科会　高橋　麗子
大氏　正嗣　塚口　明洋
岸本　一蔵　東宮年一郎
岸本　圭暁　長友理津子
楠本　隆　増渕　昌利
下野　直人　山寄　章子
鈴木　勝博　■広告企画小委員会
田中　剛　池渕　俊男
※田辺　太一　岩井　武夫
野口　拓也　○小幡　義明
松村　和夫　加納伸太郎
吉澤　幹夫　勝　一弘
★設備分科会　河原　正雄
梶井　宏修　長野　洋一
河津　隆之　山下　修司
◎委員長　○副委員長　※幹事

印　刷　平成9年12月25日
発　行　平成10年1月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06-348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

建築と社会 1 1997
ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN
1917年創刊　第79集／通巻910号

CONTENTS

特集● 新しいまちづくりの予感—震災を乗り越えて—
[総論] 新しいまちづくりの予感—震災を乗り越えて—●安田丑作 18
[各論] これからの公共施設への取り組み—ハードからソフトまで—●増田繁治 20
震災復興まちづくりへの取り組み—住宅・都市整備公団の場合—●藤野邦夫 24
住まいの復興支援への取り組み—各種制度を運用して—●池口和雄 28
[震災復興まちづくり事例] 野田北部まちなみ誘導型地区計画●森崎輝行 32
新長田駅南地区震災復興第二種市街地再開発事業●松浦行雄 33
長田区重池町のグループ再建●小川直樹 34
トアロード地区の景観形成市民協定●市原俊彦 35
六甲道駅南地区震災復興第二種市街地再開発事業●中原　信 36
神前地区のミニ区画整理—組合施行の震災復興土地区画整理事業—●岩崎俊延 37
深江緑のまちづくり●中山久憲 38
芦屋若宮地区住宅地区改良事業●内田富也 39
宝塚駅前（花のみち周辺）地区第二種市街地再開発事業●大和一成 40
[メモリアル事例] 震災メモリアルMAP●吉村英祐 42
野島断層保存「北淡町震災記念公園」●泉　純一 44

特集● 東畑建築事務所創立65周年
[座談会] 輝く個の集積と多様な建築表現—●岡田聿之・谷淳之介・萩原信行・吉村英祐—司会— 70
[作品] 泉佐野市総合文化センター／大野城まどかぴあ／京都ガーデンパレス 76
上牧町文化センターペガサスホール／ひがしうら文化館／井波彫刻総合会館
大阪城天守閣「平成の大改修」／神戸市立フルーツ・フラワーパーク／パセオダイゴロー西館
シーリアお台場五番街／江戸堀センタービル／瓦町三和三信ビル／Bank of China
象印マホービン本社別館／三神ビル／甲南大学／帝塚山大学法政学部棟
東京職業能力開発短期大学校／焼津市天文科学館
大阪府立産業技術総合研究所／鳥羽シーサイドホテル／青少年公園センターゾーン施設
秦野市総合体育館／大同生命葉山セミナーハウス／奈良柳生カントリークラブ／大阪プール
大江破砕施設／交野市総合体育施設／ウインズ八幡
[年表] 建築賞受賞作品 109
65年の歩み 111
[概要] 建築概要 117
組織概要 118

新年のあいさつ　1998年を迎えて●市川　宏 1
本年の抱負　常設委員会●與謝野久・多井幸男・片倉健雄・山田　修・和田克朗 2
会告　話題建築を聞く（26）ハービスOSAKA—苫名正氏に聞く. 3
30's EYE（26）山盛英司—メディアの中の建築. 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール見学会ほか

作品作風　福祉のまちづくり工学研究所 6
池田市立池田病院 10

gallery　奈良公園・聖ラファエル教会（和久井秀治）●倉渕奈千子 12
大地の呼吸　カトマンズの寺院●與謝野久 14
社会の眼　御堂筋と建築の社会性●倉光弘己 15
建築の眼　「異形建築」に思う●吉村英祐　暦●竹本俊平 16
地球温暖化問題と建築●宮田照久　町を食べる—（1）にがうり沖縄●井口勝文
法令コーナー　京都の都市居住促進に向けた建築ルールの提案●竹原祐介 45
W　座談会「女性研究者に聞く—住まいからまちづくりまで—」 46
素材と技術が生み出すデザイン　「鉄」—造船から●大氏正嗣 48
構造の頁　ドイツ式木造軸組真壁構造の移築●水原　渉 50
設備の頁　インバータポンプの省エネルギー効果●三宅良男 52
基礎講座　設計図書の理解—2—●出崎　進 53
REPORT　光響の都・アデレード●土屋壽満 54
安芸の宮島と美術館・スポーツ施設を訪ねて●伊藤　博 56
広島の近代文化遺産—忘れられたアレ!!砲台●橋本秀夫 58
ブックステーション　短評4題●伊藤郁郎／稲木裕子／花野元一 59
GBRCニュース　公的試験機関の資格●森田司郎 60
デザインコンクール　第43回工高生デザインコンクール—設計課題／記念展示館— 61
information　「喜多俊之のデザイン」展、「現代英国建築とそのヨーロッパにおけるコンテクスト」展. 65
タキロン国際コンペ'97入賞者.大学院博士過程社会人選抜.第17回大阪まちなみ賞決定.
第11回「大阪ハウジングデザイン賞」受賞住宅決定.ロレアル賞連続ワークショップ.
月間の動き　平成9年10月分 67



作品概要

設計監理■
兵庫県都市住宅部営繕課

施工■
大林組神戸支店

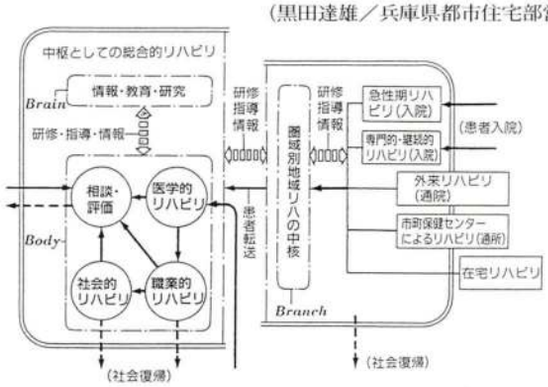
福祉のまちづくり工学研究所

全国に先駆けて制定された「福祉のまちづくり条例」のもと、バリヤーフリーのまちづくりなど面的・広域的整備への期待を受けて、初めての試みである当施設は、建築物、住宅、公共交通等の一層面的な都市施設に及ぶ実践的な研究開発、政策堤言、情報発信等の県下の中枢的役割を担うものである。

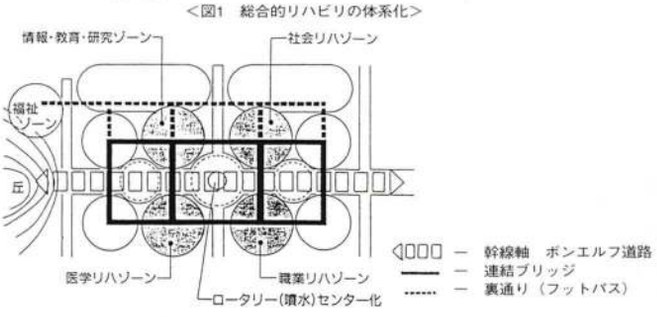
当施設は総合リハセンター全体再整備計画の一環であるが、リハビリの体系化に向けた企画や再整備計画から個々の施設づくりまで、現地所長やスタッフとの20数年に及ぶ共同事業でもある（図1.2）。'73年から職業リハゾーンの「能力開発センター」計画に端を発し、'76年「職業センター」、'87年から医学リハゾーンの「リハビリ中央病院」の計画に参画して完成まで丸5年、'91年には社会リハゾーンの「重度更生援護施設」を監修し、そして'93年には当施設の計画が浮上し、念願であった情報・教育・研究ゾーンに誘置することになった。これで4つのゾーンの骨格が固まり、各々を空中廊下で結ぶことでリハ機能の総合化・ネットワーク化が大枠完成することになる。これら以外の施設もその都度の修正を計りながら、残された管理棟や体育館の建替え、老朽した職業リハゾーンの再検討、来年から動く福祉ゾーンの「特養」の建替えなど、全体再整備計画を基本に今も見直しを続けている。

現地スタッフと全体コンセプトを共有し、企画から実施設計、工事監理、更には施設保全の相談も含めて20数年間かかわれてきたことは—このことが第3回病院建築賞、第5回公共建築賞の受賞理由にもなっている—設計者としてこの上なく光栄であり、益々責任の重さを感じているところである。

（黒田達雄／兵庫県都市住宅部営繕課）



<図1　総合的リハビリの体系化>



<図2　全体再整備計画概念>



中庭（屋外レストコーナー）



▼吹抜ロビー



空中廊下で結ばれた総合リハセンター



玄関ホール



※吹抜ロビー



▼※共同実験室

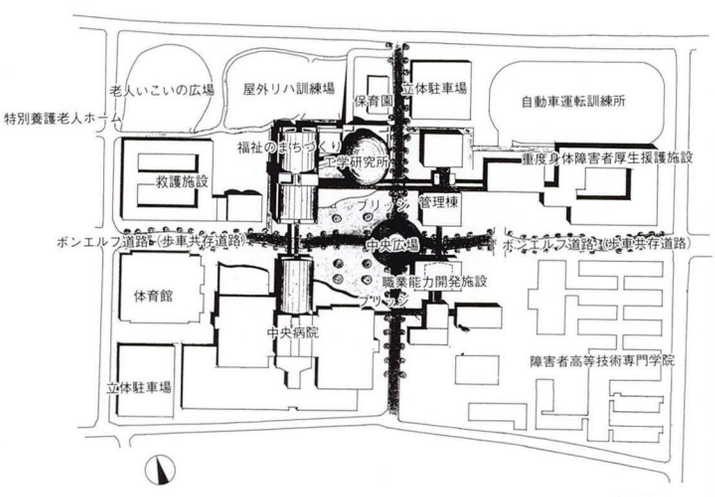


▼福祉機器展示ホール

エントランスまわり



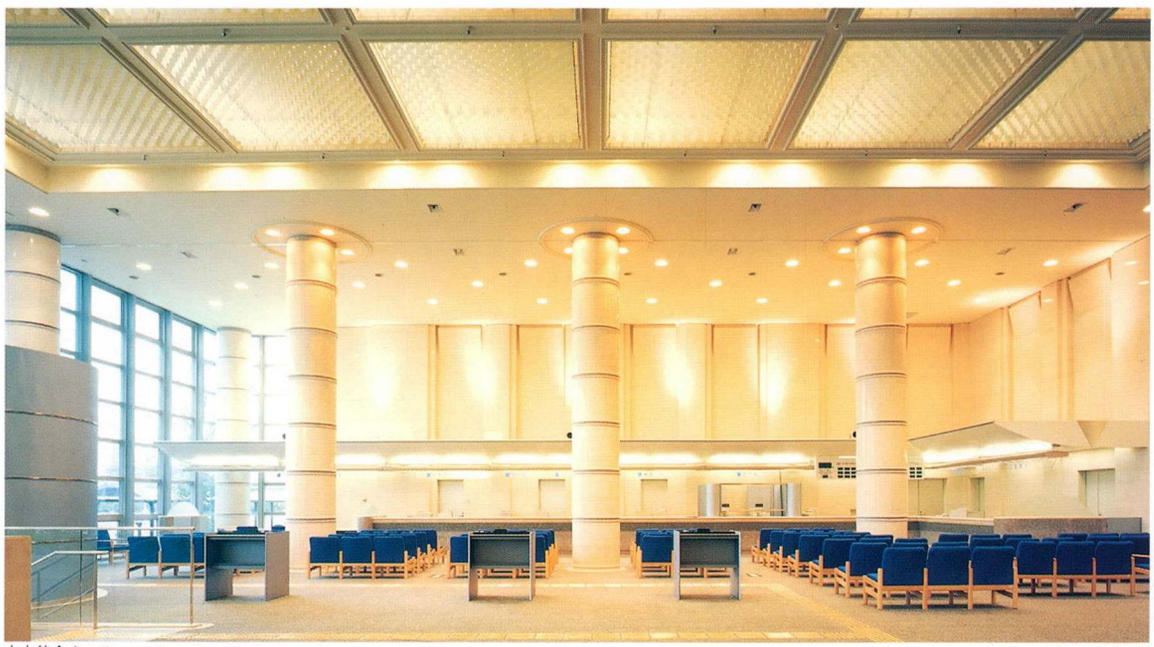
※中庭



配置図

所 在 地 ―― 神戸市西区曙町1070
敷地面積 ―― 22,559.60㎡
建築面積 ―― 2,203.06㎡
延床面積 ―― 6,450.84㎡
構造規模 ―― RC、一部SRC、S、4F、一部B1F
工　　期 ―― 1994年11月～1996年８月
最 寄 駅 ―― JR西明石駅
撮　　影 ―― 東出清彦、ナトリ光房※

正面外観



中央待合ホール

作品風

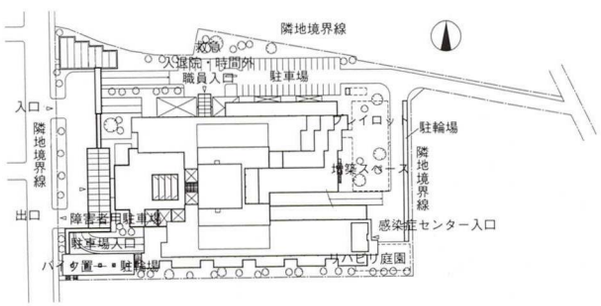
設計監理■
安井建築設計事務所

施工■
建　築　工　事：竹中・戸田・松村特定建設工事共同企業体
電気設備工事：栗原・クリハラント特定建設工事共同企業体
機械設備工事：三晃・トーヨコ理研特定建設工事共同企業体
昇降機設備工事：日本オーチス・エレベータ近畿支店
駐車機械設備工事：三菱重工業関西支社

池田市立池田病院

この病院は、既存の市立池田病院が老朽化し手狭となったため、旧大阪教育大学池田分校の跡地へ移転新築されたものである。
敷地は、市のシンボル的な存在である五月山を望む緑豊かで閑静な環境にあり、交通の便も合わせて良好な立地といえる。
建物は、緑の濃い周辺環境に映える白を基調としたタイル貼りの外装とし、日照、通風、五月山の眺望などを考慮したZ型の病棟で構成し、明るく親しみ易くて人に優しい「病院らしい病院」を目指した。
計画にあたっては、機能性の追求はもとより、中央待合ホールや外来のありかたなどを初めとして、アメニティの確保を大きなテーマとした。
また、この病院の構成上の大きな特徴は、外来部門を合わせて、放射線部門や生理検査部門、生化学検査部門などの一般検査部門や、リハビリ部門などを全て一階に集約していることである。このことにより、外来患者の利便性を高めると同時に、診療各科の共同による内視鏡センター、結石治療センター、糖尿病ぜんそく教育治療センターなどの特殊診療、特殊外来の有効な運用を可能としている。

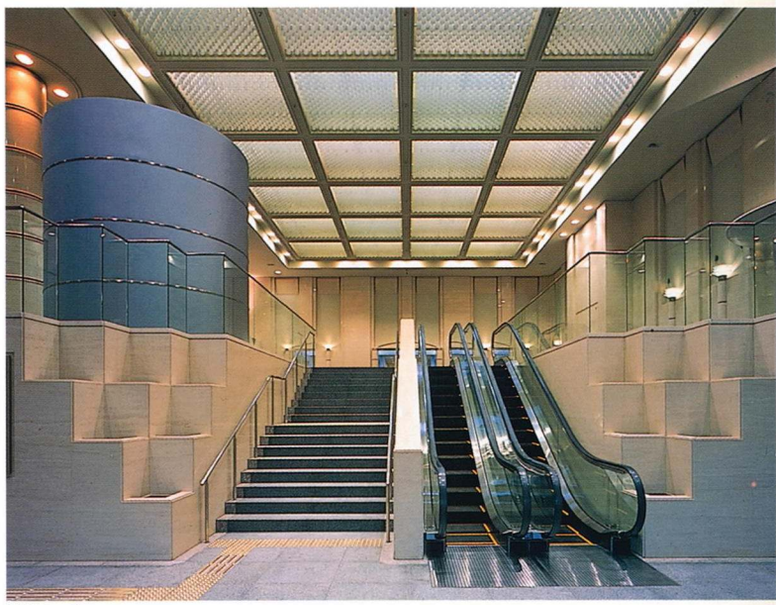
（関 映一郎／安井建築設計事務所）



配置図　1：3000

所 在 地 ―― 池田市城南３丁目103番89,90
敷地面積 ――15,713.12㎡
建築面積 ―― 7,015.11㎡
延床面積 ――28,249.32㎡
構造規模 ――SRC、一部RC、B2F、6F、P1F
工　　期 ――1994年12月～1997年５月
最 寄 駅 ――阪急宝塚線池田駅
撮　　影 ――ナトリ光房他


光庭を貫通する渡廊下


玄関ホール


▼喫茶コーナー

gallery

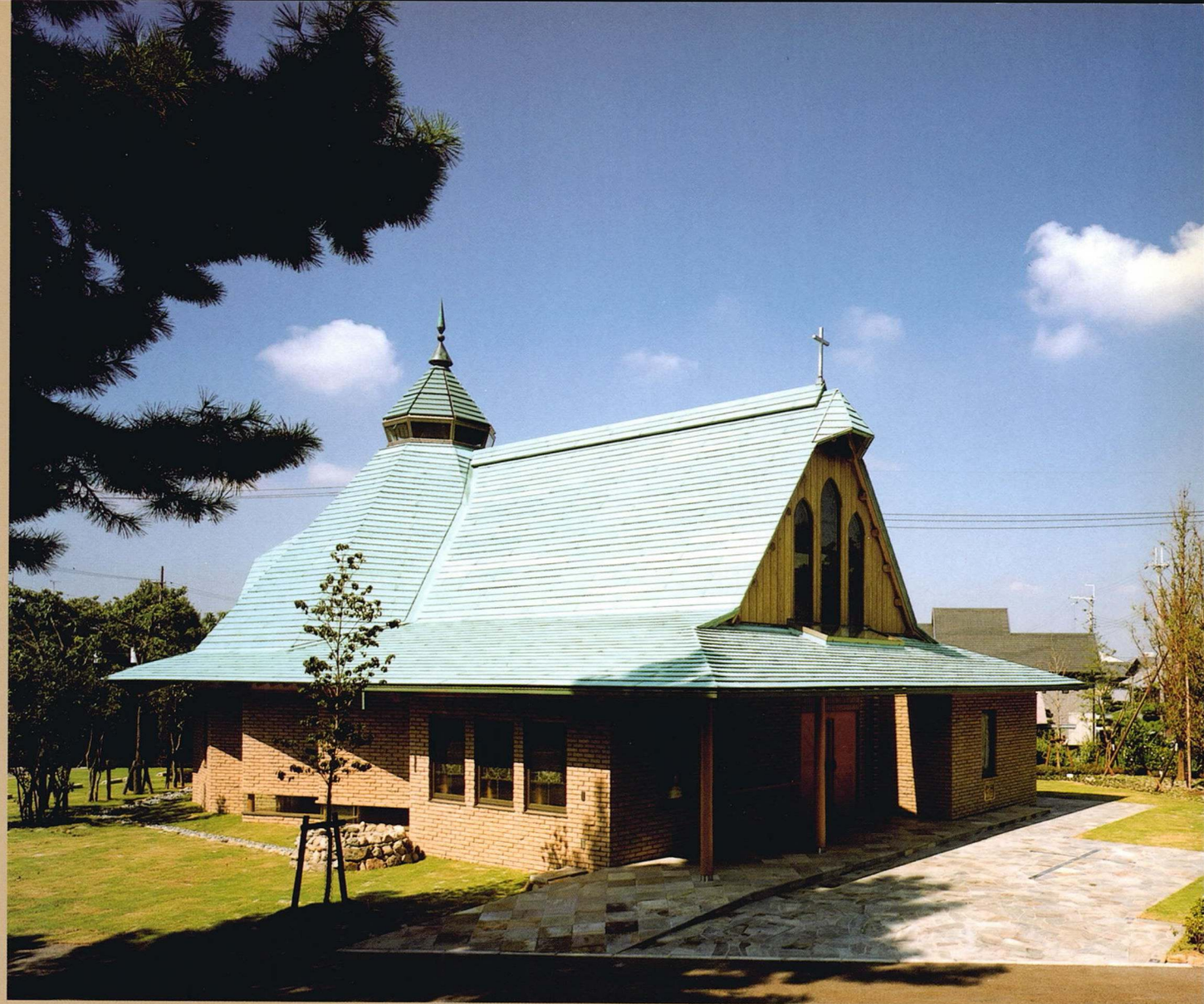
心のSanctuary
―奈良公園・聖ラファエル教会―

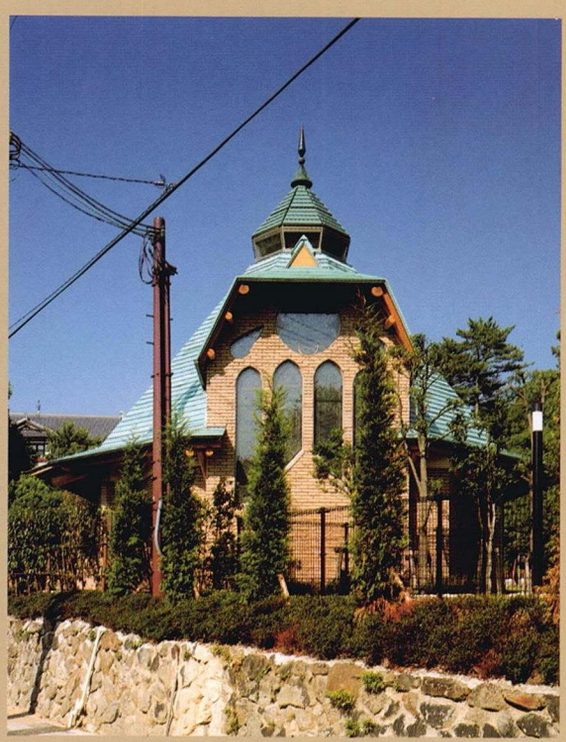
設計
和久井秀治



当地は文化歴史的見地からしても古くから極めて重要な地位にあった。その中にあって奈良ホテルは、日本ホテル史上においても創始の一翼を担い、建築的に見てもその様式は当時から今に残る独自性を備えている。
この地に教会を建てるにあたり、母体となる施設が木造であること、また、その表情は和風で機能は洋式であること、全体からすると和洋折衷様式であり、そこには不思議とまとまった一体感があることに重点を置いた。
アプローチは奈良ホテル正面を入り二股の道を左へ下り、大乗院跡庭園を横目に数歩行くと多少斜になった状態で姿を現す。建物を斜めに配置することで教会堂の両側に芝を敷き詰め、木々を外周囲に植え、出来る限り木立の中に立つ雰囲気を造り、近隣及び風致に対して考慮した。教会堂はレーモンドに於ける設計上の5原則、Simple、Natural、Economical、DirectそしてHonestを基本にヒューマンスケールで構成し、建物に対する親近感を持てる様にした。屋根形状は正面と裏面のステンドグラス、ネイブの側廊、そして中央の高い天井、この要素をできるだけシンプルな形で機能を満たせるようにし、アルター部分に求心性を出すために八角形とした。ハイサイドライトによる柔らかな光と排煙窓による新鮮な空気が一層の効果を与えている。
構造は木造（丸太）とし、シザーズストラクチャー工法により、骨組みをそのまま仕上となる様にした。木による直截的で単純な表現が視覚に訴え、記憶に残る空間を「心のSanctuary」に、年々その表情を変えてゆくであろう。

和久井（わくい）　秀治（ひでじ）
1966　新潟県生まれ
1987　中央工学校建築設計科卒業
1990　株式会社レーモンド設計事務所入社
　　現在　第1設計部所属
撮　　影―エスエス大阪
企画編集―倉渕奈千子（作品作風小委員会）







大地の呼吸



カトマンズの寺院　　撮影　松村　芳治

木々の発する新鮮な空気の中で、身を切るような冷気漂う早朝に、新年を迎えることのすがすがしさ。
睫越しにまばゆいばかりの朝日が眼に飛び込んでくる。横溢する英気が皮膚から骨にまで浸み渡り、他愛もなく「よしやるぞ」と動かされてしまう。
つくづく、人間は自然から生まれた環境の生き物であると思う。
今、万物の生命の根源であるその自然がバランスを崩しつつある。
このことは、人々の心の中で、大地の息づかいを感じとれる感動的な原風景（心象風景）が、脳裏から遠ざかりつつあることと根深い因縁がありそうである。自然と人間との生存上の関わりについて、このような内省的な視点に立って考えるささやかな契機を提供出来ればと考え、この度、12人の眼に映った「大地の呼吸」の一風景をご紹介することとした。編集委員全メンバー一人ひとりの企画として。
環境の保全というテーマが、一人ひとりの発意と努力に根ざすものであるとの思いのもとに…。

與謝野　久（編集委員長）

御堂筋と建築の社会性

交流都市を標榜し、オリンピックを誘致しようとする大阪で、まちを楽しくしてくれるこのような建物が次々に建てられることを期待して待っているところである。



神戸大学経営学部教授
倉光弘己（くらみつ ひろみ）
1935年　鳥取市生まれ
1958年　京都大学法学部卒業
1958年　大阪ガス株式会社入社
1977年　同社新分野開発室次長
1986年　同社エネルギー・文化研究所長
1994年　同社退社、神戸大学経営学部教授
現在に至る

先日ある雑誌の誌上シンポジウムで、「21世紀の住宅」が議論された。住宅メーカーからの有能な中堅社員たち3名は、構造、配置、断熱性、気密性など、住宅の機能、性能などの「属性」向上への努力を熱心に話した。これに対し、女性の住宅研究者2名は、住宅の属性の向上だけでなく、「住宅を消費財として考えるな」「まちのストックとしての価値を考えよ」「住まい手が育つ住宅は便利な家ではない」「社会的関わりを持つ住宅を」などと、こもごも主張したのであった。しかしメーカーの有能な社員諸君には、必ずしも女性研究者たちの主張の意味するところが十分には理解できないようであった。

企業の思想のない属性追求と、一般の人、または研究者との食い違いは、今日至るところで起こっている。「まちのストック」「社会的関わり」などの命題を、住宅に持ち込むことは、まだ住まい手の理解を超えているかも知れないが、事務所などの一般建築物ですら、「まちなみとの調和」「まちのストックとしての建築物」「社会との関わり」などの概念は、施主の理解を得るのが困難なようだ。建築家たちも、施主の理解の程度に合わせて、建築物に思想性を盛り込むことをはやばやと断念してしまったように見える。

昨年は御堂筋が完成した37年（昭和12年）から60周年目で、珍しいことに、建設省国道事務所がその記念行事に御堂筋の散歩コースを一般募集するという、ソフトな企画を立てた。その審査委員長を頼まれ、改めて御堂筋を考えてみた。たしかに建築物の高さと面が揃っていることは美しい。銀杏並木と道路幅員と建築物のバランスも圧迫感がない。

昭和8年に完成したガスビルが基準になったのか、高さ制限の基準適用第1号であったのかは寡聞にして知らないが、ガスビルは御堂筋の基準の建物として尊敬されている。このガスビルは大阪ガスの本社ビルであるが、地下2階地上8階のうち、B1から3階までの4階と、8階の計5階を一般に開放していた珍しい社会性の高いビルであった。

すなわちB1と1階では、ガス器具の陳列場とはいえ、ガスまん（饅頭）やポテトを焼いて売っていたし、2、3階は600人収容のガスビルホールであった。子供のピアノの発表会などに利用されていた。8階は大阪では朝日新聞の屋上のアラスカとならぶ本格的洋食堂「ガスビル食堂」だった。エスカレーター、螺旋階段、エレベーターなどがある、市民の憩いの場であった。

このガスビルも効率化の中で、一時は事務所と器具の陳列だけの面白味のないものになっていたが、約10年前から、1階にパン屋、ヨーグルト売場、旅行代理店など、お客様の憩いの場としての余裕を小規模ながら取り戻した。もともと1階にはピロティがあり、ここにはベンチが置かれ、誰でも自由に休めるようになっている。

御堂筋の建物群は、こういうガスビルを基準とした様子は全くなく、面白くないことおびただしい。淀屋橋から長堀までの間、何かを売っているところはわずかである。通行人が腰を下ろせる休み場所はほとんどない。自社の威容を誇るだけで、通行人との関係を拒否しているように見えるビルが多い。特に銀行と証券など、午後3時になると、いかついシャッターを降ろしてしまうところが少なくない。

こういう3時で閉店する業種が2階に上がり、1階を物品販売、食べ物屋など、市民が楽しめる業種に取って代わられたら、御堂筋もシャンゼリゼに近い魅力的な通りになるだろう。裏通りに人が住み、ショウウィンドウがもう少し気が利いたものになってくれれば、世界に誇る御堂筋になれるだろう。こういう社会性が理解できない経営者は、本社ビルの威容と無味乾燥な社長の挨拶を載せた古いスタイルの会社案内が、今日では企業の信頼性を損なっていることが理解できないのと同じように、時代遅れのセンスの持ち主と人々から信用されなくなるであろう。

新地本通りと、堂島上通りの間に数年前に建てられたS銀行の建物は、銀行の窓口を2階に上げ1階をしゃれた喫茶店にしている。蜆川跡であることを記念して、船のイメージのデザインにし、蜆川にあった橋の記念碑を新たに作り建物に抱かせている。御堂筋は高さ制限を緩和し、容積率にも特例が認められるようになった。交流都市を標榜し、オリンピックを誘致しようとする大阪で、まちを楽しくしてくれるこのような建物が次々に建てられ、また改築が始まることを、期待して待っているところである。

「異形建築」に思う

吉村　英祐

世の中には、俗に異形と呼ばれるものがあるが、建築も例外ではない。真剣に考えると、「異形建築」の定義は用途との関連もあってむずかしいが、ここでは外壁がうねっていたり、垂直でない建築、円錐や球・卵形等で構成される形態の建築としておこう。

1980年代後半から、ポストモダンの潮流やバブル景気の追い風もあって、「異形建築」がもてはやされたことは記憶に新しいが、バブルが崩壊した現在の視点で見直すと、いくつかの疑問が浮かんでくる。その一つが、メンテナンスへの対応である。いわゆる有名建築家の作品の多くが、清掃不可能な部分がある、命がけで清掃しなければならない、清掃に膨大な費用がかかる、維持管理費が不足して無惨な姿になっている等の問題をかかえていることに、もっと眼を向けるべきである。そうした中で、設計段階から清掃方法を入念に検討し、維持管理しやすい「異形建築」が見いだせることは、一種爽快である。

建築界も地球環境問題への対応が迫られている現在、竣工後の維持管理を考えない建築デザインは、いずれ社会的に受け入れられなくなるかもしれない。維持管理の問題を、さりげなくデザインに昇華させる設計能力が問われている。

大阪大学工学部建築工学科助教授

暦

竹本　俊平

新年正月を迎えると、誰しも心改まり清々しい気持ちになる。我々は、悠久の時の流れを一定の尺度を使って区切っている。その基本的な単位が「一年」であり、先人の知恵から生まれた「太陽暦」が世界的な共通指標として使われている。しかしながら、日常生活の中で色々な暦が使われているのに気付く。例えば、この原稿を書いているのは11月の中頃なのであるが、既に、一月の風景を頭の中で想定して書いている。定期購読用の雑誌などの編集者は、一般の暦の動きより常に２カ月位は先の生活を頭に描かなければ良い雑誌は出来ない。『編集用暦』だ。「年度」という暦もある。学校や国家予算執行などをはじめとして、企業活動なども、４月をスタートにした、いわば『年度暦』というものが使われている。

ところで日本各地の伝統行事は、お正月は別にして、『旧暦』で行われるものも多い。その他「立春」「啓蟄」「春分」などの二十四節気は、体に触れる空気と語感が実に上手くフィットしている。

政治や経済活動などのグローバルな事象は、世界共通の太陽暦に合わさざるを得ないけれども、健康的な日常生活を送るには、『季節感にフィットした旧暦を生かした』生活を心がけたい。

住宅・都市整備公団関西支社管理部次長

地球温暖化問題と建築

宮田　照久

国連の地球温暖化防止京都会議（COP3）が開催中である。日米欧の工業先進国や発展途上国に世界中のNGOも加わり、ようやく議論が煮詰まりそうなところまできた。各国夫々事情は異なるし、発展途上国も固有の問題を抱え、難しい状況にある。企業は技術上の問題を挙げてこれ以上の削減は不可能と消極的である。何れにしても拙文が活字になる頃にはCOP3も政治的な決着を見ているはずだ。

私たちとしては今何をしなければならないのか。今更私たちの生活が快適性を犠牲にして、60年代のエネルギー消費水準に戻れる訳もないのは当然だが、多少の痛みは我慢しても、CO2の排出量を削減しなければ次世代の地球は危ないという認識のもとに、どんな些細な事であっても、出来ることからやっていかねばならないのが私たちの直面している現実である。

非化石燃料を加えたわが国のエネルギー消費見積は、産業部門50%、民生部門25%、運輸部門25%であるが、その内、建築分野に関連するCO2排出量は総排出量のほぼ1/3を占めると言われている。特に民生部門での省エネルギーについては我々建築家の役割を問われる部分が大きい。高断熱住宅や二重サッシの採用による年間を通じての省エネルギーや照明の高効率化、あるいは化石燃料以外のエネルギーの利用等どんどん具体化していくことが大事だと考える。一方当然の事ながら私たち自身のライフスタイルの再点検が重要であるのは言うまでもない。

昭和設計取締役環境設計部長

町を食べる——(1) にがうり沖縄

井口　勝文

沖縄と言えばソーキそば、豚肉である。東京より美味しい豚肉は沖縄と鹿児島でしか食べられない。でも沖縄の本当の味は野菜にある、と僕は思う。８年前の夏宮古島のリゾート開発の計画で沖縄中の主な観光施設を見て回った。だから沖縄の人達が何を食っているかも、概ね分かった。らふてー、イナドゥチ、ミミガー、スヌイ、くーぶぃりちー、すーねー、どぅるわかしー、…と書いてきても何のことか分かる人は殆どいまい。那覇市郊外の大衆食堂のメニュー33品の内、12品は意味不明であった。それでも注文すればモノは出て来る。大衆食堂のメニューに不味くて食べられない品が在るはずがない、と心に決めてかみしめる。味を探る。１日、２日と経つうちになんだか美味しいような気もしてくる。西表島のコース料理を食って開眼した。沖縄食は薬草食だ。苦いのだ。にがうりが美味しいという境地になってようやく味が分かってくる。ナショナルチェーンのホテルの支配人曰く。ホテルの中に沖縄料理の店をつくっても誰も食べませんよ。ステーキに和食、すし、てんぷら、本土で食べ慣れたものが一番です。

沖縄が個性的すぎるのか、観光客が没個性なのか。いずれにしても沖縄の生活、風土そのものを楽しむリゾート開発はちょっとむつかしい。私のプロジェクトも結局は沖縄を食べ歩いただけで、今もって進展しそうにない。

竹中工務店開発計画本部長

新しいまちづくりの予感

――震災を乗り越えて――



大震災の記憶をとどめるマリーナ像

企画　合同分科会

総論●

新しいまちづくりの予感

――震災を乗り越えて――

安田　丑作

震災後3年を経て、この間被災地ではさまざまな復旧・復興への取り組みがなされてきた。被災自治体の復興施策の多くは震災後の緊急対応の必要性に迫られて創設されたいわゆる震災特例といわれる施策ではあるが、同時に被災地のみならずわが国の大都市とりわけ密集市街地が共通して抱える住まい・まちづくりのあり方を示唆するところも少なくないように思われる。筆者はすでに本誌（1997年6月号）において、住む空間の復興に向けた復旧・復興施策の評価を試みるとともに、「街区協同再生システム」の構築を提言したが、本稿では、この3年間被災地で取り組まれてきたいくつかの新しい試みとそこから学べることを概括しつつ、これからの市街地再生に向けた住まい・まちづくりにつながる＜予感＞を探ってみたい。

予感1　公的住宅の新たな役割

このたびの震災復興を通じての最大の課題は、いうまでもなく住宅を失った人々への恒久住宅の供給であった。震災後いち早く策定された「ひょうご住宅復興3カ年計画」（平成7年8月）と「神戸市震災復興住宅整備緊急3か年計画」（平成7年7月）をはじめとして、復興住宅施策の大きな柱は災害公営住宅をはじめとする公的住宅の供給にあった。

その過程で、災害公営住宅の家賃低減化の実現や供給フレームの見直しによる供給戸数の増加といった側面が評価される一方で、地域ごとの需給のミスマッチ問題や小規模住戸の大量供給による計画・設計水準の質的な後退への懸念、公的住宅の地域的融合などの課題が指摘されてきた。しかし、同時にこうした被災地での取り組みがこれまでの画一的な公営住宅施策の枠組みの見直しにつながったことも見逃せない。

たとえば震災後の公営住宅法の改正により借り上げなど供給方式の多様化の道が拓かれたのを受けて、神戸市においては全国に先駆けてさまざまな取り組みが具体化しつつある。その一つ「民借賃」（民間借上賃貸住宅制度）は、民間賃貸住宅の住宅を借り上げて公営住宅として供給する制度であり、事業者への助成とともに入居者の家賃負担の軽減（公営住宅並み）が行われる。また、共同再建した住宅の保留床を市が買い取って市営住宅として供給する「民間共同再建買い取り市営住宅」の制度も実施されている。これらの制度は、特に用地確保の困難な密集市街地での公営住宅供給策としてだけでなく、地域再生のためのまちづくりとの連携に一歩踏み出した試みといえよう。

震災後の公営住宅施策のいま一つの特色に高齢者対応の拡充がある。従来からのシルバーハウジング制度に加えて、全住宅のバリヤーフリー化の推進、自動通報システムの設置、高齢世帯支援者の派遣などのコミュニテイ支援もはじまっている。さらに、高齢者が互いに支え合って協同生活をするコレクテイブハウジングの公営住宅への導入とグループ応募制度、ペット共生住宅の供給など、いずれもモデル的ではあるが、これまでの公営住宅の枠組みを越えた柔軟な試みではなかろうか。

予感2　共同化・協調化の取り組み

震災前からも長屋や木賃住宅地区の更新と住環境整備にとって、共同建替・協調建替が大きな鍵を握っていたが、特に震災後は密集市街地の小規模敷地の共同化・協調化による住宅再建支援が大きな目標となってきた。

震災後の被災地では、「密集事業」（密集住宅市街地整備促進事業）、「住市総事業」（住宅市街地総合整備事業）、「優建事業」（優良建築物等整備事業）のいわゆる要綱事業の震災特例による補助率の嵩上げや敷地などの事業要件の緩和によってその推進が図られてきた。その結果、市街地再開発事業と復興基金事業による小規模共同住宅等事業補助を含めたいわゆるまちづくり系の住宅は、神戸および阪神間6市で約129件（8,848戸）が計画され、これまでに1,035戸が完成している。権利調整や採算性、さらには住民・権利者の合意形成などの事業の困難性を克服した関係者の努力のもつ意味は、単なる数字の実績を越えて重い。

このことは、被災マンションの再建事業でも基本的には同様であるが、区分所有法をはじめ現行制度はまったく想定していない状況下でのいわば手探りの取組みだけに一層深刻であったともいえる。それでも、神戸市をはじめ阪神間5市での被災マンション172件（11,950戸）のうち、これまでに「補修」が55件（4,348戸）、「解体済・解体中」のものが109件（6,927戸）で、さらに後者のうち、すでに建替え工事着手済のものが94件(6,011戸)（うち完了32件、382戸）にまで達したこと自体は高く評価されてよかろう。しかし、補修の場合にしろ再建の場合にしろ、その方針決定までの道程は険しく、震災特例による補助制度と規制緩和によってようやく成立したケースも少なくなかったことを忘れてはなるまい。

予感3　街区レベルの街づくりへ

密集市街地における街区協同再生システムは、住宅建築の共同化・協調化だけによって成り立つものではない。個別の建替えを含

めて多様な開発や建築を受け止めつつ、街区レベルでの住宅建設と住環境改善とを一体的・総合的に進めるもので、それを住民発意・住民主体のまちづくりとして展開する必要がある。そのためには、接道条件の改善や生活道路・小広場の整備を図る事業的手法とともに住宅建設をあわせた住環境改善のための誘導的手法が求められてくる。震災後、震災復興都市計画事業区域（黒地地域）以外のいわゆる灰色地域、白地地域でいくつかの地区でその試みがなされてきた。

神戸市の兵庫区湊川１・２丁目地区や灘区神前町２丁目北部地区では、組合施行の小規模区画整理事業（ミニ区画整理）に先の密集事業を組み合わせることで土地の交換分合による生活道路の整備を行っている。その他神戸市では、規模はさらに小さくなるが、近隣が協調して住宅再建と前面道路の整備を行う場合に、整備計画の作成、建設資金の利子補給、私道整備についての助成・支援を行う「道路整備型グループ再建制度」や住宅再建に併せて私道を整備する場合に中心後退によって生じた道路用地の舗装・側溝築造費用条件の補助を行う「住宅再建型道路整備助成制度」も復興基金を活用した独自施策として創設された。さらに現在、震災後空地のままで当面再建の意向がない敷地について、地元まちづくり協議会からの要請を受けて公共が買い取りまたは借り上げて、コモンスペース整備の種地、緊急時の避難空間として活用する「防災まちづくりスポット創生事業」も創設されようとしている。

一方、住宅再建を街区さらには地区全体としての住環境・街並みの形成へとつなげていくためには、それぞれの地区特性と条件に応じた住環境・街並み誘導のためのルールづくりが求められる。被災地では地元まちづくり協議会の合意によって、地区計画やまちづくり協定・まちづくり憲章などによるルールづくりが相次いでいる。特に区画整理事業地区のうち事業決定と仮換地指定を受けた多くの地区では、最低敷地規模、建築物の壁面後退や高さ、用途などを決めた地区計画を定めている。それと同時に小規模敷地の多い地区では、地区計画をベースにして神戸市の独自制度である「インナー長屋制度」により、建ぺい率の緩和など建築規制の弾力的運用を図って住宅再建を促進するとともに街並み誘導を図ろうとしており、神戸市内の震災復興区画整理事業区域を中心にして９地区で実施されている。また、長田区野田北部地区のように「街並み誘導型地区計画」の適用によって容積率・斜線制限の緩和も図られているケースもある。

本年になって、国でも「密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律」（いわゆる密集法）が制定されるとともに、「都市防災構造化推進事業」の制度も創設された。しかしその実施に当たっては、被災地での取り組みからも学ぶことが出来るように、これまでのような個別的適用要件によるのではなく地域の実状に応じた柔軟で弾力的な運用が望まれている。

予感４　地元まちづくり組織とまちづくり支援

このたびの復興まちづくりを通じてあらためて、その重要性がクローズアップされたのは、地元まちづくり組織とその支援体制であった。その多くは震災後の都市計画事業区域の決定や被災マンション再建など緊急対応を余儀なくされて結成され、またコンサルタント、プランナー、建築家など専門家のボランタリーな活動としてスタートしたものであった。しかしその結果、神戸市内のまちづくり協議会だけに限っても、震災前に12地区だったものが、現在では約100地区を数えているが、そこでは単なる権利者の要望団体の性格を越えて住民と行政さらに専門家とのまちづくり協議・活動の主体と場になっており、計画の見直しや合意形成などさまざまな局面で大きな役割を果たしてきた。

一方、こうした地域でのまちづくり活動を震災直後からいち早く支援してきた専門家グループの存在も見逃せない。その後、「ひょうご都市づくりセンター」や「こうべすまい・まちづくりセンター」が設立され、アドバイザーやコンサルタントなどの専門家派遣やまちづくり活動助成が行われ、これまでに専門家派遣約250件、まちづくり活動助成約100件が行われている。その他、復興市民まちづくり支援ネットワークや阪神・淡路まちづくり支援機構をはじめとして、さまざまな専門家によるボランタリーな支援組織の結成はこれからの市民まちづくりとそのあり方を展望する上でも意義深い。ただ、現在その法案化の行方が注目されている「市民活動促進法案」（いわゆるNPO法案）については、こうしたまちづくり活動についての位置づけが希薄なのが気になるところである。

＊＊＊＊＊

震災後の住まい・まちづくりのための行政的支援策の多くは、震災特例のため震災後３年を経て、その期限を迎えようとしているが、被災地の住まい・まちづくりの現場からは、その継続を求める声が強い。それと同時に、これまで３年間の貴重な経験を例外的な特殊解にとどめず、今後全国で広範に起こるであろう密集市街地再生を視野に入れた国レベルでの制度の一般化・体系化に向けた取組みが急がれる。

（やすだ　ちゅうさく／神戸大学工学部教授）

これからの公共施設への取り組み

——ハードからソフトまで——

増田　繁治

自治体営繕の創る「公共建築」

公共建築のうち、地方自治体の建築（住宅、学校、病院など）には、市民、住民に対する直接的行政サービス施設が多い。つまり、社会との関わりにおいて、多様な住民ニーズが求められ、その時代の生活空間の核としての機能が期待されているのである。

その意味からも自治体営繕が創出する「公共建築」は取りも直さず社会資本の構築と蓄積であり、その行為は行政サービスそのものである。そこには、営繕行政という概念があり、これからの建物づくりはどうあるべきか、どう考えていくのか、という問題意識が生まれてくるのである。本誌の特集「兵庫県営繕の歩み」（1990年10月号）でも述べたように、現在でも内部設計を基本として建物づくりに取り組んでいる。その理由の１つに、いわゆる“小さな技術”と“大きな技術”論があると考えている。

“小さな技術”“大きな技術”

その“小さな技術”とは、建築のもつ専門的知識の集積である。例えば、建築の単位デザイン、建築計画、納まり、構造計画、構造設計、施工技術、設備計画等の専門的技術である。それらの技術も日々の研鑽を抜きにして、そのレベルの維持と向上は望むべきもない。

今回の震災において、各所に多くの被害が発生したが、特に建築の被害の原因について見てみると、地震が想像以上のエネルギーであったこと、次に構造計画への技術的判断の不足があったこと（例えば、ピロティー形式、バランスの悪い計画、デザイン優先）、それからいわゆる施工上のミス（帯筋のピッチ、主筋のアンカー不足、溶接部分の施工欠陥等）である。これらは、まさに技術的にも十分解決できる要因であり、特に施工上のミスに至っては、工事監理というより、今少し建築の基本的な知識を気をつけていれば、欠陥とならなかったものである。いわゆる“小さな技術”の習得の問題である。

一方、“大きな技術”とは何か、であるが、一般に建築の職能とは、１つには個人の利害を守り育てていくこと。２つには、社会の利益の誘導を図ること。３つには、個人と社会の矛盾を克服すること。４つには技術文化の次世代への継承であると言われている。これからの建築家に求められることは、この職能の原点に立ち返った「社会の利益の誘導」とも云うべき“大きな技術”の習得がなければならないと考えている。例えば、建築の単体としての美しさだけに目を向けるのではなく、その集合体としての景観づくりをどうするか、であり建築の周辺の整備で終わるのではなく、それに至る街路整備まで考えることであろう。建築におけるこの、大、小、２つの技術は、そのどちらが欠けても不完全なものになってしまうのである。

この２つの技術を習得するための特効薬はないが、自らの日々の努力、つまり内部設計による実践と経験と自己研鑽の積み重ねこそが、その近道であると確信しているところである。

ライフサイクルコスト（LCC）の基本理念

復旧から復興へと対応が移ってきているが、国をはじめ、地方公共団体の建築関連予算の削減が厳しく言われている。世の中がストック対策の重要性に気づき、スクラップアンドビルドの弊害を身にしみて感じ始めた矢先の動きである。予算が削減されても建物の生涯を見渡したライフサイクルコスト（LCC）の基本理念を忘れてはならない。

例えば、建物を新築する場合、予算が少なくなると、一番安易な処理方法は、「何でもよいからイニシャルコストを削ればよい」ことになり、共用スペースを削ったり、階高を縮めたりということになる。華美な意匠の予算削減とは別の次元で、主要な建物については、トータルとしてLCCが膨らんだり、建物の寿命を縮めたりする要因となる削減はもってのほかである。

この時代に逆行する動きに対し、行政の建築職として、また後生の人々に優良な建築ストックを引き継ぎ、残すためにも、声を大にしてトータルのLCCの重要性を言い続けなければならないと思っている。それには、先に述べた大小２つの技術の習得により、様々な建物づくりの正しい判断ができる職能としての“目”を養っておきたいものである。

今回の地震で県有施設も、かなりの被害が出た。その１つである県庁舎１号館（S.39完成）は、小破の被害を受けたが、構造体への損傷が少なかったことと、地震の数ヶ月前に井戸を掘り直していて、１号館から３号館までのトイレの使用が出来たことで、災害対策の拠点施設として活用出来た。今回の地震の教訓の１つとして、井戸水の重要性を痛感したところであり、今後の主要な施設づくりには、可能な限り井戸水の利用を取り入れていくこととしている。このほかに、中破以上の被害を受けた建物については補強を含めて補修工事を実施したが、大破と倒壊した建物について、以下に紹介するような内容の取り組みを行っているところである。

（ますだ　しげじ／兵庫県都市住宅部営繕課長）

兵庫県兵庫警察署

旧兵庫警察署庁舎は、昭和43年10月に完成した鉄筋コンクリート造４階建、延床面積3520㎡の建物であった。それが、平成７年１月17日に発生した兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）により１階が座屈崩壊した。警察業務は地震直後から再開され、当初はマイクロバス、仮設テント等で、２ヶ月後には仮設プレハブ庁舎や道場等に移転して行われ、１日も早い本設庁舎の建設が待望された。

今回、新たに生まれ変わることになった兵庫警察署庁舎は、庁舎棟が鉄筋コンクリート造５階建、延床面積3273㎡、車庫・道場棟が鉄筋コンクリート造２階建、一部鉄骨造平屋建、延床面積957㎡からなり、庁舎棟は平成８年３月着工し、平成９年７月に完成した。

特徴として、構造面で壁、柱をバランス良く配置するほか、設備面では庁舎全電力容量の３分の１をカバーする150KVAの自家発電装置を設置したり、防火用水(地下水槽40t)、便所洗浄水等として利用するための井戸を掘削するなどしている。また、機能面では自然災害や事件事故発生時に対策本部として利用する総合指揮室を県下の警察署で初めて設置した。

外装デザインでは、大きな被害を受けた街にあって復興のシンボルとなるよう、また社会秩序を守る砦としての信頼感を与えるよう、重厚さが感じられる石張り調の外壁仕上げとしている。さらに、暗く沈みがちになる気持ちと近寄りがたい雰囲気を避けるため、全体に明るい色調を配するとともに、曲げ加工を施した化粧金物を用いて柔らかさを演出している。

なお、旧庁舎が永年にわたり親しまれてきたことから、東側外壁面の窓の形状を旧庁舎に合わせ縦長にするとともに、１階玄関ホールの壁に取り付けた陶板には、兵庫の街を海から見た風景を春の希望に満ちた雰囲気に仕上げ、その中に旧庁舎の姿を彫り込んで人々の記憶の中に留めるようにしている。

兵庫警察署の周囲には、空き地が点在し個人住宅の復興は未だ途上にあるが、車庫・道場棟の本年３月の完成で、新生兵庫の希望の一灯となるよう願っている。



兵庫県兵庫警察署

ひょうご片山ふれあい住宅
―ひょうご復興コレクティブハウジング事業の推進―

今回の震災の被災者の方は、高齢者が多いことを踏まえ、恒久住宅への入居に関しても、従前地や応急仮設住宅で形成されたコミュニティを継続できるように、あるいは早期に新たなコミュニティが形成できるよう、食事や団らんなど生活の一部を協同できる場を組み込んだ協同居住型の集合住宅（コレクティブハウジング）を全国に先駆けて災害復興県営住宅に導入し、整備を進めている。

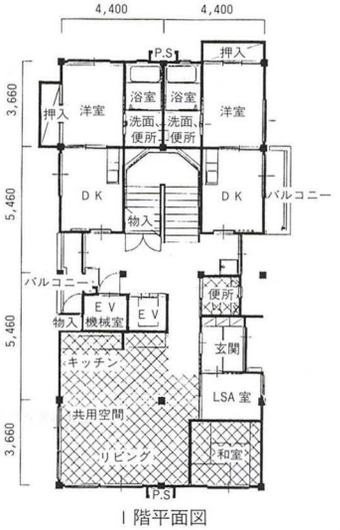
このコレクティブハウジングを導入した災害復興県営住宅―ひょうご復興コレクティブハウジング―の供給第１号が片山ふれあい住宅である。

この住宅は、木造２階建て、住戸形式は１DKで戸数６戸（高齢単身者向け住戸）の小規模な住宅であるが、個人のプライバシーを確保した各住戸部分には自立した生活が可能なように便所、浴室、台所、洗面、寝室を確保しつつ、共同のキッチン、ダイニング、リビング、便所等をコレクティブふれあい空間として整備している。

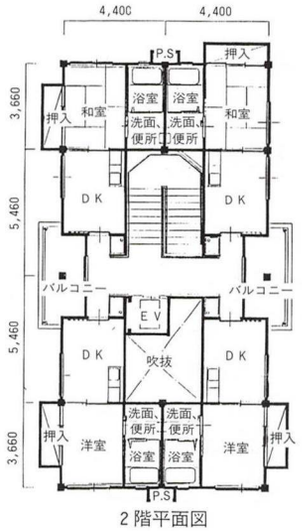
また、60歳以上の高齢者単身世帯が入居対象になっていることから、シルバーハウジングを導入し、LSA（ライフサポートアドバイザー＝生活援助員）派遣による相談や緊急通報システム等の福祉面の対応にも配慮して、高齢者の方が安心して生活できる住宅としている。

なお、他のひょうご復興コレクティブハウジング団地（６団地226戸）も事業着手し、順次供給する。


ひょうご片山ふれあい住宅



１階平面図



２階平面図

ひょうご片山ふれあい住宅の概要
所 在 地　神戸市長田区片山町１丁目22-25
戸　　数　高齢単身用住戸６戸　ＩＤＫ　全てシルバーハウジング対応
構造規模　木造２階建（木質ラーメン工法）
敷地面積　323㎡
建築面積　159.54㎡
延床面積　313.72㎡
そ の 他　(1)太陽熱利用空調設備の導入による暖房費用の低減等
　　(2)オール電化方式をモデル的に導入

兵庫県立文化体育館　スポーツ館

兵庫県立文化体育館は、阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けた神戸市長田区に位置し、ユニバーシアード神戸大会の柔道会場にもなった「本館」と屋内プールのある「スポーツ館」の２つ施設から構成されており、今回の工事は、このうち震災で半壊した「スポーツ館」の建替え工事である。

震災から３年近くがたった現在、建設地周辺では、仮設住宅や更地が目立つ中でも、新しい住宅の建設や道路の整備が進みつつあり、本スポーツ館の完成が、地域復興のはずみになるものと期待している。

建替えに当たっては、面積、施設内容等は原則として現状復旧を行ったが、福祉のまちづくりを進めるため、エレベーターの新設、段差の無い設計等出来るかぎり施設のバリアーフリー化を図った。

プールについては年間を通じて需要が高いことからコースを５コースから７コースに増設し、さらに、幼児用プール、入水用スロープ（手摺り付き）を整備し、幼児から高齢者まで幅広く使えるよう計画した。飲料水は市水道本管より直接給水を受けているが、今回、新たに敷地内に井戸を彫り、井戸水を雑用水に利用し、災害等により市水道が止まった場合にも便所等の利用が可能な計画とした。

スポーツ館は、プール棟（２階建て）とアリーナ棟（４階建て）の２つの棟で構成されるが、敷地西側に４ｍ道路をはさんで小学校があるため、小学校への日影等を考慮して、敷地西側にプール棟、東側にアリーナ棟を配置し、２つの施設で共用する更衣室、シャワー室、管理部門及びホワイエは、１階の玄関周辺に設けた。

体育室は大空間が必要なため３階に設けた。本館２階アリーナで各種のスポーツ大会がある時は、この３階体育室が練習場所として使われるが、利用者は２階に設けられた渡り廊下を通りスムーズに移動することができる。

デザイン計画では、震災復興を記念・象徴するよう以下の工夫を凝らした。

(1)　壁面レリーフ「ウエーブ未来」

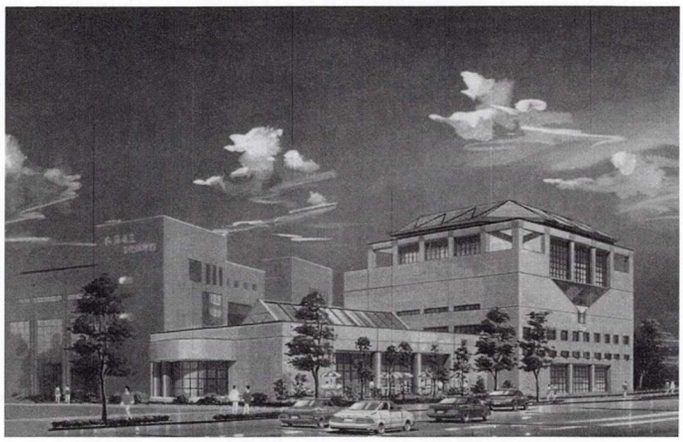
１階エントランスロビーに、阪神・淡路大震災から「復興」へ向かって力強く躍動する街・人・自然の様相をイメージした壁面レリーフ「ウエーブ未来」を設けた。

(2)　外観デザイン

タイル、熱反射ガラス、丸柱、ピロティ等本館と同じ素材、エレメントを用いることにより本館とスポーツ館との一体性を持たせる一方、やや重厚なイメージの本館に較べて震災復興を記念・象徴するに相応しく、明るくて開放的な色、外観デザインとした。

(3)　内部照明のデザイン

１階エントランスロビーの吹き抜け部分に、空を飛ぶ「カモメ」をモチーフにした照明を設け、復興に相応しい自由で明るい雰囲気の照明デザインとした。


兵庫県立文化体育館　スポーツ館

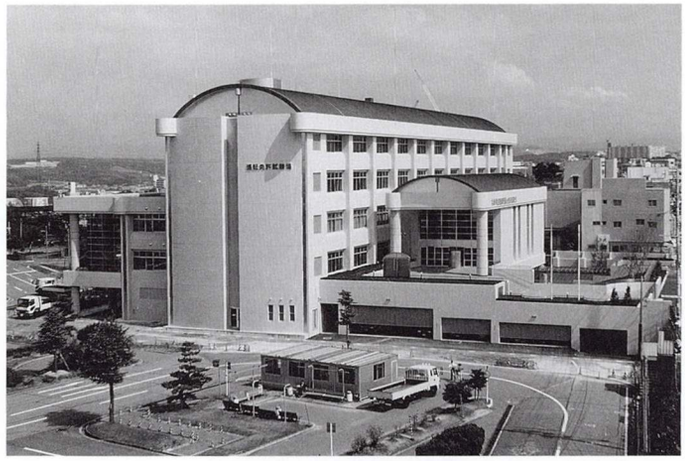
兵庫県自動車運転免許試験場

地震により、昭和38年建設の旧庁舎は大破した。

建て替えが決定され設計条件が確定したのが、その年の５月末。あわただしい雰囲気の中で設計打ち合わせにはいり、９月に基本設計完了、11月には実施設計を完了した。

設計に当たって留意した点は、外部空間の豊かさと多数の来場者のスムーズな流れを確保するということだった。建物を道路から可能なかぎり後退させ、あふれる来場者を敷地内に収容するため従来の約５倍の広さをもつエントランスプラザを設けた。さらに、その横にサンクンガーデンを配置することで食堂と道路の間に緑豊かな緩衝地帯を出現させ、街路に一定の「ふくらみ」を実現することを意図した。

限られた面積の中で、動線計画は設計上の大きなポイントだった。導入部の風除室に高さ7.5m幅3.6mの陶板レリーフの壁画（デザイン・製作；杉江淳平氏）、要所に吹き抜けやガラススクリーンを配し、開放感ある施設を目指した。また、井戸水の利用や搬送システム・電光サインの導入等、新しい試みも実施に移され、平成９年秋、２年９ヵ月ぶりに試験場業務は仮設庁舎から新庁舎に移行した。


兵庫県自動車運転免許試験場

名　称　兵庫県自動車運転免許試験場
所在地　明石市荷山町1649-2
構　造　鉄筋鉄骨コンクリート造、５階建
規　模　延床面積　11,216.68㎡
　　建築面積　3,361.33㎡
　　敷地面積　37,981㎡
工　期　平成８年３月～平成９年10月

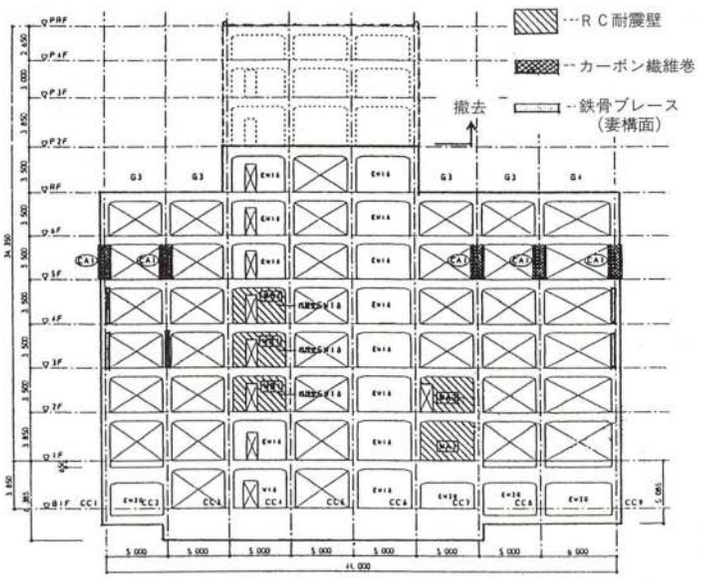
生田庁舎耐震補強工事

兵庫県では、建築物の耐震改修の促進に関する法律が施行されたことに伴い、県独自の兵庫県耐震診断判定基準を平成８年度に制定し、その基準に基づき、大地震時における人命の安全確保と建築物の重要度に応じた機能確保を図るべく県有施設の耐震診断及び耐震補強工事を平成８年度から５ヶ年計画で実施している。

その代表的なものとして、ここにとりあげている生田庁舎の耐震改修工事があり、この施設はこれまでは兵庫県警察本部の仮庁舎として使用していたが新庁舎完成後、移転して空になっており、また、このたびの震災で相当な被害を受けた。

今回の耐震補強工事は、内部間仕切等模様替工事と併せて行うものだが、この建物は昭和37年に設計されたものであり、現況耐力も現行の構造基準より相当劣っていた。その上、構造、規模も鉄骨鉄筋コンクリート造で、地下１階地上６階で塔屋も４層に及んでおり、そのため所定の耐力まで補強するには、かなりの耐震壁や鉄骨ブレースなどの設置だけでは足りなく、建物自体の荷重の軽減のために、塔屋４層のうちの上部層を撤去するといった「荒療治」を施さざるを得ず、かなりの工事費や工期を用すものとなった。

また、新たに設置した耐震壁などによる内部空間のレイアウトや使用勝手に及ぼす影響も少なくないものとなっていて、使用者側には決して喜ばれる工事でないため、新たな職場環境の向上になる改修工事をセットで実施するなどきめ細かな対策を実施している。



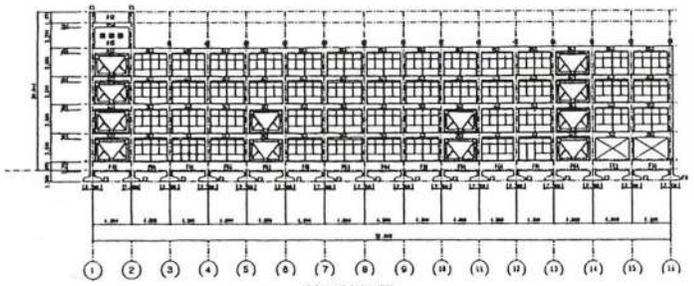
断面軸組図

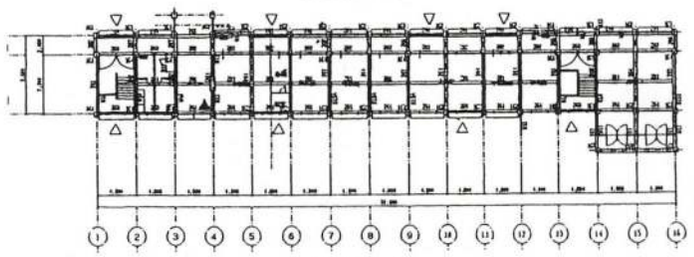
工事名称　生田庁舎耐震補強工事
所 在 地　神戸市中央区中山手通り６丁目1-1
工　　期　平成９年９月～平成９年12月（予定）
構造規模　鉄骨鉄筋コンクリート造
　　地上６階地下１階塔屋４階（１階）
　　高さ　34.4m（24.9m）
　　延べ面積　6,288.41㎡（5,754.69㎡）
　　（　）内は補強工事後の規模
採用した補強方法
(1)保有水平耐力の向上
・現場打鉄筋コンクリート壁の新設及び増設（増打、開口閉鎖）
・鉄骨筋かいの新設
(2)靱性能の改善
・カーボン繊維（CFRP）による柱のせん断補強
(3)重量の低減
・塔屋３層の解体撤去及び屋上構造物の撤去

兵庫県立夢前高等学校耐震補強工事

また、高等学校の校舎も同様な主旨で、耐震診断及び耐震補強工事を順次行おうと進めているところであるが、校舎棟の代表的な補強例として、県立夢前高等学校管理・普通教室棟の耐震補強工事がある。

一般的に高等学校の校舎棟では、梁間方向は充分な耐力壁を有し、良好な耐震性を示しているが、桁行方向は純ラーメン構造のため、水平耐力が不足し、低い耐震性能となっている。補強方法としては、桁行方向に採光等を考慮し、鉄骨筋かいを設置する工法を採用している。


断面軸組図


１階平面図

工事名称　県立夢前高等学校管理・普通教室棟耐震補強工事（予定）
所 在 地　飾磨郡夢前町前之庄643
工　　期　平成10年度施工予定
構造規模　鉄筋コンクリート造
　　４階塔屋１階建
　　延べ面積　2,845.98㎡
　　高さ　20.04m
竣工年月　昭和55年10月
採用した補強方法：保有水平耐力の向上のため鉄骨筋かいの新設

震災復興まちづくりへの取り組み

――住宅・都市整備公団の場合――

藤野　邦夫

はじめに

震災後約３年が経過し、神戸市を始め被災各地は、日増しに活気を取り戻しつつあるが、社会経済指標の戻りはここにきて鈍化の傾向にある。また依然として応急仮設住宅暮らしの世帯が2.5万世帯にもおよび、人口についても回復基調にあるものの、その伸びはゆるやかであり、一日も早い住宅の供給が求められている。この間、新規の住宅建設は、着実に行われており、兵庫県下に於ける震災後の着工累計は約310千戸と大量の住宅着工となっており、民間住宅の建設が順調に進んだこともあり、戸数のみでは既に供給過多の状況にある。一方、区画整理や再開発、共同再建事業等の市街地の整備も権利者の合意形成など様々な課題を抱えながらも、懸命の努力により概ね順調に各地区でそれぞれ事業が推進されている。

住宅・都市整備公団では、平成７年４月から震災復興事業本部を発足させ、「ひょうご住宅復興３ヶ年計画」の下、復興住宅の建設を始め市街地再開発事業や土地区画整理事業、密集市街地での共同再建事業など様々な分野で、国や地方公共団体との連携を図りながら復興関連事業に取り組んできた。ここでは、主に公団が取り組んでいる住宅復興関連事業における特色のあるプロジェクトの内容を中心に以下のとおり現状報告する。

「ひょうご住宅復興３ヶ年計画」と公団の住宅建設

「ひょうご住宅復興３ヶ年計画」では平成７年度～９年度の３ヶ年に12万５千戸（新規11万戸、既着工１万５千戸）の住宅供給を計画しており、このうち公団は１万８千戸の住宅を新規に建設する目標になっている。この事業量は「復興３ヶ年計画」で新規に建設する予定の公的住宅６万４千戸の28%にあたる。この事業を遂行するには組織面や人員面の体制づくりは無論のこと用地等の確保が急務であったがこれまでの間、精力的に土地の取得や民営賃貸用特定分譲住宅の掘り起こし、再開発事業への取り組みに努めた結果、平成９年度上半期までに15,999戸の住宅建設に着手することができた。９年度末迄には公営住宅の建設受託を含め約19,000戸の建設を達成できる見通しとなっている。以下は、個別プロジェクトの紹介。

「HAT神戸・灘の浜」シンボルプロジェクト設計体制

東部新都心地区は、神戸市復興事業の中でもシンボルプロジェクトの１つである。WHOを始めとする国際研究機能等及び地域防災拠点の整備と合せて住宅建設戸数１万戸におよぶ地区面積約120haにわたる大規模事業である。特に臨海部においては神戸製鋼、川崎製鉄といった大規模工場跡地約75haについて、土地区画整理事業により基盤整備を実施しながら住宅建設の上物整備を行っており、平成10年春の街開きに向けて急ピッチで工事が進められているところである。

「HAT神戸・灘の浜」は、この東側臨海部に位置する団地で地区内で第一期の住宅建設事業地区である。設計にあたっては、①新しい都市居住の創造（街を造る）②高齢者にやさしい街の創造、を目指して、特養施設・在宅支援センターの合築、商業施設を含めたアメニティーモールづくりや屋上緑化などの試みを行っている。

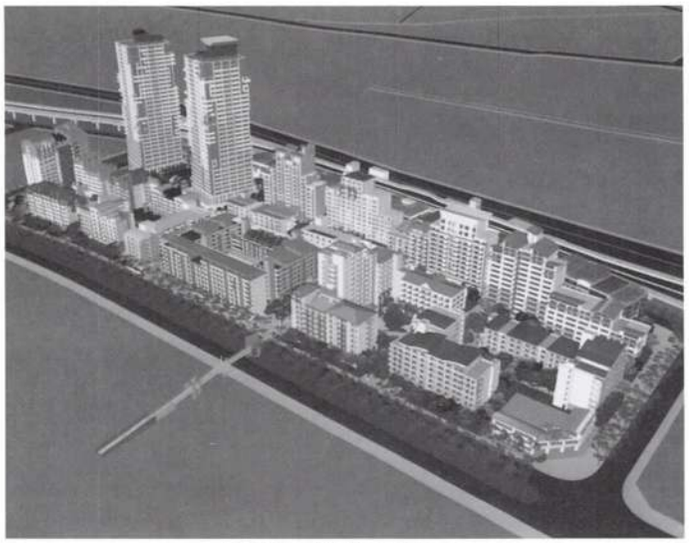
設計体制の新しい芽

早期・大量建設の中で質の高い居住環境を追求するに当たって、多様な設計体制が模索された。こういった大規模プロジェクトは本来ならば数年かけて設計に取り組むものであるが、設計期間、業務量から考えて、また復興事業に携わる者として参加型の総力戦が良いと判断し、13の設計事務所にお手伝いをお願いした。短期集中的な設計作業となったが、地区全体の“変化と調和”を図るためのデザインガイドを作り、一定のルールを示すとともにコアスタッフを中心とした「デザイン会議」を設け、事務所間の調整も図りながら設計を進めていく方法を採用した。

大変な作業の要求にも係わらず建築家の皆様から快諾していただき、設計趣旨説明からわずか２週間で200分の１の模型を持ちより、コンセプトの説明、討議を重ねるなど、精力的に進められた。何分にも充分な時間がない中で、相当密度の濃いスタディをこなした中身をその経過とともに文字を残すことによって、この大震災を経験した我々建築家が後世に何を残そうと考えたか、少しでも伝えることが出来ればと考えている。



東部新都心地区土地利用計画図



HAT 神戸・灘の浜全体パース



HAT 神戸・灘の浜アメニティーモール

■ HAT 神戸・灘の浜計画概要

所 在 地　神戸市灘区日出町
敷地面積　61,962.72㎡
建物概要　高層（４～14階）11棟
　　超高層（31，33階）２棟
　　立体駐車場棟　３棟
　　店舗棟　１棟
施設用途　兵庫県（災害公営住宅）286戸
　　神戸市（災害公営住宅）278戸
　　神戸市（従前居住者用賃貸住宅）302戸
　　公団（従前居住者用賃貸住宅）1,020戸
　　計　1,886戸
　　特別養護老人ホーム／在宅支援センター／地域福祉センター／店舗、自走式立体駐車場
入居予定　第１次入居　平成10年春／第２次入居　平成11年夏

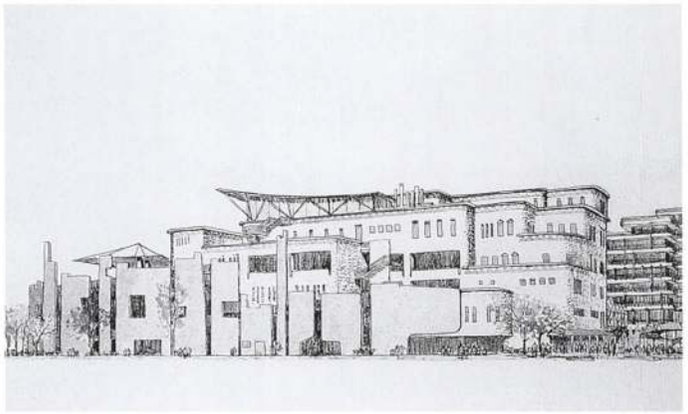
売布神社駅前地区第二種市街地再開発事業

被災地復興のための市街地再開発事業の内、公団が直接施行者となって実施している地区は５地区（権利変換方式による第一種市街地再開発事業を２地区と買収方式による第二種市街地再開発事業を３地区）であるがその事例について紹介する。

この地区は古くからの街と、昭和40年代を中心として開発された住宅地の駅前に位置する。駅前商業地として賑わった時期もあったが、商業構造の変革の影響を受け徐々に活気を失いつつあるなか、付近に大規模量販店の建設計画が持ち上がり、その対応策として地元商業者を中心に再開発の検討がすすめられていた。震災により、２ヶ所の市場が全半壊するなど大きな打撃を受けたため、市は駅前広場の整備と地区内を貫通する国道の拡幅整備を含む再開発計画を立案し、他地区同様平成７年３月17日にその都市計画決定を行った。

この地区は比較的零細な営業権利者が多く、また地区南側の戸建て住宅の居住者対応など事業推進上の課題が予想されたが、ほぼ順調に推移し平成９年２月に管理処分計画を得、８月に工事着手に至るところとなった。

当地区は地元商業者の営業再興意欲が強く、商業高度化のため、事業協同組合を設立して再開発ビルでの共同営業を目指すなどの積極的取り組みが行われていること。また駅前立地を生かしたコミニティーの活性化と災害時に利用できる新企画の公益的施設としての建設が進められている。平素は、料理教室などに使用するとともに、非常時には炊き出し基地になるような「ビックキッチン」、平素は、映像文化の発信基地として利用、非常時には避難所、情報収集拠点等として利用する「シネマ」など。



売布神社駅前地区パース

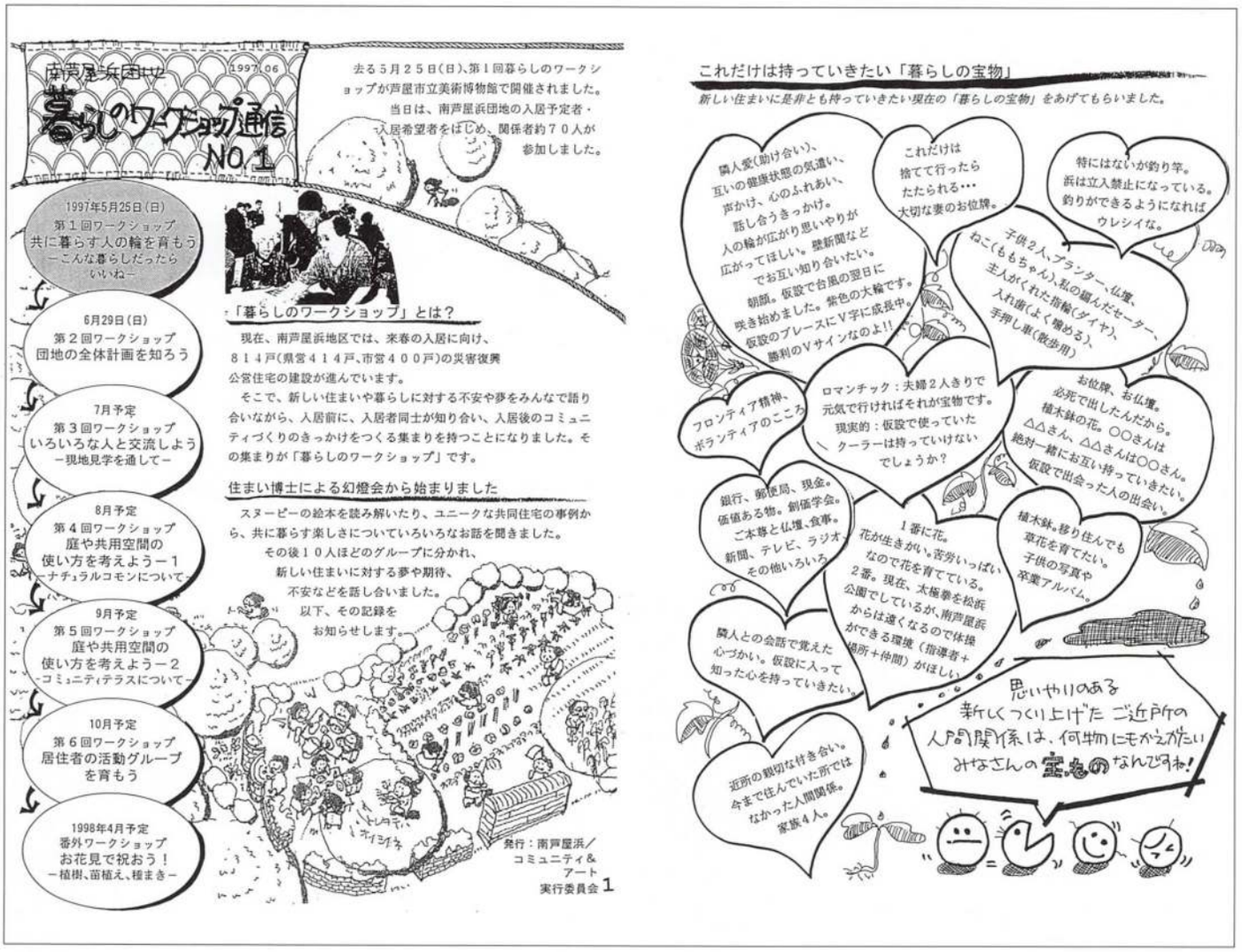
■売布神社駅前地区計画概要

所 在 地　兵庫県宝塚市売布二丁目の一部
地区面積　約1.6ha
建物概要　地下１階・地上11階
施設用途　住宅　72戸
　　施設　約10,300㎡

南芦屋浜団地…コミュニティ&アート計画

公団は、兵庫県及び芦屋市からの要請により南芦屋浜の埋立地に災害復興公営住宅（県営414戸、市営400戸）の建設を行っている。平成10年春の入居にむけ急ピッチで工事が進められており、入居予定者も概ね決定してきている。今ここで、おそらく日本で初めてのコミュニティ＆アート計画が進められている。スタートして既に半年以上が経過しようとしている。

この計画の要点は、「公営住宅の入居者となる人たちのために、震災により失われた人とのかかわりや街とのかかわりを再構築し、落ち着きと元気を取り戻してもらう」ことであり、そのため、入居前



南芦屋浜団地「暮らしのワークショップ」通信

からさまざまな取り組みを行い、入居後できるだけ早く住まいや街に愛着を持ってもらえるようにすることである。公団ではこれを「楽しい暮らしの風景づくり＝コミュニティ&アート計画」と位置づけた。この計画は、①コミュニティ形成のための「暮らしのワークショップ」と、②心地よい暮らしの風景づくりのための「アートワーク」、という2つの枠組みからなっている。

①暮らしのワークショップ

入居前から、入居予定者やボランティア、周辺住民が会合をもち、専門家と一緒に共同生活におけるさまざまな問題について話し合い、暮らしのトレーニングを行うというものである。これは、コミュニティの早期形成を促す効果がある。平成9年5月から始めて、ほぼ月1回のペース(毎回3時間程度)で行われてきた。平均参加者数は約70～80人（関係者、ボランティアを含む）で60代70代の人が多い。

プログラムを紹介すると、・第1回(H9.5.25)共に暮らす人の輪を育もう…こんな暮らしだったらいいね！ ・第2回(H9．6．29)団地の全体計画を知ろう ・第3回(H9．8．3)いろんな人と交流しよう…現地見学会をとうして ・第4回(H9．9．7)庭や共用空間の使い方を考えよう。(1)コミュニティテラスについて ・第5回(H9．10．12)(2)ナチュラルコモンについて ・第6回(H9．11．9)居住者の活動グループを育もう ・番外ワークショップ(H10．4予定)、街開きをお花見で祝おう。以上の7回を計画している。



南芦屋浜団地模型写真

■南芦屋浜団地計画概要

所 在 地　芦屋市陽光町（芦屋市高浜町・若葉町の南側沖）
敷地面積　約4.2ha（県営2.19ha　市営2.01ha）
計　　画　県営414戸　市営400戸
階　　数　6～12階
棟　　数　12棟
入居予定　平成10年春

ここまで回を重ねてくると、知り合いになれた人も増えてきてい

るし、先行き核になるであろうと思われる人が20数名くらい、おぼろげながらであるがみえてきている。

今日、こうしてみんなが楽しんで参加している姿を見るのは、関係者全員にとって最も嬉しいことである。

②アートワーク…心地よい暮らしのアート

これは、身近な場所にアートがある楽しさを実感できる環境、日々の慰めや癒しをもたらす環境をつくりだしていこうとするもので、これにはアーティスト、ランドスケープ(景観)、建築などの空間設計にかかわる専門家が参加し、住棟入口のピロティ（玄関ホール）や、住棟間の広場・緑地、コミュニティテラス、グリーンプロムナードなどに場所の特性を生かしたアートワークを行っている。

また、入居予定者だけでなく、一般市民や小学生などにも広く参加を呼びかけて、市民参加のアートも取り入れていく。よく見かけるモニュメント型の“設置しておしまい”のアートにしない、自然の成長や人々の暮らしのリズムに応えるアートにしたいと願っている。

都通り４丁目地区…共同再建事業

被災密集市街地では、狭小宅地や未接道宅地、また権利関係が錯綜した地区があり、共同化による再建が課題となっている。公団では31地区においてこれらの共同再建事業に取り組んでいるところであるが、その事例について紹介する。

震災前から、まちづくり活動を進めていたこの地域では、震災後もいち早く復興委員会を設け、地元共同再建を呼びかけてきた。従前では、地主と借家人との建替え意向が折り合わないため、都心立地の良好な環境にもかかわらず老朽戦前長屋が建物の一部更新をくりかえしていたが、震災が起こり建物は倒壊した。これを契機として、地主・家主・借家人など様々な権利者がそれぞれの条件の違いを多様な事業手法を用いて克服し、まとまったものである。完成すれば密集事業による共同再建事業としては神戸市内で最大のものとなる。事業の仕組みを紹介する。

①従前居住者、権利者の総意で、共同化事業の専門家を交えて街区再生計画を立案する。

②地元権利者は街区再建組合を設立し、公団に事業協力を申し込む。

③従前の地主、借地人が、土地の所有権、借地権を公団に譲渡する。

④公団は共同住宅を権利者の意向に沿ってコーポラティブ住宅として建設する。

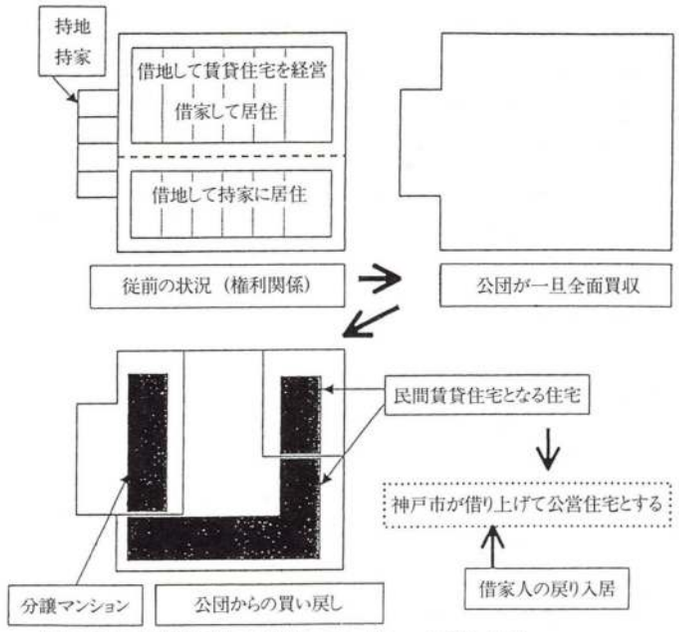
⑤神戸市は密集住宅市街地整備促進事業を適用して設計費および建設費の一部を補助する。

⑥元の居住者のうち、新しい共同住宅の取得を希望する者は公団から買い戻す。(公団グループ分譲住宅制度)

⑦元の地主、家主のうち、新しい賃貸経営用共同住宅の取得を希望する者は、公団から買い戻す。（民営賃貸用特定分譲住宅制度)

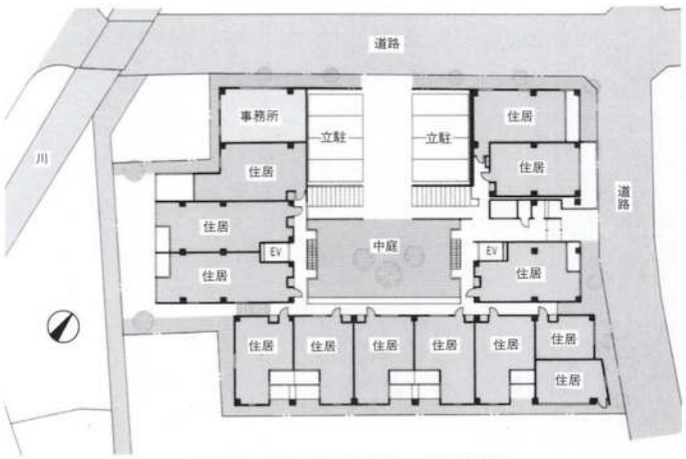
⑧神戸市は新しい賃貸経営用共同住宅を「民間借上賃貸住宅」制度によりその家主から借上げ、家賃補助により低廉な家賃の公営住宅として供給する。

⑨元の居住者のうち、新しい賃貸住宅の賃借を希望する者は民借賃に入居する。

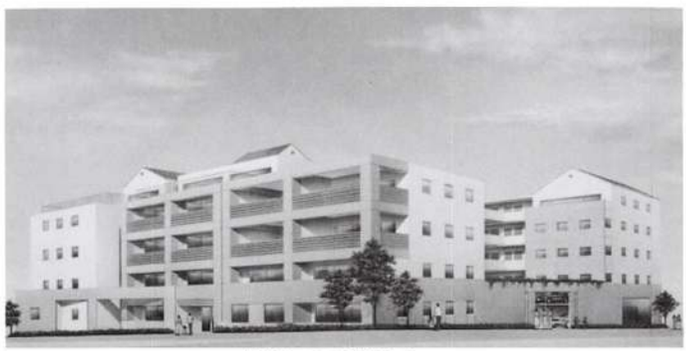


※それぞれの棟は資産としては独立しているが、一体利用できる。

都通り４丁目地区事業の仕組み



都通り４丁目地区配置図・１階平面図


都通り４丁目地区パース

■都通り４丁目地区計画概要

所 在 地　神戸市灘区都通４丁目

敷地面積　１,700㎡

建物概要　５階建

住宅63戸・事務所１区画

（ふじの　くにお／住宅・都市整備公団震災復興事業本部計画調整課長）

住まいの復興支援への取り組み

――各種制度を運用して――

池口　和雄

阪神・淡路大震災により滅失した神戸市内の住宅は、約82,000戸と推定される。神戸市では、これらの住宅の早期復興を図るため、災害公営住宅をはじめとする公的住宅の大量供給や、共同建替・協調建替の支援等による民間住宅の再建支援など、多様できめ細かな制度の展開を進めてきた。内容としては、市、公団などの公的団体が直接住宅供給する手法から、融資、補助、利子補給などによる民間住宅の再建を間接的に支援する手法まで、住宅復興の課題の多様性に合わせて多岐にわたっている。

ここでは、民間住宅に対する多様な再建支援手法を中心に制度の概要と実績を紹介していくが、これらの施策については当然ながら当初からフルセットで用意されたものではない。状況の把握が困難な中で手探りでスタートさせ、実態が明らかになるのに合わせてそのつど追加、または修正を繰り返してきたものである。行政側も悪戦苦闘しながら取り組んできた経緯も合わせて紹介したいと考えており、このため概ね震災後の取り組み経緯に沿って制度紹介を進めていきたい。また、住宅復興の対処のためには現在の施策体系で今後とも十分であるとも考えていない。復興の阻害要因は想像以上に多様である。これらを一つ一つ解きほぐしていくためには、今後とも各被災者の置かれた状況に合わせたよりきめ細かな対策が必要になってくると考えている。

神戸市震災復興住宅整備緊急３か年計画

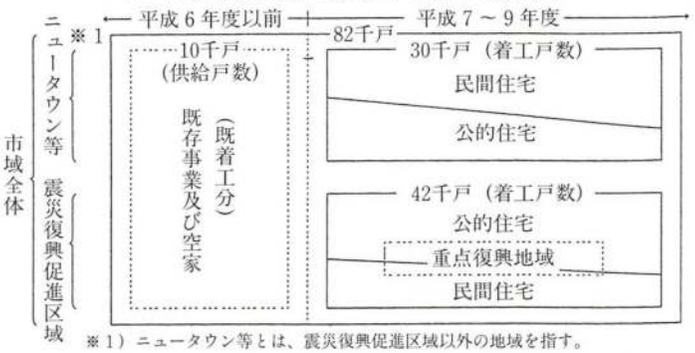
震災直後、区役所、学校などの避難所への避難者数が最大となったのは平成７年１月24日(236,899人)であるが、この頃から神戸市住宅局内に臨時に設置された復興計画チームによる３か年計画などの作成作業が始まっている。被災した住宅の状況などをふまえた住宅の種類ごとの必要供給量と、地域ごとの住宅供給可能戸数の積み上げにより計画フレームを設定することとなったが、計画の基礎となる住宅滅失戸数などについては、震災後の混乱により正確な実態把握に大変苦労した。幸い、都市計画学会、建築学会及び都市住宅学会による建物被災度調査が実施されており、この調査内容を参考にすることができた。

この３か年計画は、必要な住宅復興の全体量とスケジュールを定めたものであり、住宅復興の具体的指針を市民に示すとともに、関連予算の確保にも大きな役割を果たしている。計画では、震災による滅失戸数に相当する住宅戸数82,000戸を３か年で供給することとし、全体の新規供給戸数の約６割を公的団体による供給で、同じく約６割を被災者の希望が多いと推定される被災地近辺へ供給、な



協調建替の事例（本庄４Ｂ　長田区本庄町　10戸）

神戸市震災復興住宅整備緊急３か年計画（当初計画）



※１）ニュータウン等とは、震災復興促進区域以外の地域を指す。

計画期間中の供給目標戸数を82,000戸とする。この内、既着工住宅等の供給見込みの戸数を10,000戸とし、新規住宅の建設目標戸数を72,000戸とする。新規建設72,000戸のうち、持家・借家の内訳は、持家29,000戸（約40%）、借家43,000戸（約60%）とする。

住宅種別	建設戸数	備考
公営住宅※１	10,000(13.9%)	
神戸市	7,500(10.4%)	再建分1,500戸を含む。
兵庫県	2,500(3.5%)	
特定優良賃貸住宅※２	10,500(14.6%)	
神戸市	7,500(10.4%)	
兵庫県	3,000(4.2%)	
再開発系住宅※３	4,000(5.5%)	改良住宅の再建分1,000戸含む
公団・公社住宅	15,900(22.1%)	
公団住宅	12,900(17.9%)	
神戸市公社	2,000(2.8%)	
兵庫県公社	1,000(1.4%)	
公的住宅（小計）	45,000(62.5%)	公的助成4,600戸を含む
民間住宅※４	31,600(43.9%)	
〔うち公的助成〕※５	内4,600(6.4%)	
合計	72,000(100.0%)	

※１）公営住宅には、災害公営住宅、一般公営住宅の再建、特定借上・買取賃貸住宅等を含む。
※２）特定優良賃貸住宅には、特定目的借上公共賃貸住宅等を含む。
※３）再開発系住宅は、改良住宅の新設・再建及び住宅市街地総合整備事業による従前居住者用賃貸住宅等である。
※４）民間住宅には、住宅金融公庫・神戸市住宅融資等の公的融資を受ける住宅を含む。
※５）公的助成住宅には、住宅市街地総合整備事業、優良建築物等整備事業等による補助を受ける住宅、市街地再開発事業等による住宅を含む。

どとなっている。平成７年３月に計画（案）が公表され、神戸市復興計画の策定をふまえて７月に正式計画が公表された。３か年計画の目標戸数は、例えば市営住宅の場合通常の年間建設戸数の約４倍に該当する。目標戸数を設定した当初はその達成に自信を持っていたわけではないが、他都市から派遣いただいた職員や建設委託、買取方式による住都公団の参画など、関係者の努力により、概ね目標達成は可能となった。

震災復興型総合設計制度

今回の震災では、東灘区などの東部市街地を中心に、分譲マンションの被害が多数発生した。震災直後、神戸市への各種建物相談が殺到する中で被災マンションの居住者からの問い合わせも多く、神戸市では、とりあえず平成７年２月14日、建築、法律の専門家によるチームを組織し、被災分譲マンションに係る相談コーナーを設置するとともに、マンションの被害についての実態把握に着手した。この中で、被災マンションには昭和40年代に建設された建物が多く、これらのうちの相当件数が容積率などの既存不適格建築物であることが明らかになった。

分譲マンションの復興については、戸建住宅の場合と比べ復興への合意を複数の区分所有者間でまとめていく必要がある。また、都市集住の望ましい形態としてマンション居住が既に広く定着している現実もある。このため、分譲マンションの復興に対しては、専門家派遣や建設費補助などの実施により強力な支援を実施する方針で作業を進めていたが、既存不適格建築物の問題についても復興推進を目的に思い切った手を打つこととなった。

震災復興型総合設計制度は、平成７年４月に制定、公表されている。この制度の考え方は、震災前の建物の床面積の範囲内で計画される容積率に係る既存不適格建物で、従前より市街地環境への貢献が少しでもある良好な計画であれば、震災により被災した建物の再建の場合に限り、大幅な容積率の割増を認めようというものである。対象は分譲マンションに限らないが、建物用途により容積率の割増の程度などに差を設けている。

なお、同様の特例措置は、建築基準法に規定する高度地区、日影規制及び神戸市の条例で定める共同住宅に係る駐車場整備基準についても同時に実施された。

すまい・まちづくり人材センター及び復興住宅メッセ

民間の住宅復興を進めていくためには、補助、融資、規制緩和などの再建に係る誘導制度を用意するだけでは不十分である。各種制度の活用や住まいに係る法律問題の解決などにあたっては、市民個人の手に負えない高度なノウハウが必要である場合が多い。特に共同建替や分譲マンション建替に係る権利調整作業は、再開発の専門知識と経験が必要となる。

神戸市では、昭和52年から全国に先駆けて建物共同化に際してのコンサルタント派遣制度を設け、各種再開発などの事業に活用してきたが、震災復興のすまい・まちづくり推進にあたり、専門家派遣業務の急増に備えて、平成７年７月、神戸市都市整備公社内にすまい・まちづくり人材センターを設置した。震災前までは、派遣件数も年間10件以内であったが、震災後は年間約100件と急増している。

すまい・まちづくり人材センターは共同建替や分譲マンション建替などの複数の権利者による共同再建を中心に専門家派遣によるノウハウ提供を行うのに対し、戸建住宅の再建を含むすまいづくりのあらゆる具体的相談に応じながら住宅再建に係る問題を解決することを目的に設立したのが復興住宅メッセである。同メッセは、神戸市と神戸市住宅供給公社が主催し、ハウスメーカー、工務店などが経費の支出と人材提供を行った組織である。現在三宮に３会場と新長田に１会場を設置している。ここでは単なる相談業務だけでなく、メッセの参画企業との請負契約も可能である。

融資、建設費補助、利子補給

神戸市では、震災前から市独自の住宅融資制度や良好な共同住宅に対する建設補助制度を実施しているが、震災後これらの制度の大幅拡充を行っている。融資制度としては、住宅金融公庫融資を活用する被災者が住宅を建設、購入または改良する場合、通常の場合に比べ融資利率などを優遇する「神戸市災害復興住宅特別融資制度」を制定し、平成７年２月20日から受付開始した。

また、建設省の補助制度である優良建築物等整備事業、住市総事業、特優賃事業などについては、被災地を対象に補助率の引き上げ、採択要件の緩和措置などが実施されたのに伴い、平成７年度に順次制度拡充を行った。これらの制度は、共同建替や分譲マンション建替といった住宅の共同再建促進を、または特優賃などの良好な共同住宅の供給促進を目的に実施するものであり、設計費や建設費の一部について市・県・国から補助を行うものである。

さらに、被災者の生活再建支援を目的に、兵庫県と神戸市により阪神・淡路大震災復興基金（当初6,000億円、その後9,000億円へ）を設置した。基金は、国の各種制度を補完し、または既存制度では対象とならないような事業に対し、きめ細かな支援策を実施するものである。その運用益により多様な事業を展開する一方、利子の一部に対しては交付税措置がある。

基金による住宅対策の事業内容としては、特優賃に対する設計費等補助、共同建替、分譲マンション建替に対する利子補給、重点復興地域内の被災者の住宅再建に係る利子補給などで当初スタートし、以後順次追加拡充を行っている。

同基金は、住宅再建支援だけでなく幅広く被災者の生活再建支援を行っており、被災者に対する事実上の個人補償を各個別状況に応じてきめ細かく実施しているとも言えるものである。

なお、これらの施策のうち共同協調建替については、これまでに約60件、3,000戸、分譲マンション建替については同じく約50件強、3,700戸と相当の実績があがっている。

これらの共同再建の進捗の原因は、強力な支援制度を設けたことだけではない。各種制度を個別事業に応じて組み合わせて活用しながら、粘り強く権利者間の調整を進めてきた専門家や、震災後の住宅市場の不透明な状況の中で事業化に参画した民間デベロッパーの活躍によるところが大きい。

共同建替・協調建替による住宅復興の進捗状況（補助申請受理済み分）　　平成９年９月30日現在

	名　称	所在地	戸数	事業手法	着工	完成	備　考	
1	深江北町４丁目	東灘区　深江北町４丁目	84	優　良	H10．05	H12．03		市公社
2	本山中町２丁目	東灘区　本山中町２丁目	42	優　良	H08．08	H09．11		
3	本山中町３丁目	東灘区　本山中町３丁目	61	優　良	H08．10	H09．10		
4	保久良	東灘区　本山中町４丁目	55	優　良	H08．12	H09．12		
5	新甲南市場	東灘区　甲南町３丁目	73	優　良	H08．09	H10．02		市公社
6	甲南町３丁目	東灘区　甲南町３丁目	38	優　良	H09．04	H10．07		県公社
7	田中町５丁目	東灘区　田中町５丁目	6	優　良	H08．10	H09．07		
8	西岡本地区	東灘区　西岡本１丁目	9	基　金	H08．02	H09．09		
9	魚崎市場	東灘区　魚崎中町３丁目	12	優　良	H09．11	H10．10		
10	ＪＲ住吉駅東	東灘区　住吉東町５丁目	181	再開発	H09．09	H12．01		
11	ＪＲ住吉駅南	東灘区　住吉宮町３・４丁目	242	再開発	H10．08	H13．03		
12	住吉駅第４ブロック	東灘区　住吉宮町４丁目	56	優　良	H08．07	H09．12		
13	楠丘町２丁目	灘　区　楠丘町２丁目	5	住市総	H08．06	H08．11		
14	大和町２丁目	灘　区　大和町２丁目	13	住市総	H09．04	H09．11		
15	備後町３丁目東	灘　区　備後町３丁目	11	住市総	H09．10	H10．12		公団
16	桜口町３丁目	灘　区　桜口町３丁目	145	再開発	H07．09	H09．09		
17	浜田町２丁目	灘　区　浜田町２丁目	9	住市総	H08．10	H09．06		
18	稗原町２丁目	灘　区　稗原町２丁目	40	住市総	H09．12	H11．03	復興区画整理区域	
19	鹿ノ下通３丁目	灘　区　鹿ノ下通３丁目	6	住市総	H09．05	H09．10		
20	新在家南町４丁目	灘　区　新在家南町４丁目	14	住市総	H09．09	H10．05		
21	新在家南町３丁目Ａ	灘　区　新在家南町３丁目	32	住市総	H08．09	H09．09		
22	新在家南町３丁目Ｂ	灘　区　新在家南町３丁目	32	住市総	H08．09	H09．09		
23	灘南通５丁目	灘　区　灘南通５丁目	3	密　集	H08．08	H09．01		
24	都通４丁目	灘　区　都通４丁目	59	密　集	H09．11	H10．11	市営住宅（借上型）併設	公団
25	ワコーレ脇浜	中央区　脇浜町３丁目	110	住市総	H08．03	H09．10		
26	ハイツ神戸春日野道	中央区　吾妻通１丁目	18	住市総	H09．01	H10．01		公団
27	二宮町１丁目	中央区　二宮町１丁目	10	優　良	H08．07	H09．05		県公社
28	市役所前Ⅱ期	中央区　八幡通	0	優　良	H09．10	H10．10		
29	三角マーケット	中央区　中山手通１丁目	37	優　良	H09．06	H10．11		
30	下山手通７丁目	中央区　下山手通７丁目	22	優　良	H08．10	H09．12		
31	下山手通８丁目	中央区　下山手通８丁目	114	優　良	H09．12	H11．03		市公社
32	東川崎７丁目１番	中央区　東川崎町７丁目	13	住市総	H10．02	H10．12	市営住宅（借上型）併設	公団
33	湊川町Ａ-１	兵庫区　湊川町１・２丁目	27	密　集	H09．11	H10．12	復興区画整理区域（組合）	公団
34	湊川町Ａ-２	兵庫区　湊川町１・２丁目	14	密　集	H09．11	H10．12	復興区画整理区域（組合）	公団
35	湊川中央周辺	兵庫区　荒田町４丁目	150	再開発	H10．02	H12．03	市営住宅（借上型）併設	公団
36	新開地２丁目第２ブロック	兵庫区　新開地２丁目	111	再開発	H10．01	H11．12		
37	神戸・４	兵庫区　新開地３丁目	17	住市総	H08．07	H09．08		市公社
38	新開地６丁目東	兵庫区　新開地６丁目	146	再開発	H09．07	H11．06	県営住宅（借上型）併設	公団
39	御旅市場	兵庫区　塚本通５丁目	111	優　良	H09．01	H10．08		
40	御旅センター市場	兵庫区　塚本通５丁目	71	優　良	H08．09	H10．07		
41	エクセルシティ御崎公園	兵庫区　金平町１丁目	27	密　集	H09．05	H10．11	区画整理区域	
42	二番町１丁目	長田区　二番町１丁目	109	優　良	H09．11	H11．06	市営住宅（買取型）併設	
43	ピエント上沢	長田区　四番町１丁目	52	優　良	H09．05	H10．06	市営住宅（買取型）併設	
44	長田総合ビル	長田区　四番町７丁目	49	優　良	H08．11	H10．05	特優賃併設	
45	長田中央市場	長田区　六番町８丁目	85	優　良	H09．10	H11．03	市営住宅（借上型）併設	
46	宮川町３丁目	長田区　宮川町３丁目	6	優　良	H09．04	H10．03		
47	宮川町４丁目	長田区　宮川町４丁目	108	優　良	H08．09	H09．11		
48	東尻池コート	長田区　東尻池町７丁目	18	密　集	H08．10	H09．08	市営住宅（借上型）併設	公団
49	苅藻通４丁目	長田区　苅藻通４丁目	6	密　集	H09．10	H10．03		
50	まぁぶる・おおみち	長田区　大道通３丁目	32	住市総	H07．11	H08．11	市営住宅（借上型）併設	
51	御屋敷通１丁目	長田区　御屋敷通１丁目	99	住市総	H09．11	H11．05	復興区画整理区域	
52	ライフコート二葉	長田区　二葉町２丁目	20	住市総	H08．03	H09．02		
53	フェニーチェ神戸	長田区　腕塚町４丁目	45	住市総	H09．01	H10．07	特優賃併設	公団
54	サンコート鷹取	長田区　日吉町６丁目	26	住市総	H09．11	H10．09	復興区画整理区域	公団
55	シャレード若松	長田区　若松町10丁目	8	住市総	H09．10	H10．03	復興区画整理区域	公団
56	本庄４Ａ	長田区　本庄町４丁目	24	住市総	H09．01	H09．10		
57	本庄４Ｂ	長田区　本庄町４丁目	10	住市総	H08．04	H08．11		
58	本庄４Ｃ	長田区　本庄町４丁目	14	住市総	H08．10	H09．05		
59	戎町３丁目	須磨区　戎町３丁目	30	優　良	H09．03	H10．07	特優賃併設	
		合計　2,967						

さらに、事業化の相談から資金調達、発注、保留床処分まで可能な住都公団の役割も大である。特に、グループ分譲制度と民賃制度の併用による共同建替＋民借賃（民間借上市営住宅）などのような複雑かつ被災地の需要に合致した事業に対しては強力な推進力を発揮している。

インナー長屋改善制度の拡充

神戸には、狭小老朽住宅が密集した戦前長屋地区が、長田区、兵庫区などの西神戸を中心に数百haにわたって存在している。これらの地区では、居住者の高齢化や地域全体の活力低下によりストック更新がなかなか進まない。今回の震災で約80haの市街地が焼失したが、その多くが西神戸の戦前長屋地区である。

神戸市では、震災前からこれらの地区の住環境整備が課題となっており、密集事業などの面的整備事業を実施してきただけでなく、建築指導行政の立場からも密集市街地における健全な建て替えを促進させるための取り組みを行ってきた。これがインナー長屋改善制度（神戸市インナーシティ長屋街区改善誘導制度　平成５年度制定）であり、具体的には、地区計画等により計画的なまちづくりが実施される街区を対象に、角地指定、水平距離指定などの建築基準法上の各種制度法を組み合わせて建ぺい率や道路に係る規制の緩和を行

う制度である。震災前には適用事例はなかったが、震災後に適用パターンを簡略化して活用しやすいように工夫を行った。これまでに、野田北部地区及び区画整理事業区域内で合計11地区、約110haの市街地で活用されている。

3か年計画の見直しと家賃負担の低減

これまでに紹介してきた民間住宅再建支援のための各種制度は、震災直後から平成7年度にかけて立ち上げてきたものであり、支援策の骨格を成すものである。一方、被災者の実態や住宅復興の状況が明らかになるのに合わせ、当初の計画では想定できなかった事項やスタートさせた制度ではカバーしきれない復興への問題点が徐々に浮かび上がってきた。平成8年度からは、いったん立ち上げた計画や制度の見直し、追加を実施する段階に入る。

まず最初に見直したのが、緊急3か年計画である。応急仮設住宅の入居者についての実態調査により、高齢者、低所得者が予想以上に多いことが明らかになった。これらに基づき、公営住宅の供給戸数を当初計画の10,000戸から16,000戸へ増やし、増加分の6,000戸については県、市で3,000戸ずつ分担、公団住宅及び民間住宅の借上方式により実施することとした。また、住み慣れた地域での住宅確保を希望する被災者が多いことから、借り上げによる供給は被災地において重点的に実施することとした。さらに、家財を失い、職も失った被災者の生活実態をふまえ、公営住宅の入居者負担額を、公営住宅法の改正による応能応益制の前倒し実施と国による特別家賃低減対策補助により、最大月6,000円まで低減させている。

被災者の厳しい生活実態は、公営住宅階層だけでなく中間所得者も同様である。公営住宅の入居者負担額の思い切った低減と平行して、復興基金の活用により民間及び公団賃貸住宅に入居している被災者に対する家賃補助を実施した。この制度は、最高3万円、5年間を限度に家賃補助を行うものであり、制度化の後もより幅広く活用できるよう何度も改正を重ねている。

高齢者の自力再建支援

復興が進むのに合わせ、住宅再建に着手できないでいる空地が目立ってくることになる。これらの中には、不在地主が復興後の土地活用方策について様子を見ているケースもあるが、元の居住者による自宅再建が何らかの事情により進まないものも多い。その多くは高齢者であるがゆえに資金調達が困難となっている場合である。

これに対処するため、平成8年度末に高齢者向け不動産処分型特別融資制度を創設した。この制度は、土地・建物を担保に住宅再建に必要な資金を金融機関が融資するものであるが、借受人が死亡するなど返済ができなくなった場合には対象不動産を処分することにより償還するのが特徴である。当初10年間は復興基金による利子補給があり、返済金額の低減と元金の早期償還を図る仕組みとなっている。

さらに、平成9年度には定期借地権方式による住宅再建支援制度を発足させている。この制度も、土地を所有しながら資金調達が困難な高齢者等を対象にした住宅再建支援制度である。住宅供給公社が土地を買い取り、住宅を建設し、建物については長期割賦で元の居住者に分譲するとともに、土地については定期借地により賃貸する仕組みである。土地の取得及び定期借地による賃貸を可能にするため、住宅供給公社に対し復興基金による補助を行う。

その他の復興基金による住宅再建支援

以上の制度以外にも復興基金を活用したきめ細かな制度を用意している。

小規模共同建替等事業補助制度は、優良建築物等整備事業などの国の制度では採択できないような小規模な共同建替、協調建替を支援するための制度である。既に着手している事業についても遡及適用が可能であり、東灘区の西岡本においてこの制度を活用した住宅再建が実現している。

また、山麓部の傾斜市街地における細街路整備と擁壁整備を支援することを目的に、住宅再建型道路整備助成制度を用意している。この制度は、住宅再建に合わせて私道を整備する場合に、道路舗装、側溝整備、擁壁改修などに対し基金による補助を行うものであり、長田区の重池地区などでこの制度を活用した復興が進められている。

さらに、きめ細かさゆえに分かりにくくなった各種制度を活用しながら、被災者の個別事情に応じて住宅再建の問題解決を図るため、住宅再建ヘルパー派遣制度を用意している。この制度は、復興住宅メッセを窓口に融資、建築の専門家であるヘルパーを派遣するものであり、相談窓口での待ちの姿勢から地元への積極的な出張へ、を特徴とするものである。

震災後3年間が経過しようとしているが、住宅復興については道半ばというのが現場の実感である。3か年計画の目標戸数については概ね達成できる見通しである一方、応急仮設住宅から恒久住宅への移行や、自力再建の推進、まちの復興については、まだ一山も二山も越えていく必要があるように思われる。特に、密集市街地における住宅再建と一体となった住環境整備については、より強力に、効果的に推進していく必要がある。今後とも、密集事業などによる整備とインナー長屋改善制度などの建築規制の運用・緩和による誘導を車の両輪として多様な取り組みを展開していく予定である。

引き続き関係者の支援と協力をお願いしたい。

（いけぐち　かずお／神戸市住宅局住環境整備部住環境整備課住環境整備係長）

3か年計画の見直し

（見直し前）		（見直し後）	
公営住宅	10,000	公営住宅	16,000
神戸市	7,500	神戸市	10,500
兵庫県	2,500	兵庫県	5,500
特定優良賃貸住宅	10,500	特定優良賃貸住宅	6,900
神戸市	7,500	神戸市	5,700
兵庫県	3,000	兵庫県	1,200
再開発系住宅	4,000	再開発系住宅	4,000
公団・公社住宅	15,900	公団・公社住宅	13,500
公団	12,900	公団＊1	10,500
神戸市公社	2,000	神戸市公社	2,000
兵庫県公社	1,000	兵庫県公社	1,000
民間住宅（うち公的助成）	31,600（4,600）	民間住宅（うち公的助成）	31,600（4,600）
合　計	72,000	合　計	72,000

＊1　公営住宅として借り上げられる公団住宅は含まない（公営住宅として算入）。

野田北部まちなみ誘導型地区計画

■復興ビジョンの検討

阪神・淡路大震災後３年を向かえようとしている。被災地は、復興の進行の差はあれ、上物（建築）の整備が行われている。今回、紹介する事例は、震災復興区画整理事業地域２カ町を含む野田北部地区での「野田北部まちなみ誘導型地区計画」である。震災前の鷹取商店街の活性化に端を発したまちづくりは、大国公園コミュニティ道路の整備において、住民参加をなし、まちづくり協議会の活動が盛んになってきていた。それらの整備の落成の翌年より、協議会懸案の住宅問題とまちの問題に取り組むべくスタートした時の被災であった。コミュニティ意識が豊かであったこの地区の復興は、その再生である。火災の煙の中開かれた役員会で、復興ビジョンを検討し、ここの生活再建の手法論を研究した。地区計画の検討を始めると同時に、都市計画（区画整理）決定されることになる２カ町の早期事業完了を達成するべく、その基本となるアンケート、面談の個人ヒヤリング等で、住民の意向調査を実施した。早期の区画整理事業の進行は、この時の個々が納得したモデル換地案がベースにある。区画整理の減歩、仮換地といった勉強会は、区画整理事業地域に含まれなかった町のまちづくり協議会役員が全力で支援し、実施された。

■まちなみ誘導型地区計画

早期の事業完了は、まち復興を早くしたいという思いの他ならない。区画整理での基盤整備が出来る町とそうでない町の「まち」としての整合性、自力型復興の手段として、まちなみ誘導型地区計画を条例化させ、助成制度である、まちなみ環境事業制度の適用を受け、まちづくりを進行させている。まちなみ誘導型地区計画成立の背景は、①住民個々が、自力再生が困難であると自覚していた人が多かった。②住民、専門家、行政が一体的活動を震災直後より行っていた。③協議会の熱意とそのリーダーの指導力があった。④アドバイス、コンサルティングを行う専門家が震災前よりの活動でその信頼を得ていた。⑤地元住民の権利関係が比較的単純であった。⑥住民意向調査等を何回も繰り返し行い、協議会と住民との間でのヒューマンリレーションが豊かであった。⑦地区計画のメリットとその制約条件が地元事情にあっていたなどがあげられる。

■地区計画のルール

地区計画のルールの検討の中で出てきた①住宅再建の困難さ②まちなみをよくしたい③住みやすいまちを希望した３点は、＜図１＞のように展開された。野田北部まちづくり協議会では、現在、条例化された地区計画の管理、運営方法を、景観調整委員会などの設置の中で考えている。まちなみにおいての道路構造、屋根形状、アーバンテクスチャーである外壁、壁面外溝の質感、緑の役割などがなにより研究されているのは、野田北部の固有性である。

（森崎輝行／建築家・森崎建築設計事務所）

◎住宅再建の困難さ

□前面道路による再建の困難さ ⇒狭小宅地の多さ
□従前居住床面積の確保 ⇒道路幅員による容積制限

⇩

容積率の最低限度　壁面の位置の制限

◎まちなみとしてのいい景観を希望

□下町らしさ ⇒高さは、低層がいい

⇩

容積率の最高限度　建築物の高さと軒高の最高限度

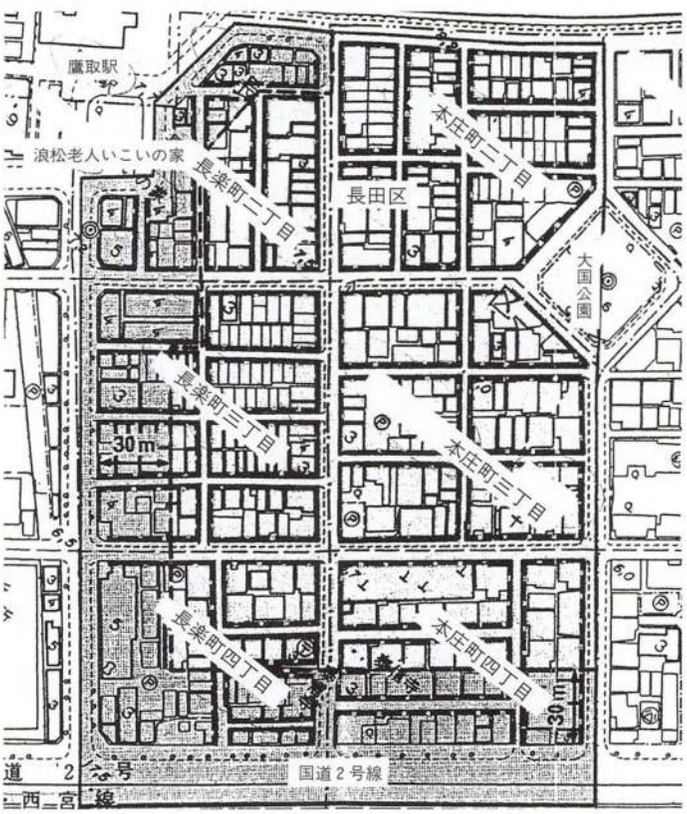
◎住みやすいまちを希望

□身障、高齢、子供皆が住める ⇒風俗等の用途の制限
□防災性を高める ⇒最低敷地面積（土地再分割の禁止）市の認定基準
□快適性 ⇒オープンスペースの確保

⇩

敷地面積の最低限度　壁面の位置の制限　建築物等の用途の制限

図１　地区計画のルール化の検討



野田北部地区



協調化による街なみ

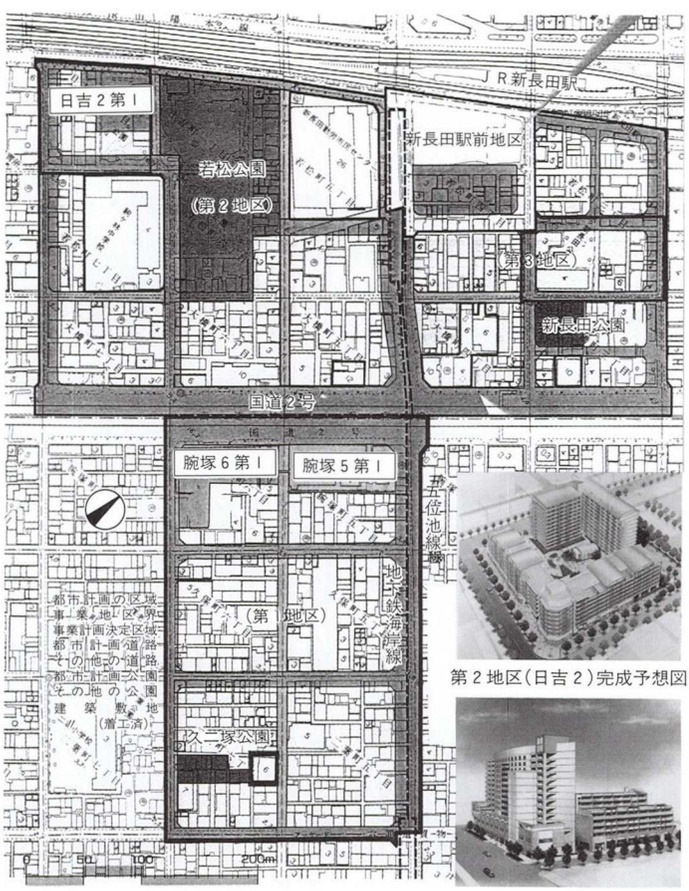
新長田駅南地区震災復興第二種市街地再開発事業 *震災復興まちづくり事例*

■はじめに

新長田駅周辺では震災前より、「神戸市基本計画」において西部副都心として位置づけられていたが、現実的には住環境の悪化、人口の高齢化、産業の停滞など典型的なインナーシティー問題をかかえ、行政・地元がともに長年にわたってまちの活性化のための方策を検討し、地下鉄海岸線の建設やＪＲ新長田駅前の再開発事業などに着手してきた。震災によって事業地区内の約４分の３の建物が半壊半焼以上という甚大な被害を受け、市街地の復旧と防災公園等を中心とした防災拠点の構築、良質な住宅の供給、地域の活性化や副都心にふさわしい都市機能の強化を図るため、全体地区面積20haに及ぶ再開発事業の都市計画を決定した。

■協働のまちづくりの推進

震災後間もない平成７年２月に事業区域内で最初の「久二塚地区震災復興まちづくり協議会」が結成され、引き続きすべてのブロックで計７つの協議会が設立され、復興に向けた取り組みが始まった。倒壊家屋の解体を協議会が窓口となって進めるとともに、最低限の生活の場を早急に取り戻すため、本来ビル工事期間中の仮住居として建設する仮設住宅を地区内に先行的に建設していくことになったが、あきらかに建設用地が不足するため協議会と調整を行い、まとまって土地を賃貸していただける場所に建設することによって、全体で約370戸の住宅を確保することができた。



土地利用計画図

第２地区（日吉２）完成予想図

第Ⅰ地区（腕塚６）完成予想図

ビル計画を検討するにあたっては、市は20ha全体のまちづくりの基本方針のみを定め、協議会とコンサルタントが中心となって再開発によるまちづくりに対する住民の意見を集約し、「まちづくり構想」として市に対して提案をいただき、それに基づき事業計画決定の手続きを進めるという協働のまちづくり方式で進めてきた。

これまでにまちづくり提案はほぼすべて出揃い、現時点において、第１地区8.1ha、第２地区0.9ha(全体7.6haのうち)、第３地区0.9ha(全体4.4haのうち)が事業計画決定済みであり、うち日吉２丁目第１工区、腕塚６第１工区、腕塚５第１工区の計３工区においてビル工事が着工されている。それ以外にもあと３つの工区において年度内の着工を目指して管理処分の手続を進めている。

■事業の特徴と課題

①当地区は、震災前より長屋、木賃などの老朽賃貸住宅が多く、住人は高齢の方が多いため、事業を早期に進めていくためには低廉な賃貸住宅の供給が欠かせない条件となっていた。それぞれの地区の第１着工工区において、上層部の住宅を住宅市街地総合整備事業を併用して従前権利者向けの受け皿賃貸住宅とし、事業用仮設住宅の早期解消を図ることによって、引き続き他の工区の早期着工を進めていくこととしている。また震災前の下町のコミュニティを新しいビルの中に継承し、お年寄りも日常生活のなかで人とふれあう暮らしができるような、協同室のある“ふれあい住宅”をつくる試みが協議会とともに進められている。

②地区内を約600ｍにわたって南北に貫く商店街(新長田一番街、大正筋）が生活のメインの軸として、その活性化が震災前からの課題であった。すべてが再開発事業区域内に包含されることとなったため、新たにビル内には地下１階から地上２階までの３層からなる立体モールを整備し、ビル相互を歩行者デッキ等で繋ぐことにより買い物客や居住者の安全性、利便性、回遊性を高める。モールには所々に青空の見える吹き抜けを配置し、路面型商業を活かした変化のある街並みと界隈性のある買い物空間の創出を図るとともに、市場が中心となった食材バザールなど小規模な店舗が集まった話題性のある商業ゾーンの形成に向けて協議が進められている。入居に際しての床負担の軽減と魅力施設の誘致が大きな課題となっているが、新たなビルの商業の発展を願う地元商業者の協同組合が結成され、高度化事業の導入にむけた取り組みが進められている。

③これまでの拠点的部分的な再開発と違い、今後20haで順次ビルが完成していくと、その管理運営業務は膨大なものとなる。商業施設は時の流れに伴い、その魅力が陳腐化しないよう絶えずリニューアルを続けていく必要がある。そのような観点から全体を一元的に管理運営するまちづくり会社の設立が求められている。

最後に震災からすでに３年が経とうとしているが、地元と一体となって事業の早期の完成に向けて進めていきたいと思っている。

(松浦　行雄／神戸市都市計画局再開発部新長田南再開発事務所)

長田区重池町のグループ再建

■はじめに

重池町は、長田区東端の丘陵に広がる住宅地である。阪神・淡路大震災では、建物だけでなく宅地の石積みや道路の擁壁も崩壊するなど、大きな被災を受けた。しかし、被災が広範囲でなかったこともあり、神戸市震災復興緊急整備条例に基づく重点復興地域には指定されていない。いわゆる「白地区」だが、道路整備を中心にグループ再建の取り組みが成果をあげた。その概要を紹介する。

□　区域の特徴

①位　置：長田重池町１丁目　約4,700㎡

②地　形：地区全体が傾斜地。

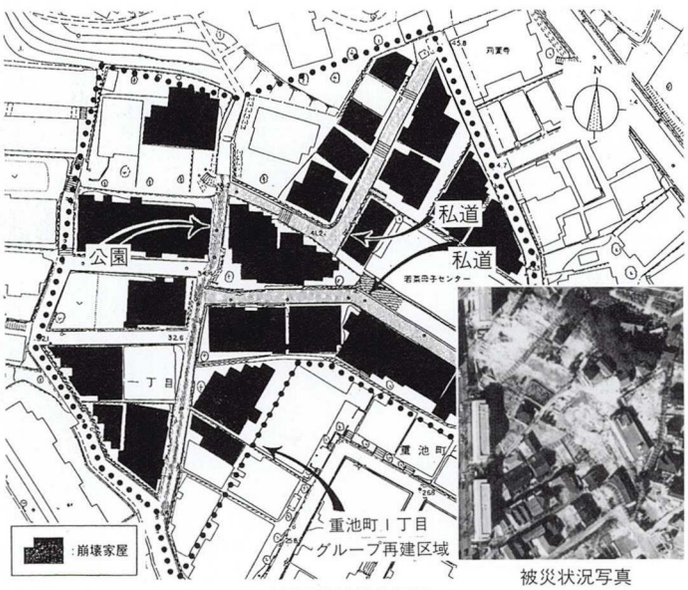
③道　路：市道、私道が混在。道路はすべて幅４ｍ未満の細街路。

④建　物：震災前32棟(住宅、長屋、木賃アパート等)。戦前建物もあった。

□　被災の状況

①宅地等：丘全体が崩壊。道路、宅地とも原形をとどめぬほどの被害。

②建　物：全体の75%、24棟が倒壊。



位置図兼被災状況図

被災状況写真

■道路整備の方針

大きな被害のなか、平成８年８月に住民の方々による話し合いが始まった。将来の防災や利便、また住宅工事のことを考え、再建に向けてまず道路の拡幅整備が必要だとの声が上がり、市では専門家として萩尾氏（建築家）を派遣。区域内には、市道１路線、私道２路線の３つの主な細街路があったが、話し合いを重ね次のような整備方針をたてた。

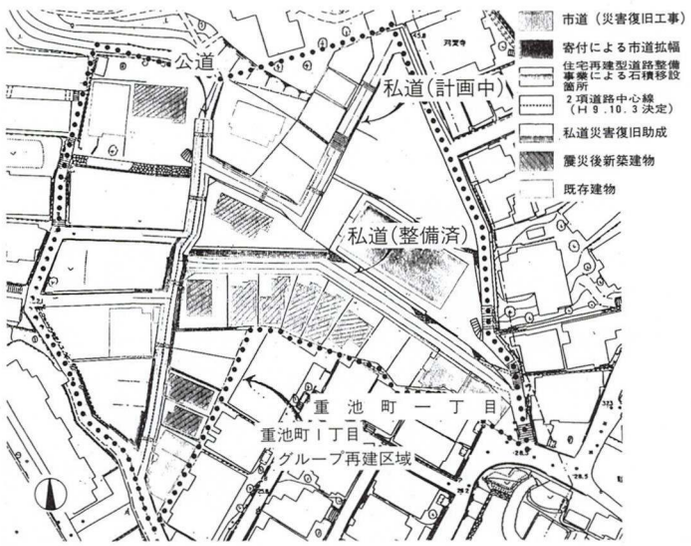
①市道・２項道路の中心線を決定し、各々２ｍ後退した拡幅整備する。
- 更地ですぐに拡幅できる部分は、地主の協力により宅地の石積みなどを移設し道路用地を市に寄付する。
- 原道と拡幅道路部分とは、市で復旧整備する。

②私道・地主間の協議により拡幅範囲を決定し、４ｍ幅の道路区域を決定する。
- 更地で拡幅できる部分は、各々地主等により宅地の石積みなどを移設。
- 原道と拡幅道路部分とは、補助を受け整備する。

また、当地区は「白地区」のため、整備実現に向けて公共施設整備に関する総合的な事業（密集事業など）がないことがハードルとなったが、この点を補うため、阪神・淡路大震災復興基金などの既存メニューを組み合わせ、最大限に活用することで実現に結び付けている。

■活用制度

①全体計画検討のためのコンサルタント派遣　⇨道路整備型グループ再建制度
②私道の復旧整備に対する補助　⇨私道災害復旧助成事業
③道路拡幅に伴う宅地石積み等の移設補助⇨住宅再建型道路整備事業
④市道の寄付による拡幅整備　⇨狭溢道路環境整備事業



再建計画図

■活用方針

こうした取り組みの結果、市道のついては中心線を決め、３宅地で拡幅にあわせた宅地石積みの移設を完了した。また私道については、１路線で拡幅整備を完了し、１路線が現在計画中である。また、建物は10棟が新築復興した。来年１月には市道の復旧工事が予定され、建物ではさらに２棟の建築が計画されるなど、少しずつではあるが着実に復興している。

今回の成果は、専門家荻尾氏のリーダーシップと住民の理解のもと実現したものだが、「白地区」の復興にひとつのモデルを示すものとして意義深い。当地区同様、地域住民の方が主体的にまちづくりに取り組んでいる地区については、市としても基金制度等のメニューを最大限活用し、復興支援をしていきたい。　（小川直樹／神戸市住宅局住環境整備部住環境整備課西部担当主査）



公道整備前



同左整備後

トアロード地区の景観形成市民協定

■はじめに

神戸市では、昭和53年に神戸市都市景観条例を制定し、「神戸らしい都市景観をまもり、そだて、つくる」ことを基本として新たな都市景観を目指して施策を展開してきた。さらに、平成２年には、都市景観の扱うべき内容の多様化・拡大化にともない、「施策対象の拡大と総合化」「景観誘導の多面的展開」「行政主導から市民主体へ」の３つの視点に立ち条例改正を行った。景観形成市民協定も、身近なまちなみ景観の形成を目的とした市民の自主的な活動を支援するためにこの時設けられた。

景観形成市民協定とは、一定の区域内の住民や企業、土地所有者など、地元関係者が、各々の区域の実情に応じた景観の形成を図ることを目的として締結する協定で、締結後の運用が適性に行われるための仕組みづくりも必要となる。なお、協定が市の認定を受けた時は、景観形成のための活動に対して市の支援を受けることができる。

■トアロード地区まちづくり協議会の設立

トアロードは、開港後、外国人たちが浜手の居留地と山手の居宅（北野・山本地区）を往来した南北1.5kmの坂道で、インテリア、帽子、宝飾、貿易会社、レストランなどの店舗が多く立ち並んでいる地域である。

平成７年１月17日、阪神・淡路大震災が発生し、この地区も多くの建物が壊れた。

このようななか、翌平成８年１月17日、地元の商業者や住民たちにより、トアロード地区まちづくり協議会が、阪神・淡路大震災によってうけた災害から１日も早い復興をまちぐるみで進めるとともに、トアロードらしい品格と魅力をもつ地区としてのまちぐるみの達成をめざして設立された。

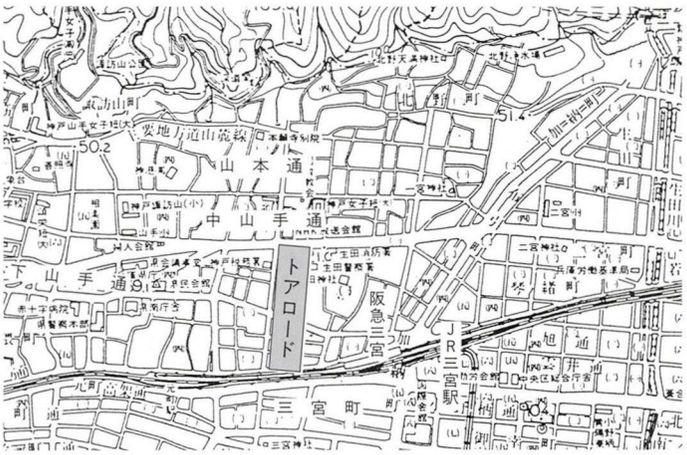
トアロード地区まちづくり協議会は、まちづくりをすすめていくなかで、トアロード地区の位置づけを明らかにした上で、地区独自の歴史や個性などの様々な特性を十分に考慮した共通の目標をもつ必要があるとして、「まちづくり計画」を策定し、また、地区固有のまちなみ景観をまもり、そだて、ひいては地区の総合的環境の向上に資することを目的に景観形成市民協定を締結した。

■住民、企業、行政が協働で取り組む

トアロード地区の景観形成市民協定は、トアロード沿い両側25mを範囲に、建築物の新築、増改築などに対し景観への配慮を求めたもので、まちなみ形成のルールとして、看板・広告物、緑化、建物の形態・色彩デザインなどの基準を設けたものとなっており、パチンコ店やテレフォンクラブなどの建築物の用途制限も定めている。強制力はないが、住民、企業、行政が協働で取り組むよう求めている。

市民協定は、地区の住民に周知徹底が図られ、みんなで守っていくという姿勢が必要であり、運営は地元の代表により行われる。

神戸市においては、市で認定した景観形成市民協定は、まだなく、これが認定されれば、第１号になる。



トアロード周辺



トアロードの現況


同　上

（市原俊彦／神戸市都市計画局計画部アーバンデザイン室長）

六甲道駅南地区震災復興第二種市街地再開発事業 *震災復興まちづくり事例*

あの震災からはや３年になろうとしている。震災直後の都市計画決定にまつわる状況を当時、別の部局でみていた私は、あんな仕事をする人は大変だろうなと思いながら、その年の４月から六甲道南の再開発事業に携わることになった。いわゆる都市計画事業にどこまで住民の声が反映できるのか？が試されていると感じたし、自分自身も試したいと思った。現在、事業は一定の進捗を見せつつも課題が「山積しているが、この機会に一つの復興事業が、住民との話し合いの中でどのように変わってきたかについて少し振り返ってみたい。

■震災直後の都市計画決定

平成７年１月17日の震災からちょうど２ヶ月後の３月17日、他の事業と合わせて六甲道南の復興再開発事業が都市計画決定された。区域は約5.9ha、災害に強いまちづくりをめざして、地区中央に１haの公園を新設するとともにこれを高層ビルで取り囲み、防災拠点の創出、住宅の供給、副都心機能の強化などを掲げた内容であった。(図１、写真１) この決定の是非は別として「行政が強行に事業の網をかけた」という印象は拭えなかった。

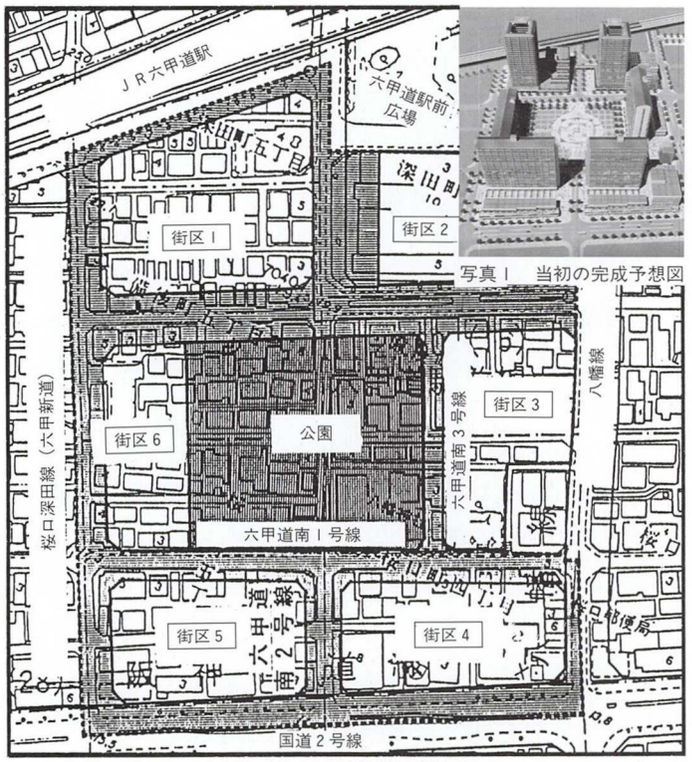


写真１　当初の完成予想図

図１　当初の都市計画決定図

■まちづくり協議会での話し合い

震災後５ヶ月たって何とかまちづくり協議会が組織され、住民と行政とコンサルタントの３者で協議する場ができた。協議会で最も問題となったのは、区域の中央に計画された１haの防災公園であった。再開発そのものに対する住民の反発がこの点に集約されていたともいえる。市としてもある程度の変更は前提であったが、問題は規模だった。「住民の総意があれば１haを下回ってもよいのか」と問いつめられると「防災公園として１haの規模が必要だ」と答えざるを得ない。「やはり行政は住民の意見を受け入れない。何のための協議会か！」といった繰り返しも随分あった。公園の規模は最終的には0.93haで決着するのだが、協議会の最初の１年くらいはずっと公園の議論をやっていたような印象である。公園の問題が概ねの決着をみると、ようやくビル計画の議論ができるようになった。その後、住民の要望を何とか集約して、震災から約２年後の平成９年４月までにすべての協議会でまちづくり案をまとめることができた。(写真２) その中には、公園の規模縮小と形状変更や、再開発ビルの高さをできるだけ14階以下に押さえ、将来の合意形成の容易さを考慮して住棟は50戸程度に分節化する等の住民の声が盛り込まれている。

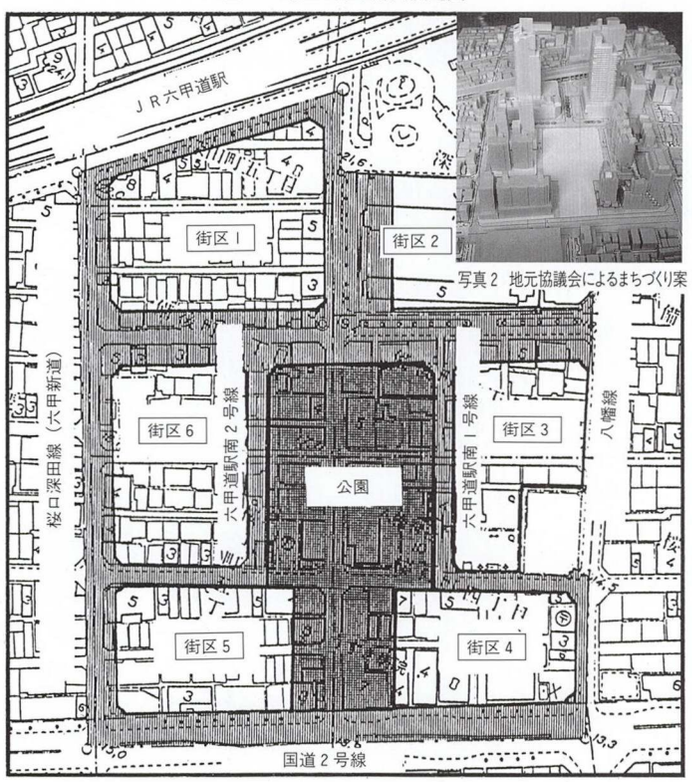


写真２　地元協議会によるまちづくり案

図２　変更した都市計画図

■都市計画の変更と事業の進捗状況

当初の都市計画決定からほぼ２年後の平成９年２月、住民からのまちづくり案通りに都市計画の変更を行った。(図２) 第１地区では、既に平成９年７月に着工し、いよいよ工事が本格化している。続いて第３地区が平成９年11月に事業計画決定され、今年１月から一部工事に入れる見通しだ。その他第２、第４地区も平成９年度内の事業計画決定に向けて話し合いが続けられている。

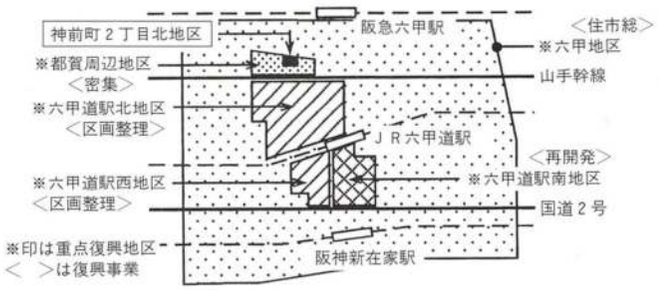
都市計画の変更はしたものの、この事業が最終的に住民の声を反映したものになるのかどうか、まだ結論は出せない。できれば、再開発ビルができた時に「いろいろあったけどよかったな。いいまちになったな。」と言ってもらえるような事業でありたい。そのために、事業は早く、費用は安く、できあがったまちは魅力的になるよう、めげずにがんばりたい。

(中原　信／神戸市都市計画局再開発部六甲道南再開発事務所計画第１係長)

神前地区のミニ区画整理——組合施行の震災復興土地区画整理事業——

平成8年1月神前町まちづくり協議会が発足し、震災後1年を経過しているという「時間との競争」条件をふまえ、具体的かつ早急な復興に取り組むべく、とりわけ被害の大きかった当街区をモデルスタディとしてとりあげ、復興まちづくり計画の検討をはじめた。

接道条件の不備や供給処理施設の輻輳等が住宅再建を阻害していたため、総合的な環境基盤の整備による街区復興を目指した。



位置図

■“史上最小”の土地区画整理事業

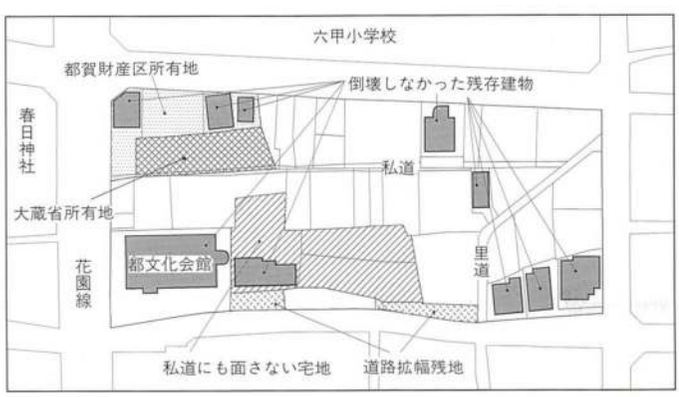
約50m×100mの街区を事業区域として、既存の私道と里道を軸に区画道路の整備と換地により、すべての画地の接道条件を確保するとともに供給処理施設の整備を行うことにした。市員は接道の最低条件でなく、防災・建築条件・通行利便等の観点から、4.5mとした。

区域規模が小さいことから地区内で公園の確保を行わず周辺街区で整備を目指すこととした。(まちづくり協議会活動により隣接街区でグリーンオアシス事業による小公園整備が実現しつつある。)

街区内に神戸市所有の“道路整備残地”があり、これを実質上の減歩緩和材料として活用することにした。また、震災復興土地区画整理事業とすることで、保留地や資金搬出によらず、補助金によって区画道路、供給処理施設、宅地等を整備する事とした。

基本諸元

項　目	数量等	備　考
区域面積	4,901㎡	外周道路を含まない
従前公共用地面積	107.60㎡	里道
整備区画道路面積	649.82㎡	延長　138.3m
権利者数	40人	土地所有者数　33人



現況図

■“超特急”の事業化への歩み

震災復興事業として認可されるためには平成9年1月17日までに組合が設立されることが、当該時点では必要だったことから、次のような“超特急”の取り組みとなった。

組合設立準備会の設立（H8.6）→神戸市への「技術援助申請」（H8.7）→「組合設立認可申請」（H8.10）→「組合設立認可」・「事業計画認可」（H8.12.17）→「神前町２丁目北震災復興土地区画整理組合」設立（H9.1.14）→

“分刻み”のスケジュールが、決断を促す大きな要素となった。＜接道条件が確保でき安心して住宅が建てられる＞＜緊急車がアクセスできる安全な環境になる＞＜道路、上下水道などの生活環境基盤施設を神戸市が管理してくれる……ハンコを集めたり負担でもめることもなくなる＞＜土地の境界のもめ事がなくなる＞さらに、＜手出しなしで補助金により整備できる＞といった現実的なメリットが事業化実現の大きな背景である。しかし、「震災の貴い犠牲を想い、元の町に戻すのでなく、孫子の代に誇れる町をつくる」というみんなの貴い志が、もっとも大きな原動力となったと思う。そして、「今しかできない、今ならできる」の思いから、高齢の地権者が仮設住宅暮らしで耐え、踏ん張ってくれている。

また、神前地区全体の密集住宅市街地整備事業を担当する住環境整備部東部整備課の全面バックアップが大きな支えとなっている。

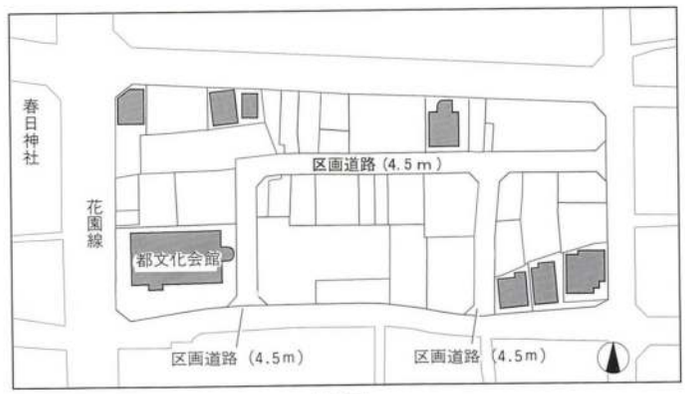
■現状とこれからの課題

事業区域等が狭く換地の自由度が低いこと、事業の円滑な進捗のため基本的に清算金処理をさけたいといった条件から、現位置型換地とし、地先道路の一部を負担する“面積式”減歩方式を基本に実施の設計を進めた。

平成9年6月下旬に換地規定及び仮換地を総会で承認し、仮換地の通知を開始した。同9月末に起工式を行い、早期の事業完了を目指して工事準備等を進めている。

また、移転対象の住宅再建に取り組み一方で、一般の高齢地権者の住宅再建について、相談・支援を進めているところである。

（岩崎俊延／都市・計画・設計研究所代表取締役神戸事務所長）



計画図

深江緑のまちづくり

■深江地区まちづくり協議会発足

深江地区は、芦屋市と市境で接し、神戸市で最も東に位置する地区で、交通至便な住宅市街地である。

ここでは、深江地区まちづくり協議会を中心とした緑のまちづくりの取り組みを震災前後の活動を交えて紹介したい。

当地区は阪神深江駅周辺の混雑、国道43号沿道対策など住環境の課題を抱えていたが、これからの解決に向けて、平成２年７月に「庶民的で住みよいまちづくり」を目標に「深江地区まちづくり協議会」が発足した。

先の阪神・淡路大震災では区域の全戸数の約５割にあたる約4,200戸が倒壊･焼失するなどの被害を受け、協議会では、震災直後から震災復興委員会を組織し、すまい再建相談会の開催、深江地区復興計画の検討などまちの復興に向けて、いち早く活動を再開した。

また、再建にあたって無秩序な建築行為や土地利用が行われないよう、震災前より検討を進めてきた「深江地区まちづくり協定」締結に向けた取り組みを合わせて行い、平成７年11月13日に震災後としては、神戸市内で初めてとなるまちづくり協定を神戸市長と締結するに至った。風俗営業等の用途制限、壁面の位置の制限等のほか、塀を設ける場合は、生け垣または透視可能なフェンスで植栽するなどの垣・柵の構造のあり方を盛り込むなどの緑のまちづくりの推進内容が盛り込まれた。

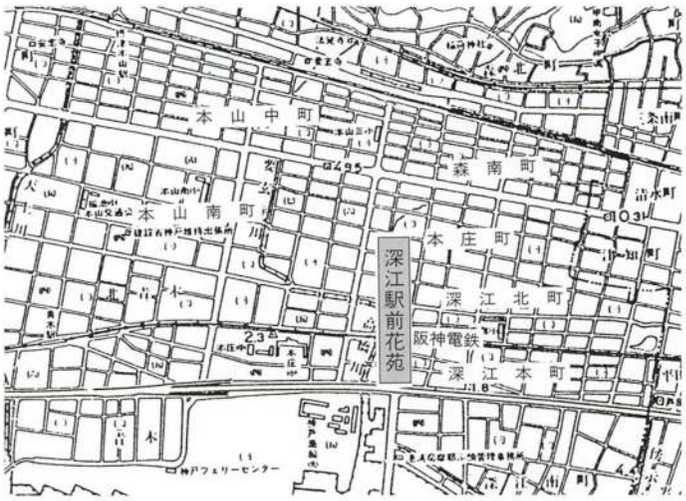
■深江地区の再建活動

深江地区における再建活動は、大阪・神戸のほぼ中間に位置するという、交通至便なポテンシャルもあり、共同住宅等を中心に着実に進んできたが、一方で未だ空地が点在する箇所が見うけられる。これに対して協議会は当面再建の予定がない空地、いわゆる未利用地が放置されることは、景観・防犯上問題あるものとして、まちづくりに活用できないか検討を行ってきたが、震災後３年目を迎え、協定による緑化の誘導にとどまらず、復興の成果として、緑化スポットの整備などものづくりにも重点を置くことになった。

■深江駅前花苑、深江花と緑のフェア

具体的な活動として、まず、地域内の緑化資源、空地などを鳥瞰するため、平成８年１月に第１回フィールドワークを行い、阪神深江駅前の市所有地を緑化候補地として抽出した。そして、平成９年６月阪神グリーンネットなどのボランティアの協力のもと、設計、整備、管理すべてを協議会など地域が行う緑化スポット第１号として「深江駅前花苑」を完成させた。この花苑は未利用地の活用方法として先駆者的な事例となった。また、緑化活発活動の一環として開催した、深江緑化花苑完成イベントである「深江花と緑のフェア」では、3,000人以上の人々が集まるという大盛況となった。

現在、協議会では平成９年10月に実施した第２回フィールドワークの調査結果に基づき、民有地での緑化スポット整備に向けた検討を進めており、また、緑化フェア等のイベントを活用して各種緑化補助制度の紹介・相談を行う予定である。



深江地区周辺


深江駅前花苑



深江花と緑のフェア

復興と言えば、道路、公園などの整備や再開発をイメージされることが多いが、深江地区の緑のまちづくりも復興のあり方のひとつとして今後も注目していきたい。

また、行政としてもより有効な緑化に係る制度の検討を行い、支援していきたいと考える。　（中山久憲／神戸市都市計画局計画部主幹）

芦屋市若宮地区住宅地区改良事業

■地区の概況

若宮地区は、芦屋市中央部の国道43号沿いに位置する約2.25haの住宅密集市街地で、幅員４ｍ未満の細街路や老朽木造住宅が多く、住環境上の問題をかかえている地区であった。

阪神・淡路大震災では、地区内のほとんどの住宅が全半壊するという甚大な被害を受けた。

地区の概況

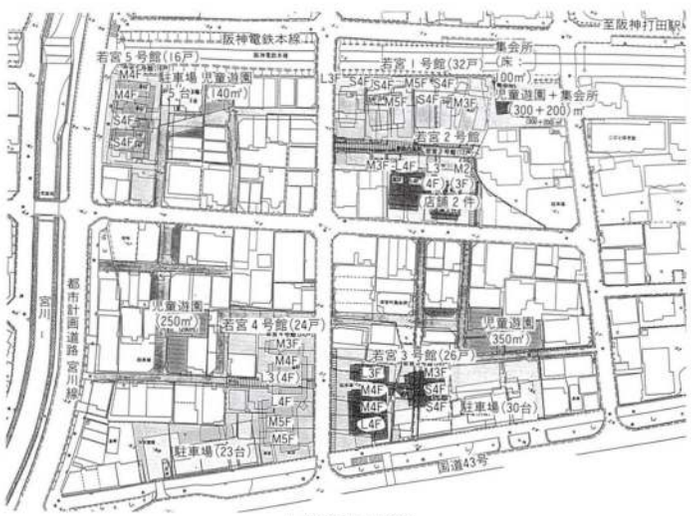
従前の住宅形式		
戸建住宅	151戸	57.9%
文化・アパート	105戸	40.2%
マンション	5戸	1.9%
計	261戸	100.0%

被災状況		
全壊	162戸	61.6%
半壊	70戸	27.3%
一部損壊	29戸	11.1%
計	261戸	100.0%

■震災復興住環境整備事業の取組み

復興にあたっては、細街路を解消し、文化・アパート等の民間木賃住宅の代替として、地域型市営住宅の早期供給を図るべく、住宅地区改良事業による住環境整備事業に取組むことにした。

住環境整備事業にあたっては、地元住民による、まちづくり協議会が組織され、住民意向を反映した住環境整備事業を推進している。



土地利用計画図

■住環境整備事業の目標と整備方針

まちづくり協議会によるまちづくり構想は、高層住宅を避け、中低層住宅を中心に、地区道路や緑地を整備した「安全、快適でコミュニティのあるまちの復興」を目指している。

当住環境整備事業では、住宅地区改良事業手法を使っているが、一戸建住宅の全面買収が困難であるため、既存戸建住宅等の存置を前提とする中で、従前居住者用市営住宅を早期に供給すべく事業の推進を図っている。そこで、一定のまとまりのある市営住宅用地を創出するため、存置意向のある一戸建住宅の地区内移転が必要となっている。このような移転住宅を代替住宅と呼んでいる。

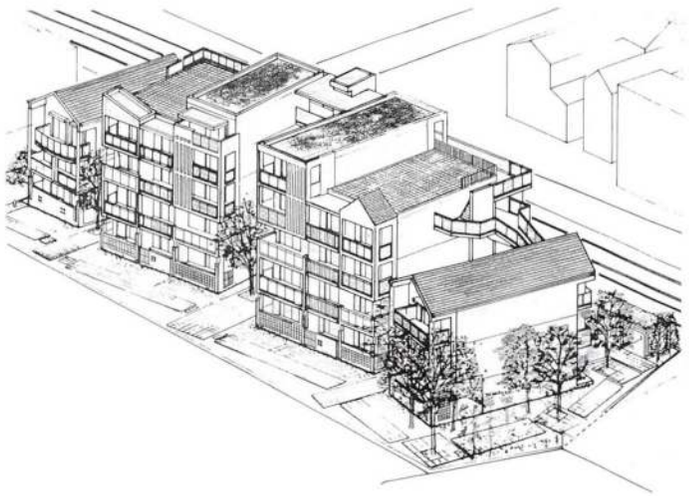
住宅計画の概要

住宅供給計画	
存置住宅等	約 80戸
代替住宅	約 20戸
市営住宅	約110戸
計	約210戸

→

市営住宅の規模計画	
1 D K	約 30戸
2 D K	約 60戸
3 D K	約 20戸
計	約110戸

市営住宅の建設にあたっては、戻り入居者の家族構成に合わせた規模計画をするとともに、存置住宅、代替住宅をはじめとする周辺の一般的なまち並みと違和感なく融和を図るため、建物高さは４階建を標準に３～５階建とすることとし、また、住棟の分節化や立面計画に変化をつける工夫などを行っている。



(仮称)芦屋市若宮町住宅(その１)パース

■おわりに

当事業は、一般の既成市街地における住環境整備事業であり、地域住民の意向を充分に反映したまちづくりを進めるため、行政とまちづくり協議会の対話を積み重ねつつ進めており、震災３年目にしてようやく第Ｉ期工事（32戸）が着工の運びとなっている。

このように当事業は、①住民参加のまちづくり手法を採用しつつ、②住宅地区改良事業手法を使うが存置住宅を許容し、③住宅移転により市営住宅用地を創出し、④周辺まち並み融和型デザインを工夫していることなどが新しいまちづくりの予感となっている。

(内田富也／芦屋市都市計画部開発事業課若宮地区担当課長)

宝塚駅前(花のみち周辺)地区第二種市街地再開発事業

震災復興まちづくり事例

■はじめに

花のみち周辺地区は、宝塚市の玄関口として平成５年に市施行の再開発事業により整備が完成したソリオ宝塚に隣接し、ＪＲ・阪急宝塚駅と宝塚歌劇（大劇場）・ファミリーランドを結び市立手塚治虫記念館へと通じる宝塚駅歌劇場前線（通称『花のみち』）約200mの沿道に位置した本市観光プロムナード構想の重要な部分にある地域である。明治30年の阪鶴鉄道（現ＪＲ宝塚線）の開通、明治43年の箕面有馬電気軌道（現阪急電鉄宝塚線）の開通、また、大正３年の宝塚少女歌劇の公演開始以降は、一年を通じて華やかな観光の町として大きな発展を遂げてきたが、平成７年１月17日の未明に発生した阪神・淡路大震災により、地区内建物23棟のうち、10棟が全壊、５棟が半壊という壊滅的な被害を受けるに至ったのである。

■まちづくりの課題

地区面積は、約0.9ha、震災前は、28世帯、約84人が居住しており、その多くが地区外へと避難し、一日も早く元の地に戻ってくることを望まれていたが、従前の一画地の土地の面積が狭小であったこと、接道不良の宅地が多かったことなどから従前どおりの建物の再建が困難な状況であった。

■整備の方針

このような課題を解決し、以下のことを目的として、「震災復興計画」に基づき市街地再開発事業の手法により都市機能の再生と併せて、安全で快適な災害に強い街づくりに取り組むと共に、花のみち周辺地区にふさわしい商業施設、住宅施設の整備を行うこととした。

(1)被災した住民のために、早期に恒久住宅の確保を図ること。

(2)商業施設の再整備を行い、商業者の早期生活再建を図ること。



(3)道路の拡幅等整備を行い、生活環境の整備を図ること。

■事業の経過

以上のような経過の中で、平成７年３月17日に本地区を市施行の宝塚駅前地区第二種市街地再開発事業の区域に編入する都市計画決定の変更を行った。その後、国、県を始め関係機関とも協議しながら、用地の先行買収、従前権利関係を把握するための土地測量、建物調査、地元説明会等を行った。また、施設建築物の基本設計にあたっては、花のみちにふさわしい設計思想の提案を広く受けるため、公募型プロポーザル方式を採用し設計者を特定して、地元権利者の意見を取り入れながら基本設計を行ったのである。その結果、都市計画の変更決定から約１年後の平成８年３月25日という非常に早い時期に事業計画の決定を行うことができたのである。

■事業の課題

事業を進めるうえで、大きな課題となった点は二点。一点目は、震災により滅失した建物の借家人の取り扱いである。都市再開発法では、借家権を有する者について、新しいビルの床に対する賃借り希望の申出をすることができる旨の規定があり、また、特定分譲として新ビルの床を取得する道が開かれているが、震災等を想定しておらず震災により滅失した建物の借家人についての規定がなかった経過がある。一方、今回の震災では、「罹災都市借地借家臨時処理法」が適用されることとなったことから、本事業においては、震災により滅失した建物の借家人、いわゆる同法で保護されている優先的に施行地区内の土地もしくは建物を賃借することができる権利を有する者等（優先賃借権者）を、都市再開発法で規定する借家権を有する者と同等の権利を有する者として施行規程で位置付け、賃借り希望の申出並びに特定分譲を認めることにより権利の保全を図ることにしたのである。

二点目は、被災により店舗を失った商業者の生活再建の確保である。一日も早い営業の再開が可能となるように、都市計画決定直後から仮設店舗の検討を重ねてきたが、本地区の商業施設が、主に、歌劇場・ファミリーランドの観光客を誘引する性格を有していたことから、ごく限られた隣接地区以外に適当な仮設店舗の設置場所が確保できず、仮設店舗等の早期建設による被災権利者の生活再建が充分に図れない状況であった。この状況を放置すれば、商業者は止むなく都市計画法§53の規定により地区内に新たな建物を建てることが想定された。一旦、自力再建した建物の移転については多大な時間と費用を要し、結果的に事業の完成を遅らせることが懸念されたため、現物補償としての仮設店舗の提供に代えて、従前権利の使用収益の制限の対象として、金銭による補償を行うことにより、商業者の生活再建の確保を図るとともに、地区内の建築を抑えることにより事業の進捗を図ることにしたのである。

■事業計画概要

事業名称　阪神間都市計画事業宝塚駅前地区第２工区第二種市街地再開発事業
施行区域　宝塚市栄町１丁目の一部
施行面積　約0.9ha
施 行 者　宝塚市
施行期間　平成７年度～平成12年度
事 業 費　約121億円
公共施設
　宝塚駅歌劇場前線　幅員　18m　延長　約220m
　区　画　街　路　幅員　６m　延長　約30m
建築施設

第７街区		第８街区	
敷地面積	約2,490㎡	敷地面積	約2,010㎡
建築面積	約1,700㎡	建築面積	約1,490㎡
延べ面積	約14,570㎡	延べ面積	約10,740㎡
建ぺい率	68%	建ぺい率	74%
容 積 率	494%	容 積 率	461%
構　　造	鉄骨鉄筋コンクリート造	構　　造	鉄骨鉄筋コンクリート造
階　　数	地下２階　地上13階	階　　数	地下１階　地上13階
住宅戸数	92戸	住宅戸数	61戸
駐車台数	26台	駐車台数	38台
主要用途	商業・住宅・駐車場	主要用途	商業・住宅・駐車場

（第１工区において第１街区から第６街区までの整備を行った、第２工区は第７街区・第８街区と設定した。）

■公共施設の整備計画

整備にあたっては、花のみちの雰囲気を保全し、被害のあった石積みの修復、インターロッキング舗装の改修と併せて、デッキ（花舞台）を設置して再開発ビルへの動線を確保するとともに、ベンチ等を設置することにより潤いのある空間を創出する等、観光プロムナード構想にあった修景施設の整備を行う。

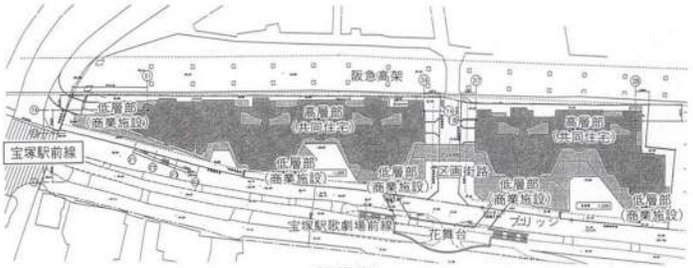
また、電線共同溝により、無電柱化とすることにより開放的な空間の確保を図り、緊急時における避難路としても利用できるように、第７街区と第８街区との間に国道176号へ通じる区画街路を設ける計画としたのである。

■建築施設の整備計画

当地区は、花のみちに隣接し、長年に渡って花のみちと一体となり繁栄してきた地区であることから、建築施設計画についても道路（花のみち）と建物が総合的に調和のとれたものにすることを基本として計画にあたった。

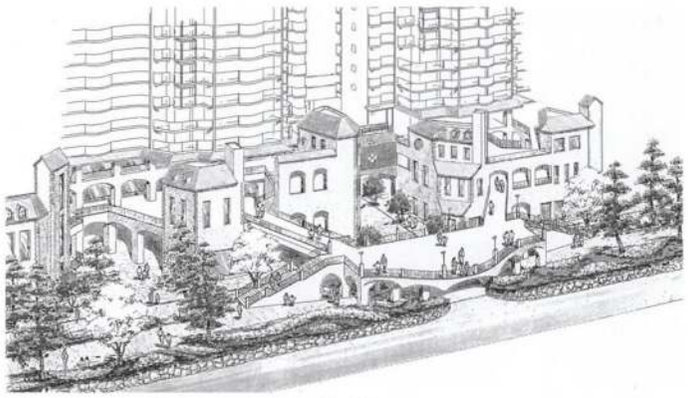
また、阪急宝塚駅からソリオ宝塚、Ｓ字型の宝来橋、湯本再開発区域、宝塚南口駅、宝塚大橋、市立手塚治虫記念館、宝塚大劇場・ファミリーランド、花のみちへと回遊する観光プロムナードを形成する地区のひとつとして、周辺建物と調和した建物デザイン、回遊性の高い空間を確保する必要があった。

こうした条件のもとに、具体的に建物を花のみちからセットバックして建設することにより来街者が憩える広場を設け、それを中心にして商業が展開されるように工夫すると共に、壁面部分に変化をつけることにより圧迫感のない開放的な空間を確保することにしたのである。



配置図


模型写真


パース


パース

また、低層部の商業施設は従前の面影をイメージして外向き店舗とし、花のみちに面する部分には数戸の独立店舗を配し、変化に富んだビルの顔づくりを行うと共に、高層部の住宅施設とはあたかも別の建物であるかのように見せるダブルシルエットを基調としたデザインとしてまとめたのである。

■まとめ

本再開発事業は、事業本来の目的である都市基盤の整備、良好な住宅の供給、商業環境の改善をはじめ、被災商業者の生活再建の確保を目標としており、併せて、道路等公共施設の機能強化により、災害に強い街づくりを進めると共に、この街を訪れる観光客を暖かく迎えられるコミュニティあふれる街づくりを願い、一日も早く事業を完成させるべく鋭意事業の進捗を図っているところである。

（大和一成／宝塚市都市復興部宝塚駅前再開発担当課長）

1995年1月17日を
忘れないために――

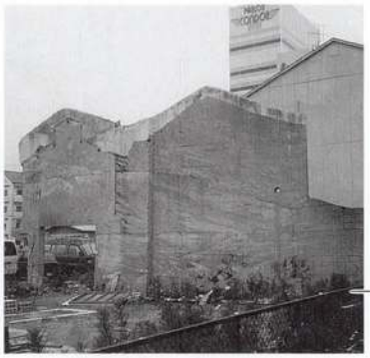
震災メモリアル MAP

復興へのメッセージを込めた煉瓦タイル（神戸市中央区元町１）
「美しい街神戸を再び」「愛・夢・希望」「忘れてはいけない　あの日のことを……」等々。募金者の手書きメッセージが焼き込まれた煉瓦タイルが，元町１番街の床に敷き詰められた。



阪神・淡路大震災復興支援館　フェニックスプラザ（神戸市中央区三宮町１）
阪神・淡路大震災の映像記録，崩壊した高速道路の模型，タイムカプセルなど，震災の恐ろしさを後世に伝える展示があるが，あと何年存続するのであろうか。





神戸の壁（神戸市長田区若松町３）
神戸の壁保存実行委員会が，神戸大空襲と震災の生き証人の保存運動を続ける。壁には「神戸の壁の詩」の額がかかる。「神戸の壁さん　あなたは１月17日の生き証人です……」（詩：田村昌次）



大黒公園に残る焼け焦げたクスノキ（神戸市長田区本庄町２）
鷹取商店街の猛火をくい止めたクスノキは緑を回復したが，幹には今も焦げ跡が残る。



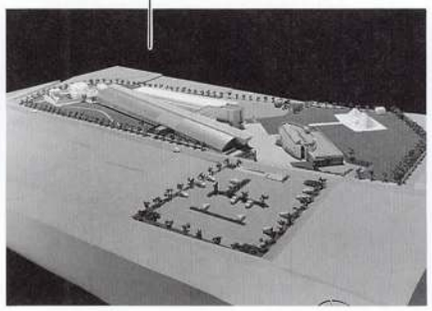
被災した明石市立天文科学館の「大時計」（神戸市西区西細谷）
震災復興の願いをこめ，神戸学院大学の大時計として再び時を刻む。同大学が明石市より譲り受けて11号館前に移設し，97年３月５日に除幕式が行われた。



バイクで活躍する若いボランティア（西宮市・1995年1月20日）



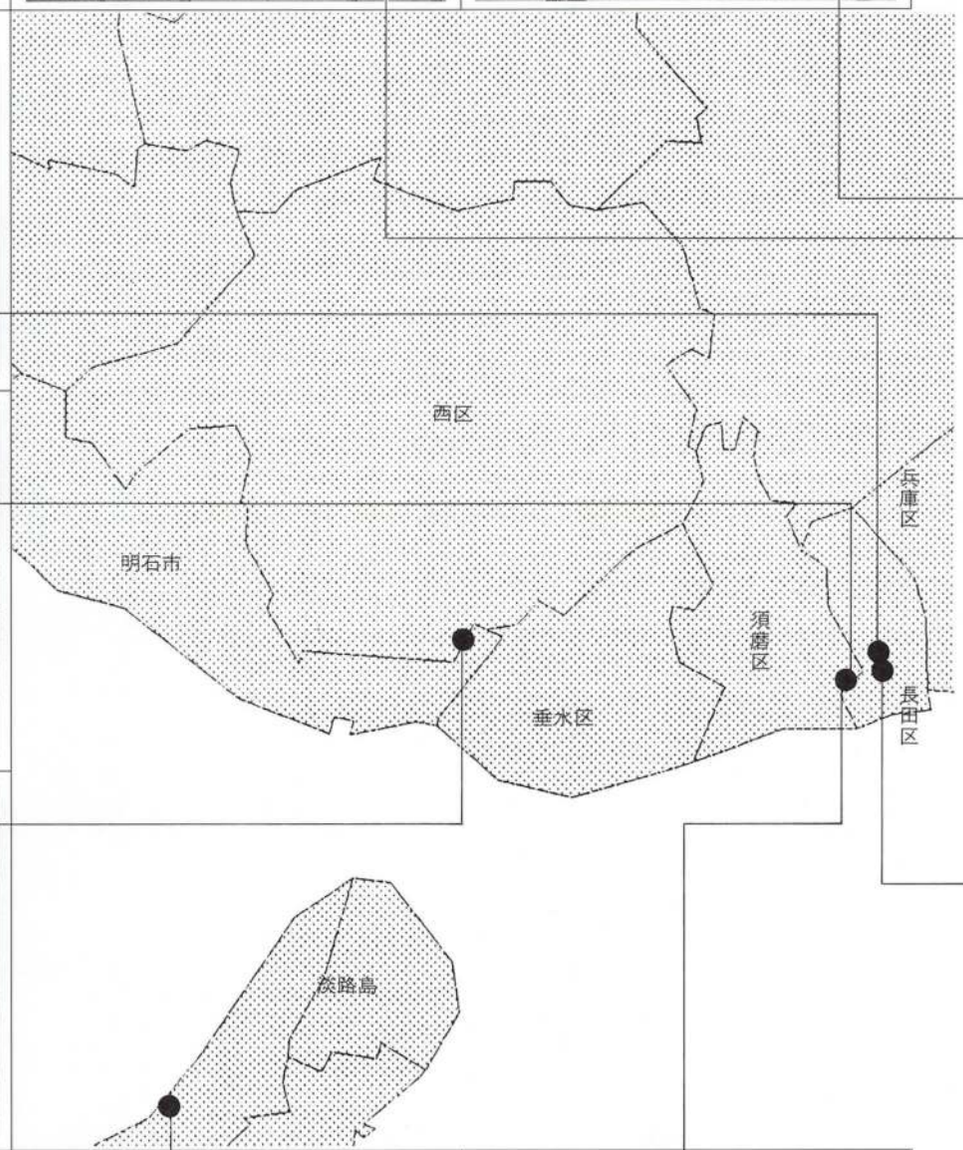
自衛隊が設営した仮設風呂（神戸市長田区御蔵小学校・1995年2月1日）



野島断層保存館（兵庫県津名郡北淡町小倉）
淡路島の北淡町に現れた野島断層を永久保存するために計画された。防災教育にかかわる施設として，また北淡町復興の核としての期待が高まる。
写真提供：昭和設計



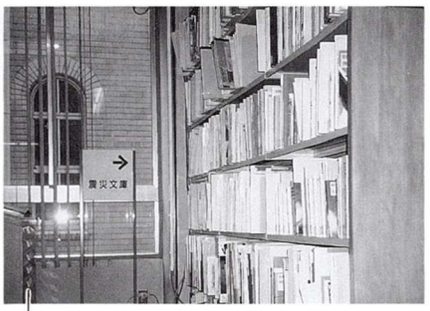
鷹取カトリック教会のキリスト像（神戸市長田区海運町３）
猛火がこの像の手前で止まったという。坂茂氏が設計した「紙の教会」の脇で，被災地の復興をじっと見守る。



稗田（ひえだ）小学校区内の被災状況模型（神戸市灘区岸地通４）
1996年３月卒業の６年生が卒業記念に作成。３年先輩が作った校区の街並み立体模型に，住宅の被災状況を色で塗り分けた。写真を撮る間にも「ぼくたちの家，このへんやね」と指さす生徒の声が。

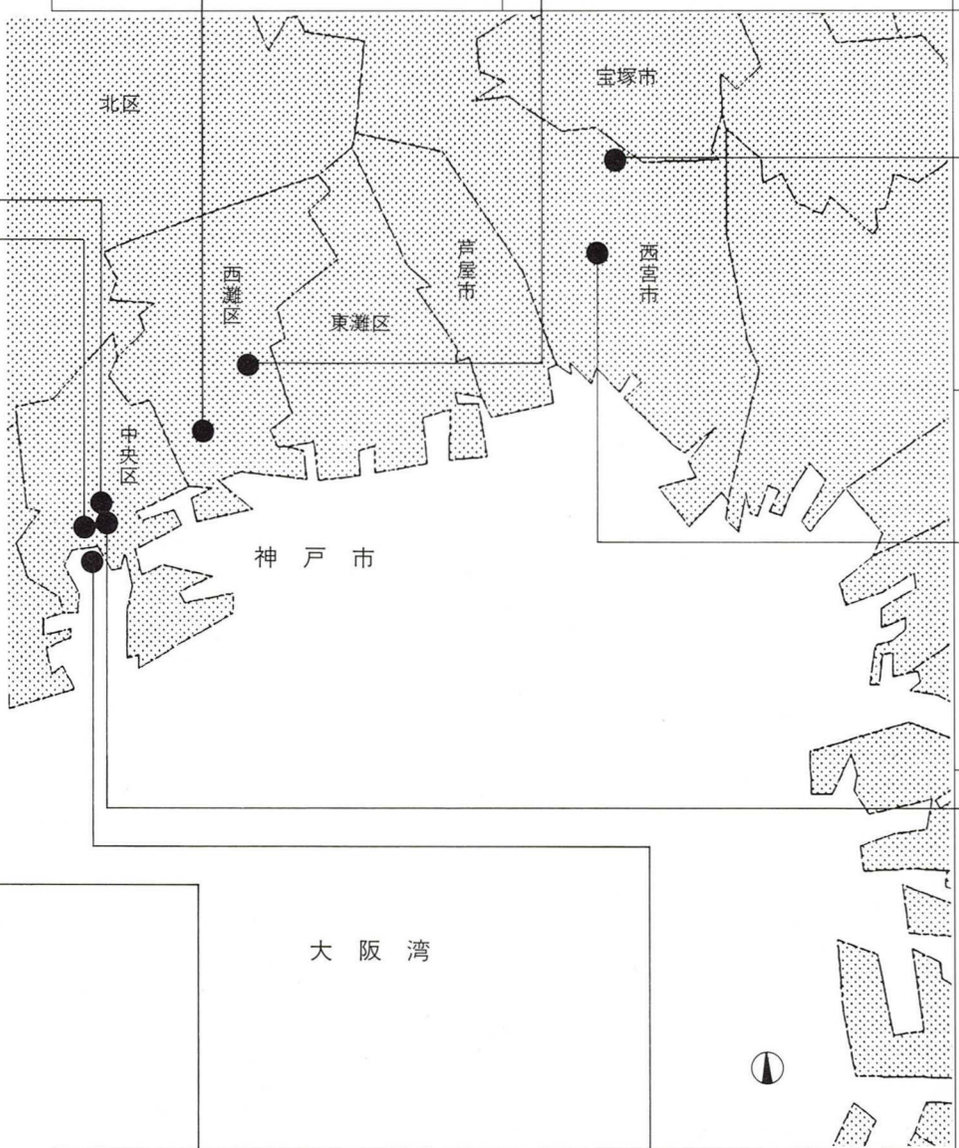


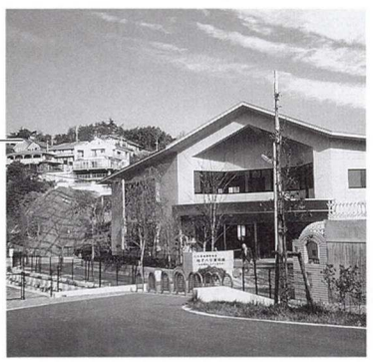
神戸大学の震災文庫（神戸市灘区六甲台町）
神戸大学附属図書館（人文社会科学系）の２階に設けられた震災文庫に



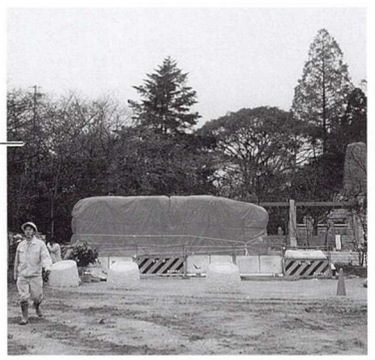
ここにあげた「震災メモリアル」は，自治体が恒久施設として整備したものから，やがて消え行く運命にあるものまで，有名無名さまざまである。被災地に無数にあった「震災メモリアル」候補の多くは急速に失われ，震災はどんどん風化しつつある。あなたにとっての「震災メモリアル」は何でしょうか。

（文・撮影　吉村英祐）





地すべり資料館（西宮市仁川百合野町10-1）
土砂災害の恐ろしさを伝えるために、地滑り被害が甚大であった地に1997年11月オープン。2階に地すべり自動観測システム監視室がある。



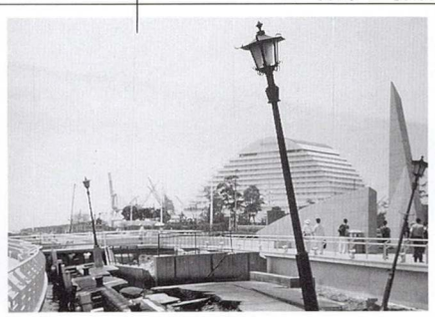
西宮震災記念碑公園（西宮市奥畑）
桜の名所・満池谷で、西宮市関係の犠牲者の魂を鎮める「震災の碑」を設置した公園の工事が進む。



神戸市役所本庁舎２号館（神戸市中央区加納町６）
崩壊した５階以上を撤去し、新たに５階に鉄骨造の事務室を増築。崩壊したまま保存されていれば、「平成の原爆ドーム」になったのは間違いない。



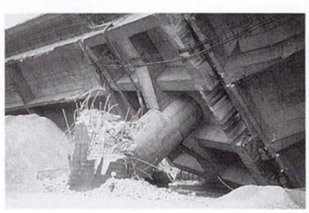
傷跡が残る西神戸センター街（神戸市長田区久保町５，二葉町５）
熱で曲がったままのアーケードが，当時の猛火を物語る。柱の一部だけでも保存できないだろうか。



神戸港震災メモリアルパーク（神戸市中央区波止場町）
メリケン波止場と旅客船ターミナルの中央突堤の間を埋め立てて1987年に完成したメリケンパークも崩壊。壊れた岸壁が約60ｍにわたって補強のうえ残された。



６階が層崩壊した神戸市役所本庁舎２号館（神戸市中央区・1995年2月1日）



倒壊した阪神高速道路神戸線（神戸市東灘区・1995年1月20日）

野島断層保存「北淡町震災記念公園」

■野島断層について

野島断層は、阪神・淡路大震災の引金となった断層で、大都市で初めて生じた内陸直下型地震による断層（顕著な右横ずれ断層）である。

地震の猛威を如実に物語っており、「野島断層保存検討委員会」（平成７年11月設置）の調査結果により、学術的、社会的に最も保存の必要性が高い場所であると評価され、保存することになった。

■震災復興事業としての位置づけ

野島断層保存「北淡町震災記念公園」は、阪神･淡路大震災の「生きた教材」といえる「断層」を「天然記念物」として保存・展示するとともに、地震の疑似体験が可能で防災教育にも資する施設や来園者に利便施設等を加え「公園島あわじ」の交流拠点として、また、地域の活性化にも資する施設として、兵庫県と北淡町が共同して整備するものである。

■施設の整備計画

(1)施設位置、面積

津名郡北淡町小倉地区（約3.6ha）

(2)第１期整備施設（平成10年春オープン）

①断層保存館（鉄骨造、鉄筋コンクリート造 平屋建 約3,000㎡）

設計コンセプトとして、断層の「軸線」「ズレ」「亀裂」といったモチーフを形態だけでなく建物配置にも取り入れ、常に来館者が断層をイメージできるデザイン。

「野島断層」を約140ｍにわたり保存展示し、特にトレンチ部（深掘部分）にて断層を断面的鉛直的に保存展示。

②レストラン・物産館（鉄筋コンクリート造 平屋建 約900㎡）

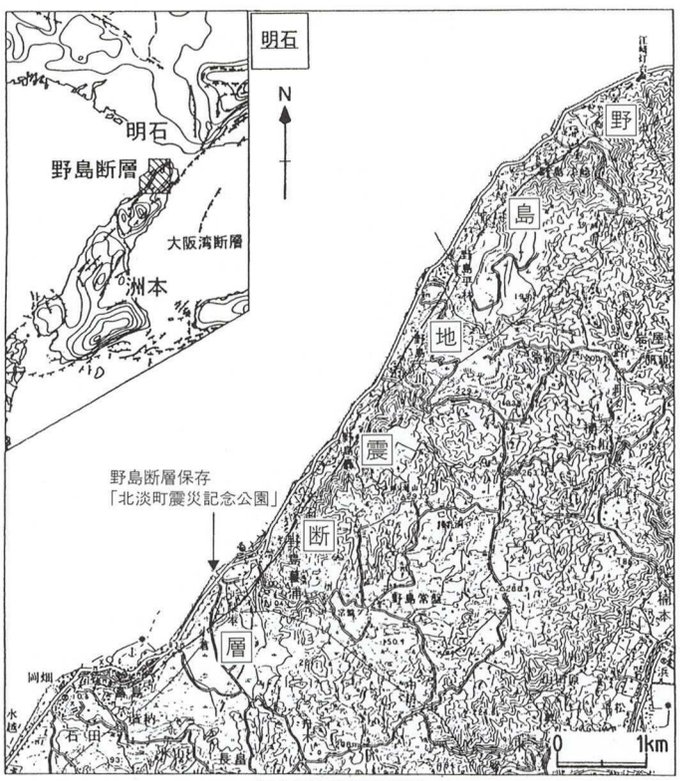
夕日がみえる方角に直線的に配置し、背後に海や夕日を望む配置計画。地元で獲れる魚介類を中心とした食材を提供するレストランや物産館。

(3)第II期整備施設（平成11年度春オープン）

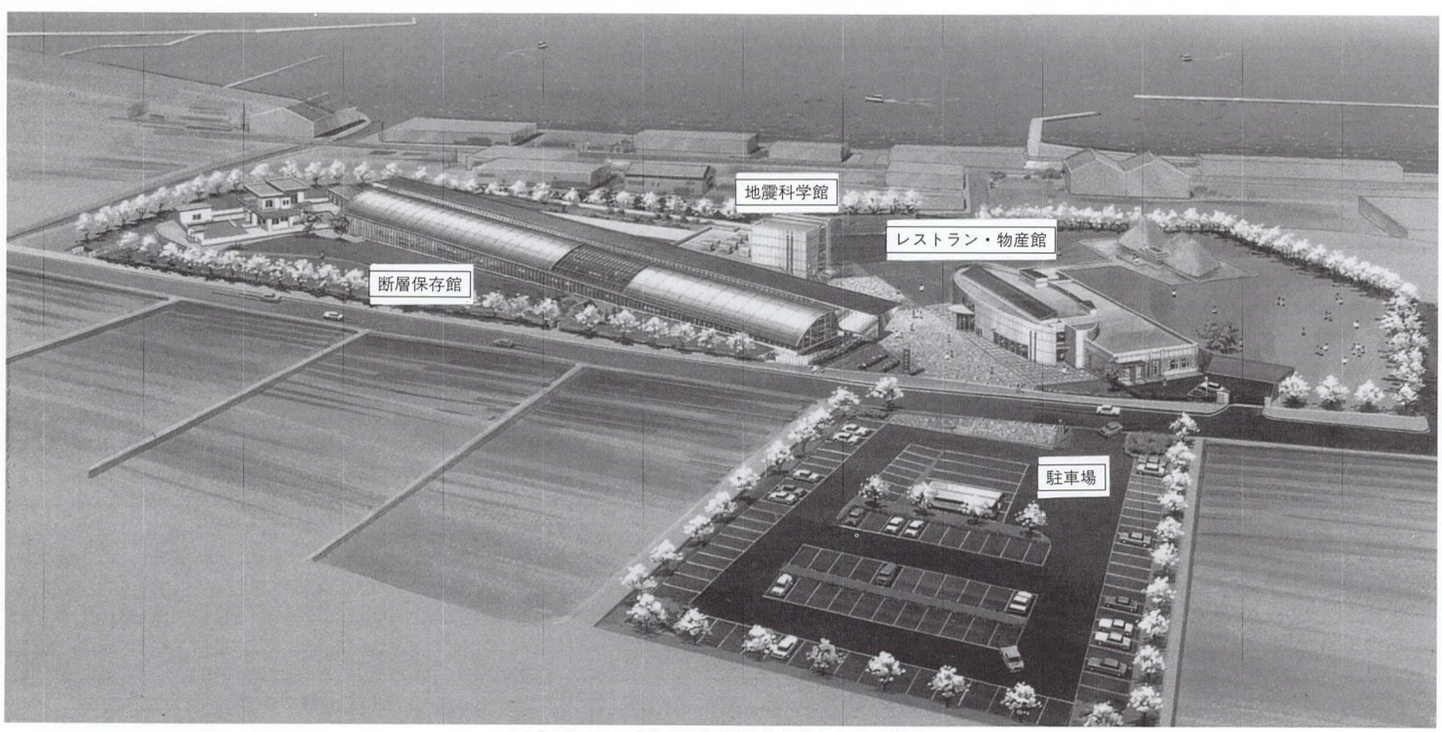
①地震科学館（鉄筋コンクリート造 平屋建 約1,800㎡）

地震を疑似体験でき、かつ地震断層等に関する情報・知識を五感を使って経験できる防災教育に資する施設。

（泉　純一／兵庫県企業庁淡路建設局）



野島地震断層の位置



野島断層保存「北淡町震災記念公園」完成予想図

京都の都市居住促進に向けた建築ルールの提案

竹原祐介
京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程

昨年３月の建築審議会答申では、規制緩和・地方分権といった経済社会情勢の変化を踏まえた建築行政の見直しの必要性が指摘された。それを受け、施行から半世紀近くがたった建築基準法も抜本的な改正に向けた検討が進められている。地方分権推進の流れとも相まって、答申の中では都市あるいは地区ごとのコントロール手法の充実という課題も議論に上がっていたが、それに対して地域のまちづくりの現場から問題提起を行っていくことは、非常に重要である。

京都では、行政・業界・学識経験者が意見交換を行い、昨年９月、都市居住推進研究会（会長：巽和夫京大名誉教授）の提言として「**京都の都市居住の促進に向けた建築・土地誘導システムの提案―建築基準法の改正に向けて―**」をまとめ、同時に関係団体の共催により京都の建築ルールに関する市民フォーラムが開催された。

ここでは京都の市街地特有の問題と、「提案」の概要を紹介する。

京都の建築の現状

「提案」では、まず京都の市街地建築の問題として４点を挙げた。

①袋路等の建築制限　宅地の奥行きの深い都心部では幅の狭い行き止まり通路（袋路）に面する住宅が多く、都心４区に約3000箇所ある袋路に面する住宅が総戸数の約15%をしめる。ここでは基準法43条但し書き等の緩和措置を講じても幅員が1.8mを下回るところでは建て替えが困難であり、老朽化・空家化・居住者の高齢化が進行している。

②木造建築の制限　戦災に遭わなかった京都には戦前の木造建築が残っており、文化的価値の高いものも多い。住宅についても、都心区では25%が戦前木造である。しかし、建築基準法では、防火・準防火地域での木造外壁の制限、大規模改修に伴う既存部分への防火規定の適用など、木造建築の補修や建て替えに厳しい規制がかけられている。町家の外壁はモルタルで改修され、木づくり都市としての特徴が失われている。

③歴史的市街地の町並みの混乱　都心部の町並み景観は、低層の町家と中高層のマンション・ビルが共存し、混乱したものとなっている。用途地域と連動した容積率指定により形態があまりにも一体的に扱われるために、全国一律の単純なイメージが適用され、京都の町並み景観との矛盾が生じている。

④住宅の質の低下　戸建住宅の敷地の狭小化が進み、ミニ開発や木造三階建も少なくない。これは最低基準を定める基準法だけでは対応が難しい。さらに、京都は違反建築が多く、検査済証の発行も少ない。ストックの安全性にも不安があり、建築誘導システムが十分に機能していない。

京都にふさわしい建築・土地誘導システム

【提案１】個性あるまちづくりのルールを住民合意でつくり、地区・街区単位でコントロールする。

①個性あるまちづくりのルールを住民合意でつくること。
②そのルールを敷地単位でなく、地区・街区単位で適用し、建築を誘導すること。
③建築のルールは、住民の提案を受け、地区・街区の土地利用の管理・運営の中で、柔軟に見直していくこと。

【提案２】木づくり都市の特徴を生かす都市防災システムを築く。

①地域の防災施設、防災能力、地区の建築の現状などの地区の状況に応じて防火地域・準防火地域を見直すこと。
②地域防災活動を評価し、その活動レベルと建築物の規模・用途による面防火規定の特例許可制度を創設すること（地区の防災評定による建築許可制度）。
③防火規定を性能基準とし、性能評定の簡素化を図ることによって、新技術の開発促進を図ること。
④京町家などの増改築・修繕において、既存部分へは防火規定を適用しないこと。

【提案３】安全で質の高い住宅に誘導する仕組みをつくる。

①建築基準の対象をフローのみならずストックまで拡げること。
②中間検査などの現場検査を充実し、住宅の安全基準の実行性を高めること。
③住宅ストックの性能が客観的に分かり、改善策が容易に理解できる住宅性能表示を実施し、市場との連携を図ること。
④住宅ストックの改善を指導・勧告する仕組みをつくること。
⑤そして、以上のシステムを公・民のパートナーシップで進めるため、民間専門家の活用や維持・保全・補修に関するアドバイザー機関の設置などを進めること。

上記の提案までに至る経過措置として、現行法の枠組みを前提とした改善案も検討している。例えば【提案１】の「まちづくりルール」は、現在の地区計画制度と建築基準法の集団規定を合わせたようなまちづくり基準で、住民参加・地区詳細計画・地区街区単位のコントロール等も定めた全く新しい誘導システムとして提案されているが、短期的には「敷地単位の規制と街区単位の規制の選択」が可能になるような地区計画制度の改善による対応を提案している。

地域特性に対応した建築ルール検討の意味

研究会での検討は、京都の市街地建築のリアルな現状に即して現行の基準法の問題点を明らかにしようというアプローチから入ったが、早い段階で、「○○条のこの部分が京都の現状に馴染んでいない」という現行の枠組み内での矛盾指摘にも限界があることが分かってきた。京都の具体的な事例に即した問題提起は、非常に説得力があり分かりやすいが、それと並行して建築基準法・都市計画法体系の根底にある原理の検討をすることも重要である。京都問題の中にも一般性のある部分が明らかになり、問題の構造が整理される。

例えば、ある場所で建ぺい率・容積率・斜線制限等の形態規制が適合しないとき、用意したメニューの内容を議論するのか、そもそも用途と形態が連動していることや敷地単位で規制されることを問題とするのかによって、提案の方向性は大きく異なるのである。

また、問題の構造を解きほぐしていく一方で、「市街地像」という獲得目標をもって、その実現のためにどのような手続きが必要かという、現行基準法の枠組みから一旦切り離したアプローチも必要である。「提案」では、従来とは異なる新たなシステム提案と、現在の法体系を前提とした短期的な改正提案が行われたが、これは上記の「問題の構造」と「あるべき姿」の関係を意識したものである。

地域に根ざした自治的な建築ルールの実現に向けて、他の多くの都市・地域からの積極的な発信を期待したい。

（たけはら　ゆうすけ）

[座談会]

Welcoming

女性研究者に聞く
ー住まいからまちづくりまでー

——自己紹介及び今の仕事内容について。

小浦　私は、今は大学におりますが、もともと建設コンサルタントの事務所で大阪市の開発の計画や事業化に向けての調査等をやっていました。仕事を通して、建築はまちの空間を構成する要素と考えていきたい。また、震災のあとは復興関係の調査をしていますが、その中で、計画とは何かを考えさせられることが多くて、悩みながらテーマを考えています。

佐藤　私は企業の中で、生活研究をテーマにやっておりまして、マーケティングとは一線を画しております。研究テーマとしましては、生活の中の楽しみということで遊び、つきあいとかなり幅広くやっております。建築そのものよりは、そこでどういう生活が行われているか人の側からすべて発想しております。例えば、法善寺横丁ということで今、盛り場がどうなっているか、あるいは、都市の中の文化施設がどういう役割を果していくのか、また、もてなし空間の意味について考える等、人間というテーマで都市をフィールドと考えた研究を行っています。

弘本　私も企業内の研究所におりますが、社会の側に立ってこれからの住まい・暮らし、企業や社会システムのあり方について研究しています。やはりエネルギーを母体とした会社ですので、環境問題に力を入れております。それから、大阪を中心とした関西圏の文化の再発見等、地域貢献をテーマにしております。その他、高齢社会へ向けての住環境に対する提言、食文化研究等も行っています。私自身は、もともと大学で現代美術を研究しておりましたこともあり、環境と人の様々な関わりを、表現や文化を介しながら、しっかり見つめ、考え続けていきたいと思っています。

——それでは、今日のテーマである「住まいからまちづくりまで」ということで、今一番気になっている問題についてお話下さい。

小浦　コンサルの事務所にいるときは、大阪の拠点開発関係の仕事が多く、住宅も高いものしかできず、自分の生活実感と合わなくて、人ごとのようでした。大学で仕事をするようになり、住む環境が実態のある対象として考えられるようになりました。そんな時に地震が起こったのです。多くの住まいが失われました。芦屋に住んでいて、ガレキのあったときより、ガレキがなくなっていくときに調子が悪くなった。これまでの生活につながっていたものが、消えていく、手掛かりがなくなっていくというか。住んでいるところは、すごく身近で見慣れているのに、消えてしまうと、なかなか正確に語れない。被災地では、安く・早く・安全が売り物のプレハブ住宅が大量に供給されました。住宅メーカー無くしては、この短期間にこれだけの住宅は再建できなかったというのも事実なのですが、被災地ではどこも同じような風景になってきています。地域のことを理解し、生活のイメージを具体的なカタチに再生するのを助けるのが建築をする人の役割だと思うのです。それでも次第に生活の表現が現れてきました。ガーデニングもそのひとつ。だんだん家と道やまち、隣との関係がでてきているようです。これまで長い時間をかけて、住み方のルールみたいなものができていた。また時間をかけて、新しい住まい方の表現が地域性になっていくと思います。再建をコントロールするまちの全体像を計画することだけではなく、個々の住宅再建をつないでいくまちづくりのプログラムを計画する、そのような計画の役割があるのではないでしょうか。住まいからまちを考えることってありますよね。

弘本　住宅建築に携わっている方は、もっとまちや社会と人をつなぐ者として力を持ってほしいと思いますねえ。

佐藤　住まい手側も、日本人の場合、まだまだ自分がどういう風に暮らしたいというイメージがそんなにはっきりしない。今、住まいは大事なんだけれども、ものを買うように買ってしまって消費している。暮らしというものをもう少し大事にしていくということを、どういう風に醸成していくかということを考えていかないと、素敵なまちができるわけがないという気がします。私は、今、世代論に興味を持っていまして、20代の人達に期待しているのですが、彼らは、もはや遊び場でもトレンドスポットには興味がないんですね。本当に自分にとって気持ちのいい場所に関心があるんです。例えば友達の部屋とか、非常に日常的なところで落ち着くことに意味を見い出している。今の若い人達は住まいも、まちも、自然な気持ちで選んでいけるように、やっとなってきたのかなぁという気がしています。

弘本　私は、彼らが気持ちよさの選択の中で、公共性をどう把えるのか心配です。楽ということが評価ポイントになっていると、環境に対する責任を誰がどこで負っていくのか、まちの将来像がちょっと見えないところがあると思います。

小浦　まちにしても住まいにしても、時間をかけてつくっていくものでしょう。公共性は、まちにどう関わっていくかということで、そのあたりがむつかしい。

佐藤　確かにその通りですね。でもステップとして、自分で生活を選べるというところは大切だと思う。

——震災の経験を通して感じられたことは。

弘本　被災するまでは、木造の貸家に住んでいまして、被災後、大阪で鉄筋コンクリートの公団住宅に住んでいるのですが、そこで感じたことは、自分のいた空間を失うと、空間と自分がいかに一体化して生きてきたかということを、あとでしみじみと思い知らされるということなんです。ドアのノブの感触、階段を上がる時の音まで、







小浦久子

大阪大学工学部建築工学科 助手

1981年、大阪大学人間科学部を卒業後、大阪商工会議所で大阪のまちのおもしろさを知る。1984年から民間建設コンサルタント会社で、主に大阪市の開発プロジェクトの計画策定・事業化調査に携わる。公共事業を地区レベルで総合的に進めてきた。1992年より大阪大学助手。専門は都市計画。現在、生活の場の景観からまちづくりを考えている。

佐藤友美子

サントリー不易流行研究所 課長

大学卒業後、サントリー㈱に入社。研究部門、生産部門のスタッフを経て、新研究所の設立に参加。不易流行研究所は平成元年に設立し、生活の中の「楽しみ」にスポットをあて21世紀の豊かな生活像を研究している。

共著「もてなし文化ルネッサンス」TBS ブリタニカ
「現代家庭の年中行事」　講談社
「時代の気分・世代の気分」日本放送出版協会

弘本由香里

大阪ガス㈱エネルギー・文化研究所 客員研究員

大学を卒業後、展覧会企画制作・広告メディア編集等を経た後、1989年から住宅建築専門誌「新住宅」（昭和21年創刊・前身の「住宅」は大正5年創刊）の編集に携わる。「新住宅」の休刊と同時に、1992年から、大阪ガス㈱エネルギー・文化研究所客員研究員となり、現在に至る。研究領域は、生活者の視点、歴史・文化の視点に立った、住環境・都市論など。共著に、「総集編　住まいと暮らしの提案50」「なにわ考　大阪の歴史と文化を探る」など。

住空間と人間が密着して生きていたことを、失って初めて痛感しました。また、駅から会社へ行く時間やまちとの関わりも同じです。仕事のある人や社会とのつながりの多い人は、それを手がかりに人生の物語を保ち、何とか再構築していきやすいのですが、すべてを失った人々が何をきっかけに失った世界を取り戻せるのか、それが今でも気掛かりですね。また、私自身、高度経済成長期に地方都市で育ったのですが、開発が進んでいく中で土地からミステリー、ファンタジーがなくなっていった、山や海がなくなっていく、未知なものがなくなっていく—という経験をしまして、非常に心を傷つけられた記憶があります。震災後の風景は、その時のきり開かれた原っぱの殺伐とした風景と似ている気がして、同じようなことを繰り返すのだけはやめたいなぁと思っています。

——それでは、これからの私たちの素敵な生活のイメージについて。

佐藤　私は、六甲アイランドに住んでいて、山が近くに見え、海が見えるんですね。だから、自然環境を遠景としてでも取り入れることによって、変化を楽しむ豊かな生活が可能かもしれないと思います。

小浦　去年、風景の調査を芦屋で行なったのですが、山や川など地域の大きな構造と生活の場に関する身近かな構造があって、芦屋では今、身近かな構造が新しいものに変化しつつあるところです。

弘本　建築に携わる人は、ハコをつくるというよりも大きな構造と身近かな構造を継ぐということが仕事ではないでしょうか。

佐藤　建築の中に自然をつくり込んでいかなければならないんじゃないですかねえ。部屋に広いベランダがあれば、だんだん寒くなったなぁとか季節感を感じることができますし。

小浦　何を気持ちいいと考えるかということがあります。高気密・高断熱による省エネルギーと言われるけれど、私は、できるだけ季節が感じられて風通しのいい方が好きですね。

——建築に期待することについて。

弘本　季節感の話ですけれど、北欧の高齢者住宅では、とてもバルコニー・ライフが豊かでバルコニーのつくり方も人の居場所として工夫されています。また、自分の生活を自分でつくるという意欲が強いですねえ。それに対して、日本の高齢者施設は生活空間として出来上がっていないんですね。季節感のある生活を演出しようと思っても、する場所がないんです。

佐藤　私は、建築が、つくった時が最高というのが問題だと思います。自分たちで関わっていけない。もっと手を加えながら大事に残していく方向になるべきだと思います。

小浦　今、町場のホーム・ドクターのような工務店がないんですね。手を加えるという意味では、外構についての考え方が大事です。今の商品化住宅は、住宅を敷地に置くだけになっている。隣や道とどのようにつながっていくか、建物と建物の関係をどうするか、生活の時間や地域との応答性のある空間づくりを考えていきたい。

——最後の建築家に期待することは。

弘本　NEXT21の居住実験を通して語られていることなんですが、これからは住み心地の時代ではなくて、住みごたえの時代である。住みながらつくっていく、そうしないといいまちなみにもつながっていかないのではないか。建築家は、そういうことを考える人であってほしい。住まい手を社会やまちにつないでいくビッグブラザーであってほしいです。

佐藤　家を建てるときに誰に相談していいかわからない。建築家の方からもう少し情報発進してもらえたらいいなぁと思います。

小浦　やはり内と外、プライベートとパブリックのつなぎ方をよく考えてほしいですね。敷地内にもパブリックな部分があるということ、地域に対する思いやりをもってほしい。

——本日はどうもありがとうございました。いろいろ具体的なお話も聞かせていただきましたが、誌面の都合でどうしても要約的になると思いますが、今後とも建築へのご意見をいただけたらと思います。

企画／会員企画小委員会
Director/A. TSUKAGUCHI
1997年9月29日　於本会会議室

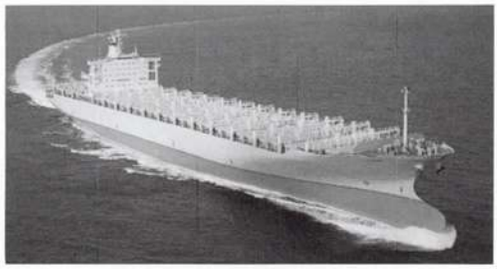
造船から

大氏　正嗣　デザイン・構造研究所
Ouji　Masashi

建築への意志は、素材への想い入れと技術の確かさによって裏打ちされている。そして素材との対話は私達の文明の在り方にかかわっており、その可能性を広げる事は世界を切り開くことを意味する。今回より始まるシリーズ「素材と技術が生み出すdesign」は素材・技術の源流へのRe-approachによって、新たなる創造性に向かうことを企図している。

第1回は「鉄」について考える。私たちが接する「鉄」は線もしくは平面が一般的である。人間の活動空間を仕切るスケールとして建築と近く、かつ曲面としての「鉄」を用いている分野として今回は「造船」を取り上げた。この異分野が「鉄」を取り扱う作法に、何が見えてくるであろうか。

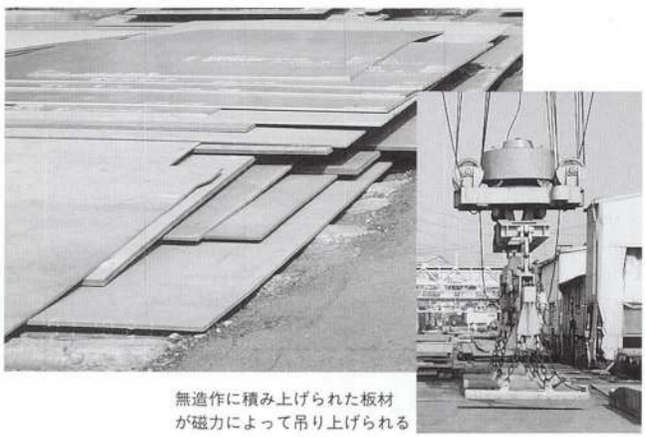
（「素材と技術が生み出すdesign」幹事会）



コンテナ輸送船
船を1個の建築物と見なしてもおかしな事ではない。そういう意味において、船から学べるものも多いかもしれない

磁性

船の製作も他の鉄を用いる産業と同様に製鉄所から運ばれてきた板材から始まる。船の外皮を構成する板材の厚みは、超大型貨物船であっても18㎜程度とその大きさから考えると意外に薄い。これら板材の表面には、造船期間中、必要最小限の防錆塗料が塗られている。鉛を主体としたこれらの塗料は、艶の全くない落ち着いた表情を見せている。いくら薄いとはいっても、やはり鉄、圧倒的な重量でその前に立つ私たちに無言の圧力を示しているような気がする。まるで絶対的な権力を誇っているように。しかし、これらの絶対的な板材は大型磁石によっていとも簡単に持ち上げられ、所定の場所まで運搬されていく。鉄には、磁性があるのだという当たり前のことに妙に納得させられる。



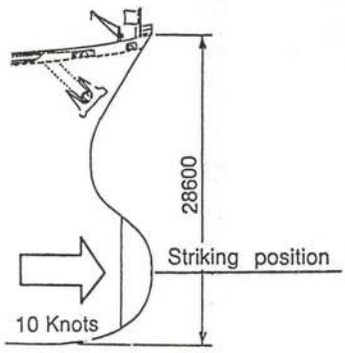
無造作に積み上げられた板材が磁力によって吊り上げられる



スチールパネルとクリップ

造形性

船の外皮を構成する曲面を形づくる作業は簡単なものではない。しかし、それをこともなげに進めていくことができる技能がここにはある。厚く、大きな板材がプレス機械により2次元的に曲げられる。機械自体は荒々しく強引にも思える圧力を持っているが、それを繊細に使いこなしながら徐々に板材を曲げていく。さらに、2次元的に曲げられた板材は熱入れという作業により3次元的な曲面を構成する。この段階では一切の機械的な力は用いられない。熱による金属の膨脹を利用して曲げていく。熱入れの跡は板の上に線状に残り、まるで面材の上に構成される幾何学模様の様を呈している。同じ場所に少しずつ熱を加えて所定の形状を作り上げていく作業はまるで魔法のような職人技だ。同じ船の部品にしても、機械により自動的に切断された平面材と平然と共存していることにも興味を引かれる。3次元的に曲げられた板材は、木製の定規でその曲率が確認される。熱入れと確認、この幾度ものフィードバックを繰り返した後、船を構成するパーツとして組み立てられていくことになる。



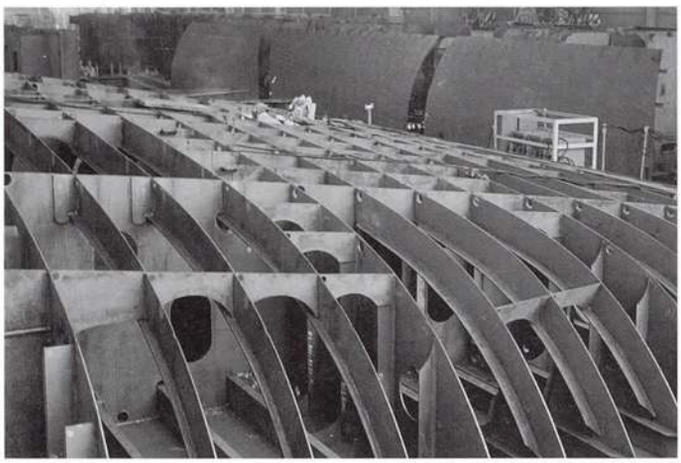


刀鍛冶



鉄で曲面を構成することは造形的な過程を想起させる

これらの生産過程は、工業的というにはあまりにも人間的である。しかし、人間の能力をフルに用いている点ですばらしい。便利になりすぎた社会は、人間の能力を衰退させていくのだから。

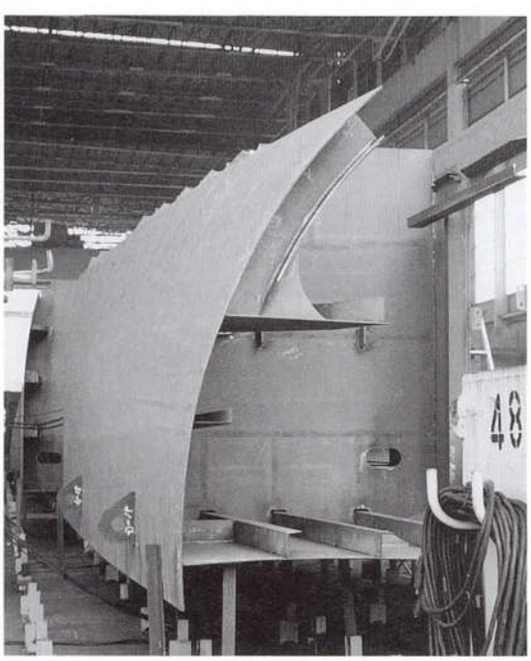


美しいフォルムの船も外皮がなければ
こうした骨格により構成されている。

骨格と皮膜

工業的な製法によって切り取られた平面材と、芸術的な技能によって形づくられた曲面材はここで組み合わされていく。平面材は規則正しい骨組みを構成し、それを大きく覆うように曲面材が溶接により接合される。平面材の構成は、武骨ではあるが力学的合理性に貫かれた規則性を保っており、それが荒々しくも凛とした構成美をかいま見せているようだ。そして、船の薄い外皮は内部の骨組みにより論理的且つ合理的に補強され、最も過酷な環境である海洋に耐える性能を有するに至る。

なお、ここで組み立てられるのはあくまで船のブロックである。数多くのブロックが最終的に一体とされて完成形を形づくる。そういう意味において、建築よりも工程が明快であり工業的である。一方で、一品受注生産という点において、造船は建築と類似しているともいえる。



これらのブロックも一つ一つ形が異なる

「空間と鉄」

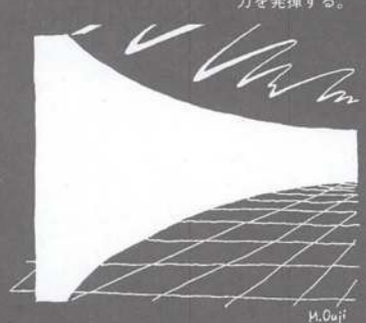
建築骨組みにおける鉄は線であるが、これには理由がある。建物という容器の中では、外部と内部空間との連続性が重要となること、および活動の変化に素早く対応できるフレキシビリティーが求められることからだろう。しかし、船において圧倒的な環境から内部空間を守るために強固な外皮が要求される。それ故、鉄が面として用いられることとなり、その点で建築とは異なる。つまり、船が鉄を用いる理由は圧倒的な外力を遮断することであり、鉄が空間を切り取る「絶対的」な能力を最大限に利用するための理論がその各所に活かされていると感じられる。

それでは、鉄のそのような性質が建築において利用され得るのか。まず、私たちが持っている鉄の性質に対する一般的なイメージを考えてみる。例えば、硬い、延びる、電気を通す、磁石にくっつく、錆びる…など。また、建築材料としては鉄が面として用いられているものも数多くある。例えば、スチールドア、シャッター、パネル、折板等。しかし、それら製品の材料は鉄であることが有利であるが、鉄であることが絶対的な必要条件ではない。あくまで、鉄の持つ難燃性という性質を有効に利用するためのものである。それ故、これら製品は合理的に薄く作られる。絶対的に空間を仕切る必要がないからである。

日本では、ヨーロッパと異なり生活にかかる空間は元来開放的であったが、同時に土蔵土塀のように全ての関係を断ち切る空間も持っていた。そして、厚い土壁という当時としては空間を仕切る絶対的な能力を有した素材が用いられている。現代においても鉄は高価でありかつ重い。それ故に、造船においても建築においても合理性を追求せざるを得ない。そのため、鉄の特性である延性と強靱さを利用した合理的な製品は数多く作られている。しかし、あえてこの合理性に逆らった厚い鉄を用いたらどうなるのであろうか。

絶対的な能力で空間を切り裂いてしまう厚い鉄を建築に用いれば、鉄という素材が生み出す「重量感」、「無機質さ」、「無慈悲さ」、そして表面が徐々にさびていくが故の「はかなさ」が暴力的な、あるいは荘厳な空間を生み出すことになるかもしれない。自分自身の存在を消し去ろうとしている現在の建築から見れば、コンクリート以上に圧倒的で無機質な空間は許されざるものかもしれないが、一方で情報の波に埋もれ何等かのよりどころを欲している現代人にとって、圧倒的ではあっても安心できる空間は、なにものにも代え難いもののように思えてならない。

圧倒的な壁は屋外空間さえも閉じ込めてしまうほどの力を発揮する。



協力　川崎重工業㈱船舶事業本部神戸造船工場

ドイツ式木造軸組真壁構造の移築

水原　渉
滋賀県立大学環境科学部教授・工学博士

今春、滋賀県大津市の琵琶湖畔に“純正”のドイツ木造建築物が全貌を現す。それはヴュルツブルクハウスと命名された建物で、ドイツはフランケン地方、ロマンチック街道の北端の都市名を用いている。ドイツで一般にファッハヴェルクハウス（Fachwerkhaus）と呼ばれる木造軸組真壁構造の建物である。Fachとは「仕切った部分」や「専門分野」などの意味を持つ。つまり柱、梁などで区切った面をもって工法の名称としているのである。

日本と事情が異なるドイツのものなので、構造的、法的な問題もあり、その解決と日本適合設計がわれわれフランケンハウス研究会に委託された。ここで、ドイツの木造建築物について概観し、この大津の木造建築物の、“移築”の際の問題点に簡単に触れてみたい。

歴史的に見たドイツの木造建築技術

ドイツも歴史的に見ると、独自の「木の文化」を持っていた。現代では、中小規模の建物の場合には組積造が多いが、屋根は勾配屋根が多くて、組積造でも小屋組は木造が一般である。内装仕上げでも木が相対的に多く用いられている。特に最近ではエコロジー住宅として、多くはないものの、木造建築が各地で見られるようになった。一般の住宅は石灰砂を蒸圧したもの（Kalksandstein）やレンガ、コンクリートブロックなどを用いている。規模が大きいものでは、当然、鉄筋コンクリート造のものも多くなる。

そもそもゲルマン人は組積造は知らなかった。これはローマ人によって伝えられたものである。しかし、例えば南北は中ほど、西端の都市で古代ローマ都市でもあったトリーアにある、床暖房も有する古代ローマの大ホール建築バジリカ（310年建築）は、ローマ人が撤退した後しばらく、壁に寄りかけて小さな木造建物を建てる形でしか利用されていなかった。そして、このバジリカそのものは放置され、荒れ放題という状態だったとのことである。石造建築の技術を知らなかったからというわけだ。

歴史的に見ると、ヨーロッパにはいわゆるログハウス的な材木を積み上げて壁をつくる木造建物もあり、北欧、東欧、あるいはスイスなどで見られるが、これは主に自然植生として針葉樹が多い地域に発達し、軸組真壁構造の方は中央ヨーロッパなど広葉樹の多い地域に発達したと言われている。確かにドイツに残されている真壁構造建物の木材を見ると、カシなどの堅そうな材木が使用されているようだ。



写真1　フランケン様式に典型的な〝男〟（エシュヴェーゲ市）
——台輪、胴差にも彫刻が施されている



写真2　ザクセン様式のファッハヴェルクハウス（オスナブリュック市）
——ドイツ北部に見られる。斜めの筋違は見られず、柱の垂直線と横方向の帯状の窓腰壁が印象的である。腰壁には彫刻が施されているが、これは石造に近づけようとしたためだと説明されている



写真3　アレマン様式のファッハヴェルクハウス（エスリンゲン市）
——ドイツ南部に見られる。柱と筋違で構成される力強い〝シュヴァーベン地方の女〟（Schaebischec Weibie）が特徴的である

ゲルマン人の木造建築も、元は掘立て柱の構造だったのが、礎石や土台が設けらていき、規模も大きくなり、中世の終わりの16世紀頃には構造的な発展も頂点に達する。壁面に現れるのは土台や柱、胴差だけではなく、斜めの筋違も堂々と露出させている（筋違：Strebe；完全には対角線状に設けられていないが、壁に現れている大小の斜材をここではこう呼称しておく）。筋違は、構造的な意味のみならず装飾として重要となり、階高の筋違は柱との組み合わせの形で“男”（Mann）（**写真1**）と呼ばれ、特徴のあるデザイン要素となり、窓腰壁の小さな交差筋違は「アンドレアス十字」「五つ十字」などと名づけられ、さらには腰壁全体に彫刻が施されるなど、意匠をこらしたものが多くなる。

このようなファッハヴェルクハウスは、ドイツの至る所に、地域の特徴を持ちながら、町並みとして残されており、慣れない目にも非常に美しく感じられる。しかし、日本からの観光旅行では、多くは大都市圏からはずれた所にあるため、あまり訪れることはないように思う。一般的に言って、都市化の影響から取り残された、いわゆる地方の都市にこそ多く残っているからである。

一口にドイツのファッハヴェルクハウスと言っても、北からザクセン様式（**写真2**）、フランケン様式、アレマン様式（**写真3**）と3つの様式が発展してきた。簡単には、ザクセン様式は壁面には斜材はほとんど現れず、垂直と水平の部材が強調され、かなりイギリスのものに近いと言える。アレマン様式は筋違いが極度に発展し、その中間的なのがフランケン様式とでも言えるだろうか。地域的にはこれが一番広がっており、アレマン様式のものがもっとも少ないようだ。ヴュルツブルクハウスはフランケン様式に位置づけられる。

大津に建つヴュルツブルクハウス

現在まだ工事中であるが、そのドイツのフランケン様式の農家風木造真壁の建物が大津市の琵琶湖岸の「なぎさ公園」の正面玄関に当たる位置にすでに外観を見せている（**写真4**）。これは大津市と姉妹提携にあるバイエルン州のヴュルツブルク市が、同市の市制100周年を記念して寄贈するというものである。もっとも、大津市が過

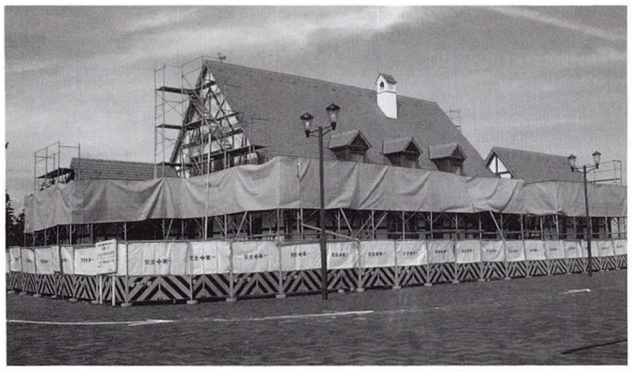


写真4　大津市に建つファッハヴェルクハウス――ヴュルツブルクハウス
（1997．11．16現在）

去にヴュルツブルク市で行われた州の庭園博覧会に際して日本庭園を寄贈したりしているお返しという意味もあるようだ。

冒頭で“純正”“移築”と書いたが、それはドイツで設計、加工、組み立てを行い、日本に移送し、それをドイツ職人の主導で組み立てたという本格的なものだからである。しかも基礎立ち上がり部の石張りもヴュルツブルク近郊の“貝殻石灰岩”を使用、瓦は古い建物でよく使われている“ビーバーの尻尾”、屋根部の出窓の壁は天然スレート、室内仕上げ材の壁鏡板から床のレンガ、家具に至るまでドイツから移送されたものを使用するからである。

この建物は農家風で、都市部のドイツ町屋のように大型で人を圧倒させるようなものではない。もっとも町屋の場合には町並みが必要で、この場所で孤立して建てられるものは農家風がふさわしい。これは内部が利用できる本格的ファッハヴェルク建物としては日本でも唯一のものと言えるのではないかと思っている。ほかにもファッハヴェルクの例はあるが――フランスのストラスブールというドイツの影響が非常に強い都市のもので、これもフランケン様式である――、展示物という見る対象として移築したものだときいている。大津市のものは実際に使用されるので、確認申請の対象となった。

ヴュルツブルクハウスの概要と構造上の問題

琵琶湖畔の公園の中に建つこの建物は、規模約360㎡で、大きな小屋裏部屋のある主棟と平屋の2つの付属棟からなり、用途は1階部のレストランと、小屋裏部屋の展示室である。建物は連続させ一体的に造られているが、それぞれ構造的には完全に独立している（部分的に壁が二重になっている）。

構造は木造真壁で、使用木材はドイツ唐檜（Fichte）を中心に使用され、梁や隅柱など構造的に重要な部分は集成材が用いられている。ドイツ側の担当者の話では、本来は広葉樹を用いるべきであるが適当な部材が少なくなってきており、やむを得ず針葉樹にしたとのことである。部材寸法も少し細目のものを使用せざるを得なかったが、それでも土台は18cm×22cm、柱は18cm×18cmなどであり、2階床梁は16cm×24cmのものを70cm弱の間隔で並べるという、かなり大断面の部材を多量に使用している。

これらを一度ドイツの大きな組立工場で組み立て、バラしてから日本で再度組み立てるという方式をとったが、これは日本での組立時間をかせぐためでもあった（向こうの職業学校の実習で加工組立を行ったようである）。

ドイツでは周知の通り大きな地震は発生しない。ドイツの規格であるDINで地震地帯と建築の力学的配慮を扱ったものがあるが、これでは地震地帯4が最大で、西部のアーヘン地域と南部のごく一部がそれに当たる。その地域では組積造の建物に亀裂が入る屋根の鼻隠しなどが落ちるぐらいの地震の可能性があげられている（DIN4149）。したがって、ドイツ側の提供になるこの建物を日本に建築する場合の最大の問題は、日本の耐震基準を満たせるかどうかということであった。ドイツ側でも地震のことは検討し、向こうでの最大の条件で構造計算で耐震壁の証明をしていたが、われわれの側で詳細に検討すると到底及ばないことが明らかになった。

そのほか、法的には、階段の手すり高さがドイツでは日本より低い点、内装制限の問題などがあった。法的問題以外にも、空調機取り付けのために当初のデザイン通りにならなかったなどの点もあったが、これらは、むしろ小さな問題だったと言える。

ドイツの真壁構造も本来は日本の小舞壁に似た構造で、貫に該当する棒状の部材に柳などの柔らかい枝を縫うように絡み合わせ、それを下地に、土を塗る方法でつくる。しかし、今回は時間の問題もあるため木毛セメント板やパーティクルボードなどのパネルが仕上げ下地として用いられる設計であった。

筋違は入っていたものの、対角線状に取り付けられていないので計算には考慮できなかった。壁仕上げの下地のパネルが、幸いにもパーティクルボードで、壁量計算に使用できたので、これに水平力を負担させることにした。ただし、増加が必要であった。このため階段室などの一部の設計変更を行い、本来真壁とすべき所を大壁とせざるを得なかった。これには接合様の釘、木ネジなどの品質データーもドイツから送付してもらい検証し、釘接合間隔も小さなピッチに変更するなどの対応が必要であった。

また、小屋裏部屋床面が桁行き方向で外壁と完全にはつながっておらず、断熱材を分断しないように、面的に延長させ接合させたり、アンカーも日本とは異なるものを用いる計画であったが、日本的視点では問題があり、日本式のアンカーボルトを併用した。また地震時に特に筋違がある所では柱を浮き上がらせる力が発生する恐れがあり、その箇所についてはホールダウン金物を使用するようにした。

これらの構造的問題について対応を明確にし、建築確認の条件であった日本建築総合試験所での審査を受け、ようやく日本で建築できる運びとなった。ドイツ側もフランケン風というイメージには非常に固執しており、われわれとしても構造上の問題がそれを壊すことにならないように慎重に構えたが、多少、オリジナルなものと異なる結果になった。しかし、ドイツ側も日本の地震の問題については理解してくれていたようで、結果的に見れば、ほぼ順調に進んだのではないかと考えている。

おわりに

この工事には、ドイツから大工、屋根葺き、板金のマイスターなどがわざわざ来日して、日本の職人たちと協力してここまで進めてきた。今後は、内装のドイツ職人が来日し、工事を行って完成となる。

棟上げ式のときには、まず日本式で行い、そのあとドイツ式のものが行われた。日本式は非常に形式的であるが、ドイツ式のものは大工さんが取り仕切り、屋根の上では大工マイスターがワインの入ったグラスを手に持ち、地上とでかけ声を交わすなど、非常にダイナミックであった。

建物は堂々とした外観を見せ、すでに棟の上には焼き物の雄鳥が取り付けられており、誇り高げに異境の地を見下ろしている。

（みずはら　わたる）

インバータポンプの省エネルギー効果

三宅良男
㈱荏原製作所藤沢工場汎用機器技術室主任

汎用ポンプにおけるインバータの使用は、給水装置など一部の用途に限定されている。この要因は「負荷変動を伴わない用途では、インバータを使用しても意味がない」という固定観念にあると思われる。本「省エネルギー」の主旨は、ポンプを「真」の要項で運転させ、無駄な運転を排除することにあり、負荷変動の有無とは無関係に広く一般に通じるものである。

「真」の要項

汎用ポンプは要項基準ではない。すなわち、要項（流量・揚程）に合わせてポンプを製作するのではなく、在庫品の中から要項を上まわるポンプを選定して使用する。加えて、一般に計画要項は流量に余裕を見て最大流量にて算出され、かつ、配管損失にも余裕と経年変化が見込まれる。したがって、実際の運転は過大流量を抑えるためのバルブ調整を伴い、無駄の多いものとなる。

つまり、計算式通りにポンプを選定しても、大なり小なり無駄が生じることになる。しかも、この無駄が意外に大きく、循環用ポンプでは50%に達する事例も報告されている。

省エネの決め手は、「真」の要項（現地で運転してみることで初めてわかる必要最小限の流量・揚程）にポンプの運転点を一致させ、無駄のない「効率的運転」を行うことである（**図1**）。

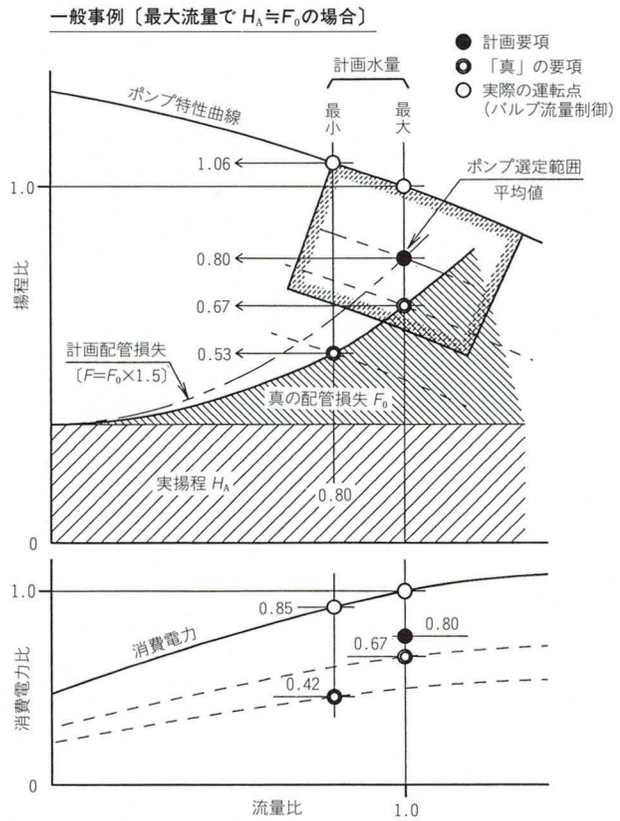


図1　効率的運転による汎用ポンプの省エネ効果

インバータによる性能調整

「現地で運転してみたら、ポンプの容量に余裕がありすぎた」。この場合、下記の方法でも省エネを図ることは可能である。

①ポンプを1クラス容量の小さなものと交換する。

②羽根車の外径を加工し、ポンプの性能を適正値まで下げる。

しかし、これらの方法は別途の費用がかかるとともに、いざというとき性能をUPする（元に戻す）ことが困難である。これに対して、インバータはポンプ性能を簡便に、かつ可逆的に調整できるため、その都度思い切った省エネ運転を実現できる。

インバータポンプ

ポンプの需要家は、すでにインバータに手慣れた専門家と、大多数の一般ユーザに大別できる。前者に対しては特に言うべきことはないが、後者にとってみると、インバータを別途に用意することはなかなか手間のかかるものである。したがって、ポンプにインバータを実装したインバータポンプが有効な省エネ手段として意味を持ってくる。インバータポンプは、従来のポンプと同じ感覚で使用できるため、一般ユーザの誰もが容易に省エネに参画できる。

製品事例

インバータポンプによる省エネを普及させるべく、荏原製作所でも、いち早くその開発を行ってきた。このポンプは、実装インバータに8段階の回転数調整機能（手動式）を設けており、簡便に省エネを図ることができる。同時に、インバータによってポンプを高速回転（最高毎分12000回転）させることで小型・軽量化（従来品の1/5～1/3の大きさ・重さ）を達成しており、省資源・省スペースの観点からも優れた製品である（**写真1**）。キャンドモータ、ステンレス材料、シリコンカーバイド製軸受などの採用により、維持管理費の軽減も図っており、一般給水・冷温水循環をはじめ、幅広い用途に使用できる（口径25～80㎜、揚程25～200mクラス、出力12.5kW以下をシリーズ化）。

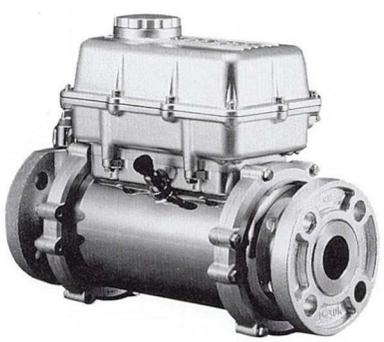


写真1　インバータ実装型ポンプの事例
（バレルドモータポンプ　ヘルツフリー　MMLF型）

今後の展望

インバータは、流体機械の省エネルギー対策の上で最も有効な手段の一つである。特に圧倒的数量を占め、かつ非要項基準の汎用ポンプにおいては、「インバータの活用」がメーカおよび需要家双方の社会的責務とも言える。地球温暖化対策としても、CO_2削減の観点からその意義は大きく、今後インバータポンプが広く市場に浸透していくものと期待している。　（みやけ　よしお）

設計図書の理解—2—

出崎 進
出崎建築設備設計事務所

今回は、機器仕様について示します。

機器表

機器表は、使用機器の概要を一覧表として記載するもので、空調設備では、熱源機器関係、空調機関係、換気機器関係、排煙機器関係が示されています。

熱源機器関係では、冷凍機、冷却塔、ボイラなどの、熱媒の搬送機であるポンプ、ファンなどがあり、その他関係機器として、オイルタンク類、膨張タンク、ボイラ給水のための水処理装置、ヘッダなどで表は構成されています。

空調設備関係では、空調機、ファンコイル、各種暖房機、空気清浄装置、全熱交換器、換気ファン、排気ファンなどがあります。

排煙機器関係では、排煙ファンが記載されます。

機器表は、一般的に下記の内容で構成されます。

(1) 機器関係

系統名、外形、据付、防振材、騒音値などを記入します。

(2) 燃料・環境関係

燃料の種類、燃焼用空気量、排ガス量と温度を表示し、各データーをもとに煙突・煙道、機械室の換気等のチェックが可能になります。

(3) 能力関係

空冷式マルチ形の場合は能力の種類の表示が必要で、マルチ形の場合は室内機容量の合計と室外機の容量のバランス表示が必要になります。

風量は給気量、還気量、外気量別に表示します。静圧は正静圧、負静圧、機内圧　全静圧別に表示します。この圧力別表示は積算、施工時のダクシール級を分かりやすくするためのもので、施工時に承認図を提出する場合、必要データーの項目利用に役立ちます。

(4) 電気関係

電動機の種類、起動方式、極数、関連機器等を表示し、機器操作盤の組込内容、制御盤との取り合いを示します。

(5) 架台・基礎関係

タンク類では、架台の有無と高さ、基礎の高さと工事区分を表示します。

(6) 設置台数

(7) 設置位置

階数と室名（例えば3階空調機械室）を示します。

機器表例を、右に示します。

（でさき　すすむ）

機器表例(1)

記号	台番	名称	機器性能	動力 容量	動力 電圧	台数	据付位置		備考
GHP	1	ガスヒートポンプエアコン	（室外機）13HP	0.82kW	3φ200V	1	RF	屋上	SGP-CH355GIN 都市ガス
			冷房能力 355kW　暖房能力 425kW						消費電力(冷)1.71kW (暖)1.88kW
			ガス消費量(13A) (冷房)301m³N/h (暖房)289m³N/h						
			Fax 0.31kW×2 防振架台共						
GHP	1A	〃	（室内機）22HP 天井カセット形（2方向吹出）	0.05kW	1φ200V	4	1F	真壁コーナー	SGP-SSH56G1 都市ガス
			冷房能力 56kW　暖房能力 67kW						消費電力(冷)0.141kW(電)0.185kW
			Fax 0.05kW　加湿器共						化粧枠 HEX-1E 別途要
GHP	1B	〃	（室内機）14HP 天井カセット形（2方向吹出）	0.02kW	1φ200V	4	1F	応接コーナー	SGP-SSH28G1 都市ガス
			冷房能力 28kW　暖房能力 34kW				(1)~(4)		消費電力(冷)0.082kW(電)0.105kW
			Fax 0.02kW　加湿器共						化粧枠 HEX-2E 別途要
GHP	2	ガスヒートポンプエアコン	（室外機）8HP	0.31kW	3φ200V	1	RF	屋上	SGP-CH224GIN 都市ガス
			冷房能力 224kW　暖房能力 280kW						消費電力(冷)1.08kW (電)1.14kW
			ガス消費量(13A) (冷房)225m³N/h (暖房)210m³N/h						
			Fax 0.31kW　防振架台共						
GHP	2A	〃	（室内機）28HP 天井カセット形（2方向吹出）	0.05kW	1φ200V	2	1F	エキスパート	SGP-SSH71G1 都市ガス
			冷房能力 71kW　暖房能力 85kW						消費電力(冷)0.141kW(電)0.110kW
			Fax 0.05kW　加湿器共						化粧枠 HEX-2E 別途要
GHP	2B	〃	（室内機）22HP 天井カセット形（2方向吹出）	0.05kW	1φ200V	1	1F	事務室	SGP-SSH56G1 都市ガス
			冷房能力 56kW　暖房能力 67kW						消費電力(冷)0.141kW(電)0.185kW
			Fax 0.05kW　加湿器共						化粧枠 HEX-2E 別途要
GHP	3	ガスヒートポンプエアコン	（室外機）18HP	0.62kW	3φ200V	1	RF	屋上	SGP-CH450GIN 都市ガス
			冷房能力 450kW　暖房能力 530kW						消費電力(冷)1.71kW (電)1.88kW
			ガス消費量(13A) (冷房)301m³N/h (暖房)358m³N/h						
			Fax 0.31kW×2 防振架台共						
GHP	3A	〃	（室内機）28HP 天井カセット形（2方向吹出）	0.05kW	1φ200V	4	2F	ラウンジ	SGP-SSH71G1 都市ガス
			冷房能力 71kW　暖房能力 85kW						消費電力(冷)0.141kW(電)0.110kW
			Fax 0.05kW　加湿器共						化粧枠 HEX-2E 別途要
GHP	3B	〃	（室内機）22HP 天井カセット形（2方向吹出）	0.05kW	1φ200V	2	2F	事務室コーナー	SGP-SSH56G1 都市ガス
			冷房能力 56kW　暖房能力 67kW						消費電力(冷)0.141kW(電)0.185kW
			Fax 0.05kW　加湿器共						化粧枠 HEX-2E 別途要
GHP	4	ガスヒートポンプエアコン	（室外機）8HP	0.31kW	3φ200V	1	RF	屋上	SGP-CH224GIN 都市ガス
			冷房能力 224kW　暖房能力 280kW						消費電力(冷)1.08kW (電)1.14kW
			ガス消費量(13A) (冷房)225m³N/h (暖房)210m³N/h						
			Fax 0.31kW　防振架台共						
GHP	4A	〃	（室内機）22HP 天井カセット形（2方向吹出）	0.05kW	1φ200V	2	2F	社長室(1).(2)	SGP-SSH56G1 都市ガス
			冷房能力 56kW　暖房能力 67kW						消費電力(冷)0.141kW(電)0.185kW
			Fax 0.05kW　加湿器共						化粧枠 HEX-2E 別途要
GHP	4B	〃	（室内機）18HP 天井カセット形（2方向吹出）	0.05kW	1φ200V	2	2F	役員コーナー	SGP-SSH45G1 都市ガス
			冷房能力 45kW　暖房能力 53kW				(1).(2)		消費電力(冷)0.141kW(電)0.185kW
			Fax 0.05kW　加湿器共						化粧枠 HEX-2E 別途要

機器表例(2)

記号	台番	名称	機器性能	動力 容量	動力 電圧	台数	据付位置		備考
HEX	1	全熱交換器	天井埋込形	410w	1φ100V	1	1F	南面コーナー	FY-E150DM1L 都市ガス
			250W×450CWH×15mAq						
			リモコンスイッチ、丸型SUS製フード、防振吊金物共						
HEX	2	〃	天井埋込形	480w	1φ100V	1	1F	応接コーナー	FY-E80DM1L 都市ガス
			250W×800CWH×15mAq					(1)~(4)	
			リモコンスイッチ、丸型SUS製フード、防振吊金物共						
HEX	3	〃	天井埋込形	410w	1φ100V	1	1F	エキスパート	FY-E150DM1L 都市ガス
			250W×550CWH×15mAq						
			リモコンスイッチ、丸型SUS製フード、防振吊金物共						
HEX	3	〃	天井埋込形	410w	1φ100V	2台	2F~RF	各階事務室	FY-E150DM1L 都市ガス
			250W×500CWH×15mAq						
			リモコンスイッチ、丸型SUS製フード(内1台はFD付)						
			防振吊金物共						
HEX	4	〃	天井埋込形	135w	1φ100V	1	RF	各階事務(1)	FY-250ZD3 都市ガス
			150W×150CWH×10mAq			1	RF	各階事務(2)	
			リモコンスイッチ、丸型SUS製フード、防振吊金物共						
EF	1	厨房ダクトファン	天吊形	1.37w	1φ100V	2	B1F	厨房機械	FY-350SH 都市ガス
			820×1100WH×12mAq						
			丸型SUS製フード、防振吊金物共						
EF	(2)	消音厨房ダクトファン	天吊形	1.37w	1φ100V	1	2F	ラウンジ	FY-350SH 都市ガス
			820×820CWH×12mAq			1	2F	厨房室	
			角型SUS製フード(内1台はFD付)、防振吊金物共			4	2F~RF	各階コーナー	
EF	3	天井埋込扇	低騒音形	44w	1φ100V	8	1F~RF	男子便所	FY-3255 都市ガス
			150×170CWH~300CWH×15mAq			1	1F	女子便所	
			丸型SUS製フード(FD付)、防振吊金物共			1	1F	身障者便所	
EF	4	〃	低騒音形	64w	1φ100V	4	2F~RF	女子便所	FY-3250S 都市ガス
			150×240CWH×15mAq			1	RF	女子便所	
			丸型SUS製フード(FD付)、防振吊金物共						
EF	5	〃	低騒音形	92w	1φ100V	2	2F.RF	女子便所	FY-3855 都市ガス
			150×440CWH×15mAq						
			丸型SUS製フード(FD付)、防振吊金物共						
EF	6	〃	低騒音形	265w	1φ100V	8	2F~RF	倉庫室	FY-2785 都市ガス
			150×210CWH×15mAq						
			丸型SUS製フード(FD付)、防振吊金物共						
EF	7	有圧換気扇	低騒音形	50w	1φ100V	1	RF	EV機械室	FY-30GSUD 都市ガス
			300×1180CWH						
			速度スイッチ(単相電源用)、FD付フェザーカバー(SUS製)共						

REPORT

光響の都・アデレード

土屋壽満
光の画家／スマ・ブライト・アート研究所主宰

感動という言葉がある。しかし73年を生きて、胸中に、涙にむせぶ感動をいくつ抱いているであろう……。本当に少ない。

このたびのアデレードへの旅は、多くの人々から、また大自然から、幾多のふるえる感動を得た。

光響の都・アデレード

南オーストラリア州、州都アデレードのチャールススタート市に招かれ、同市長ジョン・ダイア氏の計らいで「建築空間における光の芸術」と題した講演を行うために、10月16日、アデレードへ向かった。

眼下に広がるアデレードの夜景。それは、まさに宝石を散りばめた光の海であった。街全体を被いつくす何億とも言える点光源が、チカチカ、チカチカ、キラキラ、キラキラ、と、点滅し、まるで呼吸しているようだ。一瞬自分の目を疑った。街路灯の光は点滅しているのではない。それなのに、なぜ点滅しているのか？　たずねると、「なぜかわからないが、何時も点滅している」とのこと。ふと、うららかな春の野にゆらぐ「かげろう」の現象を思い出す。

まさに、人智を超えた不思議な光の乱舞。光の一大シンフォニー。心ふるえる感動の中で「光響の都・アデレード」と叫び続けていた。胸中で。

ウィリアム・ライトとアデレード

アデレード市の北側モンテフィオール・ヒルにあるライト展望台の、アデレード建設の父、ウイリアム・ライト大佐の銅像は、アデレード街の中心を、じっと指さしている。

南オーストラリア州は、オーストラリア大陸中央部半分を占め、面積は、日本の約3倍。

州都アデレード。イギリスをはじめ、ヨーロッパからユートピアを求めて移住してきた人々により建設されたモデルシティである。1837年に、アデレードの都市計画が発表された。アデレードに、南オーストラリアの首都を置くことには、他の候補地もあげられ、初代南オーストラリア総督をはじめ、数多くの反対があった。しかし、ライト大佐は「私の首都地選択の可否は、後の人々の判断に委ねる」という内容の講演で、反対派の声を封じた。

計画の中には、

・トレンス河の南側のアデレードと北部のノース・アデレードに、二つの中心街をつくること

・すべての道路を平行、または直角につくること

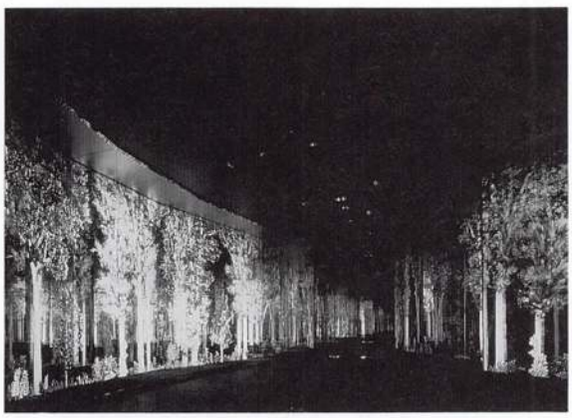
が盛り込まれた。また、「緑園都市」が街のテーマであった。

広場を中心にした「碁盤の目」の構造、そして、東西南北の名前をもつ四つのテラス・ロード。そのテラス・ロードの周りがすべて公園になっていて、市内どこからでも4～5分で公園に出られる。まさに「緑園都市」である。“何度でも訪れたい街”以上に、“住みたい街”、その想いを深くした。

街全体を被う光の海。これも、すばらしい都市計画の結果であろう。しかし、あの不思議な光の点滅は、ウィリアム・ライト大佐の胸中に描かれていたのであろうか？

まさに、大自然と人間の叡智が創り出した“光響の都――アデレード”。

（つちや　すま）



①



②

①**「森遊回廊」**門真市南部市民センター・森林浴体験室
玄関を入ると、階段のむこう、ドアの奥から、わずかに光輝く樹々が見える。「森遊回廊」は、高さ3m・幅12mの壁面に、樹々や草花をデザインしたスマ・ブライトが設置され、壁面すべてがミラー鏡の部屋である。作品から放射する光は、計算されたミラーの角度によって反射、増幅をくり返し、無限に拡大する映像空間を現出させる。コンピュータによって森は、春夏秋冬、月光、稲妻、さまざまな自然の変化を現出し、この世ならぬ夢幻の光彩に包み込まれる。

・日本建築美術工芸協会第4回協会賞
・北米照明学会最優秀賞
・日本照明学会第13回学会賞

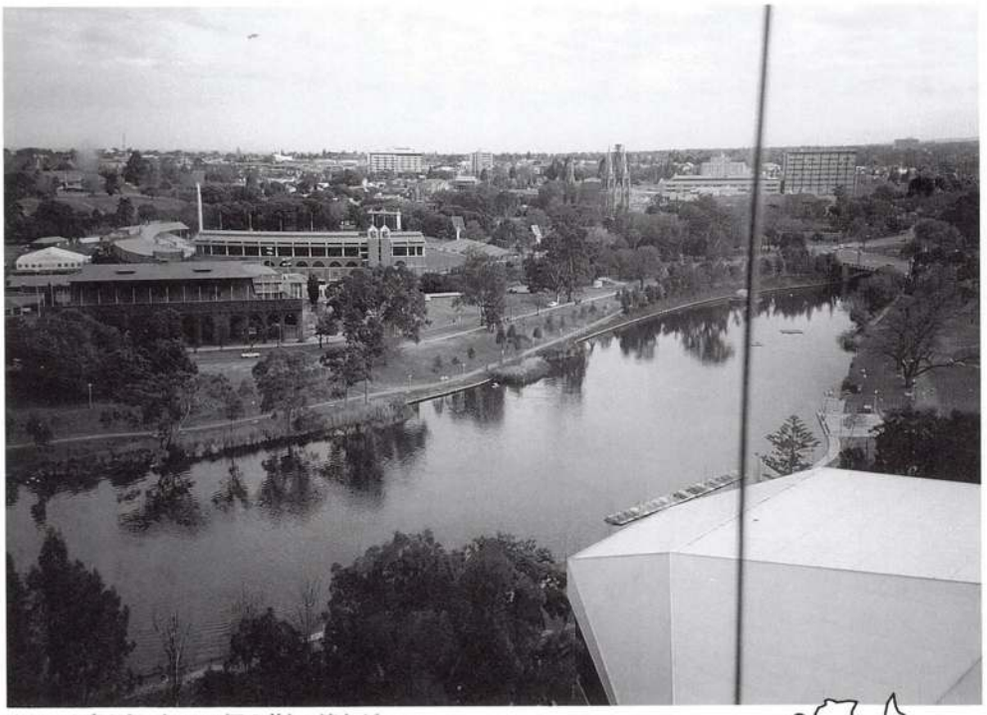
②**「空のカレイド・スコープ」**OCAT・オーキャットビル
関西国際空港へ直結するターミナルビルのOCAT。この構内、ポンテ広場の北東。オーキャットウォーク（動く歩道）の西壁面に、スマ・ブライトアートが取り入れられた。
高さ3m・幅5mの壁面に取り付けられた38個の半球体と虹のモチーフから放射する光は、ミラーの角度によって、無限に広がる映像空間を現出させる。この「カレイドスコープ」によって機内から見下ろす果てしない雲海を肌に感じ、空中を飛翔、浮遊している感覚に包みこまれる。

・北米照明学会アワード賞
・日本ディスプレイデザイン協会奨励賞

土屋壽満
無限の彼方に映像を増幅させる光の芸術スマ・ブライトアートを考案し、建築と結んで、建築空間に芸術環境を制作している。

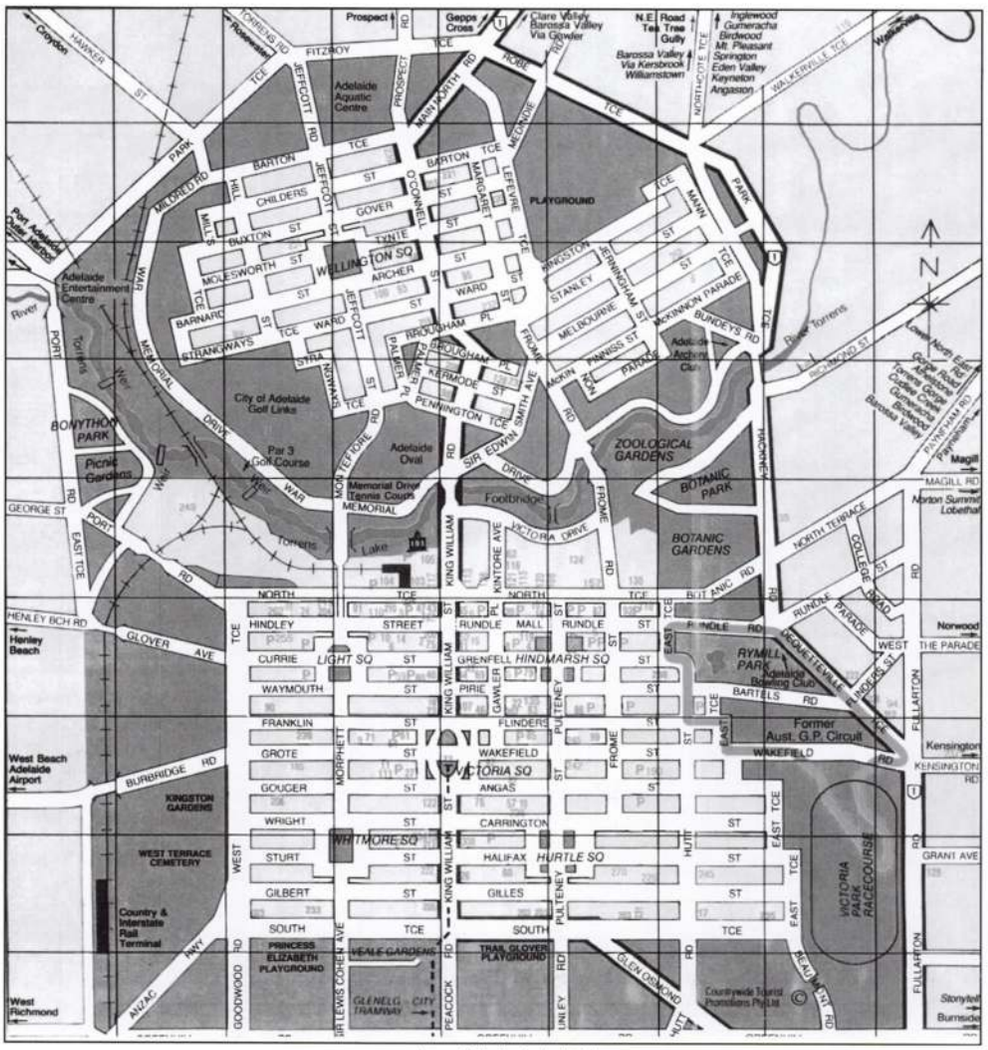


ウィリアム・ライト大佐の銅像



ホテルの窓から、トレンス河の美しい流れが……





アデレード市中心市街地



チャールススタート市、ジョン・ダイア市長と。左は、アデレード在住の池田實豪日協会副会長



ダイアナ・レイロウ大臣（運輸・芸術担当）と私

中国支部交流見学会＋懇親会

安芸の宮島と美術館・スポーツ施設を訪ねて

伊藤　博
事業委員会委員

念願であった本会中国支部との交流見学会・懇親会が、過日11月７日（金）・８日（土）にわたり開催されました。


古林中国支部長のあいさつ

当日は広島県立美術館前に午前10時半に集合。同美術館・地下１階講堂にて、古林中国支部長のご挨拶のあと、この建物を設計・監理された㈱日建設計設計室長・久保田秀男氏が資料を基に説明されました。

広島県立美術館

県立美術館は広島駅と広島城の中程に位置する名勝「縮景園」の一角に建てられています。

平面構成は、道路側を展示室、庭園側を大きく開いたロビーとし、庭園との一体化を図り、階段やエスカレーターの動線の中にも庭園風景を積極的に取り込んでいます。また、１階全体は自由に入れるロビーとして、情報コーナーや図書室、ミュージアムショップ、レストラン、縮景園への出入口を設け、県民の文化的な情報交流と出会いの場となるよう意図されています。

工事期間中は「庭園」に隣接するため、ほっそりした竹群や樹木の枝が建物に接しており、竹の自然の息吹を損なわないようにとの配慮など、ご苦労の一端を耳にすることができました。

縮景園から見える庭園側の高さを低く抑え、遠くの山を借景して山々が重なるように複数の丸い屋根が流れるデザインとされており、庭園の池を見上げると小さく見える丸い屋根が、自然と調和がとれたように眺められ、設計者の意図するところが解るような思いをしました。一般には見ることができない収蔵作品を大切に保存するための収蔵庫や、展示作品に最大限の配慮をした展示室の説明等を伺い、有意義な見学をすることができました。


広島県立美術館の見学


縮景園庭園

ひろしま美術館

広島銀行の創業100周年の記念事業として設立された建物です。広島城の真南にある美術館です。玄関ホールを入ると、中庭の中央に円形の本館があります。中心部はメインホールとして、周りに四等分した展示室があります。第１展示室はロマン派から印象派までのミレー、マネ、モネ、ルノアールなどが展示され、第２～第４展示室にはゴッホ、セザンヌ、ピカソ、フジタ、シャガールたちの絵が、いつも同じ部屋の壁、同じ場所に展示され、人びとの心のやすらぎの場となっています。明るい色彩に穏やかで自然なやすらぎを求める、人間の心情が映し出すすばらしい作品との出合いに、時の過ぎるのを忘れてしまいました。

自由行動


原爆ドーム

せっかくの機会だから、平和記念公園・周辺へ行き、まず、恒久平和を世界へ語り伝える原爆ドームを見て、複雑な思いで写真を撮りました。原爆の子の像にはたくさんの折り鶴がかかげられていました。原爆被爆者慰霊碑に参拝し、平和記念資料館に入りました。

昭和20年８月６日、人類史上最初の原子爆弾が広島の市街地上空で炸裂、多くの尊い生命が失われ、街は廃虚となりました。原爆の威力は、熱風、爆風、放射線とこれらが複合していろいろな障害を引き起こしました。被爆者の遺品や写真など資料の一つひとつに、人々の悲しみや怒りが込められています。この生々しい事実を考え、核兵器の廃絶と世界平和を祈らずにはいられませんでした。

次に、資料館を後にして近いところにある国の史跡・頼山陽史跡資料館を拝観して、紙屋町へと歩きました。

市内電車（ひろでん）

紙屋町からは宮島行きの市電に乗りました。電車道は昔のままの石畳にレールが２本、線路をゆっくり、始終ゴトゴトと音をたてて走っています。どこか途中から急に速くなり、後方の線路を見ると郊外電車の線路となり石畳はなくなっています。車輪の音も静かな軽やかな音に変わっていました。女子学生（高校生）と話をしたり

して、気分よろしく楽しんでいました。廿日市を過ぎる頃、辺りは薄暗くなり始めています。広島には大阪、神戸、京都、ドイツの市電を集めて、今もしっかり稼いでいます。世の中、温暖化防止に対応するために頭を痛めている昨今、ユニークな市電を走らせていることは、バス等の燃料の排気ガス削減に大いに寄与しているんだなと思いました。しかも、約50分乗せてもらって（11月１日から値上げされたのに）270円でした。とても得をしたような気分でした。

本日の行動で歩いた歩数は15,700歩もありました。

宮島口イヤルホテル和風別館にて

５階の展望大浴場に入り、一望できる対岸の明かりをじっくり眺め、ゆったりと湯に浸かり、心身ともにのんびりくつろぎました。

19時より本部・中国支部の役員・会員の方々との懇親会を開催し、なごやかなうちにも楽しいひとときを過ごしました。ビール、酒、ご馳走を口にしながら互いに語り合い、今後も支部との交流を深めたいものだと思いました。

朝の散策

対岸の大野町の山々の木も所々、赤く色づき始めていました。今朝も好天気に恵まれ、紺碧の秋の空には厳島神社の大鳥居が鮮やかにくっきりと浮き出ていました。ちょうど引き潮で、大鳥居のそばまで歩いて行くと、多くの参拝者が集まっていました。

数々の歴史とロマンを伝える神社に参拝し、海水の干された砂浜を歩いて近道して、高さ16mの朱塗りの大鳥居の前で記念写真を撮影して桟橋へと急ぎました。



厳島神社の大鳥居

観光バスで見学

宮島からフェリーで10分で宮島口です。弁当とお茶を積み込んで、本日はバスで見学です。

広島広域公園の中にあるメインの陸上競技場・広島ビッグアーチ。世界でも珍しい真円形で、メーンスタンドには平和への祈りと未来への架け橋をイメージした高さ44.6mの大アーチが架かっています。そのアーチとメインスタンドの間に架かる大屋根にはテフロン膜（太陽工業）が張られてありました。競技場の中央部にはサッカー場として芝が植えられています。毎日の芝の手入れには大変な努力が必要です。芝は青々と育っていました。



広島市現代美術館で記念撮影



広島ビッグアーチの大屋根



同所にて説明する竹本所長



広島ビッグウェーブ。冬季はアイススケート場として賑わう

ビッグウェーブ（広島市総合屋内プール）からグリーンアリーナー（広島県立総合体育館）、広島市現代美術館を回り、無事見学会を終えることができました。

*

今回の企画を実施するにあたり、多くの方々にお世話になりました。広島県立美術館の設計説明をしていただきました日建設計の久保田設計室長殿ならびに美術館関係者各位、ひろしま美術館学芸員の渡辺様、広島ビッグアーチのご案内とご説明をして下さいました竹本所長殿、広島ビッグウェーブの津田副所長殿、グリーンアリーナーの酒井様、広島市現代美術館アートガイドの鈴木様、ほんとうにありがとうございました。

また、快く企画のご協賛を下さいました太陽工業株式会社殿、株式会社クマヒラ殿、並びに企画の当初よりいろいろとお骨折り下さいました中国支部の古林支部長殿、横田幹事殿はじめ支部役員の皆様、ありがとうございました。

末筆ながら、誌上より厚くお礼申し上げます。

（いとう　ひろし）

日　時	1997年11月７日（金）10:30～８日（土）17:30
見学先	広島県立美術館、ひろしま美術館、広島市現代美術館 広島ビッグアーチ、グリーンアリーナ、広島ビッグウェーブ
宿　舎	宮島ロイヤルホテル和風別館
参加費	会員20,000円、一般25,000円
参加者	23人
協　賛	太陽工業株式会社、株式会社クマヒラ

REPORT

広島の近代文化遺産

忘れられたアレ!! 砲台－1－

橋本秀夫
㈱日本建築協会中国支部副支部長

自然を守った明治要塞

蒸気船にうなされた幕府は、御台場を作り虎の子の86万余両（約197億円）を注ぎ込むが、防禦陣も完成せず屋台骨まで吹き飛ばされてしまった。

尊王攘夷の渦中にある各藩士は、アジア侵略と植民地化の実際を見聞し、蚕食された香港、上海のありようを知った青年たちは世界情勢の激流と苦難の道を選び、新政府旗下に結集した。

万事諸外国に遅れていた明治政府は産業革命の激震を身に受け、なりふりかまわずお雇い外人を招き「朝令暮改」の政策を繰り返しながら執拗に学んだ。しかし、国際社会の檜舞台に立った明治健児の隣には、「眠れる獅子」がいた。鋒（ほこ）をおさめてみると、日清両国は外国新兵器を握り、死闘を繰り返していたのだ。

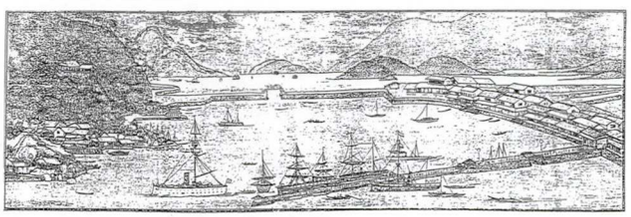
それから10年、日露戦役。再び欧米火器や軍艦を買い集めた。米英より戦時公債の支援を受け、死闘を繰り返し、近代戦の怖さを知った。笹船日本丸はかろうじて沈没から逃れ、戦役は終わった。

広島湾要塞、芸予要塞は対露戦のためようやく築かれた近代的砲台群である。陸軍築城部呉支部は島嶼部漁民の生計をも考慮して設計をすすめ、住民も築城に協力し、秘密裡に築城に参加した。

大正期に入り、軍縮と戦略の変遷により両要塞の火砲一式を撤去し、広島市霞町兵器支廠に返納。一部の火砲は沖縄に分設された。

広島湾及び芸予要塞は、明治期に世界の工業科学・技術を集積して築造された工学的文化遺産である。実地調査を重ねるたびに、築城技術をはじめ窯業、冶金、造兵器と弾道計算、衛戍学等に思いがめぐり、さらに生産補給の重要性を感じた。

瀬戸の島々は要塞地帯法の保護により、水辺の小魚も掌中に遊び、山中の鶯も肩ごしに鳴く。松の緑に包まれた赤煉瓦砲台群は、明治の自然環境のベールにくるまれ、四季を楽しんでいる。この忘れられた明治要塞の自然と文化遺産を、後世に贈りたいと願う。



「廣島市宇品棧橋之景」

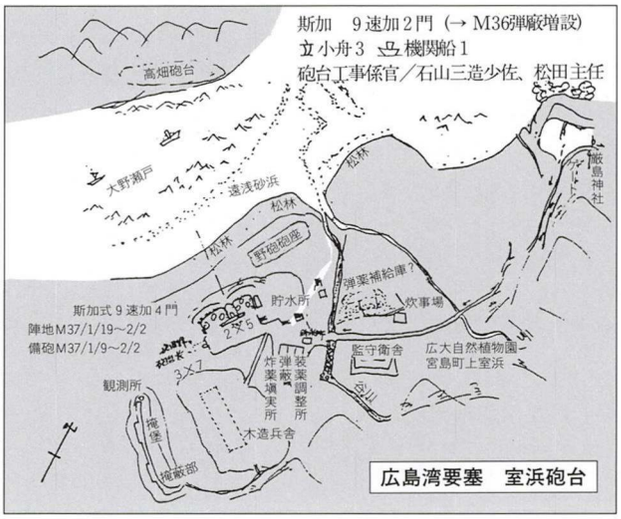
高畑砲台（28榴６門予定）

高畑砲台は、大野瀬戸を中に、宮島室浜砲台と対峙し、大野町高畑の山裾に築塁したが、備砲はない。

M36　兵員　広島湾要塞――後備歩兵２大隊　後備騎兵１小隊　後備工兵１中隊
芸予要塞――後備歩兵２中隊

室浜砲台（標高10.6m　兵員37人）

室浜砲台は、宮島町厳島神社から南に約４km、海岸沿いに行くと広島大学自然植物園の中に眠っている。海岸線に野砲を配列し、背面松樹林に室浜砲台を築城している。参謀本部では「大野瀬戸は海峡幅も狭く水深も浅いため、敵艦隊侵入のときは商船一隻沈めておけば航行が困難となる。室浜砲台の速射砲攻撃で守備は万全である……高畑砲台の備砲は配置せず」と論じた。



包ヶ浦通信所（兵員194人　馬２）

山陽本線宮島口より乗船し宮島に渡る。島を左手にとって行くと、島の北側に包ヶ浦がある。ここには通信本部、連隊司令部があり、命令指揮を取る。

地元の向井セキさん（M34.12生）は、よく奉仕活動をしたそうだ。平成４年６月にセキさん宅を訪れたとき「艦隊が入って来たら海が真っ黒になりました……松茸（ナバメシ）飯をたいてあげたら将校の奥さんも喜んで食べンサッタ……!!」「７間もある大砲をヨー磨きましたワイ……」。笑いの中に奉仕活動（ボランティア）のなごやかな風景が楽しく見えた。

火薬本庫～軽便鉄道500m、旋回部１ヵ所、弾薬本庫・兵器支庫、兵器修理所、糧食支庫、兵舎、包ヶ浦通信所、立小舟12、凸機関船１

鷹の巣砲台（標高　低12.6m・中15.9m・高143m　３ヵ所）

宮島包ヶ浦よりさらに海岸沿いに行くと、崖下に落下した砲台群が見える。紺碧の海に白碁石を並べたさまは絶景だ。火砲、観測所、電灯井等がある。登山途中、右脇道に入ると高砲台がある。山中に崩れた煉瓦建物、兵舎跡等が見られる。



くずれ落ちた砲座―鷹の巣砲台

高砲台　克28榴６門、砲兵連隊長、司令所、地区砲兵司令所（→M34弾廠増築）
砲台工事係官／石山三造少佐、小林之輿主任
中砲台　27加４門、兵舎５×10m×２棟（→M34弾廠増築、M37石炭庫増築）
砲台工事係官／石山三造少佐、竹中新之助主任
低砲台　斯加９速加４門、兵舎５×10m×２棟、電灯井戸式、観測所、発電舎
砲台工事係官／石山三造少佐、竹中新之助主任（岩国市湊橋一助　砲台石工事担当）、伊予三津煉瓦発見

参考図書　各署・各部のご指導、厚く感謝し、お礼申し上げます。
日本築城史、呉海軍工廠造船部沿革誌、防衛研究所戦史部、防衛庁図書館、日本の大砲、M27砲台建築仕法通則、要塞防務調書、日本陸軍史、日本軍事工業の史的分析、広島市地名索引、日本の技術（大阪砲兵工廠）、広島県史・市史

（はしもと　ひでお）

BOOK STATION
ブックステーション

生きている住まい
東南アジア建築人類学

ロクサーナ・ウォータソン 著
布野修司 監訳

学芸出版社
1997.3.20刊
B5W判　304(カラー16)頁　本体8000円



著者は、東南アジアをフィールドとして調査研究を続け、現在シンガポール国立大学講師の社会人類学者である。この本は著者自身の現地調査を踏まえた研究成果に加え、建築家や人類学者の研究の数々の情報をもとにして、主として東南アジアの社会システムにおける住居の役割の重要性に着目し、住み手と建物が互いに形作っていくその密接な相関関係について洞察を行っている。「本書は、東南アジアの諸民族の社会的、象徴的世界における住居について詳細に描き出す最初の書物である」とは原著に付されたコピーとのことだが、監訳者があとがきで「本書は、直接的には東南アジアの民家を対象とするアカデミックな作品であるが、身近な住まいを広く深く考察する様々な視点を与えてくれる。また、我々の「住まい」の成り立ちを根底的に問い、現状を鋭く批判する。現代日本の住居のあり方を考えるためにも一般の読者にも広く味わって欲しいと思う」と述べているように、示唆に富む内容の本である。　（I．I）

「私と住まい」の履歴書
――建築家の昭和史――

みねぎし やすお 著

建築資料研究社
1996.4.15刊
A5判　320頁　本体2718円



著者は、東大池辺研究室に学んだ後、篠原一男・増沢洵・大高正人・内田祥哉と「五人の会」を結成、また横山公男・沖種郎などと「連合設計社」を設立するなど、意欲的な建築活動を行なうなか、戦前から戦後への激動の昭和を一貫して住宅建築にこだわり追求してきた建築家である。この本は、そのタイトルが示すとおり著者の「私史」的内容であるが、同時に著者が自ら「住まう」ことにより育んだ風景や自然環境に対する生活体験と理解を通じて、家族のありよう・人間のありようを問いながら住まいを作り続けてきた、その時々の社会と時代の背景が記述を通して鮮明に浮かび上がってくる。時代を厳しく見続けてきた著者の目に映る今の世の中に対して、「有り余るほどの物や様々な情報に囲まれ一見贅沢な日々を過ごしているかに見える今こそ、本当の「豊かさ」とは何か、「これからの住まい」はどうあるべきかを改めて考えねばならない」と問う著者の言葉は、我々が背負わねばならない今日的課題を今まさに突きつけている。　（I．I）

販売のプロが教える 不動産の賢い見方

金城一守 著

学芸出版社
1997.7.25刊
四六判　224頁　本体1600円



著者は京都で実際に不動産業を経営しており、その販売の現場から不動産売買の実体と注意点についてわかりやすく解説してくれている。「建売は場所だ」という言葉が言われている通り建物に問題があっても価格と場所の魅力で売れてしまう建売住宅。問題のない建売住宅を見つけるために、建売業者、敷地、デザイン、仕様設備等のチェックポイントを教えてくれる。狭小敷地に立つ住宅の殆どは建築基準法違反であるとの話には驚かれる読者も多いのではないだろうか。マンションにおいてもバブル崩壊後に輩出した俄事業主が多く、区分所有法の存在さえ知らない業者もいること等を指摘し、注意を促してくれている。その他中古住宅、土地等の取引についても種々の指摘をし、建築業界にいるものにとっても興味深い。「人が買わない時に買うという逆張の発想が大事である。」と述べ、不動産購入を考えている人には特に参考になる本であろう。　（M．H）

建築とつきあう

横山誠一 著

建築技術
1997.7.1刊
A5判　223頁　本体1800円



本書は、大手建築設計事務所を長年勤め上げてきた筆者が、自ら体験した泣き笑いを軽妙な語り口でまとめたエッセイ集である。「建築の作法」の章では、友人の機長の半年ごとにある資格審査を比較に、建築士の職能について語られる点がおもしろい。建築士という資格は、一回とってしまえば終生途中での試験がない。それ故の、勉強不足の甘さや、胸を張って一級建築士と言えるかどうかと問いかける。「設計の作法」の章では、設計にかける意気込みや失敗談、現実とのギャップが語られ、「ああ、それはどこでもあることなのだなぁ」と共感を呼ぶ。「人間関係の作法」の章では、建築を通じての人間関係、現場との葛藤や施主との付き合い、タレント建築家に対してもチクリと話が及ぶ。目新しい発見はないけれど、なぜだか「そうそう」とうなずいてしまう一冊である。　（Y．I）

担当：会員企画小委員会／伊藤郁郎・稲木裕子・花野元一

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9：00～17：15

公的試験機関の資格

所長 森田 司郎

わが国の建築行政は建築基準法に基づいて行われている。1950年に制定されて以来、幾度かの修正を経て、わが国における建築行為の常識や慣習をこの基準法体系が形づくってきた。この法体系が抜本的に見直されようとしている。㈶日本建築総合試験所の業務の多くも現行基準法に立脚して行われているので、基準法大改正の落ち着くところに大きな関心を寄せている。

建築物の性能を確保し、良質な建築物を提供していく上で、「試験」・「検査」・「認定」という業務の重要性は、法体系がどう変わろうと不変であろうが、その担い手である公的機関の整理と再編成は必須の成り行きと思われる。

現行の慣習では「試験」は公的試験機関で行うのが普通であるが、この公的試験機関の定義があいまいである。本試験所のような公益法人以外に、行政庁や大学に所属する実験室が公的試験機関に含まれている場合も多い。明らかに一線を画されているのは民間の試験機関であり、その能力が高いレベルであっても範囲外である。

経済社会の改革の流れは「規制緩和」、「国際化推進」に向かっており、基準法改正の柱は「性能規定の導入」、「建築確認・検査制度の民間開放」と目されているので、試験機関の資格についても、さらに明確にそして能力に応じて認知される仕組みが必要である。

試験機関の適格性を判断する尺度としては、国際化の流れから見て、ISOガイド25の適合性を採用するのが合理的である。ガイド25が求める試験機関としての適格性の要点は、「試験の厳正・公平性」、「試験所の第三者性」、「試験の再現性」などである。

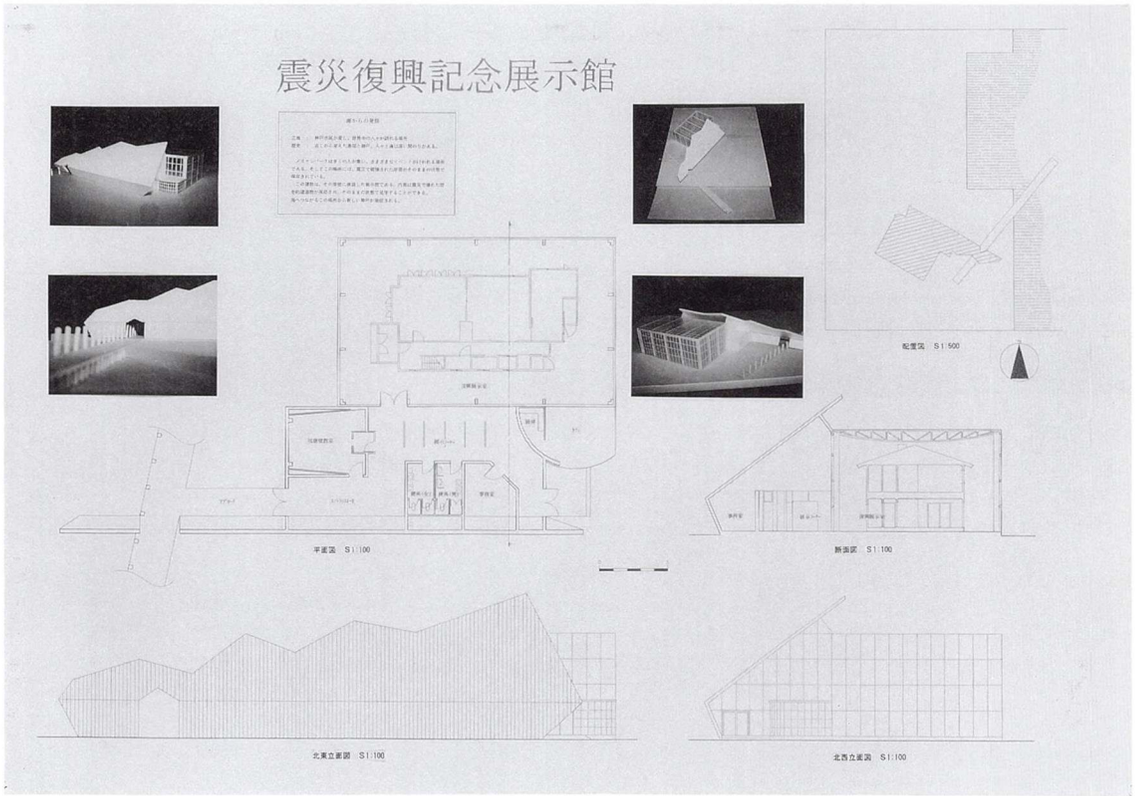
本試験所がこれらのいずれの条件も十二分に満たしていることは自他ともに認められてきたと自負している。昨1997年7月にガイド25が求める品質システムを確立し、ガイド25適合を宣言している。大臣告示に基づく試験については、建設省も本試験所の適合性を認定している。

ところで、試験機関が競合する状態では、第三者性の確立を自認している表づらが業務実態と一致していない危険性を生み易い。例えば、試験依頼者の組合に協力金を提供して受託を計るような営業活動が横行しかねない。このような機関の実態を見極めて、試験委託者側が試験機関を峻別することが求められる。そのような社会風潮が形成されることが、わが国社会の本当の国際化の前提条件と思われる。

第43回 工高生デザインコンクール

設計課題／記念展示館

応募校数●34校　応募作品数●123点
締切日●平成9年9月30日　審査会●平成9年10月18日　表彰式●平成9年11月15日



入選・最優秀賞　**金森紹二**
(兵庫県立兵庫工業高等学校3年)

この記念館は、私自身が体験した阪神・淡路大震災の復興を記念した展示館です。立地は、周囲を海に囲まれ、神戸市民にも親しまれているメリケンパークとし、ここに被災した建築物をそのまま移築することを考えました。
海に突き出た列柱は、神戸から発信されるメッセージを表現しており、多くの人が集まり、ふらりと立ち寄れるような展示館にしたいと思いました。
結果を先生から聞いたときは、本当にびっくりしました。時間のない中で、メリケンパークに何度も足を運び、図面を仕上げた苦労が結果として報われて良かったと思います。

審査総評

審査委員長　**菅家克子**

記念展示館という課題から受けるイメージには、すでに評価の定まった歴史上の人物や芸術家、景観等を固定的に思い浮かべがちですが、応募作品のテーマがそれにとらわれず、生き物やアイドル、環境問題や自分の内面までも記念にしてしまう柔軟さを持ち合わせていることにまず驚きました。これらのテーマを見つけるために皆さんが、改めて自分の町に思いを馳せ、町を歩き、あるいは普段何気なく見過ごしている身の回りのあれこれを特別な目で観察している姿を好ましく思い浮かべます。

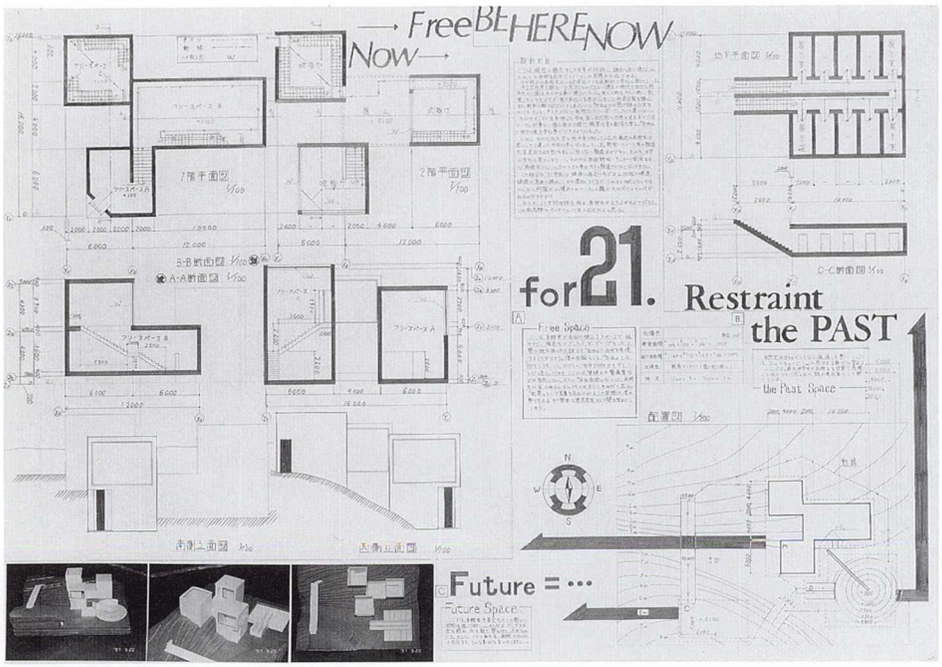
最優秀賞の**金森君**の作品は、被災建物をそのまま展示することで、時とともに薄らいでゆく震災の爪痕を記憶に残し、復興のバネにしようとしたコンセプトが、その予感を感じさせる建物のデザインとともにスッキリとまとめられた作品です。ただこれが神戸の町とどのようにかかわっているのかが表現されていればもっと良かったと思います。

同じ震災をテーマに選んだ**佐藤君**の、崩壊と断層をデザインした作品も良くまとまっていますが、訴える力が少し弱かったように思います。

優秀賞に選ばれた**加賀山君**は、自身の内部を深く掘り下げ、抑制された過去を未来にどう解放してゆくかをテーマにしました。それを具体の形に表すことには少々苦労の跡が見えますが、高校生らしい悩みと真正面に向き合い前向きに進んでいこうという姿勢が高く評価されました。もう1点の優秀賞に選ばれた**藤澤さん**は、母のプレゼントを選ぶというきっかけから、自分の町の自慢できる特産を探し出し、それらが並べられ、皆が気軽に立ち寄れる所を「途中下車」という言葉に託しました。練り上げられたコンセプトは見事で審査員に高く評価されましたが、建物デザインにももう少し力を、という意見があったことを付け加えておきます。

水口さんの作品にも同じことが言えますが、コンセプトをイラストで、という発想には感心させられました。感心といえば、**望月さん**の、山の斜面に刀を突き刺すダイナミックさにも。これは景観を際立たせるのか壊すのか、現実には物議をかもすことになるだろう作品ですが、アイデアを買われました。景観論では**田中さん**の作品にも波及しましたが、このコンクールの趣旨に沿った単体デザインの方で評価されました。**大西さん**は自然への思いを、**横堀さん**は既存の文学館に新たな魅力を、それぞれ水辺を上手く活かすことによって作品にしましたが、水際に一工夫が欲しいと思いました。**安山君**は意表を突くテーマを選びました。リサイクルのしくみを建物の形で表そうとした試みは評価できますが、入館者が楽しみながら体験できるような工夫があっても良かったと思います。

審査を終えて、123点の中から10点を選ぶことの難しさを痛感しています。多くの応募作品は入選と紙一重です。これからも、その一重の挑戦を目指して頑張って下さい。



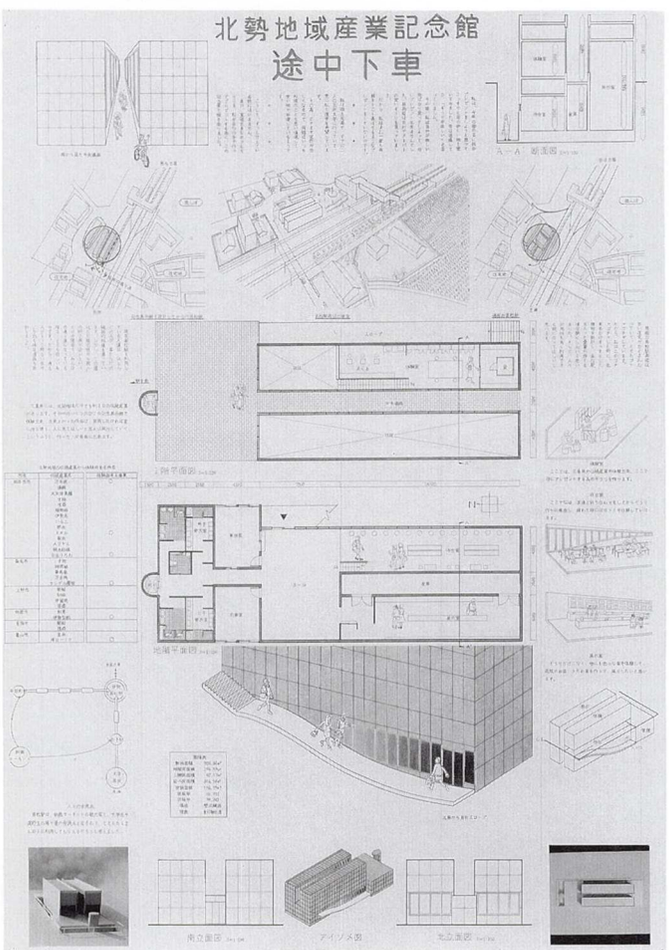
入選・優秀賞

加賀山豪士

（東京都立蔵前工業高等学校3年）

応募の動機は、コピーではなく最後まで自分の考えでやれる「コンペ」に挑戦してみたかったからです。設計条件がほとんど自由でしたので逆に戸惑ってしまい、製図用紙に描くまで3カ月もかかりました。しかし、「なぜ建てなければならないのか」を考えると、自然に答えが出て、予想以上のスピードで描き終わることができました。思い入れの強い作品になり、設計主旨をどのように伝えるか迷いましたが、優秀賞をもらい、苦労した甲斐がありました。不十分な所があったにもかかわらず、審査委員の方々に設計主旨をよく読んで評価していただけたことがうれしかったです。

入選・優秀賞 **藤澤久美子**（三重県立四日市工業高等学校3年）



「記念展示館」の「記念」とはどのようなことだろうと考えると、旅行に行ったときの記念や、母の日などのプレゼントが頭に浮かびました。そこで、三重の伝統産業を体験することで、三重のことをみんなに知ってもらえるような記念展示館にしようと思いました。また、私は「母の日」に、プレゼントをしたことがなかったので、この展示館で自分の手づくりのものを作って母にプレゼントしようと思いました。

先生から結果を聞いたときは驚き、うれしさでいっぱいでした。建設地や平面でかなり苦しみましたが、入選通知を受け取り、つらかったこともみんなよい思い出となりました。指導して下さった先生や、励ましてくれた家族と友人に心から感謝しています。

●審査記録

9月30日　応募作品受理

10月8日　予備審査―応募作品について応募規定の点検（教育委員会・工高生教育小委員会）

10月18日　審査会―審査委員14名（審査時間14：20～18：15）

●審査経過

審査を開始するにあたり、応募条件を大きく逸脱した作品があったとの予備審査の報告があり、審査方法・条件の内容を確認した上で審査に入る。

■1次審査（審査員14名）

全応募作品について審査員1名が10点を選び投票する。

得票	11	9	8	6	5	4	3	2	1	0
作品数	2	2	3	3	6	1	1	4	13	88

＊得票1以上の作品（35点）を1次審査通過作品とする。

得票1の作品（13点）の取り扱いについて議論を行う。支持する審査員のない作品を除外する。その結果、得票1の作品が7点残る。

（審査時間14：20～16：00）

■2次審査（審査員14名）

＊1次審査を通過した得票1の作品7点と得票2以上の作品22点の合計29点について、審査員1名が10作品を選び投票する。（棄権票1）

得票が1以上の21作品を選び、得票5以上の作品（16点）について議論を行う。

（審査時間16：10～17：00）

得票	12	11	10	9	8	7	6	5	2	1
作品数	2	1	1	1	5	2	3	1	2	3

■3次審査（審査員14名）

2次審査を通過した得票5以上の16作品について各審査員が5作品を選び投票する。

得票	10	8	7	6	5	4	2	1
作品数	1	2	2	1	2	2	2	2

＊得票1以上の14作品について議論を行う。

得票1の作品を除外して12作品とし、得票2の作品の取り扱いについて議論を行う。

（審査時間17：10～17：35）

■4次審査（審査員14名）

最優秀作品と優秀作品の選出について、各審査員が3点を投票し、得票8と7の3点を選ぶ。その後、2回の挙手にて3点のうちから最優秀1点と優秀2点を選び、審査会を終了する。

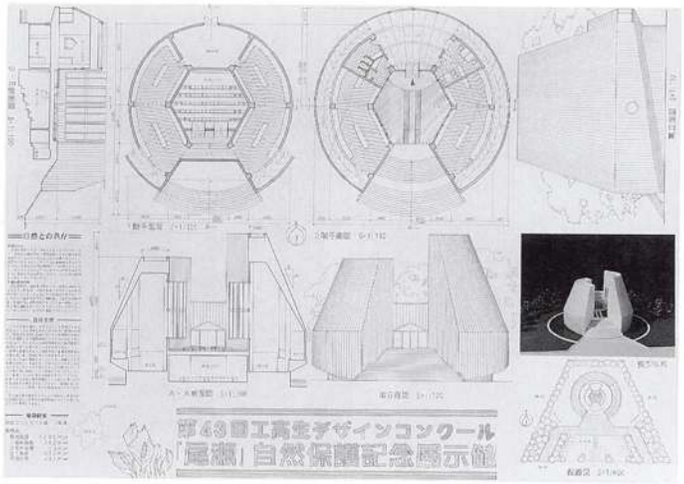
（審査時間17：35～18：15）

審査員（50音順・敬称略）

委員長　菅家　克子／菅家設計室主宰

委　員　石川　康介／近畿大学理工学部建築学科助教授
黒田　智子／武庫川女子大学生活環境学部講師
柿本　正和／㈱錢高組設計統轄部大阪設計部次長
北村　潤／㈱東畑建築事務所設計部設計課長
設楽　貞樹／㈱安井建築設計事務所設計部専門部長
谷口美樹子／あるくネットワーキング谷口建築設計室主宰
新田　正樹／新田正樹建築空間アトリエ代表
橋本　修英／アーキテック代表取締役
檜垣　晴夫／㈱昭和設計企画・設計部室長
本多　友常／㈱竹中工務店大阪本店設計部副部長
本間　利雄／㈱大林組本店建築設計第二部部長
宗本　順三／京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授
與謝野　久／㈱日建設計大阪本社副代表・取締役
吉村　英祐／大阪大学工学部建築工学科助教授

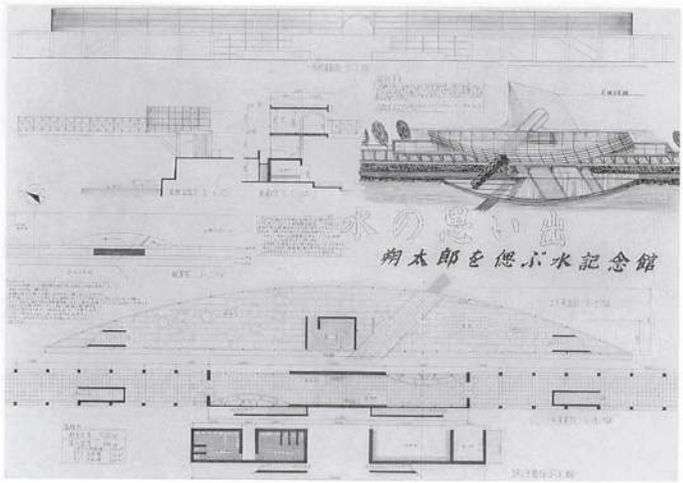
＊審査員の所属は募集時のものです。



入選　**田中小百合**（群馬県立高崎工業高等学校２年）

今問題になっている地球環境について興味があり、尾瀬の自然環境を残すために、多くの人が理解できるような記念館があればいいと思い、設計しました。

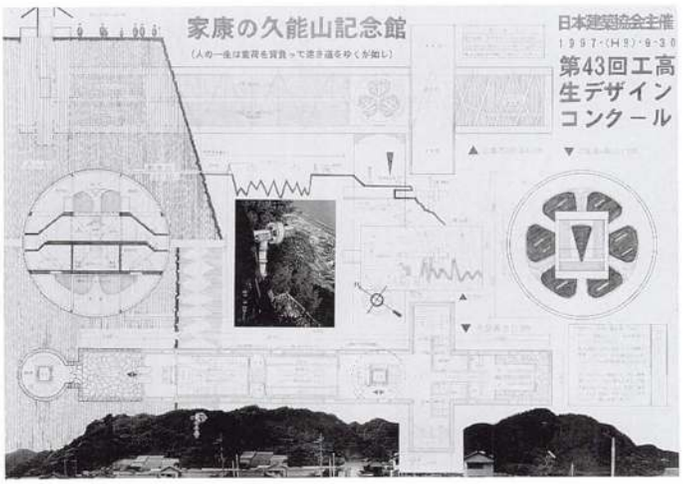
入選し、とてもうれしかったです。夏休み中は毎日大変でしたが、入選の結果を聞いて、やはり頑張ってよかったと思いました。来年、もう一度この感動に合えるように努力しようと思います。



入選　**横堀優子**（群馬県立前橋工業高等学校３年）

この作品は、前橋市のキャッチフレーズである「水と緑と詩のまち」をつくりあげようと思って設計しました。この場所に集うことで、人と人とが交流を深め、また、水の大切さを知り、詩人・萩原朔太郎の文学が学べるような施設を考えました。

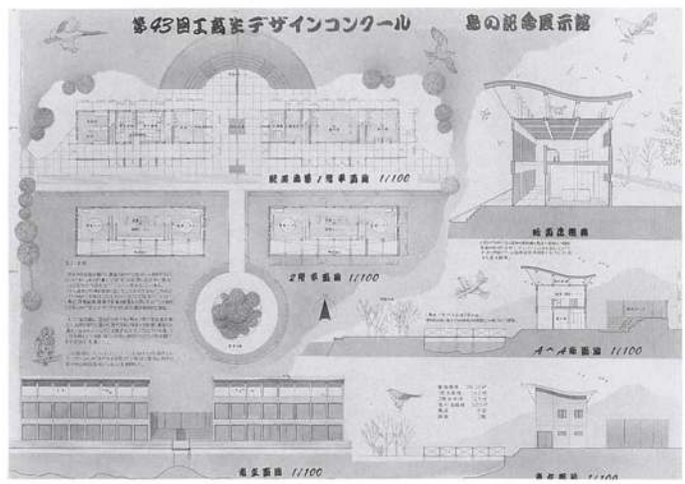
結果を聞いたときは信じられませんでしたが、コンペに入選して、これまで建築を学んできて本当によかったと思いました。選んで下さった方々や私を支えてくれた先生や友達に感謝の気持ちでいっぱいです。



入選　**望月裕子**（静岡県立静岡工業高等学校定時制４年）

静岡市内には家康縁の地の代表として駿府城跡の駿府公園と霊廟の久能山東照宮があります。このうち、“家康の精神”を表現するために駿府湾に面し、国道150号線から誰もが目にすることができる久能山の山肌を建設地に選びました。記念館は雄大で存在感のある、家康の愛刀（武士の魂）をモチーフとしました。

入選を聞いたときは、自分の耳を疑いました。建築の勉強をしたくて定時制に通い始め、このコンペに初参加して幸運にも入賞の栄誉を勝ち得たことに感謝いたします。



入選　**大西佐季子**（兵庫県豊岡実業高等学校３年）

記念展示館には過去や未来、科学を記念したものが多いことに気づきました。そこで、今存在することを記念してみようと、身近な自然に目を止めました。小さい頃渡り鳥のいる池で遊んでいたためか、鳥は私の特別な記念展示物です。“見ながら学べる、触れて学べる”を基本概念に、鳥と触れあい、自然のすばらしさを体験できる「鳥の記念展示館」を計画しました。夏休み中ほぼ毎日学校に来て制作した努力が実って、本当に良かったと思います。この経験を生かして、社会に出ても積極的に物事に取り組み、目標に向かって努力してゆきたい思います。

■課題の趣旨

近年、全国各地に個人や企業が残した業績などをテーマにした記念展示館がふえてきている。

記念展示館とは、展示館・資料館の中で特に記念性の高い施設である。そのジャンルは、郷土を代表する人物や会社・自治体に関するものにとどまらず、歴史・文学・芸術など多岐に渡っている。したがって、立地については、その記念性をよりよく表現する意味から、展示に縁が深い地であることが多い。また、その土地にゆかりがなくても、展示内容の背景や風土を来館者自身が、イメージできるように企画することもある。

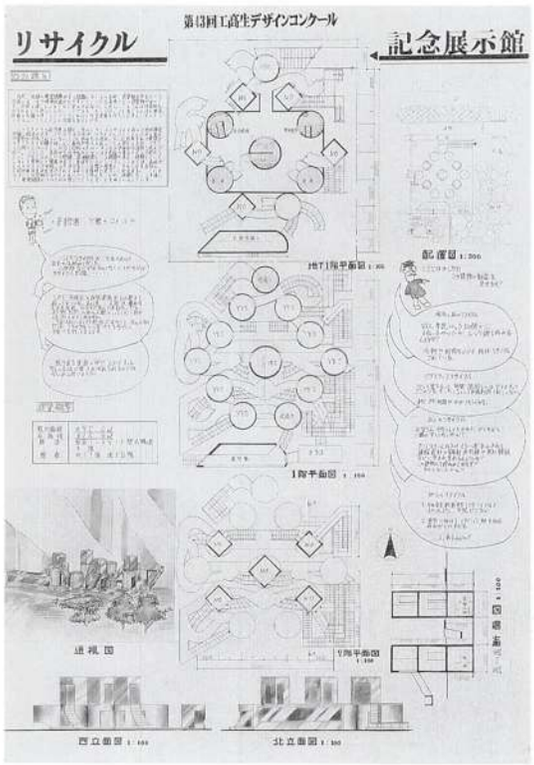
本課題は、資料の収集・展示のみならず、多くの人々が自分たちの住むまちを見直し、新たな発展を促すようなアイデアあふれるスペースの提案を期待している。

■設計条件

1. 敷　　地：敷地の大きさ、形状ともに自由。現実にある敷地を想定してもよい。
2. 規　　模：延べ面積は自由とする（ただし上限は500㎡）。構造・階数は自由とする。
3. 所 要 室：たとえば、展示室・収蔵庫・事務室・便所など、必要と思われる室を適宜設ける。
4. そ の 他：「○○記念展示館」「○○の記念館」などのようなサブタイトルを付ける。

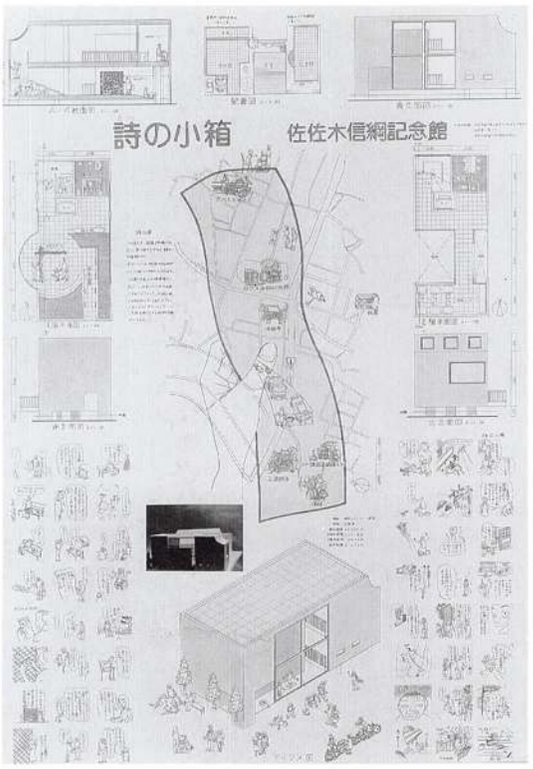
■所要図面

1. 配　置　図：縮尺自由（敷地・建築物・植栽などの外構および、道路や周辺の状況を示す）
2. 各階平面図：縮尺1：100
3. 立　面　図：縮尺1：100（２面以上）
4. 断　面　図：縮尺1：100（１面以上）
5. 透　視　図：設計意図を表すところ（アイソメも可）。模型写真に替えてもよい。
6. 設 計 説 明：設計趣旨（展示内容と立地についての説明も含む）および建築概要（敷地面積、建築物の構造・階数および床面積など）を示す。
7. そ　の　他：平面図・断面図には室名・所要寸法を記入する。その他必要と思われる図面を描いてもよい。



入選 **安山征吾**
（大阪府立西野田工業高等学校３年）

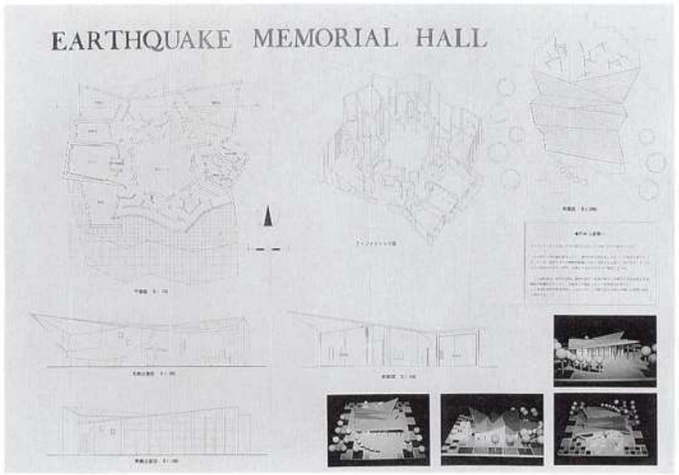
この作品は、テレビなどで取り上げられている「ゴミ問題」をテーマにした記念館です。以前からゴミはどのようにリサイクルされ、私たちの暮らしの中へ戻ってくるか疑問に思っていましたが、作品を書き上げているうちにそのひとつひとつが解けてゆきました。ゴミ問題の重大さや難しさ、リサイクル方法やリサイクル商品の利用方法も知ることができました。大人から子どもまで、この記念館で答えを見つけ、ゴミのリサイクルに関心を持って欲しいと思います。初めは自分の目を疑いました。なかなか考えがまとまらず徹夜をしたこともあり、何度もやめようと思いましたので、うれしさは何物にも代え難いです。高校生活最高の思い出、最高の贈り物です。



入選 **水口香奈**（三重県四日市工業高等学校３年）

私の90歳になるおじいちゃんは、外に出て人とふれ合う機会もなく、平凡な日々を過ごしています。そんなおじいちゃんにもっと毎日を楽しく過ごして欲しいと思い、制作しました。おじいちゃんは詩を読むのが好きで、近所を探したところ佐佐木信綱記念館という建物がありました。この建物を、おじいちゃんだけでなく、高齢者の人や障害を持った人にもっと利用してもらい、毎日が楽しくなるよう変えてあげたいと思って設計しました。

結果を知ったとき、夏休みに一生懸命取り組んだ日々を思い出し、参加してよかったと思いました。友人も親も喜んでくれてうれしかったです。この作品は自分でもすごく気に入っていますので、選んでいただいたことを光栄に思っています。本当にありがとうございました。



入選
佐藤隆造
（兵庫県立兵庫工業高等学校３年）

３年前の阪神大震災で神戸は大きな被害を受けましたが、今、風景の変化とともに人々の心から「震災」の文字が忘れ去られようとしています。

そこで、この教訓を後世に残してゆくための記念館を建てようと思いました。外観は断層をイメージし、壁も土が隆起したように無造作で複雑な配置としました。屋根も“六甲山系”と“希望”をイメージして、空に向かってのびていくような形状としました。

入選通知を受けたとき、最後までやっていてよかったと思いました。このコンペで建築に対する考え方や設計の難しさなど、いろいろなことを学びました。この経験を生かし、努力して将来に役立ててゆきたいと思います。

上記の入選者の感想文は、誌面の関係上、委員会にて要約の上掲載しました。（文責・景山公三／教育委員会）

■応募学校（順不同）

北海道	名寄工業高等学校
青森県立	弘前工業高等学校
岩手県立	大船渡工業高等学校
群馬県立	館林商工高等学校
〃	高崎工業高等学校
〃	前橋工業高等学校
埼玉県立	大宮工業高等学校
東京都立	蔵前工業高等学校
〃	田無工業高等学校
山梨県立	甲府工業高等学校
静岡県立	静岡工業高等学校
〃	静岡工業高等学校定時制
静岡県立	浜松工業高等学校
私立	名古屋工業高等学校
岐阜県立	大垣工業高等学校
三重県立	伊勢工業高等学校
〃	四日市工業高等学校
福井県立	敦賀工業高等学校
滋賀県立	彦根工業高等学校
大阪府立	今宮工業高等学校
〃	西野田工業高等学校
〃	布施工業高等学校
大阪市立	工藝高等学校
〃	都島工業高等学校
兵庫県立	東播工業高等学校
兵庫県立	豊岡実業高等学校
〃	兵庫工業高等学校
岡山県立	岡山工業高等学校
〃	水島工業高等学校
私立	松山聖陵高等学校
福岡県立	戸畑工業高等学校
〃	福岡工業高等学校
熊本県立	熊本工業高等学校
私立	揚志館高等学校



入選賞牌
賞牌の原案は、サモトラケで発見された「ニケの像」をモチーフとしたものです。

「喜多俊之のデザイン」展

日本とヨーロッパを拠点にしてプロダクトデザイン分野で活躍する喜多俊之氏の、機能とフォルムを兼ね備えた作品の数々、またライフワークとして日本の伝統工芸と取り組んだ作品が、テクノポート線開通で行きやすくなった大阪南港ATCのITM棟・大阪デザイン振興プラザギャラリーで展示される。

このデザイン展には、1997年秋にニューヨーク近代美術館に選定された作品を含め、パーマネントコレクションのコーナーも設けられている。

■「喜多俊之デザイン展」

会　期　1998年1月15日(祝)～2月8日(日)
10：00～18：00（水曜日定休）

会　場　大阪南港ATC ITM棟10階
ODPデザインギャラリー＆ショーケース

入場料　大人500円（前売400円）、学生300円、
中学生以下無料

主　催　アジア太平洋トレードセンター㈱

■記念セミナー「デザインの未来」

日　時　1998年1月17日(土)15：00～17：00

場　所　ATC ITM棟6階・スカイアトリウム

定　員　300人（要予約）

参加料　2000円（終了後パーティ）

申込先　大阪デザイン振興プラザ（TEL06-615-5510）

内　容　プロダクトデザイナー・喜多俊之氏とインテリア雑誌CASA BRUTUS副編集長・平沢豊氏による、モノが氾濫する現在社会における、現状を踏まえてのデザインの在り方、デザインの本質についてのトーク。

問い合わせはATC ITM事業部（TEL06-615-5506）または大阪デザイン振興プラザへ。



Aki, Bki, Canta



2 POINTS WATCH

「現代英国建築とそのヨーロッパにおけるコンテクスト」展

日本各地で「英国祭98」が予定されているが、このプログラムの一つとして、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ、ロンドン［英国王立美術院］の企画で「新しい都市環境：現代英国建築とそのヨーロッパにおけるコンテクスト」が1月に東京で、引き続き5月には広島市現代美術館で開催される。

現在、英国では様々な建築言語とアプローチをもつ建築家たちが、注目すべきプロジェクトを提案している。そこには、様式的な分類を横断し、現実に向き合い、芸術と技術の統合体としての建築を実践的に創造する姿勢が見られる。

この展覧会では、都市問題に創造的に取り組み、画期的な成果を上げている英国の建築家の最新プロジェクトと、英国以外のヨーロッパの都市における類似事例を比較しながら、その共通性、差異を検証する。

会　期　1998年1月24日(土)～2月22日(日)
10：30～18：30　2月15日(日)休館

会　場　パークタワーホール（新宿パークタワー3階）
東京都新宿区西新宿3-7-1

観覧料　一般800円、中学生以上600円

構　成　41組の建築家、85のプロジェクトを模型26点、大型写真、ドローイング、映像等で紹介。展示デザインは、英国の建築家マイケル・スティッフ氏が担当し、展示会場内に隠喩的な都市を構成する。

建築家　テリー・ファレル＆パートナーズ、フォスター・アンド・パートナーズ、ニコラス・グリムショウ・アンド・パートナーズ、ザハ・ハディド、磯崎新、ダニエル・リベスキンド、ドミニク・ペロー、リチャード・ロジャース・パートナーシップほか



ミレニアム・タワー［英国、ロンドン］フォスター・アンド・パートナーズ Montage：Tom Miller

世界の金融・ビジネスセンターのひとつであるロンドン・シティに計画されている超高層ビル。伝統的な町並みとの調和や計画規模の大きさで論議を呼んでいる。
設計は、20世紀後半の建築界を代表する、英国の建築家ノーマン・フォスター。

■記念シンポジウム「新しい都市環境」

日　時　1998年1月23日(金)14：00～18：00

会　場　ラフォーレミュージアム六本木
東京都港区六本木1-9-9　六本木ファーストビルBIF（最寄駅：地下鉄日比谷線神谷駅）

定　員　500人（同時通訳付、聴講料無料）

パネラ　安藤忠雄氏（建築家）
鈴木博之氏（建築史家）
テリー・ファレル氏（建築家）
リチャード・ロジャース氏（建築家）
ロバート・マックスウェル氏（建築史家）

申　込　参加希望者は所要事項を記入して、ハガキかFAXでデルファイ研究所内英国建築・都市環境展実行委員会事務局（〒102 東京都千代田区四番町8-13、TEL03-3222-5031、FAX03-3222-5033）へ。参加証を発行。

タキロン国際コンペ'97入賞者

「都市内『非都市』」をテーマに行われた第9回タキロン・国際デザインコンペティション'97は、応募作品総数240点（海外34点）を数えた。審査（石井和紘氏）は昨年11月6日に行われ、入賞作品17点が決定。1等入賞は千葉大学大学院生の島崎衛・田平康二・中西敏さんの「When The City Get Temporality」。

1等入賞：島崎　衛／田平康二／中西　敏



大学院博士課程社会人選抜

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科平成10年度博士後期課程の社会人特別選抜は、研究機関、教育機関、企業に正規職員として勤務する技術者または研究者であって、修士の学位を有する、あるいは外国の大学で修士に相当する学位を授与された者を対象とする。

募集人員　機能科学（造形科学講座、環境デザイン科学講座、機能設計科学講座等）専攻若干名

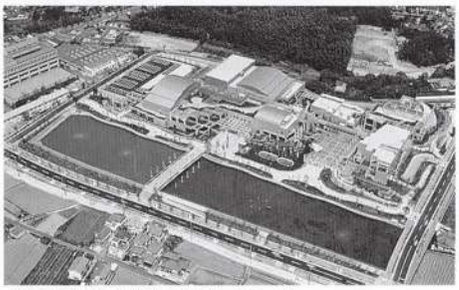
出願期間　1998年1月13日(火)～1月16日(金)

出願手続　所定の出願書類に検定料30000円を添えて、京都工芸繊維大学庶務課大学院係（〒606 京都市左京区松ヶ崎橋上町　TEL075-724-7022）へ提出。または郵送。

学力検査　1998年2月2日(月)10：30～16：30
京都工芸繊維大学内

合格発表は2月13日(金)。入学料275,000円、授業料(年額) 469,200円。応募に関する質問、募集要項の請求は、庶務課大学院係へ。

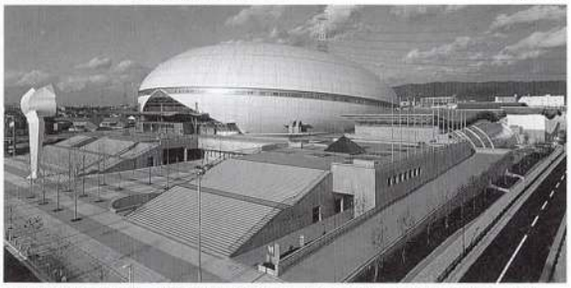
第17回大阪まちなみ賞決定



大阪府知事賞　泉佐野市総合文化センター



大阪市長賞　大阪シティエアターミナル（OCAT）



大阪府建築士会長賞　大阪府立門真スポーツセンター（なみはやドーム）



特別賞　桜ヶ丘大正住宅改造博覧会跡地



奨励賞　大阪府立中央図書館



奨励賞　ホテルシーガルてんぽーざん大阪



奨励賞　吹田市江坂公園駐車場・江坂図書館・花とみどりの情報センター



奨励賞　二葉幼稚園

大阪府・大阪市・大阪府建築士会共催の大阪都市景観建築賞（大阪まちなみ賞）の表彰式が、12月18日に大阪市立中央区民センターで行われた。今回の記念講演は、阪神大震災を1年間にわたり取材してきたNHK大阪チーフアナウンサー佐藤誠氏の「みんなでまちづくり～阪神大震災の教訓を生かすには～」。講演のあと、今回は「大阪・心のふれあうまちづくり賞」受賞施設と合わせて、「大阪まちなみ賞」受賞作品がスライドで紹介された。

大阪府下の建物・まちなみについて推薦のあったもので応募条件を満たし審査対象となったのは120件、審査（委員長：紙野桂人氏）の結果8点が入賞した。

ロレアル賞連続ワークショップ

「色」を題材に、科学・芸術・ファッション・環境デザインなどの識者が様々な切り口で討論を行う「ロレアル賞ワークショップ」は、科学と芸術のコラボレーションが生まれることを期待して、ワークショップへの参加者を募っている。

会　場　東京デザインセンター BF ガレリアホール
東京都品川区東五反田5-25-19

参加費　一般各回1000円（5回分3000円）、学生無料

申込先　アーツアンドサイエンスファンデーション
（TEL0298-47-7983、FAX0298-47-7985）へ
FAX で。

テーマ「色」―科学と芸術の出会い―

●第1回「CG における自己組織化理論と人工生命論」
日時　1998年1月8日(木)18：30～20：30
講師　河口洋一郎氏（筑波大学芸術学系助教授）
徳永幸彦氏（筑波大学生物科学系助手）

●第2回「西洋墨流しに新しい科学の芽をみる」
日時　1998年1月9日(金)18：30～20：30
講師　三浦永年氏（マーブル・ペーパー制作者）
永山国昭氏（生理学研究所教授）

●第3回「絵画の色の分析」
日時　1998年1月13日(火)18：30～20：30
講師　藤幡正樹氏（慶應義塾大学環境情報学科助教授）
小林光夫氏（電気通信大学情報工学科助教授）

●第4回「ファッションと色彩心理学」
日時　1998年2月5日(木)18：30～20：30
講師　千々岩英彰氏（武蔵野美術大学教授）
コシノジュンコ氏（ファッションデザイナー）

●第5回「都市のなかの光と色」
日時　1998年2月6日(金)18：30～20：30
講師　韓亜由美氏（デザイナー）
伊東豊雄氏（建築家）

第11回「大阪市ハウジングデザイン賞」受賞住宅決定

昭和62年度に創設された「大阪市ハウジングデザイン賞」の平成9年度の受賞住宅が決定し、昨年12月5日に大阪市長公館で表彰式が行われた。

■ハウジングデザイン賞

・メゾン文の里　阿倍野ツイン（阿倍野区美章園3）
事業者／住友商事㈱、設計／㈱日建ハウジングシステム、施工／㈱大林組

・「四季彩都」くすのき館（城東区新喜多東1）
事業者／進和不動産㈱、㈱長谷工都市開発、設計施工／長谷工コーポレーション

・RE-SOUL 清水谷（天王寺区清水谷町19-1）
事業者／田中一三、設計／㈱田中啓文総合建築研究所、施工／㈱冨士工大阪支店

■ハウジングデザイン賞特別賞

・アルス帝塚山（阿倍野区帝塚山1-14-26）
事業者／東急不動産㈱、設計／㈱新井組一級建築士事務所、㈱コム計画研究所、施工／新井組

大阪市内に平成4年4月1日～平成9年5月31日に完成した民間集合住宅を対象とし、推薦・応募のあった204住宅の中から審査（委員長：巽和夫氏）の結果選ばれた。今回推薦・応募してきた住宅は、色使いが控えめで落ち着いた雰囲気のデザインが多く、材質の選び方にも工夫やコスト低減の努力が感じられたという。



メゾン文の里　阿倍野ツイン



「四季彩都」くすのき館



RE-SOUL 清水谷

特別賞



アルス帝塚山

日本建築協会

月間の動き

【平成9年10月分】

理事会

第4回定例理事会
22日　4時～5時10分・於本会会議室
出席者　岡本副会長ほか23名
議　事　(1)入・退会者承認の件
　　(2)後援名義使用承認の件
　　(3)事業報告

編集委員会

第7回構造分科会
1日　6時～8時半・於本会会議室
出席者　田辺幹事ほか3名
議　事　(1)2月号「コンクリート」特集の企画
　　(2)「構造の頁」の企画
第7回施工材料分科会
6日　4時～6時・於本会会議室
出席者　十倉幹事ほか2名
議　事　(1)特集企画の検討
　　(2)「施工材料の頁」の企画
第7回会員企画小委員会
7日　6時半～8時半・於本会会議室
出席者　東宮委員ほか2名
議　事　シリーズものの報告と掲載予定
第6回法令分科会
8日　2時～4時・於本会会議室
出席者　城戸幹事ほか4名
議　事　(1)委員の交代
　　(2)「法令コーナー」の企画
　　(3)「地球温暖化防止と建築」特集の企画
第6回設備分科会
8日　6時～9時15分・於本会会議室
出席者　桝井幹事ほか6名
議　事　(1)「設備の頁」の企画
　　(2)来年度の設備特集の企画
第7回編集委員会
9日　6時～8時半・於本会会議室
出席者　與謝野委員長ほか8名
議　事　(1)11月号「私の空間作法―会員作品」特集経過報告
　　(2)12月号「第44回青年技術者」「京都駅ビル」特集経過報告
　　(3)10年1月号「新しいまちづくりの予感―震災を乗り越えて」「東畑建築事務所」特集経過報告
　　(4)10年2月号「コンクリート」「九州」(仮称)特集企画検討
　　(5)新シリーズ「素材とデザイン」(仮称)企画検討
　　(6)平成10年1月号～6月号「建築の眼」新執筆者検討
　　(7)平成10年1月号～12月号表紙改訂の件
　　(8)平成10年度編集方針
　　(9)平成10年度特集担当分科会検討
　　(10)収支状況報告
第8回構造分科会
15日　6時～8時半・於本会会議室
出席者　田辺幹事ほか4名
議　事　(1)編集委員会の報告
　　(2)2月号「コンクリート」特集の企画
　　(3)「構造の頁」の企画
第7回作品作風小委員会
23日　6時半～8時半・於本会会議室
出席者　宮地副委員長ほか8名
議　事　(1)作品の掲載状況並びに掲載予定
　　(2)作品の選定
　　(3)「gallery」「SKETCH BOOK」欄掲載報告・予定
　　(4)11月号“会員作品特集号”

事業委員会

第4回見学会小委員会支部交流合同分科会
2日　6時～8時・於本会会議室
出席者　福島副委員長ほか5名
議　事　当日のスケジュール及び役割について
第6回若い会員の集い小委員会
14日　7時～9時・於本会会議室
出席者　石井委員ほか4名
議　事　実施報告及び今後の予定

出版委員会

第6回出版委員会
16日　5時半～7時・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか5名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
　　(2)今後のテーマと執筆者選定

見学会

近代建築見学会／日本銀行大阪支店
31日　3時～4時45分　参加者38名

教育委員会

建築工事実務講習会（東海支部主催）
2日　9時半～5時・於昭和ビル
「施工計画」細田泰彦氏／清水建設㈱名古屋支店
「仮設見積」佐渡政勝氏／㈱大林組名古屋支店
「積算業務」佐野洋治氏／㈱竹中工務店名古屋支店
受講者　85名
第43回工高生デザインコンクール審査会
18日　2時～6時半・於本会会議室
出席者　菅家審査委員長ほか審査員13名
　　片倉教育委員長ほか教育委員8名
議　事　応募作品123点の審査ほか

80年史編纂委員会

13日　4時～6時半・於本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか6名
議　事　80年史編纂について

建築クラブ

第306回朝食会
14日　8時半～10時　於リーガグランドホテル
演題「思いの心は人生をつくる」
講　演　税理士　早川嘉美氏
参加者　45名

建築関係合同忘年懇親会

第1回実行委員会
14日　3時～5時・於本会会議室
出席者　多井実行委員長代行ほか13名
議　事　'97建築関係団体合同忘年懇親会開催について

入会者（敬称略）

〔団体会員1社〕
青葉印刷㈱
〔個人会員〕
今村　時夫（栗本建設工業）
加藤　文都（大成建設）
加藤　雅子（鴻池組）
島　修一（エーティーフォトセンター）
松塚　幾善（松塚建設）
松村　芳治（松村写真事務所）
杢谷　通夫（大成建設）
森下　修（竹中工務店）
〔準会員1名〕
田野　宏昌（大工大）

「建築と社会」誌

特集一覧● 1977~1997

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA4変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-348-0635、FAX 06-348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。なお、「建築と社会」創刊号～昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1977 Vol. 58	●デザインの動向―部分と全体＊	●兵庫県―その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	●コンクリートの品質管理と行政指導の方向	●日影規制と法＊	●身障者施設＊	●照明設備＊	●埋立地における構造問題―大阪南港と芦屋浜を例として	●日本住宅公団と建築作品	●ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ＊	●建築における省エネルギー化	●第24回青年技術者＊
1978 Vol. 59	●デザインの動向―新旧のコントラスト	●水＊	●医療施設―病院建築と情報システム	●外壁塗装材料＊	●電波障害と建築＊	●組合方式による集合住宅計画	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD―設計とコンピュータ	●一般号＊	●第25回青年技術者＊	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発＊	●大阪南港ポートタウン	●商業空間	●コンクリートのひびわれ	●日影規制＊	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌＊	●建築の終局強度の検討＊	●庄内のまちづくり＊	●80年代のインテリア＊	●第26回青年技術者＊	●建設業の労務事情＊
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築―まちづくりの歴史と展望＊	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建設金物＊	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集＊	●住宅の耐久性＊	●建築行政と法規＊	●最近の防水工法＊	●都市景観とアメニティ＊	●屋内体育施設の設備＊	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材＊	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅＊	●これからの建築設計と新耐震設計法＊
1981 Vol. 62	●職能論＊	●中国の論文―北京の都市計画＊	●ポートピア'81＊	●台所まわりの計画と設備＊	●シーリング材の知識＊	●災害と法―安全な環境をめざして＊	●都市住宅―住まい手からの発想＊	●建築物と風―デザイナーのために ●日建設計作品集＊	●住宅・都市整備公団―関西における都市整備を中心とした新公団の役割＊	●間仕切壁の性能評価＊	●第28回青年技術者＊	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開＊	●省エネルギーと開口部＊	●医療施設―地域医療と設備計画＊	●近畿の地盤と地質＊	●都市景観―まちなみ美観への誘い＊	●大阪市庁舎（第一期）＊	●ホール建築と音＊	●大スパン構造＊	●昭和設計作品集＊	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築＊	●風土・空気と人間＊
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設＊	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール＊	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル＊	●ビルのリフレッシュ―内外装補修技術の現状と発展―	●建設産業とロボット開発	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル＊	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール―それが生みだす文化―	●建物の表情―最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合―人体と建築にみる― ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザイン―ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて― ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イ′クステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明	●制振	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法＊	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備Ⅰ	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざして―＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくり―Ⅰ―	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり―Ⅱ― ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界― ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語―人がかわる、まちがかわる―	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム―	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台―仮設の魅力に学ぶ― ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割― ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境―人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって―会員作品	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美―建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界＊	●音―騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法―会員作品	●新しい「都市・建築」の視点	●建築構造と社会の接点 ●日建設計	●ライフラインと建築設備	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 Vol. 77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念	●遠江―その地域振興と文化＊	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品＊	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 Vol. 78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり＊	●東海―風土・文化とまちなみ、建築	●創立80周年記念―建築と私と社会―	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へ― ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル

＊印欠号

東畑建築事務所
創立65周年特集

輝く個の集積と多様な建築表現

TOHATA ARCHITECTS
& ENGINEERS, INC.

座談会

輝く個の集積と多様な建築表現

岡田　聿之（大阪事務所 取締役・建築設計室長）
谷　淳之介（名古屋事務所 取締役・所長）
萩原　信行（東京事務所 取締役・計画担当）
吉村　英祐（大阪大学 助教授・本誌編集委員）―司会

吉村（司会）　東畑建築事務所創立65年、おめでとうございます。本日は創立者の東畑謙三氏ともゆかりの深い、日本建築協会の会誌「建築と社会」の記念特集のための座談会ということで、現在、大阪、東京、名古屋において、それぞれ設計を統括しておられる三氏にお集まりいただき、昭和から平成へと激動の時代を経て今日にいたる事務所の歩みを、皆様の入社のころの思い出から、第一線で活躍しておられる仕事への取組ぶり、併せて将来を背負って立つ若いスタッフへの助言などまじえてお話を伺いたいと思います。では、まず入社順ということで岡田さんから。

産業建築全盛のころ

岡田　私が入社したのは昭和36年（1961年）です。
当然設計志望ということで入りましたが、事務所のイメージとしては製鉄や紡績関係の工場、その他コンクリートサイロとかが半数以上でエンジニアリング部門が強いという印象でした。学生時代に学んだ建築デザインよりも技術力を要求される建築物が非常に多かったということ、雑誌などで見る他の設計事務所とはちょっと違うなあという感じでした。

吉村　東畑先生は戦前は工場建築を数多くやられて、戦後もしばらくは八幡製鉄に代表される産業建築に重きをおかれていましたね。入社されたころはまだその雰囲気が色濃く……

岡田　かなり濃厚でした。
戦前日本が世界的に実力をつけつつあった1930年代、産業面の設備投資が盛んな時代と、戦後の産業復興時代に沿って事務所も発展してきたと思います。

吉村　当時の事務所の作品・作風を理解した上で、むしろそこに魅力を感じて……

岡田　学生のころ『建築と社会』や『新建築』で作品を見て、中庸という言葉がぴたりの作風と思っていました。この言葉はどちらかというと消極的な意味にとられがちですが、むしろそこに積極性を見いだすような、何か魅せられるものがあったのを覚えています。まあ地味な感じではありましたが。

吉村　入社のころの印象はその辺にして、次に10年目ぐらいに関わられた大阪市の環境科学研究所についてどうぞ。

岡田　あれは昭和47年ですから、11年目ですね。初めて全体を任された、わたし自身はそう思っていますが、上のほうはかなり心配して見てたと思いますが、あまり口をはさまれることなく最後まで担当した初めての作品です。

吉村　当時のデザインの流行もかなり取り入れて……

岡田　そうです。コルビュジェでいうブリーズソレイユなんです。当時の『建築いろはカルタ』で「こ」の項、「困ったときはコルビュジェを」ですかね。
敷地が東、西面に向いていて、西日の問題と、住居地域で低層住宅を見下ろす問題もありバルコニーをつけることになりました。内部が化学系実験室なので器材を直射日光から守るとこと、それと実験にともなう、万一の事故の際の避難通路を外側にも設けたいこともあって、形から入ったのではなく、むしろ必然的にあの形になりました。

吉村　いまの話は大変興味深いですね。デザインの必然性とか自然環境とか、もう一度考えなおす意味でも。次に谷さんは。

谷　私は昭和40年（1965年）に入社したんですが、当時の恩師から東畑建築事務所へ推薦しようかと、但し、５年位は鉄骨の図面を描かされるがどうかという話がありましてね。そのときはあまり深く考えもせずに推薦していただき入りました。
確かにその通りで入社後５年近くは鉄骨の図面ばかりではありませんでしたが、その類の仕事の毎日でした。

吉村　おそらく印象としても、先の話と似たような事務所の雰囲気だったんでしょうか。

谷　当時は東畑社長の時代でした、周囲からは大変恐い先生という話でしたが、初めてお合いしての感じは、その時すでに60歳を越えられていましたし、恐いというよりは円熟の境地に入っておられる雰囲気、そして風貌をしておられました。
事務所の特徴としては技術面重視の感がありました。


環境科学研究所



剛から柔の時代へ

吉村　そういう環境のもと技術をしっかり学ばれた上で、手掛けられたホリディイン南海・大阪と正面の大きなアーチが特徴的なインテックス大阪、最近増築されましたが、それぞれの作品についてお話してください。

谷　時代でいいますとホリディイン南海・大阪は東畑社長の時で、インテックス大阪は市川社長の時代になります。
ホリディイン南海・大阪については、当時の技術面優先の事務所のなかで、昭和50年代のはじめという時代的背景もあって、モダニズムに対しての一種の反省期というか、疑念の時代とも重なった結果の作品だったと思っています。
事務所としても、ホテル建築にあまり先進事例のない状態でしたが、シースルー・エレベーターや御堂筋から屋上庭園へ導く仕掛けなどいろいろ試みました。ほかに、斜めのガラスの屋根とか、これについてはあとで随分叱られましたが。

吉村　ちょうどポスト・モダンとかの影響が多少なりとも出てきた時でしたか。

谷　具体的にそういう言葉があったとはいえませんが、若い人を中心にそういう意識が芽生えてきていた時代だったとはいえます。

吉村　つづいて、最後になりましたが一番お若い萩原さんから。

萩原　私も谷さんの１年後に入社しましたから、東畑社長はやはり雲の上の存在で、直接の指導を受けることはほとんどありませんでした。私の場合は非常勤講師として大阪大学に来られていた最後の年の教え子で、その時の印象が強く残っています。設計課題には用紙の大きさに制限がなかったので、いつも私は製図板一杯の図面を書いていたのですが、ある時「君は体の大きさに合わせて図面を書きなさい」と言われました。先生はいつも言外に深い意味を込めておっしゃることが多いので、「あまり高望みをしないで着実に自分の能力に合わせてやりなさい」ということだったと理解し、いまだに肝に銘じています。

吉村　萩原さんもいろいろ作品を残されていますが、代表作をしいて挙げられるとすると……

萩原　私は入社後数年は転勤の連続で、本社に長くいなかったという点では、他のお二人とは少し違った経験をしています。
当時は各事務所を転々としていたんですが、そんな中で製鉄工場の仕事を九州で１年やりました。鉄骨は図面がきれいになるからと言われて勉強のつもりでがんばりましたが、反面こんな事でいいのかなという心配もあって、冬休みに当時は禁止されていたコンペなどにも挑戦しました。そういうハングリーになっていた時期に東京に転勤になり、最初の作品になる倉敷の山陽ハイツをいきなり任されたわけです。
未だ十分勉強ができていない時で大いに不安がありましたが、無我夢中で計画から設計監理まで１ラウンド任せてもらえたのは、今思えばラッキーだったなあと思います。
代表作と言えるのはもっと後に設計した武蔵野総合体育館など、一連の半公共的な中間領域をテーマにしたもので、私らしさが出ているんじゃないかと思っています。

吉村　東畑社長の時代をお三人にそれぞれ伺いましたが、私が学生のころに見た外見からの印象そのままに、がっちりとした作風、技術の裏づけをもった作品が多かったということですね。
昭和57年からの市川社長の時代に入り、少しずつ作風が変わってきているように見えます。いいところを残しつつデザインにも力を入れていこうということだと思うんですが、これは市川社長による方針の変更があったとか、社会的要求によるものなのか、その辺はいかがですか。



ホリディイン南海・大阪



インテックス大阪


岡田聿之氏


谷淳之介氏


萩原信行氏

東畑社長はコンダクター

岡田　建築をつくる上での本質的なものは変わっていないと思います。私は東畑社長というより東畑所長と言った時代に入社しましたが、当時の所長の言葉で設計作業をオーケストラにたとえて「私はコンダクターだ」と言われた。個々の演奏者は自分の受持ち部分を演奏するのはコンダクターより上手だがそれらをまとめていい音にするのはコンダクターで、責任を持つのもコンダクターだと。設計作業の中での一つ一つの個性をどう表現させ、それをいかに集団の作品として収斂させるかがコンダクターの役目だと。

東畑所長自身も最初はデザイナーであり作家であったわけですが、昭和38年頃に先ほどの「コンダクター」の言葉に見るように、自分自身がデザインに専心できないということもあって、自分より上手な演奏者を集めて、組織として動かしていくという“たとえ”としてうまいですね。

谷　私も入社したころ、東畑社長はなぜご自分でデザインをされないのかと、なるほど、わたしの入る２年前に宣言されていたわけですね。

東畑先生には、京都大学在学中に手がけられた、北白川の、当時東方文化学院京都研究所として使用されていた有名な建物をはじめ、先ほどのコンダクター宣言に至るまでの様々な作品がある訳です。私たちが直接知る時代にも、幾つかの小品を手がけられていて、そういうものを見せて頂いて、東畑社長が優れたコンダクターである以前にいかに優れた奏者であったかと思い知らされた気がします。

吉村　指揮者でも、実は第一バイオリンをやっていたとか、実際にそういう人が指揮をすると、また、深みがありますよね。

岡田　仮に第一バイオリン出身であっても、指揮者の立場で見れば他の奏者の上手・下手はわかるわけで。

吉村　今日、ご出席のお三人はそれぞれに東畑社長のイメージを直接肌で感じて持っていらっしゃる。短い言葉の中にある説得力というか深い意味をも教訓として理解しておられる。

谷　そういう感じがわかってきたのは、かなり後ですね。

わたしの経験で言えば、あれは確か、倉敷温水プールのコンペの時でしたか、当時、東畑社長は設計室へもよくこられてましてね。

丁度エレベーションを描いていたら、ふと立ち止まって一言「クラシックやな」。この建物はクラシックにしたらいいなあなのか、単に倉敷の語呂合わせか。はじめは何を意味しているのかなあと思ったんですが、後でよく考えてみると、倉敷というところをよく考えてクラシックなものを大事にしなさいという掛け言葉だったんだなと理解しています。

吉村　禅問答ですね。

岡田　私の時代はまだ具体的な指示がありましたね。東畑社長は趣味の世界でも中国陶器に詳しく、確かな審美眼を持っておられて、それをうまく置き換えて謎かけみたいな形にして若い人に言われたけれど、われわれから上の世代には、ダイレクトにきましたね。

それこそ直立不動で聞くという時代は私の年代が最後でしょうね。

谷　いや、それがね、我々が年を重ねてきて、15年位経ったころ、インテックス大阪のときなどやっぱり難題を持ちかけられました。当時東畑社長はそろそろ80歳でしたか、一生懸命に計画をしていると、いろいろと議論をふっかけてくるんです。忙しい最中に難しいことを言ってくるなと思っていましたが、後々良く考えてみるとわかるような話が多いですね。

そういう時代の流れの中で市川社長にバトンタッチされたわけで、アトリエ的な雰囲気を持った組織から新しい時代へ移っていくんだなという思いを実感しました。

吉村　市川社長は、おそらく若い人に少しずつ任せていこうとい


山陽ハイツ


東方文化学院京都研究所


吉村英佑氏

う方針もおありなんでしょうね。

市川社長は演出家

谷　そうですね。市川社長も建築家ですから、ご自身建築に対する信念は当然持っておられるわけです。我々と同年代のころには作品をつくってきてますし、言いたいところはいろいろあるはずですが、社長室での説明の際でもあまり厳しくは言わないけれど、それらしいことはハッキリ言われます。ただ社長就任挨拶の言葉のなかの「個」を大切にしたいとの方針のもと、どこまで言うべきかを考えた上でのこととは思いますが。

吉村　若い人を育てるということは大変ですね。新しいデザインを会社に吹き込もうとすると、若い人にある程度任せなければいけないですが任せ過ぎると危なっかしい。その辺のバランスをとるのが難しい。その過程で事務所のいいところを継承しつつどう育てていくかにつき、それぞれの立場で日々苦労されていると思いますが。

岡田　組織事務所のあり方としては、「個」の力量が平均していて、その中に多少の個性を表面に出すということで進んできたけれど、これからは「個」の持つ力をもっと尊重した個性の集団という考えが、根底にあるべきでしょうね。

萩原　「個」を生かす組織としては、明らかに間違いといえるものだけを指摘して、好みであるとか意匠面についてはある程度担当者に任せる、というのが望ましいと思います。ただ、そのためには「個」である担当者も、それに応える高い個性を持ち合わせていなければならないし、我々も好みを越えて良いものを拾い上げる目をもっている必要があると思います。

谷　東畑社長がコンダクターだとすると、市川社長は演出家だと思います。東畑建築事務所という大きな舞台の上で一人一人が個性を持った俳優として演技をしてもらいたい。演出家としては照明とか音響とかで舞台効果を高めてひとつの作品にもっていく。
まあ、そんなことを考えておられたのかなと感じてはいましたが。

岡田　たとえ話ばっかりで、音楽会がこんどは演劇になった。歴史的に振り返ってみても、創立時は単純なピラミッド型組織だったものが成長して、そんなピラミッドがたくさん集まってモザイク状を呈してきてひとつのパターン化した綺麗な絵になった。
組織の多様化ということでしょうか。

萩原　時代背景としても多様化の時代になって、いろんな価値観が出てくる。また消費社会も成熟して、ポスト・モダニズムの傾向に拍車のかかった時期でもありました。
社会的にも新鮮な提案を要求され、コンペも盛んになってきた時代でもあったように思います。

谷　そうですね、ちょうど市川社長就任のころから、大規模なコンペやプロジェクトが増えてきました。もちろん東畑社長の時代も、最後半の７～８年はコンペはつづいていましたが、先ほどの萩原さんの指摘のように、バブル期を目前にした時代的背景もあって、かなりな数のプロジェクトに参加するようになり、市川社長のとられた方針もそういう方向に向かう形として当然のことと思います。

吉村　東畑社長から市川社長に変わられてから、個人の顔が少しずつ見えてきたと思われます。例えば、建築関係の雑誌に作品が掲載される際にも、設計主旨等も会社名だけでなく個人名も載るようになりましたが、担当者にとっては励みになりますね。勿論、責任も伴いますが。お三人にとっては隔世の感がおありでは。

谷　わたしどもの場合は、確かに東畑社長の時代はあまり前面に出さないという雰囲気は残っていましたが、市川社長になって以降は担当した作品には名前を出すようになりました。

岡田　やはり個人の名前が出ると、それなりに意識も変わるとは


横浜国際総合競技場


埼玉広域合同庁舎

思いますが、クライアントは組織に対して仕事を出すわけで、あまりそこで「個」が前面に出てくると、うまく波長が合う合わないの話が出てきて…、なかなか難しい問題です。

ビッグ・プロジェクトへの挑戦

吉村　つぎに、65年の実績を基に、将来に向けての展望も含めて大阪、東京、名古屋各事務所で取り組んでおられるビッグ・プロジェクトなどを軸に現状をお話してください。

萩原　東京事務所は官庁物件の比重が高かったせいか、主な作品はコンペ・プロポーザルによるものが多いんです。役所は実績を重視しますから、小さなものでも積極的にコンペに参加して実績を伸ばしながら、徐々に大規模なプロジェクトへとつなげてきた。

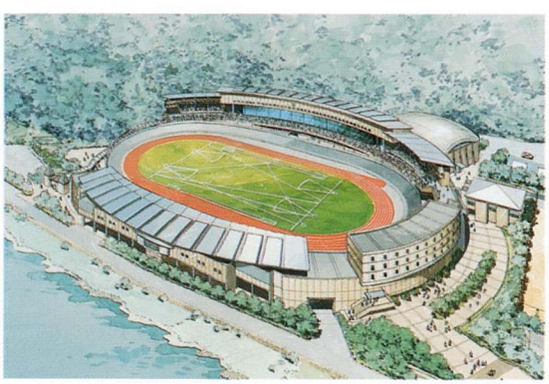
その一つのジャンルがスポーツ施設ですが、中でも特に大きなものとしては、松田・平田さんと設計JVで最近竣工したばかりの横浜国際総合競技場があります。これは国内最大７万人収容の競技場で、横浜国体や2002年ワールドカップのメインスタジアムになる施設です。

新しい形での国際化として、埼玉広域合同庁舎では国内２社と海外１社の設計JVで、文化の違いによる大変貴重な経験をしています。

吉村　東京にひきつづき大阪事務所では今……

岡田　大阪事務所でも最近スポーツ施設が多くなりました。今設計中のものでは、高知市総合運動場があります。これも、組織事務所のメリットというか、東京での経験やノウハウを導入する、経験豊かな担当者を呼んでチームを編成できる。

それと、省資源、省エネルギーの時代になって、スクラップ・アンド・ビルドの時代から、いい建物はリニューアルしながら残していこうという傾向になってきた。これからは新しいものを設計するだけの時代ではなくなってきました。



高知市総合運動場

吉村　大手組織事務所の中にはリニューアル室を独立させているところもありますね。

岡田　入社して最初に手掛けた建物が25～30年たつとリニューアルの時期になる。組織事務所の宿命として常に新陳代謝を図ることから当時の担当者もそろそろ定年を迎えるころになる。

私の例でいいますと、最初の作品、環境科学研究所が築後25年位ですが、たまたま、先の阪神・淡路大震災のこともあって、今耐震補強と共にリニューアル計画がある。過去に担当した色々の想いのある作品を年を経て、また、リニューアルしてやって更なる延命を図って建築担当者は寂しく消えていく。担当者個人はそれで終わりですが、建物はずっと生きつづける。組織としても、建物がある限り個人の意志を継いで責任を持って引き継いでいくということです。撤退の哲学とでも言いましょうか。

吉村　それでは、名古屋事務所の谷さん。

谷　　名古屋は経済圏としては日本の10分の１とかよく言われますが、最近の社会、経済情勢のこともあって大型プロジェクトは影をひそめてきています。

そんな中で、富山県西部体育館をコンペで取ったとか、再開発系としては日比野第１種市街地再開発も現在動いています。

それと、これは環境問題とも関連しますが、名古屋市の大型破砕施設、東洋一の規模で最近竣工しました。

一口に中部圏といっても関西のように三大都市が都市圏を形成しているのと違って、名古屋都市圏を核にして地方都市がひしめいている。そういう中で経済活動の低迷や、農村の荒廃とかに対して、村づくり、町づくりをめざしたモノづくりが進んでいる。名古屋事務所としてもこうした背景をもとに関連した建物を中心に相当力を入れて取り組んでいます。

例えば、小、中学校はもとより、文化施設としても一時のような文



富山県西部体育館

化ホールではなく、地域に密着した図書館とか、考古博物館、鉱物系の博物館とか専門化されたものが増えてきました。

「個」の光る組織

吉村　今のお話を聞きますと、バブル期のようなあまり意味のない建築が減って、福祉、環境、スポーツ施設のように、造形も大事だけれど技術的裏付けの確かな設計のものが多くなったともいえますね。そういう意味でもこれから事務所を支えていく若い人には感性を磨きつつそういうところの勉強も必要ですね。
つぎに、真塚新社長になられて、市川前社長とは違った面も出てくるんじゃないかと思うんですが、事務所あるいは建築界の将来について若い人たちに、アドバイス、ご意見を一言ずつお願いします。

岡田　まず個人のレベルが上がってこそ組織としてのレベルが上がるので、それが反映して経営が安定する。そこに個人のレベルが上がりいい作品が生まれる。この繰り返しだと思うんです。
これは一つの輪になってつながっていて、どこが原点かは決められなくて、切り口はいろいろありますが、まず個人に勉強してもらいたい。百聞は一見にしかずで、建物の良し悪しは関係なくとにかく生の建築を見ることです。本ではなく、何が良かったか、どこが悪いかを実体験すること、それから手を動かすこと、鉛筆と定規で描いてみることで感性を養うことです。最近はCADの画面の中だけで処理しようとしている。良い建築をつくるための道具、手法の一つであると割り切ればそれまででしょうが、あれで自分の感覚が掴めているんでしょうかね。

吉村　CADの使用でいちばん問題なのは、スケール感がなくなることです。一例ですが、CADをよく使っているある大学では、ほとんどノースケールで考えるからか、50分の１のスケールで住宅を設計させてみるととんでもないドアの幅のトイレを作ったりする。要するに人間の大きさと画面の大きさとの感覚がもうひとつ理解できていない。


日比野第１種市街地再開発

谷　人間は手、足、眼、耳などを使って幼いころから感性を体得してきた。その延長線として自分で絵を描き、線を引き、建築家であればデザインをしている。手を使ってみてわかってくるものもあるわけで、これからも大事にしていって欲しいですね。

吉村　CADはうまいけれど、木を描かせたら綿菓子みたいな木を描くんですね。要するにスケッチによって物をじっと観察することも大切だと思います。停電したら設計できないということもある。

岡田　ワープロで手紙を書くようになって字を覚えなくなった。建築の製図の世界でも同じように大きな落とし穴があるんじゃないか心配ですね。画面の中の三次元といっても、やっぱり平面上の三次元であって空間体験ではないですからね。

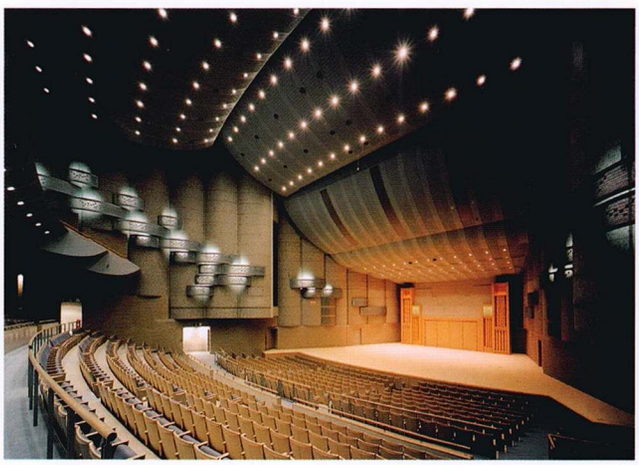
吉村　同じく若い人たちに一言。

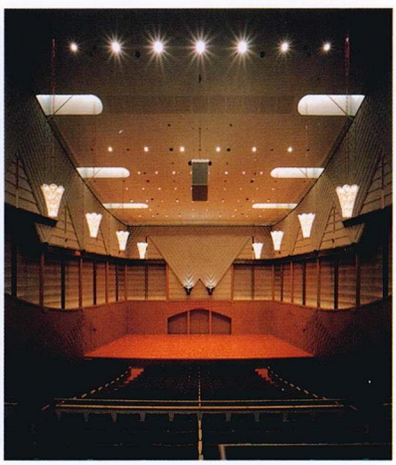
谷　先ほど、岡田さんが言われたことに通じますが、本物を求めてほしい。単に建物が美しいとかの表面的なことに限らずもっと裏に隠れたもの、仕組みというか本来ある秩序のようなものを探し出していくのが建築の仕事だろうと思うんです。

萩原　21世紀を視野にいれたキーワードには、情報化や国際化といった前向きのものと、高齢化や福祉の問題といった後ろ向きのものがありますが、後者は前者を味方につけることによって乗り越えることができると思います。先ほどCADの話が出ましたが、情報技術は前向きにとらえる必要はあるんですが、あくまでそれは人間の弱いところを補う手段であって、本質は別の所にあるということを再認識する必要があるということでしょう。
東畑社長、市川社長の各時代を振り返ってきましたが、社会背景は工業化から脱工業化を経て情報化へ、建築の世界もモダニズムからポストモダニズムを経てネオモダニズムを志向していると言われています。先が見えない今、なにか転換期にきているような気がします。そんな中で大事なことはやはり個々の研鑽ではないでしょうか。組織として蓄積できることと、個人の磨かれた感性や技術力を持たなければならないものがあります。
組織事務所といっても個人の集まりですから、「個」が光らないと「組織」は輝かないと思います。

吉村　まとめにふさわしい言葉をいただいたと思います。本日は皆さんお忙しい中、ありがとうございました。（了）









松村孝治
大阪事務所・設計部
1974年入社

50才を迎えて、継続することそして人と出会うことの、むづかしさと大切さについて、しみじみと考えています。



大塚裕弘
大阪事務所・設計部
1979年入社

鍛えんとして無理に力んだら、脱臼する。意識して弛めすぎると、持ち上がらへん。うまいこと肩の力を抜いて、ものを運ぶのは、ほんまに難しい。

泉佐野市総合文化センター









■地方文化の創造と活動の拠点として
用水池跡が敷地であることを利用して、池底を車のレベルとし、地上は全てを歩行者に開放している。人工地盤を感じさせない起伏のある緑の中に点在させた4つの施設と、里山がもつ「みち」と「ひろば」を空間構成の軸として、その昔、「茅渟（ちぬ）の里」と呼ばれていた泉南地方の夕映えの美しさと、山と海に恵まれた泉佐野市がもつ地勢の多様さや四季折々の風情の豊かさを表現した。外部空間の変化に富んだ風景を取り込み、内部にいながら季節や時間の変化が楽しめるのも、この施設の特徴である。





大野城まどかぴあ



■芸術・情報・学習の多彩な施設

当施設は、大野城市の市制20周年を記念して“心と文化のある都市づくり”をテーマに市民の文化、芸術・情報の交流拠点となることを願って市庁舎隣接地に建設された。

設計にあたっては個性豊かな都市文化を育むひとつの「街空間」を創りたいと考え、「都市の中の都市」をキーワードに形態は様々な要素を持った建物の集合体として「街」を表現し、階ごとに表情を変えながらセットバックして行く外壁や植込、回廊などによってヒューマンスケールを保ちつつ周辺との調和を図っている。

また内にはホールや生涯学習センターなど、多彩な施設があり、各々独立した機能を保ちながら有機的な公共空間（ギャラリーモール、シティープラザ、回廊）によって界隈性のある交流の場を創り出している。







三浦　義行
九州事務所・設計部
1971年入社

「人は何処から来て何処へ行くのか」と言う問いかけと同様に我々も何処から来て何処へ行くのだろうと時折考える。恐らく人々が何も考えなくなって立ち止まった時にその終焉は来るのではないか、そんな我々を見捨てるような社会が来ない事を願ってこれからも新しい何かを提起し続けたい。

京都ガーデンパレス



■歴史の継承と文化の向上のために

京都御所・蛤御門前の歴史・文化・自然の豊かな街並みを背景に『伝統と創造』を基調に『ガーデン』のイメージを継承する“パーソナルなホテル”である。

京都御苑の緑に囲まれる環境に対し、烏丸通の街路空間づくりと共に、水平線を強調する深い庇とむくりをもつ緑青銅板葺の屋根の重なり、雁行・分節された外壁の構成は、『和の繊細さと洋のやさしさ』に包まれた穏やかなフォルムを形成し、新たな京都の風景を創り出した。

■悠久の時の流れのなかで

京都の地での『蛤御門の変』は、歴史上の出来事ではなく、連続して流れる時間の中の、ほんのひとこまの出来事にすぎない。なにせ地面を少し掘れば応仁の乱の焼け土が出、さらに掘れば、平安のかわらけが出てくる土地柄である。住民の営みは、絶えることなく今に続いているのであり、その時の流れと断絶した昨日今日の造形は、人々の眼にいかにも浅く虚しく写る。悠久の時の流れを底流に、時代の世相を鏡のように映し出す、それが多くの人々を引きつけてやまない京都文化の本質ではなかろうか。その蛤御門の前に、京都ガーデンパレスは位置している。







吉井和男
大阪事務所・設計部
1972年入社

『ひとかどのものを創るためには、自分もひとかどのものになることが必要だ』の言葉の如く、環境づくりと自己の確立とは不二であり、『美と心の豊かさ』への挑戦でもある。

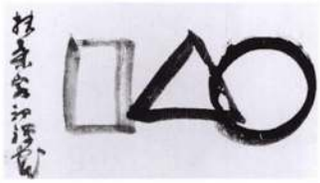


玉置豊始
大阪事務所・インテリア部
1973年入社

目の前が御所ということもあり、京都に伝わる雅さを現代の感覚で表現し、印象の深い空間づくりを目指した。

上牧町文化センター「ペガサスホール」





■上牧町ホールについて
仙厓のこの書が墨と筆という、原初的な手段で、ピュアな世界を表現しようとしているところにたまらない魅力を以前から感じていました。
グロピウスやロッシの初期の作品が持つ力強さに相通じる所があるように思えます。
この建物の設計中ずっとそんな事を考えていました。







北村　潤
大阪事務所・設計部
1977年入社

近頃世の中の建物は、私の体型の変化に反比例して軽く、透明になっていくように見えます。
今少し身体をしぼりこみ、ハードボイルドな建物をつくっていきたいと思っています。
困難な道であるとは思いますが…。
――もちろん、減量がです。

ひがしうら文化館



■町の文化活動の中心に

淡路島北東部に位置する、豊かな自然に恵まれた東浦町。この町の文化活動の中心として建設された“ひがしうら文化館”は、多機能ホール・図書館・ギャラリーの機能を併せ持つ複合文化施設である。

施設内容の決定や設計時の協議など、随所で町民の意見を採り入れたこの施設は、町民と行政とが一体となって創り上げた東浦町の「夢」を、カタチにしたものといえるだろう。

文化館のオープン後はや半年が過ぎ、各施設とも盛況と聞く。これからも“ひがしうら文化館”が、来館者に可愛がってもらえることを心から願っている。









須藤貴司
大阪事務所・設計部
1988年入社

臨機応変

井波彫刻総合会館





■光と影のコントラストと調和

この施設は、イギリスの建築家ピーター・ソルター氏のデザイン設計に依り、建物のスケールと構成は町の古刹である瑞泉寺をモデルにしている。
設計のコンセプトとして、日本的な材料や構造を取り入れ、中庭とそれを取り囲む展示室がつくり出す内部と外部のコントラストを強く印象づけながら、空間を狭めたり広げたりして、観る者に次への期待の高まりを予感させる。
また、井波町の伝統彫刻である欄間がそうである様に、光と影が互いに調和する空間構成となる様にされている。







松元親司
名古屋事務所・設計部
1974年入社

日本の街や、部屋の明りをもう少し暗くしよう。昼と夜とが交わる黄昏時を大事にしよう。そうすれば人の心の機微や、建物の壁がもう少しゆったりと深みを持って見えてくると思う。

大阪城天守閣「平成の大改修」



■大阪のシンボル“平成の大改修”

昭和６年に豊臣秀吉時代の天守閣をモデルにして再建された五層八階の鉄骨鉄筋コンクリート造建築も半世紀を経過し、今後建築齢一世紀を目標に、構造補強、バリアフリー対策をこうじた内外装の再生を計る「平成の大改修」となった。

外装は市民のイメージを損うことなく、再建時の化粧直しをおこない、内部は近代的歴史博物館として甦らせる事とした。

来たる21世紀も大阪のシンボルとして市民の中に生き続けることを願っている。

■耐震補強を主眼に

構造補強は、耐震安全性の向上と、耐久性の回復を目標に実施した。

耐震性は、地震応答解析結果に基づく建物の挙動、損傷程度を把握した上で、柱、梁のせん断補強による部材靭性の改善と、鋼板耐震壁の増設による保有水平耐力の向上を計ることにより確保している。

耐久性は、柱、梁のコンクリートのアルカリ性を回復する事により、鉄骨や鉄筋の防錆対策を講じている。







古田重治
大阪事務所・設計部
1964年入社

「近頃雑感」
地球にやさしく、建築にやさしく、建築は個であるとともに公でもある。市民の為の良建築を時代を超えて残し、地球環境を守っていきたい。



福森　享
大阪事務所・構造部
1977年入社

川に架かる橋、海に架かる橋のダイナミックでいて繊細な美しさに惹かれ、そんな構造美を建築にもと考えつつ、あっという間に、20年。

神戸市立フルーツ・フラワーパーク



■花・果実・人・建築へのいざない

「都市と農村の共存共栄」と「人と花と果実のふれあいの場」を基本テーマに、賑わいのあるロマンチックな場を形成することを意図している。配置は総延長1㎞からなる回廊で南北・東西の明快な軸線を構成し、多彩な広場の形成、各テーマパビリオンを有機的に連結している。
オープン以来、フルーツ・フラワーパークは各種イベントを通して、新たなる農業のスタイルを模索している。

「都市と農村の共存共栄」が基本テーマのイベント施設である。そのイベントとして冬期には、スケートリンクが設営されます。その製氷に使われる熱源を夏期にも利用し、氷蓄熱として冷房を行います。また、それを冬期の宴会場の冷房にも利用し、年間での熱源の高効率化を計っています。そのことにより、特別高圧も回避できイニシャル及びランニングコストの低減が行え、省エネルギーのシステムを構成しています。









松本博俊
大阪事務所・設計部
1964年入社

現在、個人と社会共同体の価値意識に歪みが出来、創造的破壊の様相を呈している。これには社会の変革、規制社会からの脱皮、意識改革からなる社会の再構築が急務である。
人間と環境、社会に向かいあった建築を…夢のプロダクト、イノベーションをめざして。



弓崎幸治
大阪事務所・機械設備部
1970年入社

建物内のエネルギーは出さず、外部からは入れず、動力を使わず自然を借りる、この理念を元に建物内でのエネルギーを「リサイクル」できるシステムを構成するように心がけています。地球温暖化等の環境問題の解決方法として。



パセオダイゴロー（西館）







■露地とパセオの組合わせ

パセオダイゴローへつながる四方八方にのびる街道は京の七口と呼ばれ、諸国からの文化を吹き込む道である。その道沿いに並ぶ町家の多種多様なファサードと古都の歳月を刻んだ、大路・小路・露路空間の概念を、緑道とアトリウム、さらに交流ロビーに持たせている。京都の街路構成と古都スペインのパセオ（遊歩道）空間を融合させ、いにしえの草木で色付けしたパブリックスペースを形成することにより、創造豊かな文化育成の場となることを意図して、福祉・スポーツ・文化・商業施設としてまとめた。



本持一博

大阪事務所・設計部

1966年入社

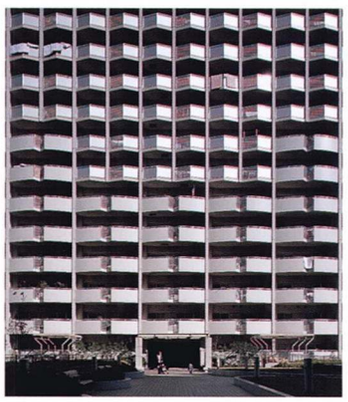
全ての与条件を凝縮させる…色彩・飾られる花までも…。混屯とした交錯する形線の中に、その建物でしか呼応しないコンセプトを与え、フレームを構成していく……。そして具体的なかたちへと移行させ知恵と感性を融合させながら実態空間を創造する。

シーリアお台場五番街



■発展する海上都市

「シーリアお台場五番街」は東京都住宅局、東京都住宅供給公社、住宅・都市整備公団の三者による共同事業として建設された。それぞれの賃貸住宅をはじめ、各種の文化・都市サービス施設や店舗等の生活利便施設が組み込まれた21世紀に向けての新しい街である。敷地のほぼ全面が人工地盤で、隣接する新交通システムの「お台場海浜公園駅」に向う周辺からの動線と、1、2階の駐車場、各施設への動線との交錯を立体的に解決している。









宮園建一

東京事務所・設計部

1971年入社

建築は、設計した者の想いをはるかに超える影響を、社会に与えつづける。将来にわたる社会の動きを常に見極め、その中での建築の果たすべき役割を考えていきたい。

江戸堀センタービル



■流れる雲をミラーガラスに映して

高層建物の足元に公開空地を配した典型的な賃貸オフィスビルである。敷地はなにわ筋と土佐堀通りの交差点に面している。

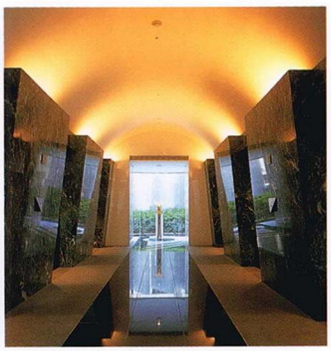
周辺は商業業務地区としては、未成熟で今後の都市化の発展を期待する地区の核としての存在を意識して計画された。

交差点に面して大きな曲面を描くガラスカーテンウォールは高層化される建物と周辺との形態上の親和効果を意図している。ミラーガラスには、周辺建物や街の緑、空の雲の動きが映し出され、街行く人々に時のうつろいを感じさせ、大きなボリュームによる圧迫感を和らげている。

歩行者レベルにおいても都市とインタラクティブに関係する建築でありたいと考え、交差点側に大型オブジェと豊かな緑地をもつ公共性の高い空地を提供した。

基準階はサイドコアプランを採用することにより、見通しの良い拡がりのある執務空間とし、EVホールやリフレッシュスペースにも自然光をとり入れ生活の場としての快適なオフィス空間をめざした。





■高度情報化社会に対応して

情報ネットワークの多様化やコミュニケーションメディアの多様化など情報通信分野はめまぐるしい進化を続けているが、次世代のオフィスOAに対応できる賃貸オフィスビルを目指して地区の核となるべく計画をした。

OA化対応としてはオフィスフロアーのフリーアクセスだけでなく、統合配線システムや光ケーブルによる情報通信系の先行配線、都市型CATVやビル内PBXなどの積極的な採用などを行ってきた。また24時間稼働のオフィスとしてモジュール単位の個別空調やキーボックス型のセキュリティーシステムはもちろんのこと、夜間に「残業」ではなく「稼働」というイメージのオフィスづくりを目指した。



塘　伸夫
大阪事務所・設計部
1971年入社

近年、快適性、利便性を追求するあまり、見失いがちになってきたものそれは自然に対する感性ではないだろうか。
建築は見るものではなく感じるものである。
人に感銘を与え、人の記憶に残る空間、そこには感性の空間が必要となる。感性のない空間は、ただの箱にしかすぎないのだから。



中野　格
大阪事務所・電気設備部
1982年入社

建物の中にいるとついつい時間軸を忘れがちにはならないだろうか？
昼間は「明るい」が夜間は「暗い」、夏は「暑い」が冬は「寒い」そんなあたりまえのサイクルがすこしは感じられながらも快適である設備でありたい。

瓦町三和三信ビル



■古き良き大阪の町を偲びつつ

大正期に活躍された建築家・片岡安氏の設計による、旧山口銀行本店の建替えである。

70年の年月を堺筋の歴史と共に歩んできた旧建物は、質感の高さと先取性にあふれた、船場を代表する近代建築のひとつであった。

設計にあたり、この船場が築きあげた大阪モダニズムの精神を引き継ぎ、歴史ある都市景観との調和を意図して、風格のある落着きと先取性の表現をそのテーマとした。







八杉政一

大阪事務所・設計部

1969年入社

ツーストライクを取られるまでは狙い球以外に手を出さない！

あらゆるデータを分析するが大切なことは、どのデータを読み取り、活かすかである。建築を組み立てていくことにも、ID野球の精神が活かせるのでは。

Bank of China



■新鮮なアイデンティティを求めて

敷地は、それぞれが干渉しながら固有の性格を保持している四本の街路に接している。

その街路の性格を、ビルディングモチーフとして取り出し、外皮としてのカーテンウォールに表出させることを表現のテーマのひとつとした。各街路に対して立つ4枚の壁が、違和感なく受けられることで「個」としての存在が浮かび上がることを意図している。









中村文紀
大阪事務所・設計部
1988年入社

私のような普通の設計者に求められていることは、誠実であることに他ならないと考えます。そして、それは私を沈黙の森へと導きます。開かれた沈黙の森は同時に閉じていて、永遠なる問いかけをしています。

象印マホービン本社別館





■雑然とした都会の中の爽快感

大阪市北区天満橋、本社ビルの100mほど南に位置するショールームと商談のためのスペースをもつオフィスビルである。乱立するオフィスビルや商店が創り出す街並みの雑然さ。そしてその中に無意識のうちに幾重にも織り込まれた不定型な線形や様々な形態（スカイライン、壁面線、等々…）。それらの線形や形態をデザインの要素として取り込み、バランス良く構成し、多彩な表情を創り出すことで取り留めのない周りの風景を巻き込んだ豊かさを表現することを意図した。また、その表現が「多彩な生活快感」を提案するという象印の企業イメージの展開につながると考えた。







上羽一輝
大阪事務所・設計部
1988年入社

社会性と施主や設計者の個人意志、建築行為と自然共生、与条件と設計者としての企画と提案、機能や技術面の充実とコスト、意匠・構造・設備、…、様々な要素の間に生じる「バランス」を見極め、デザインだけでなく全ての意味においてバランスのとれた建築を実現していきたいと考えている。

三神ビルディング



■震災復興の息吹をガラス面に映して

この建物は、震災復興民活第１号をめざした中規模テナントビルである。
敷地はJR三宮駅南地区に位置し、旧居留地の玄関口でもあり、商業・行政・文化ゾーンに囲まれた三宮地区の中心的な位置にある。
平面構成は敷地三方が道路に面する為、西片側コアーとし、三方に開口をもつフレキシブルでアメニティの高い執務ゾーンを確保した。外観は石の基壇部とタイルのコアー部をガラスカーテンウォールで優しく包こみ、シンプルな中にもキラリと輝く光と共にその表情は“飽きのこない”デザインでまとめてみた。





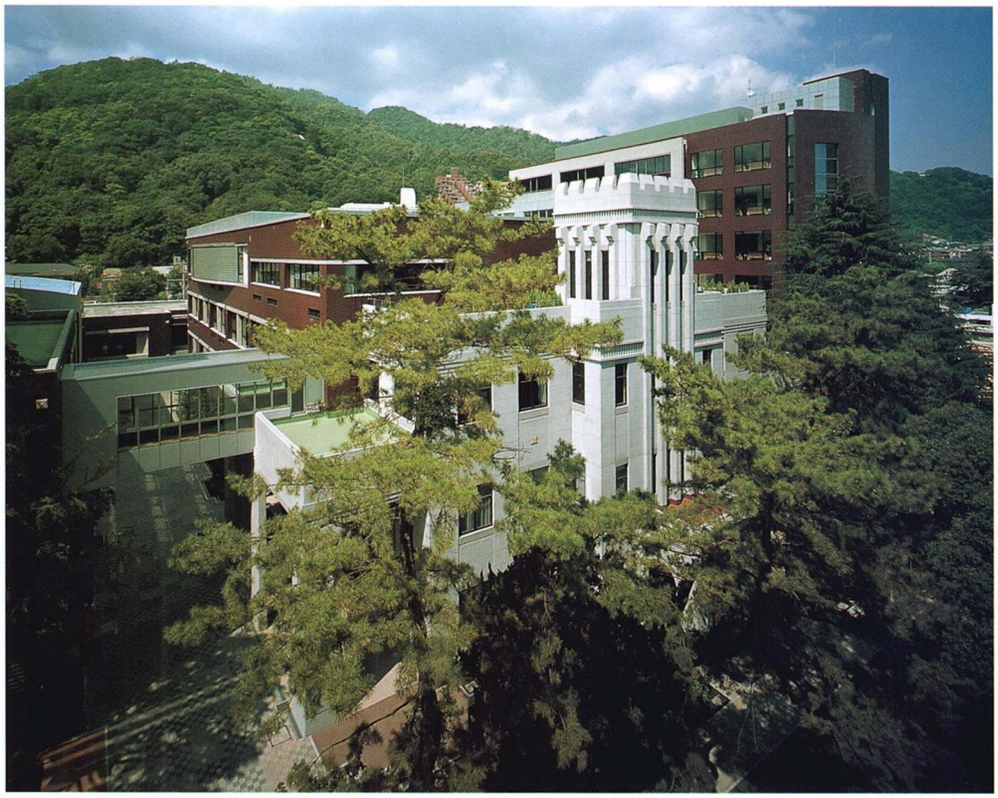




藤村　禎
大阪事務所・設計部
1971年入社

知足不辱

甲南大学





■歴史と伝統の継承

キャンパスの計画に当っては、アカデミックプラン（教程計画）とキャピタルプラン（財務計画）を基盤に、学生達の出合いの場のネットワークで空間構造の主フレームを構築し、心に響く環境をプロデュースして豊かな学園生活を送るフィジカルプラン（施設計画）の提案を旨としている。キャンパスの立地特性に加え、歴史と設立主旨が計画条件となるが、絶えず社会の息吹を注入し生きた空間の継承を心掛けている。今キャンパス内は震災の傷が癒え、表層は学生の笑顔が溢れている。





香西喜八郎
大阪事務所・設計部
1970年入社

創作行為が分業化された今日、再構築の為には、目的に対する人間の行動の動機をも包含した明確なプログラムの提示が求められる。建築とはコミュニケーションを顕在化する行為である。



西田裕亮
大阪事務所・設計部
1978年入社

崩壊した街並、分断された記憶
日常を取り戻す努力
あるべきものがある喜び
「いつのまにできたんやろ」
「何か前からあったような…」

帝塚山大学　法政策学部棟





■開かれたキャンパスづくり

帝塚山大学法政策学部は、法解釈に偏りがちであった従来の法学教育とは異なり、法を生み出す社会状況を的確に把握するための政策的思考能力を備えた人材の育成を目指す新学部である。この新学部の学舎は、奈良盆地を一望できるロケーションに、権威としての空間ではなく、開かれたキャンパス空間を目指し、「閉じない空間・閉じないディテール」をこころがけ、新しい可能性に富んだ教育環境を獲得することを意図している。







中西富仁広

大阪事務所・設計部
1989年入社

いつしかエッジ（端部・縁・際）に興味をもつようになった。皆既日食の時にみられるような幻想的なエッジを創りたい…

東京職業能力開発短期大学校



■機能充実、ゆとりのキャンパスづくり

本計画は、昭和30年代に建設された旧施設を時代のニーズにあわせた全面建替えを行うべく次のコンセプトに基づいて計画した。

・短大としての魅力的なキャンパスづくり
・時代、社会に対応した教育訓練機能の拡充
・将来を見通したゆとりある施設計画
・地域社会との調和ある発展

以上をもとに、各棟は教育施設としての機能をみたし、全体計画は特に魅力的なキャンパスづくりに主眼をおいて設計した。







丸山謙三
東京事務所・設計部
1991年入社

本計画は、発注者と当社との共同作業として長い年月をかけて建替えを行ってきた物件である。私も担当者として計画に参加し、完成したキャンパスで学生が学び、憩う姿を見られることを大変うれしく思っております。

焼津市天文科学館



■星空に夢を託して

天文科学館は、子どもの想像力発展と探求心向上を目的として計画され、天文台、プラネタリウム、展示室等が納められている。その外観は、さまざまなボリュームの融合を視覚化している。これは、偶然通りがかった人にも内部機能を容易に想像できるようにするためである。また内部においては、一連の流れの中で多様な空間体験を得ることができるように、用途に沿った形態と規模をもつ独立した空間が転回するような構成としている。









河原　泰
東京事務所・設計部
1992年入社

人文主義地理学者であるイーフー・トゥアンによれば、空間の相対的な経験量とその記憶量が、人格（人間と他の動植物との違い）を形成するとしている。空間創造を生業とする上で、その責任の大きさを受け止めながら「記憶に残る空間」を創出していくことが課題である。

大阪府立産業技術研究所



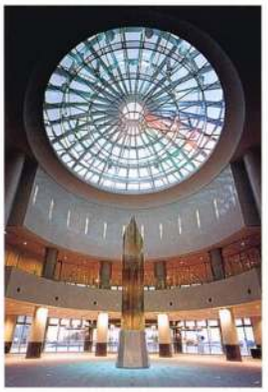
■進歩する技術・情報の発進基地

開放と交流を基本理念として、府下に分散していた施設を統合し急速に進展する技術革新時代に即応した“新技術の拠点”として開かれた研究所をめざした。

当施設は研究本館、実験棟、新技術開発棟の３つのゾーニングに分けて構成され、各ゾーンを交流（人・情報・エネルギー）、休憩機能をもった連絡通路で結んでいる。施設・設備・人材・情報の提供がスムーズに行える空間構成とした。

■フレキシブルな設備計画

地場産業技術高度化の推進拠点として、これからも長い期間に渡って先導的な研究を支援し続けることができるフレキシブルな対応を建築計画、設備計画の最重要課題として取組んだ。研究ゾーンは3.2mモジュールを採用して室の大きさに自由度を持たせ、中庭を供給系、外部バルコニーを排出系としてエネルギー供給の動線を明確化し、又共同溝・PS・ピット・二重床・システム天井・グレーチングバルコニー等の設備ルートを立体的に構築した。









下前裕一
大阪事務所・設計部
1966年入社

建築を取り巻く環境が厳しくなってきている。建物と人そして地域環境との係わりを大切にしたい。



新庄康裕
大阪事務所・設備部
1966年入社

これからはLCマネージメントと、環境問題を抜きにはデザインできない。当初の４倍以上にもなる建設後に掛る費用の重みを常に実感しながら、環境に優しくかつ快適性の向上という難題に取組んでいかなくてはならない。

鳥羽シーサイドホテル









堀井隆司
大阪事務所・インテリア部
1989年入社

例えばバンジージャンプ。おっこちてゴムでビヨーン。鉄塔の色・形は必要だけど、大切なのはてっぺんにたどりつくまでのワクワクする気持ちや体験をいかにつくるかということ。そこにデザインの価値があるのだ。



■青い海、白い航跡、潮の香り

海に面した恵まれた立地条件を生かし、敷地全体をリゾートとしてとらえる等、総合的に整備し、幅広い世代のニーズや、省力化といった時代の要請に充分応えられるホテルとして新しく生まれ変わった。

新館は高層棟と低層棟で構成され、ラウンジ、フロントまわりを一新してイメージアップした本館棟と新しい高層棟がヴォールト状のプロムナード空間で接続されて、全体の一体感を作り出している。従来の和風イメージに加えて洋のイメージを取り入れ、和洋のイメージを幅広く楽しめる魅力的な施設づくりを全体にわたって表現した設計としている。この２つのイメージの接点は、今回プロジェクトの目玉として「天空のプロムナード」として空間的、時間的なおもしろさを表現している。



吉原　宏
名古屋事務所・設計部
1968年入社

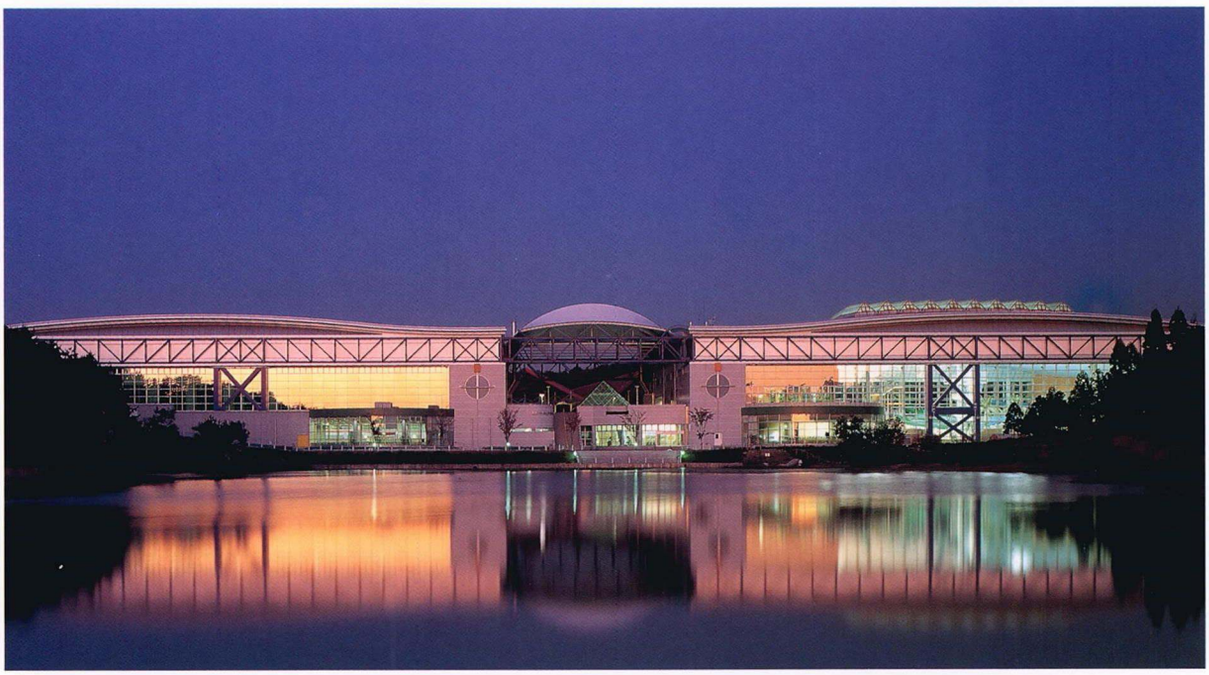
「かたち」のあるものは、美しくあらねばならない。
つまらないものでもいけない。それ以上に建築は幅広い意味での「性能」がよくなければならない。
人間が使うのだから。



平木晶幸
名古屋事務所・設計部
1974年入社

昨日より今日、今日より明日……
自分自身の成長と充足が、設計を深めて行くと思いたい。

青少年公園センターゾーン施設



■季節を体感できるスポーツ施設づくり
名古屋市郊外の自然色豊かな公園に計画された、オールシーズン・全天候型の温水プールとアイススケート場の併設施設である。温水と氷、暖と寒、レジャーとスポーツ、性質の異なる２つの空間をどのようにまとめるか、更に周囲に広がる自然色豊かな景観と、内部の人工的な環境をどのように関係づけるかが課題となった。異なる２つの対象を差異化することで、お互いの長所を強調することを考えてみた。









今野直史
名古屋事務所・設計部
1987年入社

建築する行為
物を消して、その意味だけを取り出したい。
物を消して、体との空間だけを生み出したい。
体を消して、意識だけを漂わせたい。

秦野市中央運動公園総合体育館



■健康・創造・ゆとりの拠点づくり

緑豊かな運動公園内に、隣接する文化施設と一体感をもたせ、文化・スポーツのカルチャーパーク構想の核として位置づけられる。文化施設との外部空間の有機的なつながりや、屋外体育施設群との調和と連続性を重視し、大きくなりがちな壁面の分節化、ペデストリアンデッキによる内外空間の一体化を表現した。また内部においては、競技機能の充実だけでなく、多様な利用者が憩える親しみやすい空間を設けた。











広田　学

東京事務所・設計部

1973年入社

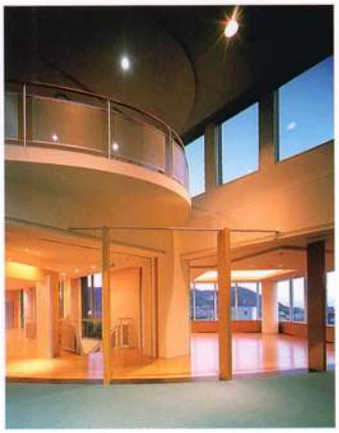
地域に息づく特性（風土・人）や風景を意識の中に入れ、新たな空間の創造に取り組んだ。

大同生命葉山セミナーハウス



■環境との関係

穏やかな海と明るい陽光に恵まれた立地にあって、「環境といかに関係するか」を設計上のテーマとし、ボリュームを適度に分節して空間を重層的に連結しながら、「開きながら閉じる」ような内外の関係をつくった。また、都市の稠密なオフィスから「葉山に移る意味」を考え、機能的な研修スペースだけではなく、自然と対話しながら思索できるようなインフォーマルな「積極的な残余のスペース」をデザインして、ここで生まれる人や自然との新たなコミュニケーションを期待した。









米井　寛
大阪事務所・設計部
1984年入社

都市の凡庸なひろがりの中に非日常的な特異点として建築を建ててみたいと思っています。いかにして建築に力を与えることができるか、これは凡庸なる自己への問いかけでもあります。

奈良柳生カントリークラブ



■歴史が育てた大和棟を現代に生かす

奈良柳生カントリークラブは二千年の歴史的風土に富む大和平野（奈良盆地）の東部・大柳生の里に立地している。メンバーズクラブとしてのステータスを「家」（クラブハウス）のかたちを印象づける屋根の形式に求め、大和の農村風景が育てた「大和棟」の伝統を意識しつつ、新しい表現とした。

デザインは日本建築固有の横線強調に拘らず、流動的で単純明快な現代和風を基調に形・素材・色に奈良らしさを表現した。

■地球環境にやさしく

97年は地球温暖化防止京都会議が開催されるなど、地球環境にとって画期的な１年であった。建物がそのライフサイクルで排出するCO_2量をゼロにすることは不可能に近い。しかし、その量をいかに少なくするかは、設備技術者・環境技術者に課せられた使命であると考える。奈良柳生カントリークラブでは、太陽光発電や夜間蓄熱、冷房廃熱を活用した給湯システムなどを用い、「環境にやさしいゴルフクラブ」を提案した。









八杉政一

大阪事務所・設計部
1969年入社

『近代的ななかにも和風調！』
どこかで聞いたフレーズである。
数多くの先輩達が木割を省略し、横線を消し去り、新しい和風様式を創ってこられた。伝統を意識しつつ、数奇屋モダニズムの奥を極めてみたい。



岡本　茂

大阪事務所・設備部
1986年入社

環境エンジニアとして、建築・設備の枠にとらわれず、建築が環境に与える負荷をいかに低減できるかをテーマに設計に盛込んでいきたい。

大阪プール



■躍動感あふれる空間づくり

国際競技に対応する屋内プール施設である。昨今の高度な競技会に機能的に対応する一方で、より幅の広い利用者へのアピールや、敷地である公園のアメニティーを高める舞台装置としての演出は、こうした大規模な公共建築の最低の責任ととらえ計画を行った。

形態としては、何よりも気持ちのよい空間というものが本施設の主題である。躍動感が理屈抜きに見るものに伝わり、感じさせるコンセプトの一貫性に全力を払った。

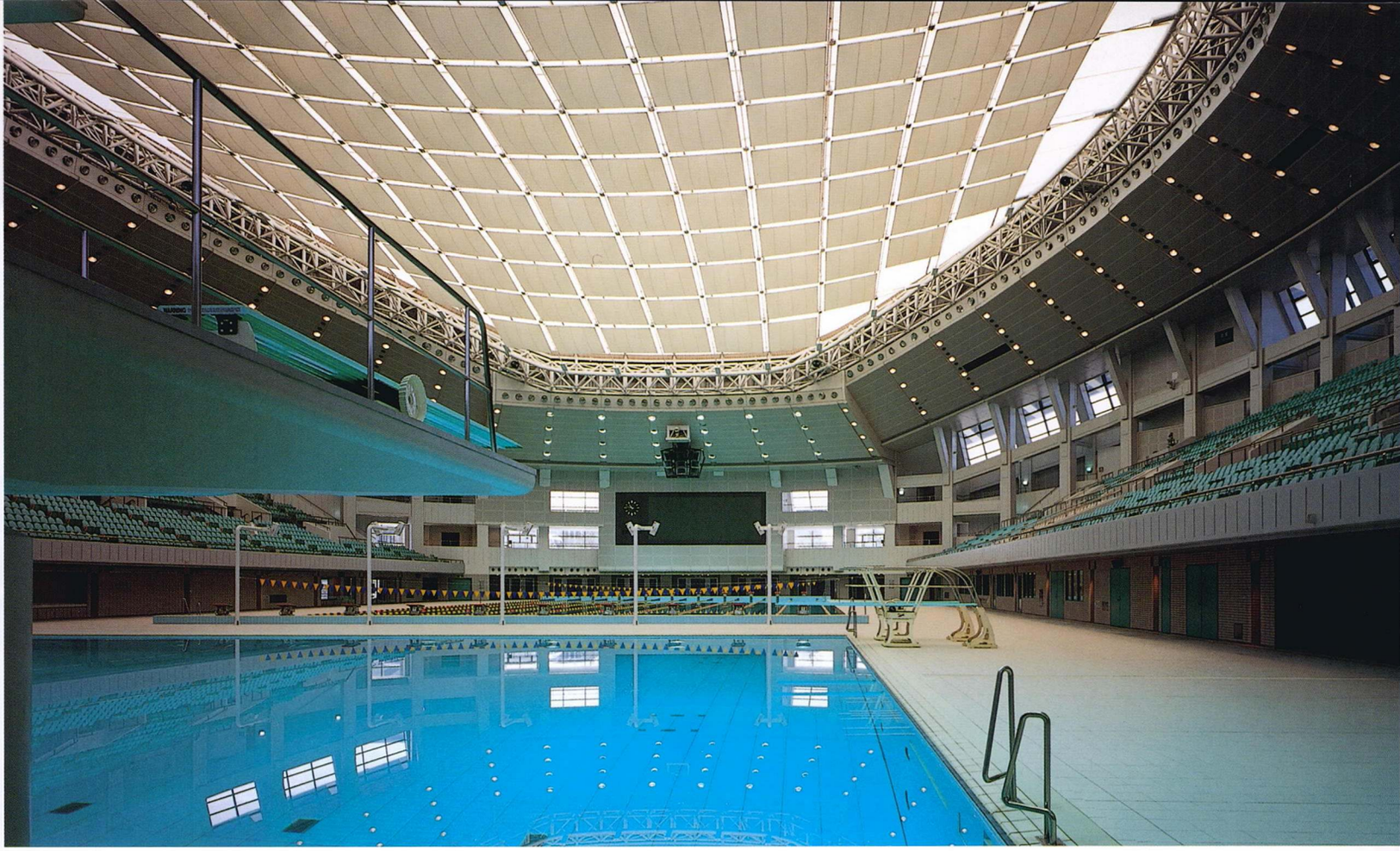






藤田　寛
大阪事務所・設計部
1989年入社

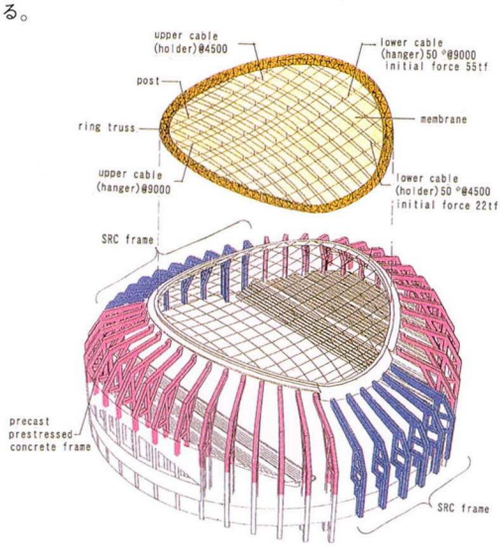
建築をデザインするということは、そこでの人のふるまいを設計するという点で、設計者の生活感覚や時代感覚が投影されるものです。自分の生活をきちんと持ち、社会とつながっていくことを大切にしたい。



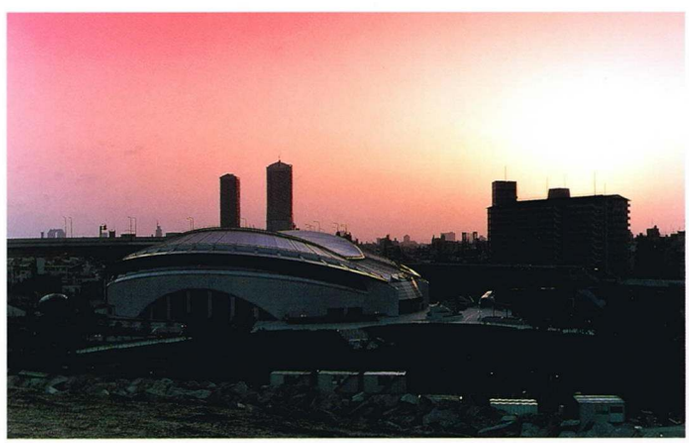
■開放感と軽快感

スポーツ施設としての躍動感・軽快感を感じさせる空間を具現化する、合理的な構造形式の追求をメインテーマに計画を行った。

プレファブ化・システム化された壁面、自己完結の衣屋根を有機的に結合する事により目的をほぼ達成できたと思われる。



STRUCTURE SYSTEM





3D AIR CONDITIONING
SIMU LATION

■“水”の輝き

メインプールと飛び込みプールの２つあわせて8,530㎡もの“水”。一般の建物では裏側に隠れてしまう“水”を堂々と表舞台に出すことができる。この膨大な“水”に如何に輝きを与える事ができるのかとの思い。また国際級の施設であり、「なみはや国体」ではシンクロナイドスイミングの競技会場として予定されている。

以上のような経緯があり、特に“水”にこだわり設計、および現場監理をおこないました。



近藤一雄
大阪事務所・構造部
1974年入社

自分のこだわりの中から、その建築に最適な構造コンセプトを発想出来るかに挑戦していけるか。



澤田宗久
大阪事務所・機械設備部
1979年入社

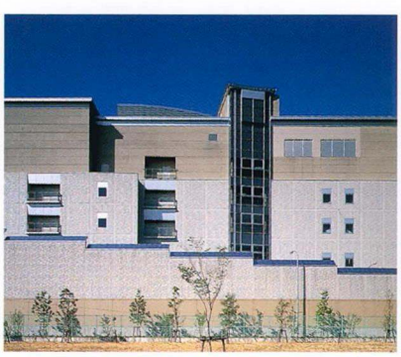
機械設備だけでなく、建築、電気、および施工、維持管理、環境等までにも配慮したシンプルな設計ができれば、と考えています。

大江破砕施設



■地域環境保全と地域の環境に配慮して

当施設は東洋一の規模を誇るごみ破砕分別施設である。臨港地区とは言え住工混合の敷地に立地している。私達は設計に当たりシェルターとしての機能はもとより、街中に建つ事、社会生活に密着している事、何よりそこに人々が働いている事に着目し、街並みや環境に馴染む形態を模索した。又、働く人々や訪れる人々が快適である、人間的な施設を目指した。地元還元施設の設置、大きなカーテンウォール、軸をずらしたブロックプラン等がその結果である。







瓦田伸幸

名古屋事務所・設計部
1980年入社

建築に満足はあり得ない。与えられた目的と環境に対して、今、自分の出来る最善を尽くすだけである。建築は竣工して初めて歩き始める。出来得るならばその生涯に責任を持たなければならない。

交野市総合体育施設



■“野の風景”の新しい表現

交野市は大阪の北東部に位置し、はるか昔、清少納言が「野は交野」と評したと言われるほど美しい自然環境と歴史的背景に恵まれた都市である。
施設のテーマはこの地に新しい“野の風景”を創造する「建築とランドスケープの融合」である。
配置計画は中央部を静かにせせらぎが流れるミルキーウェイ（天の川）と呼ばれるメインストリートを敷地の東西軸に配し、その北側を施設ゾーンとしている。建物構成は第２の大地（人工地盤）に建つメインアリーナを中心に、サブアリーナ、温水プール・屋外スタンドを分散配置し、各棟の独立性を高めるとともに、動線を明快なものにしている。コンクリート打放しの外壁とテフロン膜のドーム屋根は、スポーツ施設としての力強さと爽やかさを表現している。







岡島博明
大阪事務所・設計部
1974年入社

建築は人々が生きる社会と共にあって、その中にどれだけの大きなパワーを与えられるかにあると思う。また設計はその中にどれだけ自分の思いをはっきりと表現できるかにあると思う。

ウインズ八幡



■海・空・興奮

“海に向って開かれたオープンスペース、内外部空間の一体化”が、当施設の空間づくりおコンセプトである。
“ガーデンプラザ”と名付けられた膜屋ねで覆われた、半屋外空間が、今後整備される海浜公園や諸施設と、JRAの場外勝馬投馬券発売所（ウインズ）とを、一体化させている。
この空間は、ここに集った人達に一日中、ゆっくりと過して欲しいとの願いから、南フランスの海浜リゾートをイメージしてつくられている。
土・日のウインズの来場者はもちろんの事、平日は一般市民にも開放され、広く市民に親しまれる空間となる事を望んでいる。





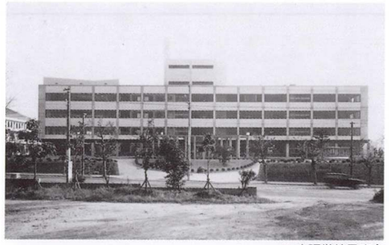


三迫靖史
所属：九州事務所・設計
入社：1974年

環境を読む（社会、敷地、人）
そして誠実に

建築賞受賞作品

～1979



1 大阪営林局庁舎



5 大阪駅前市街地改造事業第１棟



13 日商岩井大阪本社ビル



6 鈴鹿市民会館

2 徳島商工会議所経済センター
3 三神ビルディング
4 甲南大学校舎
7 名古屋市清掃局鳴海工場
8 三重県農業技術センター資料館
9 鈴鹿市体育館
10 横浜市環境事業局旭工場
11 横浜市環境事業局港南工場
12 中央自動車道飯田I.C～駒ヶ根I.C間管理施設
15 横浜市環境事業局南戸塚工場
17 公立学校共済組合岡山宿泊所
18 寝屋川グリーンシティ



14 豊橋勤労福祉会館



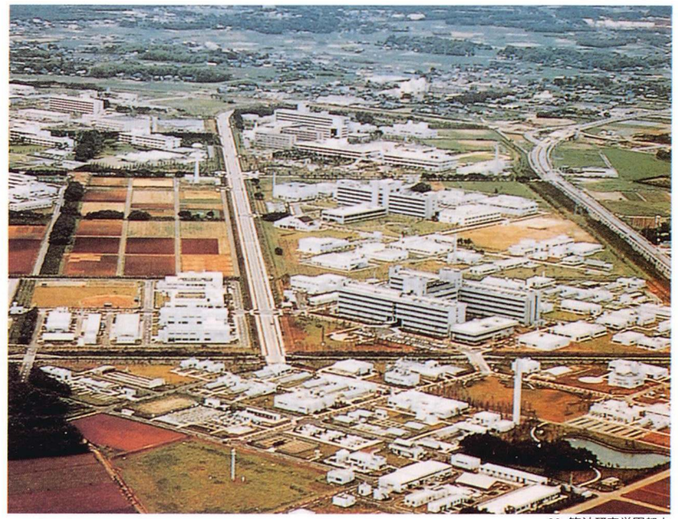
16 大阪府立勤労青少年研修センター

B.C.S賞：1,6,13　優秀防火建築表彰：2,3,4　日本建築学会賞：5　中部建築賞：6,7,8,9,12,14　神奈川県下建築コンクール：10,11,15
大阪府建築コンクール：13,16　軽金属協会建築賞13　岡山建築賞：17　ひろば作品賞：18

1980～1985



19 ホリディイン南海・大阪



20 筑波研究学園都市

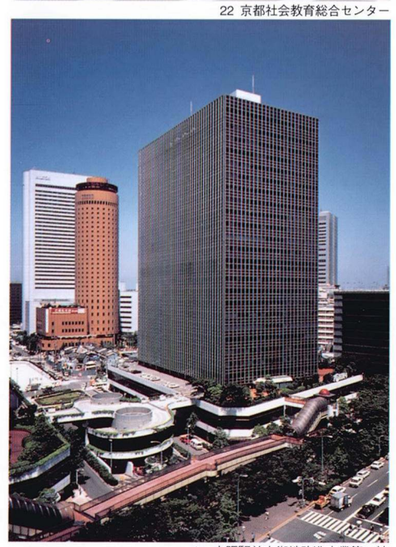


22 京都社会教育総合センター



28 京都駅南口再開発ビル（アバンティ）

21 辰馬考古資料館
23 横浜市立野庭小学校
25 京都市桃陽病院
26 京都府立伏見港公園体育館
27 南港コープうしお23号棟



24 大阪駅前市街地改造事業第４棟



29 淀川リバーサイドささなみプラザ

大阪府建築コンクール：19,28　ひろば作品賞：19,28　B.C.S.賞：19,22,28　日本建築学会賞：20　甍賞：21　神奈川県下建築コンクール：23
J.C.M.A賞：24　ソーラーシステム優良デザイン賞：25,26,27　大阪都市景観建築賞：29

東畑建築事務所65年の歩み

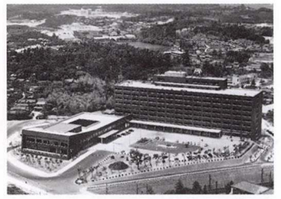
	1932（昭7）	1935（昭10）	1940（昭15）	1945（昭20）	1950（昭25）	1955（昭30）	1960（昭35）
社会の動き	S 7　第1次上海事変 五・一五事件 S 8　日本・国際連盟を脱退 S 9　室戸台風、死者行方不明3,036人	S10　戦前最後の第16回メーデー開催 S11　二・二六事件 ベルリン・オリンピック S12　文化勲章制定 日中戦争始まる S14　ノモンハン事件	S15　日独伊三国同盟調印 S16　日ソ中立条約調印 日本、対米英宣戦布告 S17　学徒勤労動員開始 S19　東条内閣総辞職	S20　東海地方大地震、死者1,961人 東京大空襲 広島、長崎に原爆投下 S21　第22回総選挙（女性議員39） 日本国憲法発布 S22　第1回参議院選挙 S23　帝銀事件 福井大地震、死者3,895人 S24　新制国立大学69校開学 湯川秀樹にノーベル物理学賞	S25　1,000円札発行（聖徳太子像） 朝鮮戦争勃発 S26　サンフランシスコ講和会議 S27　血のメーデー事件 オリンピックに日本復帰 S28　民間テレビ本放送開始 S29　青函連絡船洞爺丸遭難	S30　初のトランジスタラジオ発売 S31　国連総会、日本の加盟案可決 S32　5,000円札発行 ソ連、人工衛星スプートニク1号打ち上げ成功 S33　米、初の人工衛星打ち上げ成功 1万円札発行（聖徳太子像） S34　皇太子結婚式 ソ連、宇宙ロケット月面到着 伊勢湾台風、死者行方不明5,101人	S35　カラーテレビ本放送開始 閣議、所得倍増計画を決定 S36　ソ連、初の人間衛生船ヴォストーク1号打ち上げに成功 S37　堀江謙一、ヨットで太平洋横断 S38　米、ケネディ大統領暗殺 S39　新潟地震 東京オリンピック
建築界の動き	S 8　大阪地下鉄、梅田―心斎橋間開通 S 9　丹那トンネル開通	S11　帝国議会議事堂竣工 S12　御堂筋完成 S13　軍工事、軍需工事活発 S14　防空建築規則公布 無筋、竹筋コンクリートの研究	S15　セメント配給統制規則公布 建築税法公布 S16　軍建協力会設立 住宅営団発足 S17　海軍施設協力会設立 関門トンネル開通 S19　ブルドーザー国産機試作	S20　戦災復興院設立 S23　全国建設業協会設立 建設省発足 S24　建設業法公布	S25　建設工事標準請負契約約款成立 住宅金融公庫法成立 建築基準法公布 建築士法公布 S28　パイプ足場使用開始 生コン関西で生産開始 建設業法改正	S30　日本住宅公団設立 S32　住宅建設5カ年計画発表 建築基準法改正 S33　関門国道トンネル開通 東京タワー完成	S35　プレハブ住宅試作 第1回BCS賞選定 S36　市街地改造法公布 宅地造成等規制法公布 S39　東海道新幹線全通 建設業退職金共済組合発足
トレンド	経済統制の開始 プロ野球結成	国家総動員体制	太平洋戦争	闇市全盛　プロ野球2リーグ 食糧メーデー 学校給食 サマータイム	特需景気	神武景気　なべ底不況 家庭電化時代　ロカビリーブーム 岩戸景気	消費ブーム・レジャーブーム マイカー時代 株価大暴落 スモッグ発生
事務所の歩み	S 7　東畑謙三、欧米視察 東畑謙三建築事務所を大阪開設 S 8　堂島ビルディング（北区）から三菱信託銀行（東区）に移転	S10　のこぎり屋根トラスをラーメン構造にして経済性を図る試み S12　中国に所員派遣 木造立体トラス架構を開発	S15　豊中市に分室を開設 S16　東畑謙三、京大講師	S21　不二建設㈱を設立 S23　東畑謙三、阪大講師	S25　東畑謙三、中央建築士審議会委員 紡績無窓工場をわが国初採用 S26　東畑謙三、日本建築協会副会長 東畑建築事務所に改組	S32　九州支所を開設 本社を東区伏見町に新築、移転 S33　東京支所を開設	S35　名古屋支所を開設 清林社を設立 S37　東京支所を東京事務所に昇格、移転（永田町） 東畑謙三、藍綬褒章 S38　名古屋支所を名古屋事務所に昇格移転（交通ビル）
	所員数　5名	8名	10名	17名	20名	32名	91名
主要作品	・中央毛糸紡績四日市工場 ・関西ペイント東京および本社工場 ・渡辺栄一商店築港工場・倉庫 ・徳山鉄板帯鉄工場	・日本生命保険神戸支店 ・大町紡績大町工場 ・丸紅西ノ京染工場他 ・日本生命済生会日生病別館 ・福助足袋分工場 ・豊科紡績豊科工場 ・天津紡績公司 ・呉羽紡績天津工場 ・富国人絹バルプ祖父江工場 ・国産電機東京工場 ・東畑謙三建築事務所分室 ・石川製作所工場他	・呉羽紡績本社安土町ビル ・第二国産電機組立工場 ・国産電機沼津大岡工場 ・大日本セルロイド新井工場他 ・台湾紡績王田工場 ・国産電機小田原、大岡工場 ・ダイセル網干工場 ・徳山鉄板各工場 ・呉羽航空機整備工場 ・福助足袋青年学校および寄宿舎 ・三興松根油工場および北ボルネオ工場	・呉羽ゴム工業津工場、事務所 ・大建産業各種施設、工場 ・久保田鉄工所本社工場 ・関西ペイント本社ビル ・東亜紡織本社 ・甲南高等女学校講堂 ・福助足袋名古屋支店 ・大阪足袋会館 ・岩井産業瓦町事務所および社宅 ・大同染工本社事務所	・大阪鋼材本社 ・神戸博覧会外国館 ・伊藤忠名古屋支店ビル ・富士写真フイルム大阪支店ビル ・三重県立博物館 ・伊勢会館 ・甲南高校 ・大和銀行堂島支店 ・EL.PROGRESO TEXTILE, S.A ・イサヲ商事本社 ・呉羽紡績東京事務所および各地工場・寄宿舎 ・徳山鉄板本社 ・鈴鹿市庁舎	・大阪国際見本市展示場 ・三重いすず自動車本社 ・富士写真フイルム足柄研究所 ・徳島ビルディング ・兵庫県農林会館 ・GENERAL TEXTIE MILLS ・大阪営林局庁舎 ・INDUSTRIAS TEXTIILES MEXICANS, S.A ・大阪府農林会館 ・甲南大学五号館 ・三重会館 ・大和銀行堂島支店 ・亀山市庁舎 ・九州製缶相模原工場 ・呉羽紡績繊維研究所 ・岩井産業東京支店	・大阪府立大図書館 ・美津濃東京支店増築 ・大阪府千里丘共同住宅 ・三重県庁舎 ・岩井産業本社改築第一期 ・山陽特殊製鋼本社事務所および研究所 ・甲南大学15号館 ・富士写真フイルム中央研究所 ・日本製麻兵庫工場 ・大日繊維工業加古川工場 ・大阪府農林技術センター


甲南高等女学校講堂


富士写真フイルム大阪支社


関西ペイント大阪営業所


神戸博覧会外国館


三重県庁舎


日商岩井大阪本社


森ノ宮市街地住宅


京都駅前南口再開発

1965（昭40）	1970（昭45）	1975（昭50）	1980（昭55）	1985（昭60）	1990（平2）	1995（平7）	2000	
S40 朝永振一郎、ノーベル物理学賞 S41 航空機事故相次いで発生 （全日空機、カナダ航空機、BOAC機） 日本の人口1億人突破 S43 川端康成、ノーベル文学賞 3億円事件 S44 アポロ11号月面着陸成功	S45 日本万国博覧会開幕 S46 ドルショック S47 冬季オリンピック札幌大会 沖縄返還 日本列島改造論発表 ミュンヘン・オリンピック 日中国交回復 S48 江崎玲於奈、ノーベル物理学賞 オイルショック S49 佐藤栄作、ノーベル平和賞	S50 英、エリザベス女王初来日 エベレストに日本女子登山隊 世界初の登頂に成功 沖縄国際海洋博 S51 日本初の実用衛星「うめ」打ち上げに成功 S53 新東京国際空港開港 S54 東京サミット 第2次オイルショック	S55 イラン・イラク戦争勃発 S56 神戸ポートアイランド博覧会開幕 福井謙一、ノーベル化学賞 S57 500円硬貨発行 北九州西北部集中豪雨 （死者行方不明299人） S58 第13回参議院選挙（比例代表制） ソ連、大韓航空機撃墜 S59 江崎グリコ事件 専売公社、電電公社民営化	S60 科学万博―つくば85開幕 S61 チェルノブイリ事故 S62 NTT株上場 JR11社発足 S63 リクルート疑惑事件、政界に波及 ソウル・オリンピック S64 昭和天皇崩御 H元 横浜博覧会YES'89開幕 中国、天安門事件 消費税導入、実施 ベルリンの壁崩壊	H 2 大阪、国際花と緑の博覧会開幕 東西ドイツ統一 平成天皇即位 H 3 湾岸戦争勃発 長崎、雲仙普賢岳噴火 ソ連邦消滅、11共和国誕生 H 5 北海道南西沖地震 H 6 関西空港開港 広島、アジア競技大会 大江健三郎、ノーベル文学賞	H 7 阪神・淡路大震災 地下鉄サリン事件 H 8 病原性大腸菌O157 H 9 なみはや国体 香港、中国へ返還	社会の動き
S40 大阪駅前市街地改造第1次建築工事開始 S41 骨材不足深刻化 建設業界にメートル法実施 住宅建設計画法公布 S42 日本万博博覧会起工式 日本建設業団体連合会設立 村野藤吾、文化勲章受章 S43 霞が関ビル開館 都市計画法公布 S44 都市再開発法公布 第2次住宅建設5カ年計画発表	S45 建築基準法改正 建設省に公害対策本部設置 S46 建設業法改正公布 S47 建設業の許可制実施 労働安全衛生法公布 S48 沖縄国際海洋博覧会工事着工 関門橋開通 S49 国土利用計画法公布 国土庁発足	S50 山陽新幹線全通 四会連合契約約款改正 住宅建設10カ年計画決定 宅地開発公団発足 S51 振動規制法公布 建築基準法改正	S55 建設業等功績者表彰制度創設 S56 大阪地区フェニックス計画スタート 住宅・都市整備公団発足 S57 建設業許可業者数50万突破 S58 大阪駅前市街地改造全4棟建築工事完了 S59 建築士法、建築基準法改正施行 関西国際空港株式会社設立	S61 明石海峡大橋起工 S62 関西国際空港着工 S63 青函トンネル開業 東京ドーム落成 S64 幕張メッセ開設	H 2 一般公共事業外国企業の参入本格化 H 3 東京都新庁舎竣工 地価税法制定 H 4 設計のCAD・CG化 H 6 ハートビル法制定	H 7 耐震改修促進法制定 新耐震基準の一部見直し H 9 京都駅ビル竣工 公共工事標準請負契約約款改訂	建築界の動き
いざなぎ景気 大学紛争	パンダブーム 超能力ブーム	紅茶きのこブーム 5つ子誕生 竹の子族 インベーダーゲーム	ルービック・キューブ <おしん>ブーム エリマキトカゲ	地価急騰 消費税 地方博ブーム	地価税法制定 インターネットブーム リエンジニアリング	ウィンドウズ95 たまごっち 金融破綻		トレンド
S41 東京事務所、永田町ビルに入居 S42 東畑謙三、万国博覧会建設顧問 S43 東畑謙三、㈳日本建築家協会終身会員 S44 東畑謙三、大阪市建築審査会会長	S45 東畑謙三、大阪府開発審査会会長代理 S46 東畑謙三、日本建築協会名誉会長、DEMOS導入 S47 東畑謙三日本建築学会名誉会員、勲三等瑞宝章 S48 東畑謙三、沖縄国際海洋博覧会協会建設顧問 市川宏、大阪府建築士会理事、 日本建築家協会関西支部幹事、新伏見町ビル竣工 S49 東畑謙三、日中建築技術交流会、副会長として友好訪中	S50 北九州支店移転（清和ビル） 市川宏大阪建築設計監理協会副会長	S55 北九州支所、九州事務所に昇格 S57 市川宏、日本建築協会副会長 東畑謙三、取締役会長 川宏、取締役社長 S58 横浜支所開設 S59 千葉支所開設 総務・財務OA化	S61 市川宏、黄綬褒章 S62 福岡支所開設（福岡センタービル） S63 大阪事務所CAD導入 週休2日制導入 H 1 九州事務所移転（福岡センタービル） 東畑謙三、紺綬褒章	H 6 名古屋事務所移転（三井生命名古屋伏見ビル） 市川宏、勲五等双光旭日章	H 7 東北支所開設（太白区） H 8 新伏見町ビル単独使用開始 H 9 東北支所移転（仙台市青葉区） 東畑謙三、取締役名誉会長 市川宏代表取締役会長 真塚達夫代表取締役社長	事務所の歩み
133名	173名	223名	231名	245名	292名	353名		
・大阪市工業技術試験所 ・専売公社米子たばこ工場 ・大阪市見本市恒久展示場第三号館 ・亀戸二丁目市街地住宅 ・農林省中央研究所本館 ・鈴鹿市民会館 ・寧楽美術館 ・三重県伊勢総合庁舎 ・小倉競馬場 ・大阪市清掃局八尾工場 ・大阪駅前第1棟 ・徳島市民病院 ・公立学校共済組合大阪宿泊所	・徳島県立中央病院 ・ダイヤモンドファミリー西大寺 ・神戸市文化ホール ・兵庫駅前市街地住宅 ・大阪市環境科学研究所 ・鈴鹿市体育館 ・神戸市北区総合文化センター ・日商岩井大阪本社 ・大阪工大新館 ・森の宮市街地住宅 ・大阪府立砂川厚生福祉センター ・愛隣総合センター ・万国博インターナショナルプレース ・大阪府北税務所庁舎 ・ゆうせんビル ・大阪市消防教育研究総合センター ・倉敷勤労総合福祉センター	・兵庫県新農業会館 ・東京都教職員相互会三楽病院 ・豊橋勤労福祉会館 ・岡山県立津山総合体育館 ・大阪市此花区総合センター ・新日鉄堺トレーニングセンター ・大阪府勤労青少年研修センター ・DC寝屋川ショッピングセンター ・京都市下京区総合庁舎 ・神戸市王子動物園太陽の動物舎 ・興亜火災海上本社 ・ホリディ・イン南海大阪 ・京都市養護学校 ・姫路ポートセンター ・大阪穀物取引所ビル ・大阪市毛馬住宅 ・大阪市南港ポートタウン第2住区 ・芸西病院 ・大阪府市町村職員共済会館 ・神戸市民防災総合センター ・滋賀県八日市県事務所	・筑波学園都市農林省関連施設 ・大工大中央図書館 ・神戸市中央区役所 ・四日市カントリー倶楽部 ・京都市社会教育総合センター ・住都公団淀川リバーサイド住宅 ・静岡中央警察・消防合同庁舎 ・岡山県倉敷温水プール ・鈴鹿市立図書館 ・甲南大学理学部棟 ・徳島県立三好病院 ・新韓銀行本店 ・愛仁会高槻病院 ・北九州市児童文化科学館 ・京都駅南口再開発 ・上野製薬本社 ・大阪駅前第4棟 ・東和薬品岡山工場 ・KKR東京共済病院 ・吹田市文化会館メインシアター ・天理市庁舎 ・つくば科学博警備・消防本部・情報センター	・インテックス大阪 ・長居公園球技場 ・兵庫県農業共済会館 ・京都市消防局本部庁舎 ・神戸市外国語大学 ・三重県立一志病院 ・神奈川県立相模原球場 ・小山田記念温泉病院 ・三木市文化会館 ・京都府総合見本市会館 ・瀬戸大橋架橋記念会館 ・足立区婦人総合センター ・名古屋国際見本市会場 ・池田駅前南地区再開発 ・神戸市しわあせの村リハビリテーション病院 ・社会保険庁富山厚生年金休暇センター ・鈴鹿市文化会館 ・愛媛県警察本部庁舎 ・伊勢原市総合運動公園体育館 ・東京モード学園 ・京都市国際交流会館 ・佐賀市総合文化会館 ・興亜火災海上保険日吉センター ・国際花と緑の博覧会政府苑・いちょう館	・三重県議会棟 ・相模原市淵野辺公園体育施設 ・静岡県立水泳場 ・鳥取銀行本店 ・愛媛県生涯学習センター ・コンベックス岡山 ・松下電器産業淀川寮 ・京都市障害者スポーツセンター ・神戸市王子動物園どうぶつとこどもの国 ・大和銀行本店 ・草津市庁舎 ・千里ライフサイエンスセンター ・広島ビックアーチ ・横浜市障害者スポーツ文化センター ・奈良ファミリー ・興亜火災海上保険近畿営業本部 ・神戸市フルーツ・フラワーパーク ・大阪市立総合医療センター ・静岡県厚生年金健康福祉センター ・京都市健康増進センター ・神奈川県産業技術総合研究所 ・愛知青少年公園センターゾーン施設 ・香川県産業交流センター ・北九州穴生ドーム ・横浜市環境事業局鶴見工場	・大阪府立産業技術総合研究所 ・中国銀行大阪支店 ・警視庁渋谷警察署庁舎 ・宮崎県立農業大学校 ・瓦町三和三信ビル ・八潮市生涯活動センター ・泉佐野市総合文化センター ・京都ガーデンパレス ・江戸堀センタービル ・大阪プール ・秦野市総合体育館 ・大野城市多目的複合施設 ・奈良柳生カントリークラブ ・横浜国際総合競技場 ・交野市総合体育施設 ・長野県障害者福祉センター ・警視庁東京空港警察署庁舎 ・大阪城天守閣「平成の大改修」 ・焼津市天文科学館	主要作品


インテックス大阪


国際花と緑の博覧会 政府苑


広島ビッグアーチ


大阪市立総合医療センター


大阪府立産業技術総合研究所

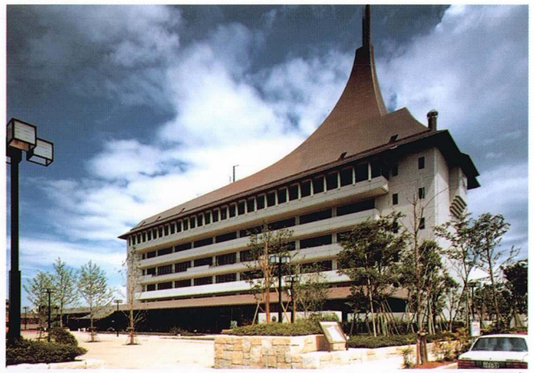

大阪城天守閣「平成の大改修」


横浜国際総合競技場

1986〜1990



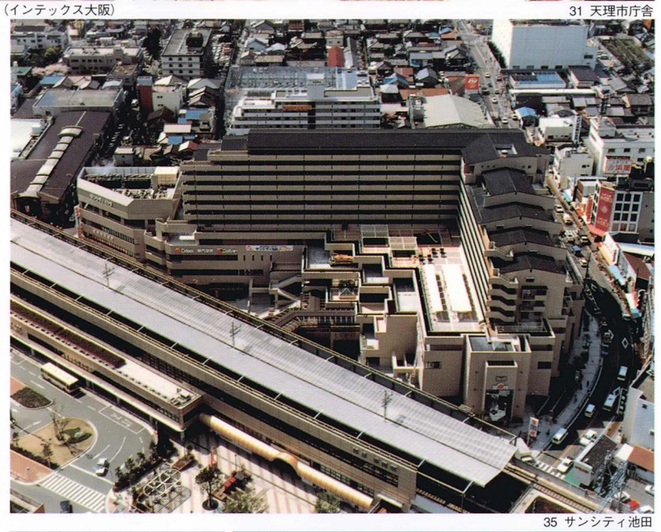
30 大阪国際見本市新会場（インテックス大阪）



31 天理市庁舎



33 吹田文化会館（メイシアター）



35 サンシティ池田



34 小山田記念温泉病院



41 鈴鹿文化センター

32 岡山県倉敷総合屋内水泳センター
36 神奈川県立相模原球場
37 倉敷市瀬戸大橋架橋記念館
38 六甲アイランドコンテナ埠頭
第3バースの建設
39 伊勢原市体育館
40 箕面市立東図書館・東生涯学習センター
43 横浜市立盲学校
44 マーサ21



42 富山厚生年金休暇センター

SDA賞：30,35　B.C.S.賞：30　日本建築士会連合会賞：30　ひろば作品賞：31　倉敷市都市建築優秀賞：32,37　大阪都市景観建築賞：33,35,40
大阪施設緑化賞：33　中部建築賞：34,41　病院建築賞：34　神奈川県下建築コンクール：36,39
ディスプレイデザイン賞88：37　日本港湾協会技術賞：38　富山県建築賞：42　横浜市優良建築設計者：43　岐阜市都市美創出賞：44

1991〜1997



46 京都市国際交流会館

45 藍住町立図書館
47 大和銀行本店ビル
48 松下電器産業・淀川寮
49 ジャスコ茨木店
50 三重県議会棟
51 鈴鹿市立郡山小学校
52 四日市市立三浜小学校
54 身障者スポーツ・文化センター
横浜ラブホール
55 上牧町文化センター（ペガサスホール）



69 和歌山西警察署庁舎



59 千里ライフサイエンスセンター



53 神戸市立フルーツ・フラワーパーク



57 サンメッセ香川（香川県産業交流センター）



56 井波彫刻総合会館

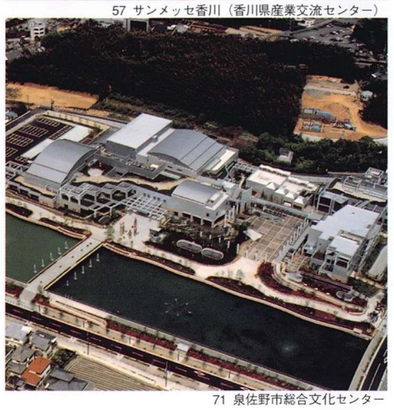


64 奈良柳生カントリークラブ

58 北九州穴生ドーム
60 大阪市立総合医療センター
61 ウインズ八幡
62 横浜市環境事業局鶴見工場
63 青少年公園センターゾーン
65 姫路科学館 アトムの館
66 関西電力三木営業所
67 横浜市立戸塚高等学校
68 浜坂町立久斗小学校



70 京都ガーデンパレス



71 泉佐野市総合文化センター

日本図書館協会建築賞：45　京都市都市景観賞：46,70　大阪施設緑化賞：47,60　ハウジングデザイン賞：48　茨木市都市景観賞：49
照明学会賞：50,55,60　公立学校優良施設表彰：51,52,67,68　中部建築賞：51,63　SDA賞：53　横浜市優良建築設計者：54　富山県建築賞：56
高松市都市景観賞：57　IFAI賞：58　豊中市都市デザイン賞：59　グッドデザイン賞：61　神奈川県下建築コンクール：62
奈良市建築文化賞：64　さわやか街づくり賞：65　くすのき建築文化賞：66　警察コンクール：69　大阪都市景観建築賞：71

建築概要

泉佐野市総合文化センター
①泉佐野市
②大阪府泉佐野市
③RC・SRC・S　B1F/3F　34,848㎡
④1996年
⑤大林・住友・新井・森本・南海辰村JV，西松・青木JV

大野城まどかぴあ
①大野城市
②福岡県大野城市
③RC・S　B1F/4F　12,894㎡
④1996年
⑤銭高・松井・松本JV

京都ガーデンパレス
①私立学校教職員共済組合
②京都市
③SRC　B1F/5F　11,258㎡
④1996年
⑤清水建設

上牧町文化センター「ペガサスホール」
①上牧町
②奈良県上牧町
③RC・SRC・S　3F　5,936㎡
④1993年
⑤村本建設

ひがしうら文化館
①東浦町
②兵庫県東浦町
③RC・SRC・S　2F　3,660㎡
④1997年
⑤大林・寄神・マトザキJV

井波彫刻総合会館
①井波町
②富山県井波町
③RC　2F　1,357㎡
④1993年
⑤辻・嶋JV
⑥基本設計はピーター・ソルター

大阪城天守閣「平成の大改修」
①大阪市
②同上
③SRC・S　8F　5,071㎡
④1997年
⑤大林組

神戸市立フルーツ・フラワーパーク
①神戸市
②同上
③RC　B1F/4F　34,237㎡
④1993年
⑤ハザマ・青木・大末JV，フジタ・村本JV

パセオダイゴロー（西館）
①京都電鉄センター株式会社
②京都市
③SRC・RC・S　B1F/6F　44,184㎡
④1997年
⑤長谷工コーポレーション・大林・三井・増田・岡野JV
⑥基本デザインは中島龍彦建築事務所

シーリアお台場五番街
①東京都住宅局，東京都住宅供給公社
住宅・都市整備公団，東京都港区
②東京都港区
③SRC　14F　64,208㎡
④1996年
⑤前田・多田JV，奥村・大日本JV，フジタ・立JV，熊谷・坂田JV，奈良・鈴木JV

江戸堀センタービル
①三井信託銀行株式会社
②大阪市
③SRC・S　B1F/23F　34,562㎡
④1996年
⑤清水・鹿島・淺沼・新日鉄JV
⑥IAO竹田設計

瓦町三和三信ビル
①三和銀行
②大阪市
③SRC・S　B2F/13F　20,412㎡
④1995年
⑤銭高・藤木・大末・鴻池・日本JV

Bank of China
①中国銀行
②大阪市
③S，SRC　9F　2,035㎡
④1995年
⑤大林・清水・竹中JV

象印マホービン本社別館
①象印マホービン株式会社
②大阪市
③S　9F　3,826㎡
④1995年
⑤銭高組

三神ビル
①三神ビルディング
②神戸市
③S・SRC　B2F/8F　6,764㎡
④1997年
⑤鹿島

甲南大学
①学校法人甲南学園
②神戸市
③SRC　B1F/7F　64,132㎡（当社設計分）
④1997年
⑤大林組・住友建設JV

帝塚山大学 法政学部棟
①学校法人帝塚山学園
②奈良市
③RC・SRC　3F　6,769㎡
④1997年
⑤大林・大日本・銭高JV

東京職業能力開発短期大学校「ポリテクカレッジ東京」
①雇用促進事業団
②東京都
③RC　4F　18,872㎡
④1995年
⑤ハザマ

焼津市天文科学館
①焼津市
②静岡県焼津市
③SRC　5F　2,828㎡
④1997年
⑤住友・村松JV

大阪府立産業技術総合研究所
①大阪府
②大阪府和泉市
③SRC　B1F/5F　21,448㎡
④1995年
⑤東急・大日本・大末・栗本JV（本館棟）

鳥羽シーサイドホテル
①三重交通株式会社・三交興業株式会社
②三重県鳥羽市
③RC・SRC・S　14F　38,115㎡
④1996年
⑤大日本土木・日本土建JV

青少年公園センターゾーン施設
①愛知県
②愛知県長久手町
③SRC　2F　17,241㎡
④1994年
⑤熊谷・矢作・水野JV

秦野市総合体育館
①秦野市
②神奈川県秦野市
③RC・SRC・S　B1F/3F　12,297㎡
④1996年
⑤鴻池・西武・関野JV
⑥住宅・都市整備公団

大同生命菓山セミナーハウス
①大同生命保険相互会社
②神奈川県菓山町
③RC　2F/B2F　4,644㎡
④1995年
⑤立建設

奈良柳生カントリークラブ
①京奈観光開発株式会社
②奈良市
③RC　B1F/2F　5,541㎡
④1995年
⑤大日本土木・樋口JV

大阪プール
①大阪市建設局
②大阪市
③RC・SRC・PC　B2F/2F　25,138㎡
④1996年
⑤フジタ・鴻池・藤木JV

大江破砕施設
①名古屋市
②同上
③SRC・S　5F　27,948㎡
④1997年
⑤飛鳥・日本国土・三菱・池田・名工JV

交野市総合体育施設
①交野市
②大阪府交野市
③SRC・RC・S　2F　14,055㎡
④1997年
⑤前田建設工業

ウインズ八幡
①日本中央競馬会
②福岡県北九州市
③S　1F　3,759㎡
④1997年
⑤新日鉄・大成JV
⑥日本競馬施設株式会社
新日本製鉄株式会社

①建築主②所在地③構造・規模④竣工年⑤施工者⑥設計JV等

株式会社 東畑建築事務所
.TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

■事務所

本社・大阪事務所　541-0044 大阪市中央区伏見町4-4-10 TEL06-202-0391
東京事務所　100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3（永田町ビル）TEL03-3581-1251
東北支所　980-0021 仙台市青葉区中央2-1-7（仙台三和ビル）TEL022-263-5530
千葉支所　263-0043 千葉市稲毛区小仲台7-8-28-416 TEL043-256-8864
横浜支所　232-0071 横浜市南区永田北1-12-31 TEL045-742-2071
名古屋事務所　460-0003 名古屋市中区錦1-13-26（三井生命名古屋伏見ビル）TEL052-223-3931
出張所　富山　岐阜　津
九州事務所　812-0011 福岡市博多区博多駅前2-2-1（福岡センタービル）TEL092-472-8737
北九州支所　806-0071 北九州市八幡区上の原1-4-17 TEL093-611-0378

■会社概要

沿革　1932年12月　東畑謙三建築事務所開設
1951年9月　株式会社　東畑建築事務所に改組
営業種目　建築の設計監理
調査・企画・都市計画
役職員　353名（'97年12月現在）内一級建築士214名

写真撮影
加藤敏明　株式会社　エスエス
河野博之　株式会社　伸和
絹巻　豊　日刊建設工業新聞社（写真提供）

東畑建築事務所創立65周年

協賛

建設業

株式会社淺沼組　大阪市天王寺区東高津町12-6　TEL06-768-5222

株式会社新井組　兵庫県西宮市池田町12-20　TEL0798-26-3111

安藤建設株式会社大阪支店　大阪市福島区福島6-3-21　TEL06-453-2190

株式会社大林組　大阪市中央区北浜東4-33　TEL06-946-4400

株式会社奥村組関西支社　大阪市阿倍野区松崎町2-2-2　TEL06-621-1101

小原建設株式会社大阪支店　大阪市淀川区西三国1-8-44　TEL06-391-5331

鹿島建設株式会社関西支店　大阪市西区阿波座1-3-15　TEL06-536-3311

共立建設株式会社関西支店　大阪市中央区内本町2-2-5 大阪内本町ビル　TEL06-942-2491

株式会社熊谷組大阪支店　大阪市都島区片町2-10-5　TEL06-352-1151

公成建設株式会社　京都市下京区五条通西洞院西入小柳町518　TEL075-365-8300

株式会社鴻池組　大阪市中央区北久宝寺町3-6-1　TEL06-244-3500

清水建設株式会社大阪支店　大阪市中央区本町3-5-7　TEL06-263-2800

住友建設株式会社大阪支店　大阪市中央区北浜4-7-28　TEL06-220-8712

株式会社錢高組　大阪市西区西本町2-2-11 なにわ筋ツインズウエスト　TEL06-531-6431

大成建設株式会社大阪支店　大阪市中央区南船場1-14-10　TEL06-265-4544

株式会社竹中工務店大阪本店　大阪市中央区本町4-1-13　TEL06-252-1201

大日本土木株式会社大阪支店　大阪市北区堂島2-2-2 近鉄堂島ビル　TEL06-341-5211

東洋建設株式会社　大阪市中央区高麗橋4-1-1　TEL06-209-8711

戸田建設株式会社大阪支店　大阪市西区西本町1-13-47　TEL06-531-6095

南海辰村建設株式会社　大阪市浪速区難波中3-5-19　TEL06-644-7823

日本国土開発株式会社大阪支店　大阪市西区西本町1-10-10　TEL06-538-7351

株式会社フジタ大阪支店　大阪市北区堂島2-1-16　TEL06-348-4550

不二建設株式会社関西支社　大阪市中央区農人橋1-1-22　TEL06-946-2270

不動建設株式会社　大阪市中央区平野町4-2-16　TEL06-201-1121

株式会社藤木工務店　大阪市中央区常盤町1-3-8　TEL06-966-0440

前田建設工業株式会社大阪支店　大阪市西区江戸堀1-3-15　TEL06-446-9511

株式会社松村組大阪本店　大阪市北区東天満1-10-20　TEL06-353-1131

三井建設株式会社大阪支店　大阪市中央区本町4-4-25　TEL06-243-3411

空調・衛生・電気・各種工事業・建材・設備メーカー・その他

アーキヤマデ株式会社　大阪府吹田市江の木町24-10　TEL06-385-1261

株式会社アイエス工業所　大阪市城東区鴫野東3-5-13　TEL06-961-2488

アイカ工業株式会社　名古屋市中区丸の内2-20-19　TEL052-202-6973

旭硝子株式会社　大阪市北区芝田1-1-4 阪急ターミナルビル　TEL06-373-5811

旭硝子建材株式会社関西支社　大阪市西区立売堀1-3-13 第三富士ビル9F　TEL06-538-0521

旭電化工業株式会社大阪支社　大阪市中央区南本町4-2-21　TEL06-245-2141

株式会社イーブイアイオーディオジャパン　東京都杉並区和泉2-5-60　TEL03-3325-7900

株式会社 INAX　大阪市西区新町1-34-15 大阪グレンチェックビル　TEL06-539-3500

株式会社エービーシー商会　大阪市中央区大手前1-7-31 OMM ビル8F　TEL06-944-4900

東畑建築事務所創立65周年

協賛

エスケー化研株式会社大阪支店　大阪府茨木市中穂積3-5-25　TEL0726-21-7721

株式会社荏原製作所大阪支社　大阪市北区中之島2-3-18 新朝日ビル　TEL06-227-6677

オーエム工業株式会社　大阪市住之江区北加賀屋3-3-44　TEL06-685-0681

オーシー建材工業株式会社　大阪市大正区南恩加島7-1-55　TEL06-556-2040

オリエンタル建設株式会社　大阪市北区芝田2-7-18 全日空ビル新館　TEL06-372-0104

オリエンタルメタル株式会社　兵庫県尼崎市長洲中通3-24-35　TEL06-487-2121

王建工業株式会社　大阪市北区西天満6-1-2　TEL06-362-9402

大阪ガス株式会社大阪事業本部開発営業部　大阪市西区千代崎3丁目南2-37　TEL06-586-3242

大阪日本調理機株式会社　大阪府豊中市走井2-9-2　TEL06-853-4901

大島応用化学工業株式会社　大阪市旭区太子橋1-15-22　TEL06-954-6521

大関化学工業株式会社大阪支店　大阪市西区西本町1-10-10 西本町全日空ビル　TEL06-538-1841

株式会社岡村製作所関西支社　大阪市中央区南船場4-1-9 南船場第一東洋ビル　TEL06-282-4061

株式会社小野工業所　東京都墨田区石原4-12-1　TEL03-3624-2261

株式会社小野田関西支社　大阪市淀川区西中島6-1-1 新大阪プライムタワー　TEL06-886-0180

小俣シャッター工業株式会社　大阪市北区天神橋2-5-3　TEL06-353-7377

株式会社神治屋　京都市伏見区下鳥羽長田町70　TEL075-601-6301

川北電気工業株式会社　名古屋市中区栄4-6-25　TEL052-251-7111

川崎重工業株式会社鉄構事業部　大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル　TEL06-348-8271

川崎製鉄株式会社橋梁鉄構事業部　大阪市北区芝田1-1-4 阪急ターミナルビル　TEL06-315-4652

株式会社川島織物販売　大阪府吹田市広芝町8-26 カワシマ江坂ビル　TEL06-369-6240

瓦寅工業株式会社　大阪市生野区林寺1-5-14　TEL06-715-0201

関西ペイント株式会社　大阪市中央区伏見町4-3-6　TEL06-203-5012

元旦ビューティ工業株式会社　大阪市中央区高麗橋2-6-10 新高麗橋ビル　TEL06-223-1841

株式会社キョーワナスタ　大阪市北区芝田2-7-18 全日空ビル新館　TEL06-377-8371

株式会社九電工大阪支店　大阪市北区豊崎5-6-2 北梅田大宮ビル　TEL06-374-6480

近畿工業株式会社　大阪市中央区谷町2-9-3 近鉄大手前ビル　TEL06-943-4975

栗原工業株式会社　大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル　TEL06-313-1101

ケージーパルテック株式会社　大阪府八尾市北木の本1-51　TEL0729-23-1311

コクヨ株式会社　大阪市東成区大今里南6-1-1　TEL06-972-9564

株式会社神戸製鋼所　大阪市中央区備後町4-1-3 御堂筋三井ビル　TEL06-206-6111

神戸不燃板工業株式会社　兵庫県三木市志染町三津田431　TEL0794-87-3121

小林産業株式会社　大阪市西区南堀江2-7-4　TEL06-535-3651

小松ウォール工業株式会社　大阪市中央区西心斎橋1-1-13 東邦ビル3F　TEL06-241-8416

三基ルーバ株式会社大阪支店　大阪市中央区北久宝寺町4-4-2 フットワーク住友生命ビル　TEL06-245-5140

三協アルミニウム工業株式会社　大阪市西区靱本町1-9-15 近畿富山会館ビル6F　TEL06-448-5456

三晃金属工業株式会社　大阪市中央区北浜4-1-21 住友生命淀屋橋ビル　TEL06-231-8571

株式会社三晃空調　大阪市中央区城見2-1-61 ツイン21 MIDタワー11F　TEL06-949-1371

三宝電機株式会社　大阪市北区西天満2-6-8 堂ビル　TEL06-364-1471

三洋電機株式会社空調システム事業部　大阪府吹田市江坂町1-16-17　TEL06-339-5778

株式会社三冷社関西支社　大阪市西区京町堀2-9-8　TEL06-446-0901

株式会社山陽瓦　岡山県倉敷市中島2360-20　TEL086-465-1988

シンコールウォール株式会社　大阪府東大阪市長田東3-54　TEL06-747-5345

東畑建築事務所創立65周年

協賛

神鋼ノース株式会社　大阪市中央区備後町4-1-3 御堂筋三井ビル　TEL06-229-3461

須賀工業株式会社　大阪市西区土佐堀1-2-30　TEL06-441-5171

鈴木シャッター工業株式会社大阪支店　大阪市旭区新森1-7-47　TEL06-956-6221

住鉱シポレックス　大阪市中央区本町3-2-6 日住金本町ビル　TEL06-243-7251

住友金属建材株式会社　大阪市西区江戸堀2-1-1 江戸堀センタービル　TEL06-447-2862

住友電設株式会社　大阪市西区阿波座2-1-4　TEL06-537-3400

株式会社西部技研大阪営業所　大阪市淀川区西中島3-7-13新大阪サクセスビル EAST702号　TEL06-305-9251

株式会社ソナール　京都市右京区西京極畔勝町30　TEL075-322-4866

株式会社タジマ　大阪市西区京町堀1-10-5　TEL06-441-5951

ダイダン株式会社　大阪市西区江戸堀1-9-25　TEL06-441-8231

株式会社ダイワ大阪支店　大阪市西区立売堀1-3-13 第3富士ビル7F　TEL06-539-0200

株式会社大気社　大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル　TEL06-448-5851

大洋基礎株式会社　大阪市中央区北久宝寺町2-1-10 船場吉兆ビル　TEL06-267-5311

太陽工業株式会社空間建築事業部　大阪市淀川区木川東4-8-4　TEL06-306-3071

株式会社髙島屋建装事業本部　大阪市浪速区日本橋3-5-25　TEL06-632-3190

立山アルミニウム工業株式会社　大阪府守口市菊水通4-13-11　TEL06-994-8633

田島ルーフィング株式会社　大阪市西区京町堀1-10-5　TEL06-443-0431

第一工業株式会社大阪支店　大阪市北区西天満3-6-14　TEL06-364-6661

大晃設備株式会社　大阪市此花区西九条2-13-28　TEL06-466-4779

大同鋼板株式会社　大阪市中央区高麗橋2-3-7　TEL06-203-1164

ツルガスパンクリート株式会社　大阪市北区茶屋町18-21 豊崎ビル　TEL06-374-1245

株式会社トーエネック大阪本部　大阪市淀川区新北野3-8-2　TEL06-305-2181

トステム株式会社ビル建材本部関西支店　大阪市淀川区西中島3-10-11　TEL06-390-5111

株式会社トップコン　神戸市西区玉津町今津443　TEL078-912-4316

ＴＯＡ株式会社大阪営業所　大阪市北区天神橋2-5-25 若杉グランドビル　TEL06-358-1141

東陶機器株式会社　大阪市北区曽根崎1-2-9 梅新ファーストビル5F　TEL06-364-1624

東邦レオ株式会社　大阪市中央区上町1-1-28　TEL06-762-2100

東洋シヤッター株式会社　大阪市中央区南新町1-2-10 TS ビル　TEL06-943-6571

東洋熱工業株式会社大阪支店　大阪市西区靱本町3-1-27　TEL06-443-8071

東リ株式会社　大阪市中央区大手前1-7-31 OMM ビル　TEL06-943-1645

株式会社東和エンジニアリング　大阪市中央区城見2-1-61 TWIN21MID タワー14F　TEL06-949-1300

ナカ工業株式会社大阪支店　大阪市淀川区田川3-9-36　TEL06-886-8961

株式会社ナプコ建築事業部　神戸市中央区磯上通2-2-21三宮グランドビル　TEL078-251-8072

ナブコドア株式会社　大阪市西区西本町1-13-8　TEL06-532-7341

株式会社内外テクノス大阪営業部　大阪市中央区平野町2-4-9 大和平野町ビル　TEL06-226-1877

中日本旭化成建材株式会社　大阪市北区堂島浜1-2-6 新ダイビル　TEL06-347-3847

ニチアス株式会社大阪支社　大阪市中央区南船場4-11-10　TEL06-252-1301

ニチコン株式会社大阪支店　大阪市北区菅原町3-2　TEL06-362-8846

株式会社ニチベイ　大阪市中央区北浜東1-8 北浜東森田ビル7F　TEL06-949-2806

株式会社新高製作所　大阪市東成区大今里南1-16-8　TEL06-971-1577

西日本イトン販売株式会社　大阪市北区曽根崎1-2-6 新宇治電ビル　TEL06-364-2671

西日本三星シングル工事協同組合　大阪市西区京町堀1-10-5　TEL06-443-0431

東畑建築事務所創立65周年

協賛

株式会社西原衛生工業所大阪店　大阪市北区中津6-8-4　TEL06-458-3628

日光化成株式会社　大阪市北区大淀北1-6-41　TEL06-458-5511

日新工業株式会社大阪支店　大阪市西区新町1-12-22　TEL06-533-3191

日本板硝子環境アメニティ株式会社　大阪市北区大淀中1-1-90-300 梅田スカイビルガーデンファイブ　TEL06-440-3865

日本金属工業株式会社大阪支店　大阪市中央区南本町4-2-21 イヨビル7F　TEL06-251-5358

日本通信小野特機株式会社　大阪市北区末広町1-22　TEL06-313-1355

日本電気硝子株式会社　大阪市淀川区宮原4-1-14　TEL06-399-2728

日本電設工業株式会社大阪支店　大阪市北区豊崎3-17-15　TEL06-372-3533

日本ドライブイット株式会社　大阪市西区九条1-27-6 住金興産ビル8F　TEL06-584-4181

日本ピーマック株式会社　大阪市北区南森町1-4-19 サウスホレスト　TEL06-362-6655

日本ビクター株式会社近畿システム支店　大阪市天王寺区小橋町10-16　TEL06-768-5441

日本フレクト株式会社　大阪市北区芝田1-4-8 北阪急ビル　TEL06-374-1355

株式会社パラキャップ社　大阪市中央区今橋1-7-3 ハヤシビル　TEL06-202-7288

花豊造園株式会社　京都市下京区大宮通五条下ル　TEL075-341-2246

株式会社日立製作所関西支社　大阪市住之江区南港東8-3-45　TEL06-616-1111

日立プラント建設株式会社関西支店　大阪市中央区本町1-8-12　TEL06-266-1931

フドウ建研株式会社大阪支店　大阪市中央区平野町4-2-16　TEL06-201-3737

福西鋳物株式会社　大阪市西区南堀江4-25-17　TEL06-541-2924

株式会社富士昭　大阪市中央区農人橋1-4-33　TEL06-910-0081

文化シヤッター株式会社関西営業推進部　大阪市中央区北久宝寺町4-3-11 エーユー本町ビル　TEL06-282-0945

増田工業株式会社　大阪市北区梅田1-11-4-900 大阪駅前第4ビル9F　TEL06-344-3341

松下電工株式会社　大阪市中央区城見2-1-3　TEL06-943-1630

丸善株式会社環境デザイン事業部　大阪市中央区博労町3-3-2　TEL06-251-2679

丸五基礎工業株式会社　大阪市北区東天満2-6-2　TEL06-358-3601

丸紅設備株式会社大阪支店　大阪市中央区安土町1-7-13 トヤマビル　TEL06-261-2351

三菱重工業株式会社関西支社　大阪市北区中之島2-2-2 ニチメンビル6F　TEL06-201-0413

宮崎木材工業株式会社　京都市右京区太秦下角田町5　TEL075-864-7000

株式会社メディアート　大阪市天王寺区生玉町3-10　TEL06-774-5543

ヤマギワ株式会社　大阪市浪速区日本橋3-4-9　TEL06-643-3211

ヤンマーディーゼル株式会社　大阪市北区茶屋町1-32　TEL06-376-6266

山城鉄工株式会社　京都府亀岡市薭田野町佐伯院ノ芝47　TEL0771-22-2133

山武ハネウエル株式会社大阪支店　大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー　TEL06-881-3371

山本窯業化工株式会社　大阪府吹田市豊津町41-20　TEL06-338-8601

株式会社ユニオン　大阪市西区南堀江2-13-22　TEL06-532-3188

ヨーコン株式会社　大阪市北区大淀中1-7-19　TEL06-458-5761

株式会社淀川製鋼所　大阪市中央区南本町4-1-1　TEL06-245-1119

ルノン株式会社　大阪市中央区森之宮中央2-7-5 森之宮センタービル5F　TEL06-941-8478

YKKアーキテクチュラルプロダクツ株式会社　大阪市中央区谷町4-8-7　TEL06-947-4141

OBAYASHI

あしたのものがたり



出会いは、
人をゆたかに変えてくれます。
ひとりひとりの夢は、語られ、共有されて
あしたのたしかなかたちになっていきます。
たてものは、人と未来が
出会う場所なのです。

株式会社 大林組

東京本社／東京都千代田区神田司町2-3 〒101 ☎03-3292-1111 本店／大阪市中央区北浜東4-33 〒540 ☎06-946-4400[電話番号案内]



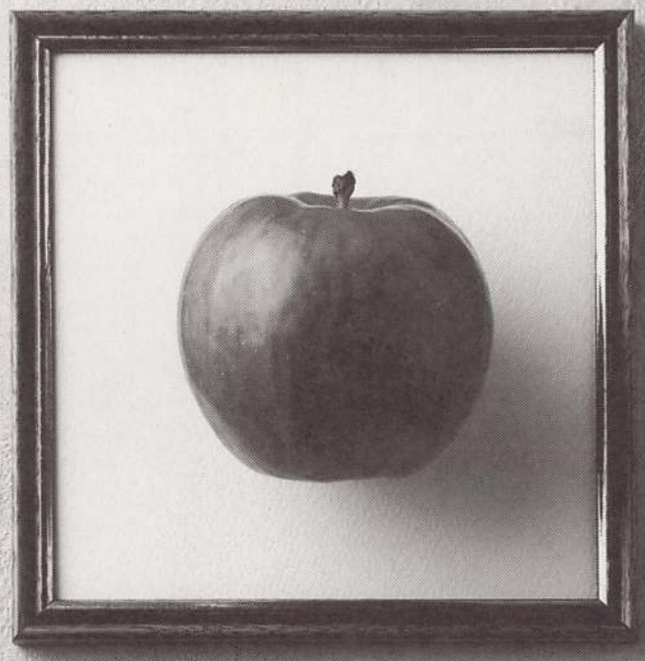
“安心”の上に暮らす。

我が家に帰ると、ほっとする。それは住まいが
雨、風、暑さ、寒さから私たちをまもってくれるばかりでなく、
そこが家族や愛着のあるモノに囲まれた安心できる空間だからこそ。
カジマの免震ハウジングは文字どおり地震の揺れを大幅に低減し、
家具の転倒などの二次災害にも効果を発揮。
地震から建物の安全はもちろんのこと、
住む人の暮らしをしっかりまもります。

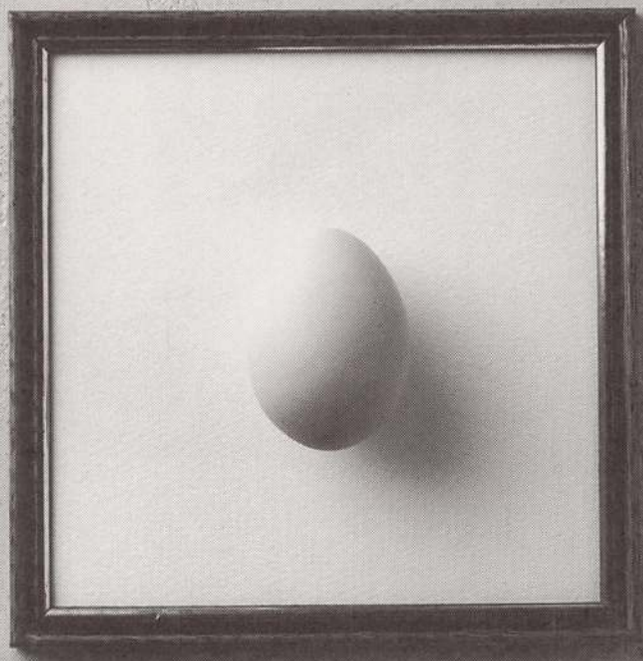
快適環境創造企業
鹿島
KAJIMA CORPORATION
本社:〒107 東京都港区元赤坂1-2-7

広い視野、豊かな発想。

ニュートンの視点。コロンブスの着眼点。
いろいろな角度から、明日を見つめる清水建設です。



Newton's Apple



Columbus' Egg

人がつくる、人の場所。
SHIMIZU CORPORATION
清水建設

カモメの星

波の音が地球のリズムを刻む。
海辺の景色にカモメが溶け込んでゆく。
いつから、こんな光景が繰り返されてきたんだろう。
そんなことを考えると、あたりまえの光景が、
たまらなくいとおしく感じられます。
この星の上の、こんな時間が、
いつまでも、いつまでも、続きますように。
私たちは、道や、ビルや、街が生まれるそのそばで、
静かないのちが精一杯生きていることを
忘れずにいたいと思っています。
大成は建設を通じて人類の未来を創造しています。
けれど、様々な生き物たちの場所を借りながら、
この惑星で創造を続けているのだという事実を
しっかりと胸に刻んでおきたいと思っています。



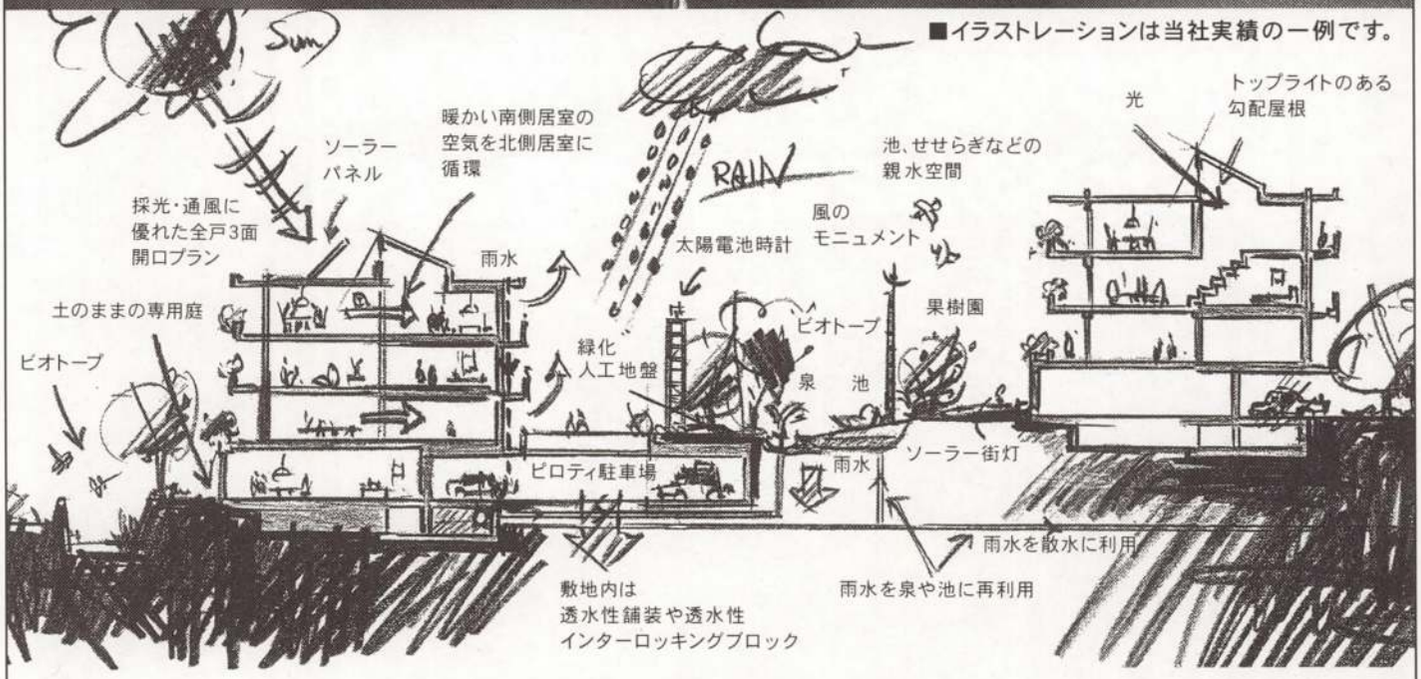
TAISEI
大成建設

TAKENAKA
CORPORATION



自然と“共生”できるなら、都市に住みたい。

■イラストレーションは当社実績の一例です。



■集合住宅は「環境共生型」へ。

都市生活者の住宅ニーズは今、大きく変わってきています。それに応える新コンセプトが「環境共生型」です。第一に地球環境の保全への関心が高まっています。省エネ・省資源・リサイクルに徹し、太陽エネルギーや雨水なども積極的に活用したいものです。第二に周辺環境との親和性を求めています。周辺の自然を大切にすると共に、敷地内にも広場、果樹園、池、泉などが必要です。第三にゆったりと快適で、安全な居住スペースの確保です。今を楽しみ、高齢になっても安心して住めるかどうかがチェックポイントです。

■エコロジカルな生活を提案。

地球に、周辺環境に、そして人にやさしい…このようなエコロジカルな暮らしこそ、都市生活者のニーズ。その意味で「環境共生型」は、今後、集合住宅の潮流となることでしょう。竹中工務店は街づくりはもとより、超高層から中低層の集合住宅まで、これまでに多くの実績を重ねてきました。その間、入居者の相互交流を深める住宅、アメニティに満ちた住宅など、常に時代のニーズに先行。今後もそれらのテーマをより深く追求すると共に複合化し、斬新な提案を続けていきます。

竹中の環境共生型住宅

創業1610年
竹中工務店

お問い合わせは——総本店広報へ
〒541 大阪市中央区本町4丁目1-13 Tel.06(252)1201
〒104 東京都中央区銀座8丁目21-1 Tel.03(3542)7100
[WWW Home page] http://www.takenaka.co.jp/

私たちの植えた苗木が、熱帯雨林を甦らせるのは22世紀のことだろうか。

私たちはコーポレートシチズンシップにのっとり、
マレーシアで植林活動を進めています。
総合建設会社、日本国土開発です。



植林をすすめている
フタバガキ科の苗木

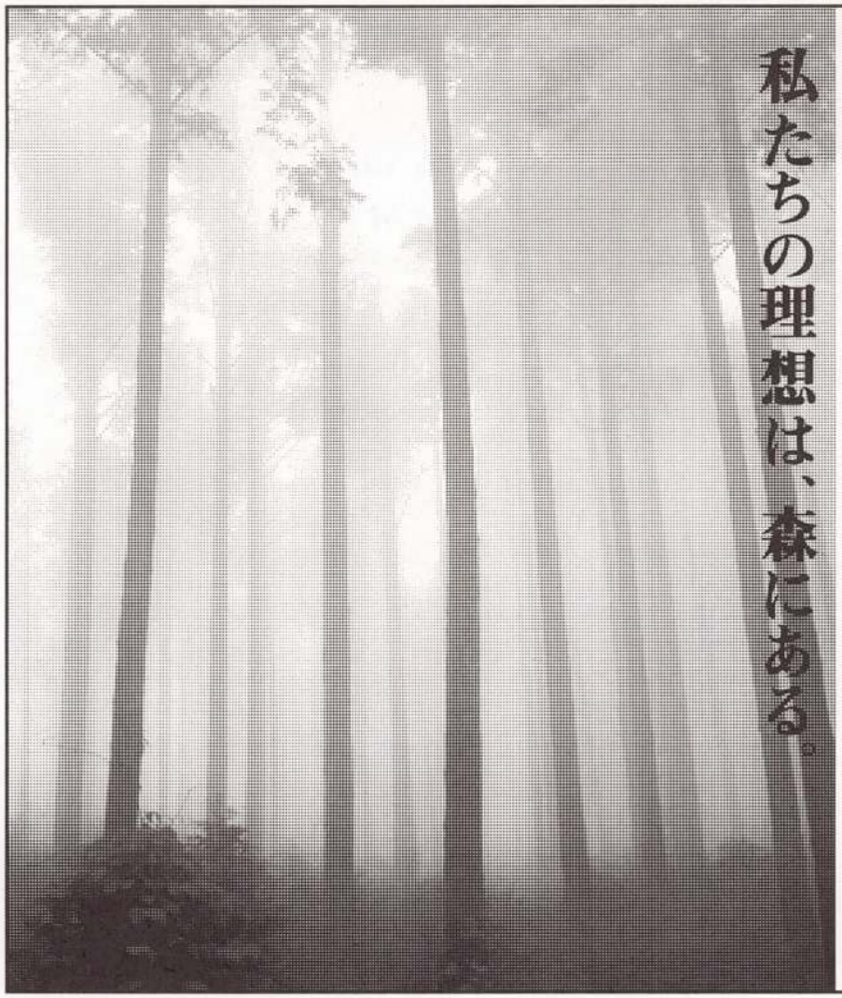
Yutaka Inoue from ANIMALS&EARTH

KOKUDO

Ambience Creation －快適環境の創造－

日本国土開発 株式会社

東京都港区赤坂4-9-9 〒107　TEL.(03)3403-3311(代表)



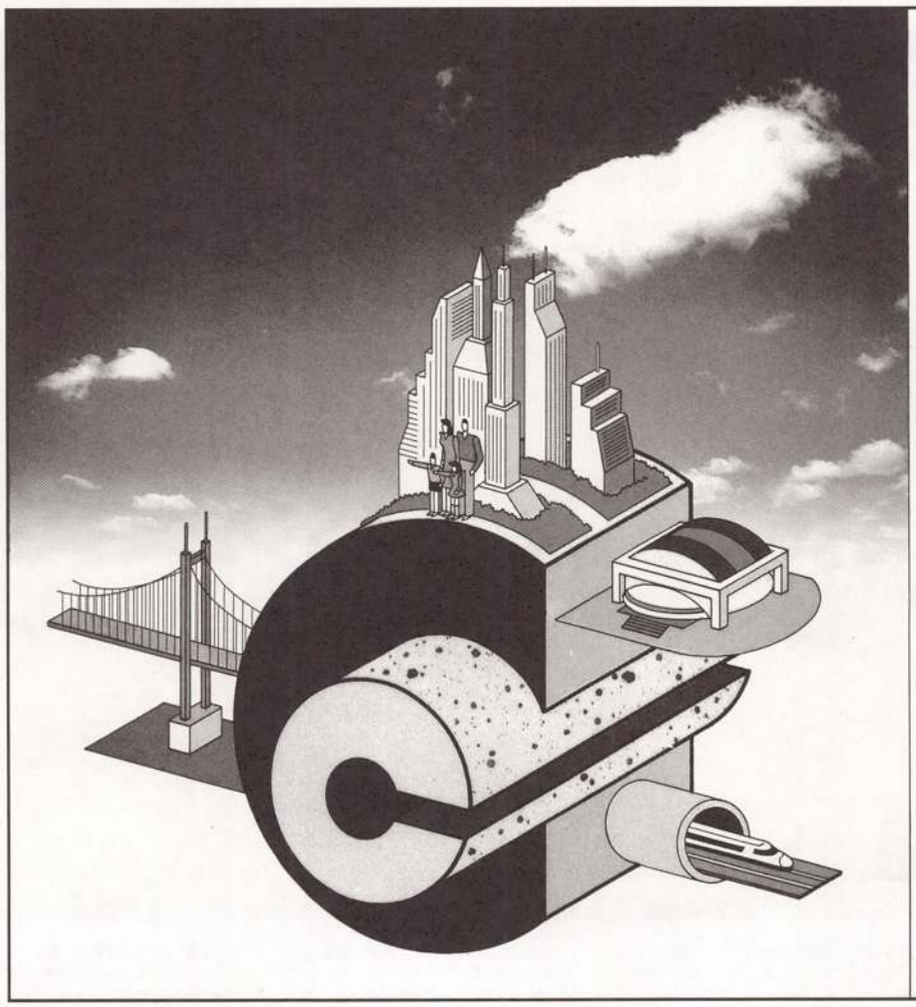
私たちの理想は、森にある。

安藤建設株式会社　東京都港区芝浦3-12-8 〒108
TEL.03-3457-0111(大代表)

かつて森を訪れた時のことを思い出してみてください。その時何を感じましたか。この上ない清々しさや包み込まれるような優しさや慌ただしい日々の生活の中では得られない開放感を覚えたことでしょう。そんな自然がもたらす形にはならない何かを、アーキテクチャーも備えていなければならないと思います。というより、人のための空間を創るかぎり、それは当然であり、基本なのです。初めてなのにどこか落ち着く空間、心を解きほぐしてくれるような空間、のびのびと働きやすい空間。自然にはかなわないけれど、人に安らぎや心地よさを贈れる私たちでありたいと思うのです。人を真ん中に据えた発想を大切にします。

ANDO

人の気持ちで。人の視点で。安藤建設。



自然のチカラと
人のワザの融合エネルギー。

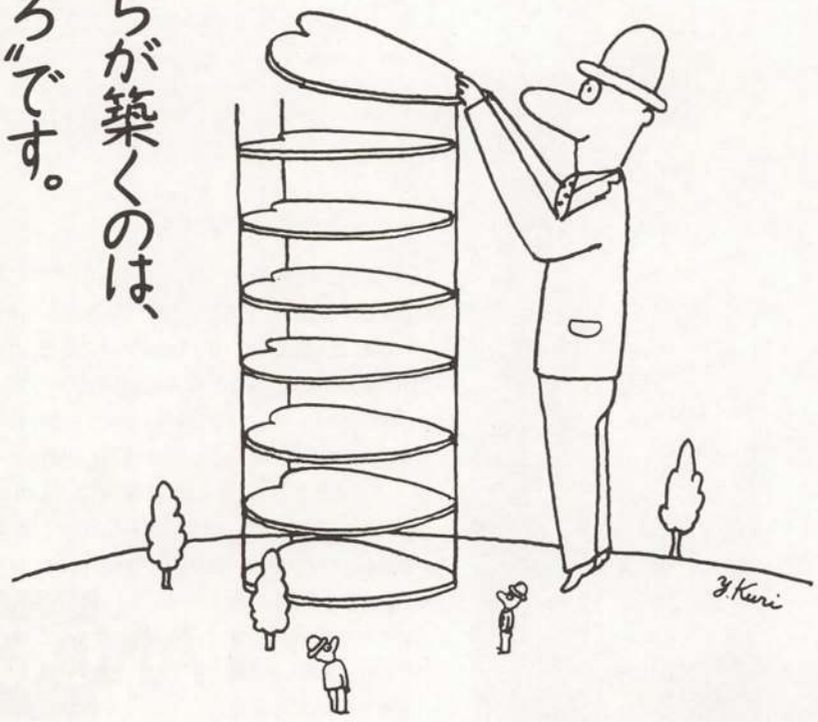
先端技術を生かした快適で安全な街づくりをベースとして、さらに、心が満たされ、気がかりのない「安心」できる生活空間が求められています。その実現をめざし、自然の換気、自然光の導入、自然エネルギーの活用、木々や植物の採用など自然と共存する、斬新なコンセプトでコミュニティづくりを提案…それが、人と地球にやさしい環境を創造する奥村組のエネルギーです。

好きです、大地。たいせつに築きます、未来を…

奥村組
OKUMURA CORPORATION

本　社：大阪市阿倍野区松崎町2-2-2 TEL.06(621)1101
東京本社：東京都港区元赤坂1-3-10 TEL.03(3404)8111

私たちが築くのは、
"こころ"です。

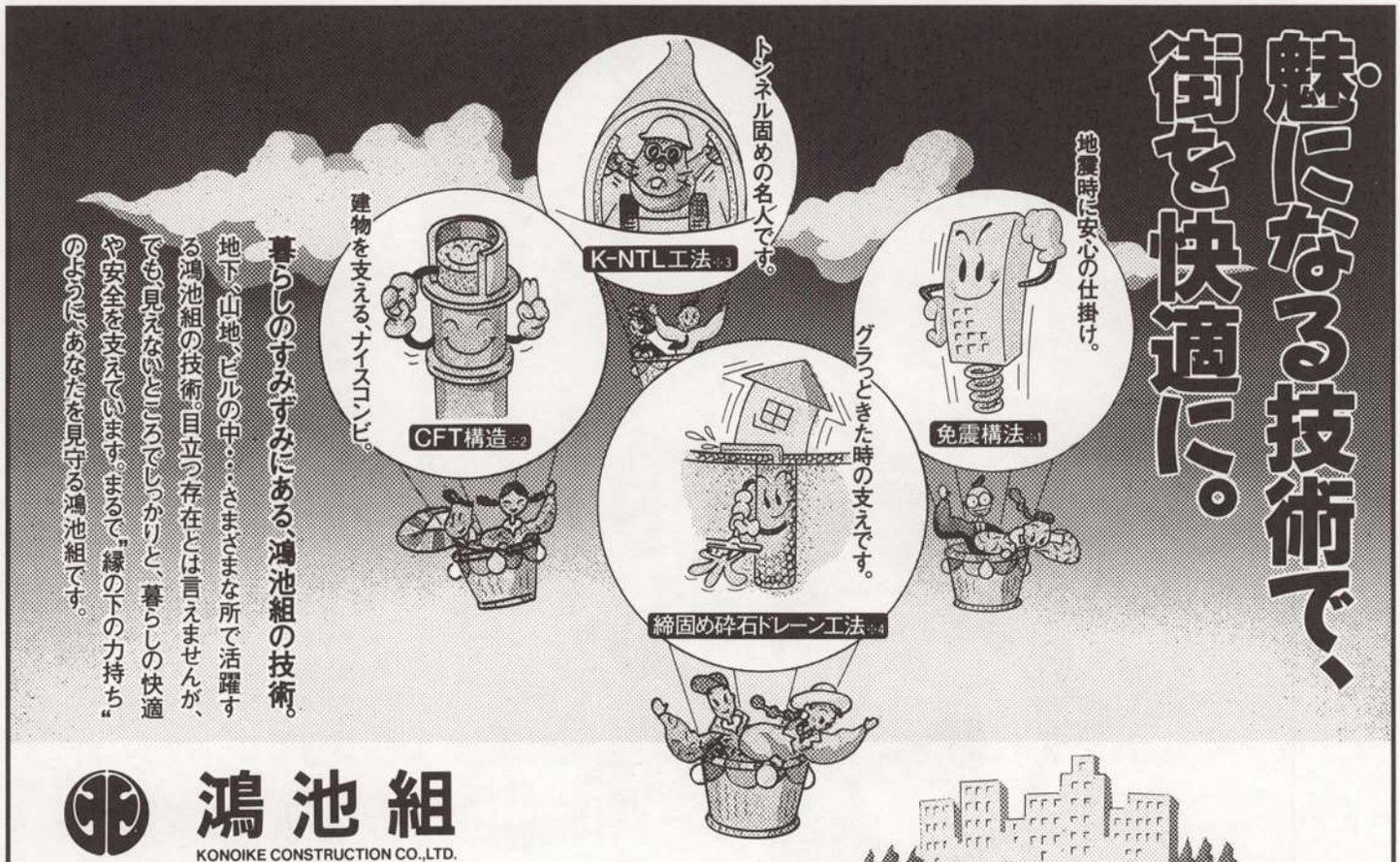


建築物は、機能性だけを考えた
単なる入れ物ではありません。
人と人とをより良い関係で結ぶ創造的空間
それが建築物です。
だから、人のこと、自然のこと、
もっと大きな地球のことを
抜きにしては語れない。
熊谷組は人と自然の結びつきを
大切にしながら
より快適な社会、住みやすい環境づくりを
めざしていきます。

KUMAGAI 熊谷組

本　　社●〒162 東京都新宿区津久戸町2-1 ☎03-3260-2111
大阪支店●〒534 大阪市都島区片町2-10-5 ☎ 06-352-1151

魅になる技術で、
街を快適に。



暮らしのすみずみにある、鴻池組の技術。
地下、山地、ビルの中…さまざまな所で活躍する鴻池組の技術。目立つ存在とは言えませんが、でも、見えないところでしっかりと、暮らしの快適や安全を支えています。まるで"縁の下の力持ち"のように、あなたを見守る鴻池組です。

鴻池組
KONOIKE CONSTRUCTION CO.,LTD.

※1 免震構法は建物と基礎を切り離し、アイソレーターとダンパーなどで地震の振動を和らげる構法です。 ※2 CFT構造は、鋼管にコンクリートを充填した高強度の超高層ビル用の構造材です。※3 K-NTL工法は、トンネルの一次覆工の自動化、省力化を実現した新しいトンネルライニングです。 ※4 締固め砕石ドレーン工法は、砂地盤を締固めながら地盤中に砕石柱を築造して、地震時に発生する液状化を防ぎます。



Zenitaka

それは人が集まる場所。



存在感、魅力あるスペース、独創……　いい建造物には、そんな表現が当てはまります。
でも、人が何故集まってくるのかと言えば、そこにある優しさや信頼感からではないでしょうか。
我々は人に優しい空間を目指し、これからも期待に応えて行きます。

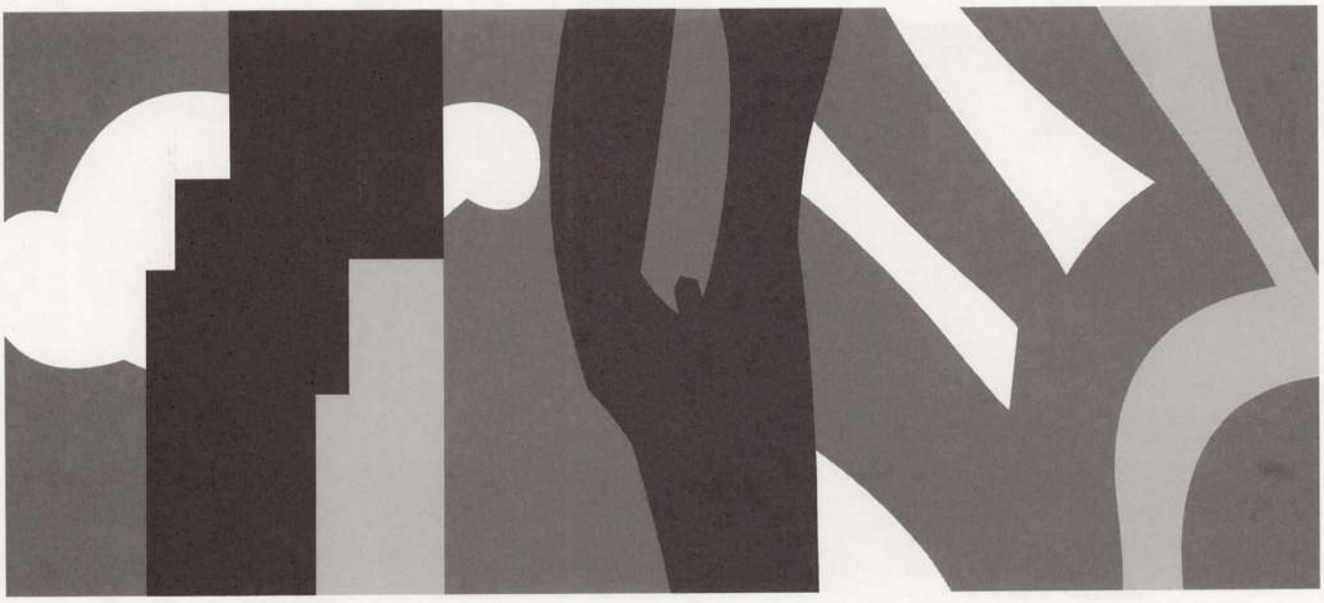
錢高組
URL http://www.zenitaka.co.jp



私たちは、地球環境と人間活動をトータルに見つめ、自然のサイクルと一体となった社会システムづくりに少しでもお役に立てるよう、頑張りたいと思います。ヒューマンデザイニングで考える、戸田建設です。

新世紀へ、新分野へ、新技術で。
戸田建設
本社/〒104 東京都中央区京橋1-7-1 ☎(03)3562-6111
大阪支店/〒550 大阪市西区西本町1-13-47
新信濃橋ビル ☎(06)531-6095

創造という力、建設という知恵。
FUJITA



時代の先の先を見越した企画提案を。
フジタには先端技術を駆使しての建設を核に、
都市開発やエネルギー開発やレジャー事業など、
多岐にわたる実績と豊富なノウハウがあります。
すべての力を創造に向けて。

"高"環境づくり
フジタ
本　社　〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15tel(03)3402-1911
大阪支店　〒530 大阪市北区堂島2丁目1－16tel(06) 348-4510

未来へ——安心を創る（つく）



FUJIKI 藤木工務店

本　　社　〒540 大阪市中央区常盤町1-3-8 ☎06-966-0400(代)
東京本社　〒160 東京都新宿区三栄町23-4　☎03-3357-1600(代)
本 支 店　大阪・東京・横浜・京都・倉敷・四国・福岡

たくさんの人々が、毎日、出会ったり別れたり、恋をしたり、仕事をしたり、
泣いたり笑ったりしながら生きていく場所。
そんな人間の場所が、もっともっと温もりを持てるように、私たちは技術を磨き続けます。

人間の場所



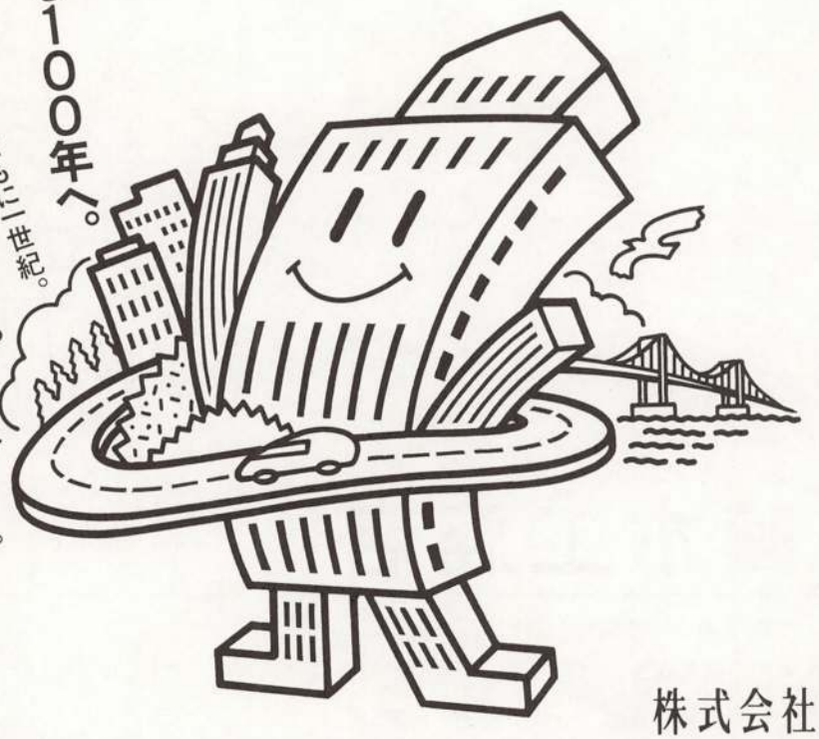
MAEDA 前田建設

本　　社　東京都千代田区富士見2-10-26　電話(03)3265-5551　ホームページ http://www.maeda.co.jp/
大阪支店　大阪市西区江戸堀1-3-15　電話 (06)446-9511

Matsumura

次なる100年へ。

街とともに、人とともに一世紀。
これからも21世紀の夢に応える
建築・土木の総合企業として、
新たな可能性を見つめ続けます。



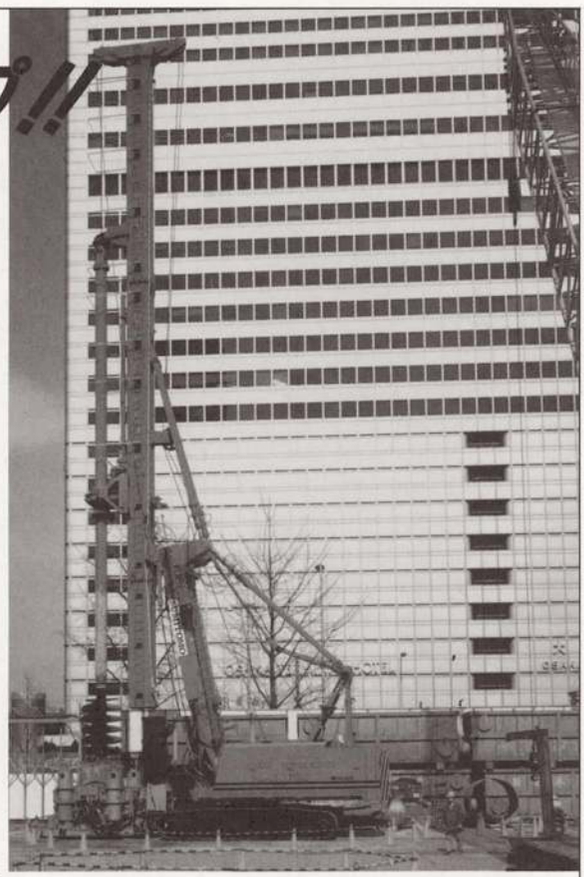
株式会社松村組

本社・大阪本店　大阪市北区東天満1-10-20　東京本店　東京都千代田区内幸町1-1-2　支店　名古屋・札幌・東北・広島・九州・神戸・京都・横浜

岩盤破砕 パワーアップ!!

超大口径・超大深度アースドリル工法との
一貫施工に威力を発揮します。

SSD工法



新しい場所打ち拡底杭

NKTB・SKTB・KKTB・SMTB杭工法
（耐震場所打ち鋼管コンクリート杭）

OMR／A工法（リバース式拡底掘削）

OMR／B工法（バケット式拡底掘削）

㊄ 丸五基礎工業株式会社

本　社　大阪市北区東天満2-6-2（南森町中央ビル）〒530 ☎(06)358-3601㈹

関西支店　大阪市北区東天満2-6-2（南森町中央ビル）〒530 ☎(06)358-3601㈹
東京支店　東京都江東区東陽6－3－30 〒135 ☎(03)3649-5131㈹
名古屋支店 ☎(052)222-6801㈹　福岡支店 ☎(092)472-4392㈹
広島支店 ☎(082)246-3211㈹　高松営業所 ☎(0878)81-2257

ほら、ビルに、地球に、役立つ空調、あります。



天然ガスのよさを上手にいかして、「ビルと地球に役立つ空調」とは？

役立つポイント①「小電力」都市ガスを主燃料としているので電力をほとんど消費しません。OA化が加速するビルでも、余裕をもって空調が使用できます。

役立つポイント②「低ランニングコスト」一般のガス料金と比べてとてもお得な「空調用ガス料金」がご利用いただけます。（一部適用されない場合もあります。）

役立つポイント③「環境にやさしい」主燃料である「天然ガス」は、化石燃料の中で、燃焼時に排出するCO_2、NOxが最も少ないクリーンエネルギーです。

答えはガス空調

◎「ガス空調」に関するお問い合わせは、大阪ガス（株）営業計画部 開発推進室 都市エネルギーチーム TEL.06−205−4670 まで

Day by Day——きっといい明日

大阪ガス



躯体高耐久性混和材（膨張材）
小野田エクスパン

耐震補強無収縮グラウト材
プレユーロックス

躯体高耐久性混和材(防水材)
小野田ＮＮ-Ｐ

セルフレベリング材
小野田生 SL

株式会社 小野田

本　　社　〒135 東京都江東区東陽 4-1-13　東陽セントラルビル　TEL03-5683-2011
関東支社　〒135 東京都江東区東陽 4-1-13　東陽セントラルビル　TEL03-5683-2030
関西支社　〒532 大阪市淀川区西中島 6-1-1 新大阪プライムタワービル　TEL06- 886-0180

小松ウォール
間仕切の総合メーカー

バリアフリー対応製品

人にやさしいハンガードア
マイティ・カームドア



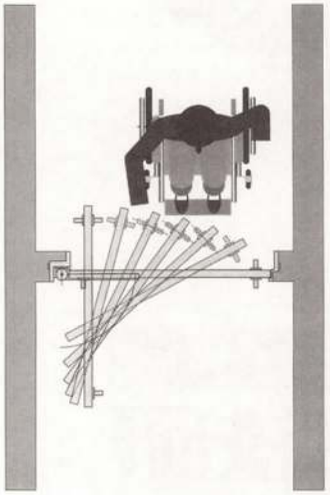
あけてみてください・・・
軽さがわかる

開放力
わずか600g

床レールがありません。　省スペースのハンガードア　指1本！軽～くオープン

ドアの概念を変える
カムフォートドア

1. 狭いスペースが有効に利用できます。
2. 車椅子でもスムーズ
3. 床レールがありません。
4. 軽量設計





小松ウォール工業株式会社
本社／〒923 石川県小松市工業団地1-72　TEL 0761 (21) 3131(代)
大阪営業本部 (06) 241-8416・東京営業本部 (03) 3263-2771

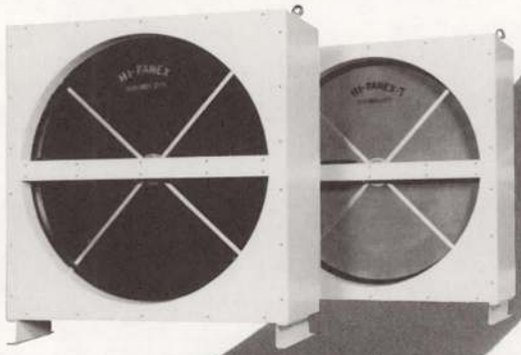
SEIBU GIKEN

（営業品目）
熱交換器・除湿機
有機溶剤回収装置・空気浄化エレメント

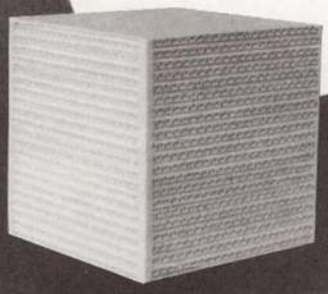
①臭気移行防止を実現

②アンモニアガス移行防止を実現

全熱・顕熱交換器ハイ・パネックス



エレメント素材
アルミ、セラミック
ポリエステル
塩化ビニール
ステンレス、難燃紙



すべてはここからはじまった

時代が要請するテーマと西部技研の研究テーマとが一致して、画期的な呼吸する構造体・全熱交換器・顕熱交換器が誕生した。この、小さな波状のコルゲーションの集合体の中に、大いなる可能性が秘められている。地球環境、エネルギー問題へ向けて、小さな波が、時代を動かす大きな波へと成長しようとしている。そして、そのすべてはここからはじまったのだ。

人とエネルギーと環境と

株式会社 西部技研

本社・古賀工場
福岡県古賀市青柳3108-3
PHONE：092-942-3511（代表）
092-942-5711（営業直通）
FAX：092-942-3761
092-944-6811（営業直通）

東京営業所
東京都新宿区新宿5-11-1
ホーメスト新宿ビル2階
PHONE：03-3356-3060
FAX：03-3356-3065
〒160

大阪営業所
大阪市淀川区西中島3-7-13
新大阪サクセスビルEAST7F
PHONE：06-305-9251
FAX：06-305-6824
〒532

東海事務所
愛知県岩倉市石仏町206-1
PHONE：0587-37-4559
FAX：0587-37-1121
〒482

40年間の快適さを未来へ。

1956年、日本で初めて自動ドアを生産して以来40年以上。ナブコは自動ドアのトップブランドとして揺るぎない信頼をいただいてきました。
21世紀に向け、これからも、人々が快適に働き、快適に暮らすことができる環境づくりのために、新しい価値ある商品の開発をつづけてまいります。



ロータリーエントランスシステム
サークルスター



品位ある透明感、省エネ自動ドア
ロスカドア



ひろびろ開放、
セーブスペース自動ドア
フォールディングドア



軽く開く、人に優しい
パワーアシストドア



おかげさまで40周年
40
ナブコ自動ドア

気密性、遮音性を高めた自動ドア
NATドアユニット



有人改札口をスムーズに、
そしてフレキシブルに
パスチェック



安全で快適な
プラットホームをつくります
プラットホームドアシステム



高性能、コンパクトボディの
門扉自動開閉装置
ゲートバック



時代を開くトップブランド
ナブコ自動ドア

NABCO 株式会社 ナブコ
建築事業部

本　社　神戸市中央区磯上通2-2-21（三宮グランドビル）
〒651　TEL.(078)251-8072
東京支社　東京都港区海岸1-9-18（国際浜松町ビル）
〒105　TEL.(03)5470-2415

東日本地区販売会社 ナブコシステム株式会社
本社 (03)3591-6411

西日本地区販売会社 ナブコドア株式会社
本社 (06)532-5841

九州地区販売会社 オリエント産業株式会社
本社 (092)781-7563

「光」と「人」のために、パネル化発想。



関西電力（株）三木営業所
所在地／兵庫県三木市
設計／（株）東畑建築事務所
施工／（株）新井組
使用カラスブロック／コロナ、タペストリー・コロナマット

いま、ガラスブロックとPCの機能がひとつに。

パネルウォールは品質管理の行き届いたガラスブロック、鉄筋、モルタル、フレーム等の
材料を使って工場生産される、光を透す大型のガラスブロック・パネルです。

安定品質
ガラスブロックを工場生産にてパネル化するので、その品質は安定しています。

工期短縮
パネルだから、従来の組積み工法に比べ施工が簡単で、工期も1/3〜1/5に短縮します。

意匠展開
一個積みと同様に、模様積みは自由で曲面壁のパネルもデザインできます。



パネルウォール吊込み工程

光のアーキテクチュア Glass Block
GB パネルウォール

ハイテクガラスで未来をつくる
日本電気硝子

東京／東京都港区三田1丁目4番28号　TEL（03）3456-3511
大阪／大阪市淀川区宮原4丁目1番14号　TEL（06）399-2728

日本電気硝子の主要製品　ブラウン管ガラス｜液晶ディスプレイ基板ガラス｜電子部品用ガラス｜ガラスファイバ｜管ガラス｜結晶化ガラス｜建築用ガラス｜真空式ソーラーシステム

◆会社情報 http://www.neg.co.jp/negkoho　☆建材製品情報 http://www.meshnet.or.jp/neg-ken/　☆光関連製品情報 http://www.meshnet.or.jp/neg/

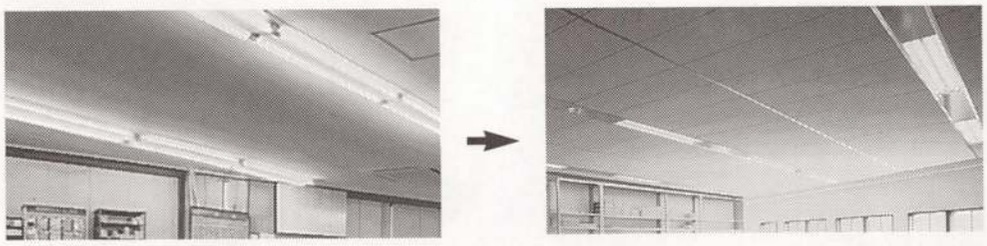
National 松下電工

天井と照明、早変わり。

スピード省施工で、快適なシステム天井に生まれ変わります。



すばやく、静かに、システム天井にリニューアルできます。



既設のインサートや吊りボルトの利用により、現場での加工作業を削減。さらに天井と設備のトータル化を図ることで、従来施工に比べて約30%の工期短縮※を実現しました。週末や長期休暇を利用したリニューアル工事も可能です。また、新たなインサート打ち込みや溶接作業が減り、騒音や振動も少なく他の階や隣の部屋への影響も軽減されました。※当社改修例(解体・撤去を含む、500m²の場合)。

すっきり、明るい、快適環境を実現します。

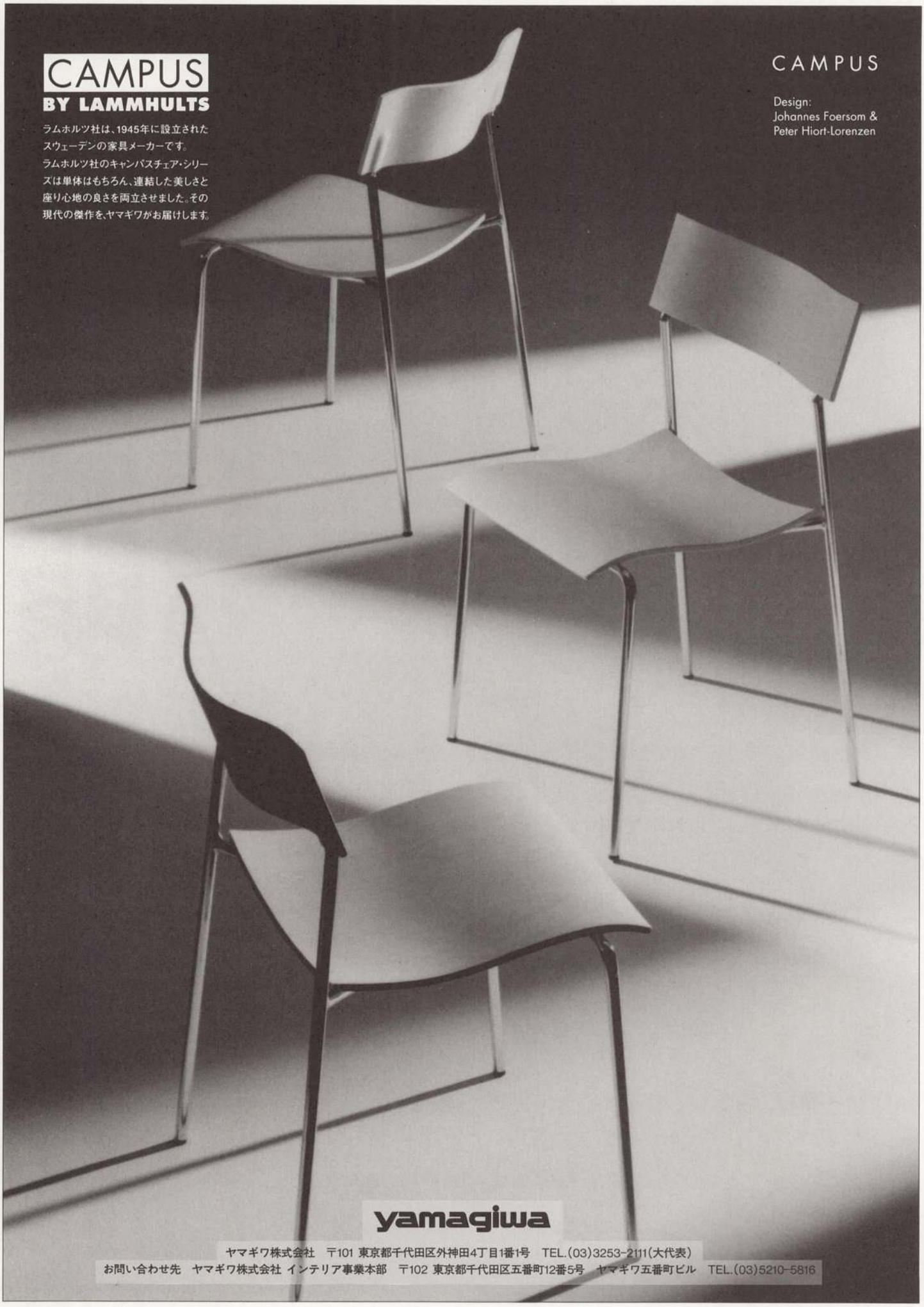
薄型専用Hf照明器具の開発により、天井の高さを変えずにシステム天井にリニューアル。照明や空調などの諸設備がライン状にスッキリ収まります。さらに、従来の白色ランプに比べて明るさ約1.5倍※。同じ明るさなら約26%※の省エネが可能です。※当社従来品比

リニューアル向け天井+照明システム

カンタッチ シーリング

●商品に関するお問い合わせ・カタログのご請求は、
〒571 大阪府門真市門真1048 松下電工・電機マーケティング部 カンタッチ係 電話 (06) 908-1131まで。

A&i 快適を科学します


CAMPUS
BY LAMMHULTS
ラムホルツ社は、1945年に設立された
スウェーデンの家具メーカーです。
ラムホルツ社のキャンパスチェア・シリー
ズは単体はもちろん、連結した美しさと
座り心地の良さを両立させました。その
現代の傑作を、ヤマギワがお届けします。
CAMPUS
Design:
Johannes Foersom &
Peter Hiort-Lorenzen
yamagiwa
ヤマギワ株式会社　〒101 東京都千代田区外神田4丁目1番1号　TEL.(03)3253-2111(大代表)
お問い合わせ先　ヤマギワ株式会社 インテリア事業本部　〒102 東京都千代田区五番町12番5号　ヤマギワ五番町ビル　TEL.(03)5210-5816

Architectural
Yamade Corp.

祝
東畑建築事務所
創立65周年

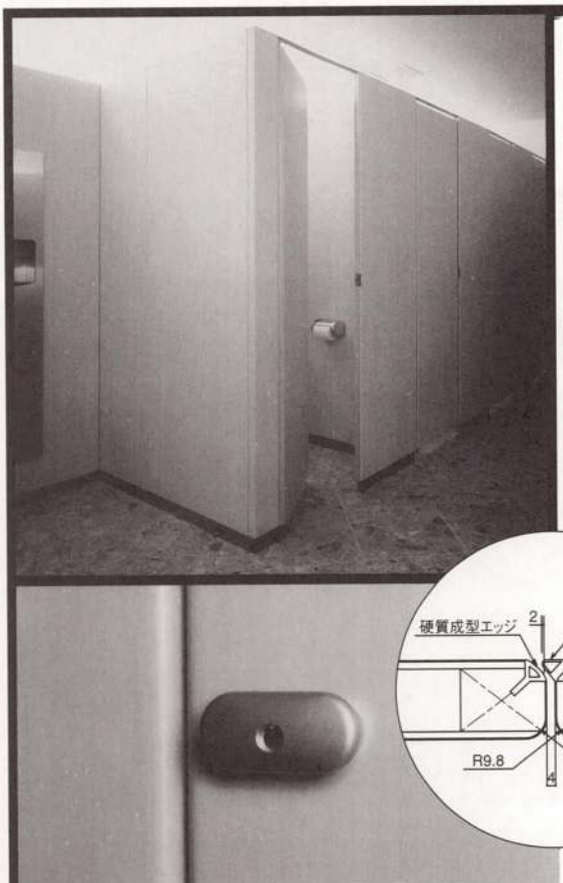
物 件 名：江戸堀センタービル
設計監理：株式会社 東畑建築事務所
施　　工：清水建設・鹿島建設・浅沼組・新日本製鉄共同企業体
防水施工：高山工業株式会社
仕　　様：パラボードシステム PBU-1A
　　クラクタイト・ドライ



屋上防水立上がり乾式保護システム　成形伸縮目地材
パラボードシステム　クラクタイト

塩ビ系シート防水 リベットルーフ防水　折りたたみ式 ヘキサユニット瓦

アーキヤマデ株式会社
本　　社・〒564　大阪府吹田市江の木町24-10
大阪営業所・〒564　大阪府吹田市江の木町24-10　TEL 06(385)1261
営　業　所・仙台・千葉・大宮・東京・横浜・名古屋・大阪・神戸・広島・福岡

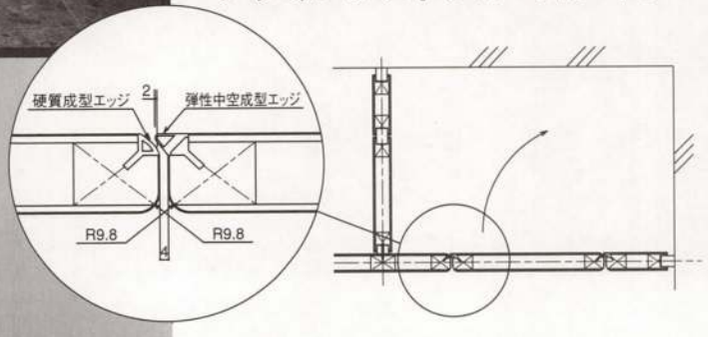


住まい空間を演出する
AICA

美しい表面材
優しいエッジ

アイカポストフォームならではの新しいカタチです。

アイカシステムブース
メラミンポストフォームタイプ



シンプルな美しいフォルムに安心の機能を備えたメラミンポストフォームタイプは、病院、ケアー施設、店舗等に最適なシステムブースです。

▶美しいフォルム
ポストフォーム加工によりジョイナー、エッジ、木口などの繁雑なラインを一掃。

▶非常解錠用ロック
弾性の召し合わせエッジと非常解錠用ロックの組み合わせにより、内開き仕様でも非常時には外開きが可能です。

▶抗菌性能
手に触れる部分は抗菌性能を有し、細菌類に対し増殖抑制効果を示します。

アイカ工業株式会社　本　社 名古屋市中区丸の内2-20-19(名古屋東京海上ビル20F)　営業本部 営業第一部／TEL(052)202-6971（直通） FAX(052)202-6947）



超軽量コンクリートパネル

グランデ

「インテックス大阪新6号館」に
ご採用いただいております。

『軽さ』(素材気乾比重0.6)がポイントです。

経済性
コストダウンに役立ちます。パネル材工+付帯資材(ファスナー、シーリング等)のコストがPC版より低減できるのに加え、杭・鉄骨工事も軽減できます。また工期が短縮(通常PC版の約1/2)できることから、経費の削減に貢献できます。

免震性
免震性アップに有利です。グランデは免震構法が標準使用となっております。先の阪神淡路大震災でもその性能が証明され、復興物件にもご採用いただいております。

断熱性
断熱性アップに有利です。グランデは熱伝導率がコンクリートの約1/10のため、室内側に断熱処理を施さなくても良いケースが多くなります。

環境親和を考える——
旭化成建材

●東京 ☎03(3507)7855 ●名古屋 ☎052(212)2233 ●札幌 ☎011(261)5443 ●仙台 ☎022(223)5155 ●金沢 ☎0762(31)7188
●大阪 ☎06(347)3847 ●高松 ☎0878(22)0305 ●広島 ☎082(247)6131 ●福岡 ☎092(752)3974

＜グランデのホームページ＞ http://www.asahi-kasei.co.jp／akk／grande

INAX

そうです。この優美さが、INAX。



交野市立総合体育館
設計監理：東畑建築事務所　施工：前田建設工業

株式会社 INAX
大阪支社　〒550 大阪市西区新町1-34-15
大阪グレンチェックビル　TEL.06-539-3500

総合改修・改装需要の開拓と
建築仕上げの技術革新に挑み躍進するＳＫＫ

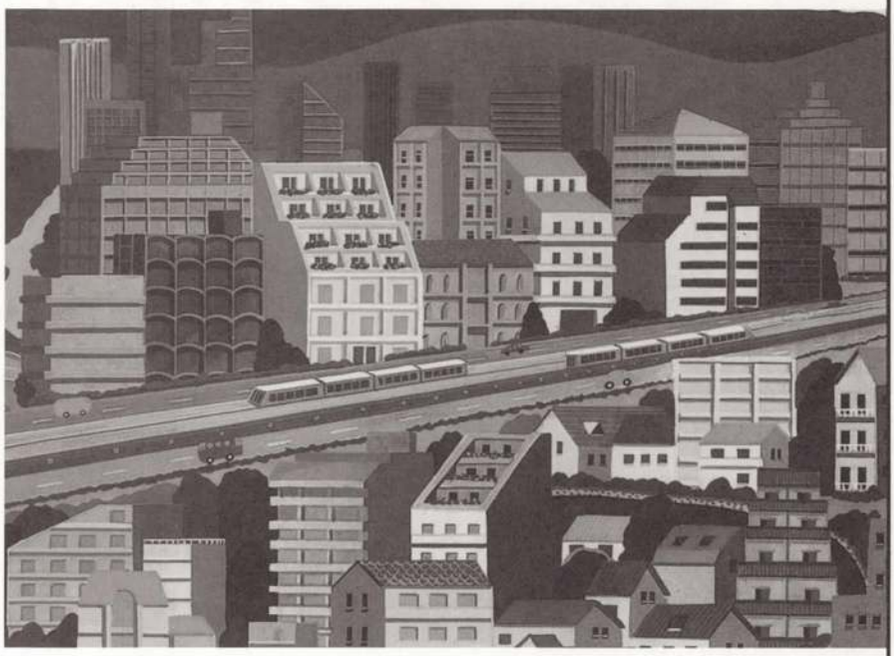
超低汚染・超耐久型塗料
セラタイトシリーズ

高耐久型水性塗料
水性コンポシリーズ

超低汚染ＮＡＤ型特殊ポリウレタン樹脂塗料
クリンマイルドウレタン

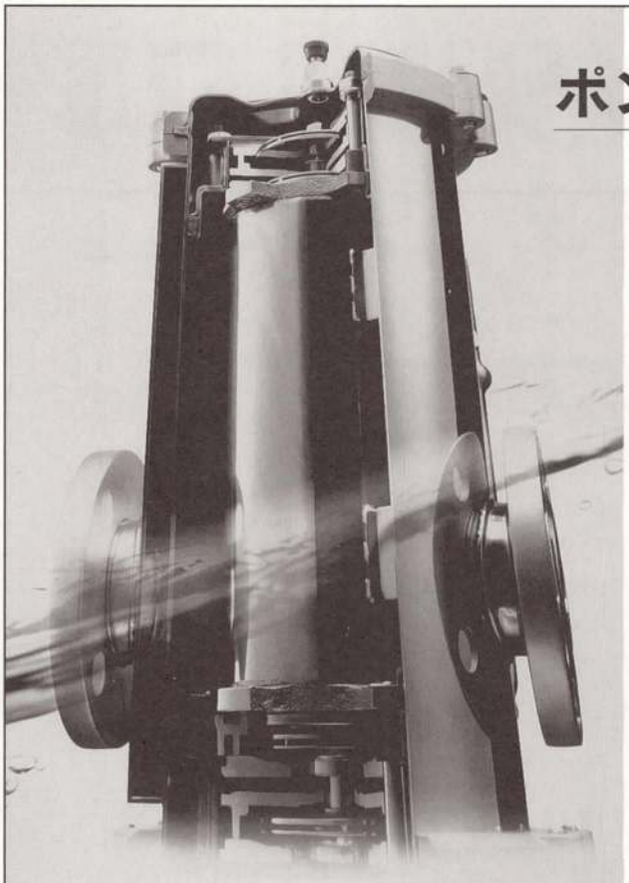
カラーベスト、薄型塗装瓦等の塗り替えに
ヤネフレッシュ
水性ヤネフレッシュシリコン

新・塗り替えシステム
ＳＫメンテサーフシステムⅡ



建築塗材の総合メーカー
エスケー化研株式会社

本　社　〒567－0034　大阪府茨木市中穂積3－5－25　☎0726－21－7733
大阪支店　〒567－0034　大阪府茨木市中穂積3－5－25　☎0726－21－7721



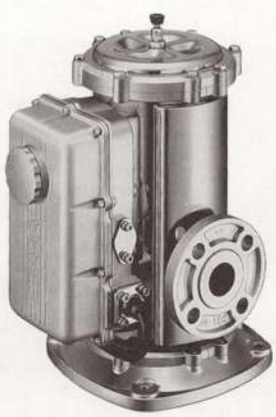
ポンプの理想を凝縮したポンプ。

1cm³ もムダにしない、コンパクト設計。
Hzfreeは、同等の性能を持つ従来の汎用ポンプと比べ、約1/5のコンパクト化（当社比）を実現しました。

1g もムダにしない、省資源化。
Hzfreeは、高速化という手段によって製品をコンパクトにすることで、材料の省資源化を実現しました。

1W もムダにしない、省エネルギー運転。
Hzfreeは、マニュアルインバータ駆動による8段階の回転数切換により省エネ運転を可能にしました。





エバラ バレルドモータポンプ **Hzfree**（ヘルツフリー） 50/60Hz兼用

EBARA

株式会社 荏原製作所
東京事務所(03)3289-7511
大阪支社(06) 227-6677
中部支社(052)264-4113

オーエム工業独自の防錆技術が、
「めっきプラス塗装」を実現!!

発注 → 鉄構設計製作 → めっき加工 → リン酸塩各種塗装 → 据付工事 → 完成

オーエム工業では、設計からめっき、塗装、据付工事まで、一貫施工させていただきます。例えばお客様は仕様明細書をFAXしていただくだけでＯＫ。設計図面から材料の手配、めっき、塗装、工事とすべての項目を満たした完成品としてお届けします。

対象品目：建設金物（外部階段・ベランダ・手摺・歩道手摺など）

鉄を錆から守る
オーエム工業株式会社
（溶融亜鉛めっき JIS 表示許可工場）

〒559 大阪市住之江区北加賀屋3-3-44
TEL(06)685-0681

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

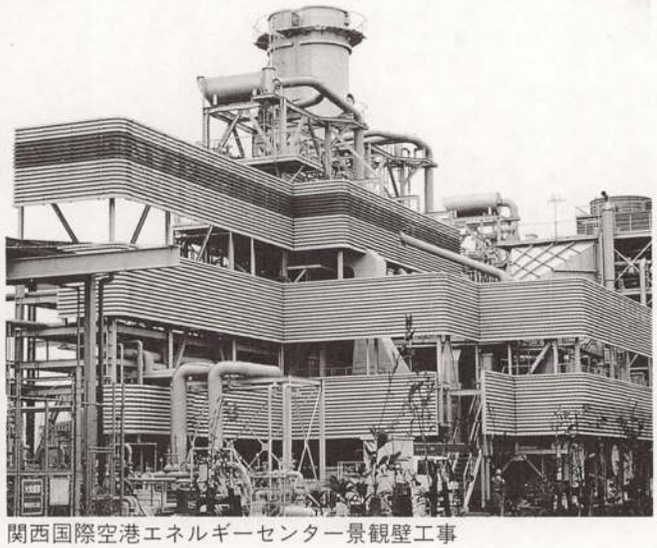
半世紀の実績が誇る技術とアフターケア!

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルエターノコア（ETC-F）
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルユニライト(ＵＮＬ)

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材) D.G.　※カタログをご請求ください。


関西国際空港エネルギーセンター景観壁工事

オリエンタルメタル株式会社

本　　社　〒335 埼玉県蕨市塚越５―12―2 TEL (048) 442-3111
東日本支社　〒335 埼玉県蕨市塚越５―12―2 TEL (048) 442-3115
西日本支社　〒660 兵庫県尼崎市長洲中通３―24―35 TEL (06) 487-2121
支　　店　関東、東北、大阪、名古屋、広島、九州
工　　場　熊　谷・東　条・姫　路

コンクリート建造物の防水は、耐亀裂性、安全性、施工性、耐久性に優れたパラテックス防水の各種工法にお任せ下さい！



パラテックス

屋上、斜屋根、ルーフバルコニー
パラテックスC-1工法：(別途モルタル等の保護)
パラテックスC-2工法：C-1＋カラーコート仕上げ
パラテックスC-3工法：C-1＋カラーコートS仕上げ

厨房、トイレ、浴室、窓廻り、各種防水補強
パラテックスA-1工法：(別途モルタル等の保護)

ブール、植栽、地下内壁
パラテックスB-1工法：(別途モルタル等の保護)

ベランダ、庇、斜屋根
パラテックスA-1工法：(別途モルタル等の保護)
パラテックスA-2工法：A-1＋カラーコート仕上げ
パラテックスA-3工法：A-1＋カラーコートS仕上げ

フリーアクセスベースフロアー
パラテックスQ工法

地下外壁、各種水槽
パラテックスB-2工法：B-1＋パラコート保護仕上げ

各種水槽(耐食防水仕様)
パラテックスB-3工法：B-1＋パラコートEX仕上げ
パラテックスB-4工法：B-1＋パラコートEX＋パラテックスEP-NS仕上げ

大関化学工業株式会社
本社／〒658 神戸市東灘区本山中町1-11-6 ☎(078)452-2591
支店／北海道・東北・東京・横浜・名古屋・大阪・岡山・福岡

TOF フッ素樹脂積層被覆鋼板 & COM 耐酸被覆鋼板



ＪＲ東日本東京駅中央線重層化改良工事

「耐酸被覆鋼板」のパイオニアとして約半世紀の経験を生かし、新たに「フッ素樹脂積層被覆鋼板」を製品群に加えました。
建築物の耐久性と、独創的な色彩と外観をクリエイトします。

■ フッ素樹脂積層被覆鋼板
ＴＯＦ（タフフロール）
■ 耐酸被覆鋼板
ＣＯＭ（ケミカラーオーシマメタル）
ＥＢＭ（エバーブライトメタル）

OSHIMA OHYO

本社　大阪市旭区太子橋1-15-22　Tel.06(954)6521　Fax.06(954)6480
大島応用化学工業株式会社　●支店 東京、名古屋、新居浜 ●工場 新居浜、寝屋川 ●営業所 四日市、岡山、広島、宇部、福岡

okamura

リニアモータが自動ドアを変える。

世界初のリニアモータ式自動ドア〈リニアード〉



●従来の自動ドアに比べ、開閉音が静か。

●各々の病室に合わせて開閉スピードを自在に変更可能。

●病室に不可欠なフリーストップ機能を自動ドアで初めて装備。

●停電時等の非常時には手で軽く開閉可能。(0.5kgf)

Lineared
リニアード
よい品は結局おトクです
オカムラ

株式会社 岡村製作所
関西支社　営業推進室 TEL06-282-4061
建材事業本部 大阪南支店 TEL06-282-4031
〒542 大阪市中央区南船場4-1-9
南船場第一東洋ビル

お客様サービスセンター
フリーダイヤル 0120-81-9060
月曜～金曜(祝祭日を除く) AM9:00～PM6:00

銅屋根

●オリジナルな要望に応え、ご希望を技に託して表情豊かな〔金属屋根〕の誕生に協力します。

●70年間の歴史で築いた豊富な施工実績から独自の施工技術とそのノウハウで素材の優れた個性を引き出し、新鮮な感性を高めます。



大阪城天守閣

新設・葺替 責任施工

株式会社 小野工業所

本　　社　東京都墨田区石原4丁目12番1号　〒130-0011　☎ 03(3624)2261(大代表)
大阪営業所　大阪市淀川区西中島3丁目20番9号　〒532-0011　☎ 06(304) 0654(代　表)
静岡営業所　静岡県静岡市豊田3丁目8番46号　〒422-8027　☎054(286) 0105(代　表)

責任施工を旨に大正時代より70年余。

祝　東畑建築事務所創立65周年

工事なら伝統と信用の京都・神治屋に！

サッシ工事
　内外装金属パネル工事、アルキャスト工事
天井壁床　軽量・軽間下地仕上工事
　ALC、ラムダ工事
屋根工事　瓦・スレート・カラーベスト・シングル
　アルアピア・トタン長尺・折版工事　etc

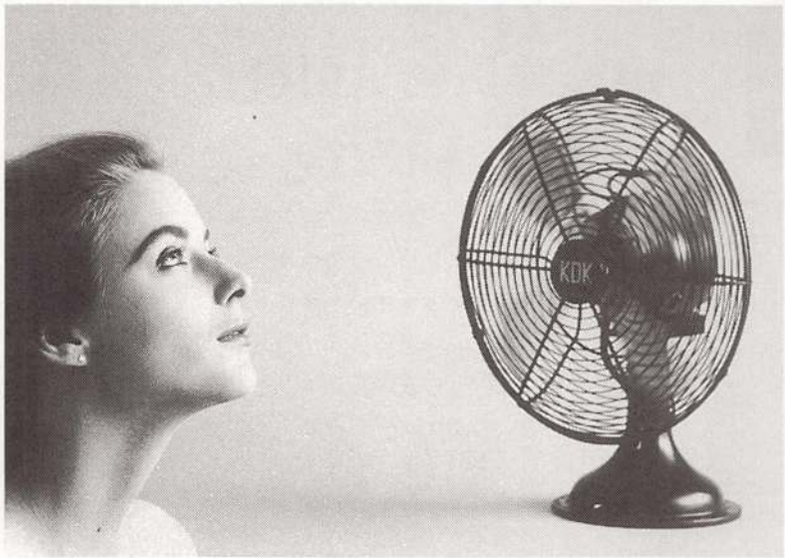




株式会社 神治屋（かみじや）

取締役社長　神谷　治
京都市伏見区下島羽長田町70
TEL. 075 (601) 6301 代表
FAX. 075 (601) 6312 代表

熱き思いが21世紀の風を伝える。



川北電気工業株式会社

本　社／名古屋市中区栄四丁目6番25号　電話(052)251—7111(代表)
東京支社／東京都千代田区神田神保町二丁目46番地　電話(03)3263—5131(代表)
支社・営業所／大阪・静岡・九州・東北・横浜・千葉・茨城・埼玉・豊橋・三河・岐阜・三重他

Kawashima

新製品

●人と地球に優しい安全素材
●ビニル並みの貼り易さ
●エコノミー価格と防汚性



新しいタイプの紙壁紙
環壁（かんぺき）シリーズ

環壁シリーズは安全性、施工性、
経済性に優れた画期的な紙壁紙です。

安全性
●安全を考えて、素材としてキッチンペーパーと食品包装フィルムを採用。
●ホルムアルデヒド・重金属類を含有していません。
●燃焼時に有毒ガスを発生しません。（可塑材等の物質も含まれていません。）

施工性
●糊付け後の施工可能時間が約５時間、従来の紙壁紙に比べ施工性が大幅にアップしました。
●全厚がありますので下地凹凸を拾いにくくしています。
（従来の紙壁紙は0.3mm程度ですが0.6mm程度にしています。）
●ジョイント部の目開きが少なく、きれいに仕上がります。
●織物壁装と同様に均一に剥がれますので貼り替え時が楽です。

川島織物
KRM
東京事務所 TEL03-3506-0800
大阪事務所 TEL06-369-6000

SHOWROOM
●旭川（0166）26-8210 ●帯広（0155）22-6806 ●札幌（011）261-2131 ●仙台（022）235-5811
●大宮（048）652-5177 ●千葉（043）245-2022 ●東京（03）3355-0575 ●新宿（03）5322-6526
●横浜（045）451-5531 ●名古屋（052）932-8681 ●京都（075）621-0292 ●ライブ館（075）415-1280
●大阪（06）369-6180 ●神戸（078）857-8108 ●広島（082）224-3051 ●福岡（092）724-3000

新案本葺瓦一体型 飛鳥野瓦
淡路及三河産

古代を受け継いだ平瓦、丸瓦を一体化した
新式で、姿形はそのままに伝統の在来型として
耐震強風軽量引掛桟工法の【飛鳥野瓦】



飛鳥野瓦は

堂宮建築の瓦葺きに83年の実績を誇る〈瓦寅工業〉が、瓦づくりの伝統技術に合理的な開発思想を吹き込み誕生しました。平瓦と素丸瓦を連結し、一枚瓦としています。そのため在来型本葺瓦と葺き継ぎができ、葺き上がり、外観ともに異なるところはありません。



松井建設㈱　大阪市専念寺様

飛鳥野瓦総発売元・綜合屋根材施工卸
天然スレート・輸入瓦工事
創業83年　㈱クボタ　松下電工㈱　日本モニエル㈱　積水化学工業㈱　特約代理店

瓦寅工業株式会社

大阪本社
大阪市生野区林寺１丁目５番14号
電話代表 06(715)0201～5
ＦＡＸ 06(715)0194・06(716)6539

元旦 屋根＆壁の総合建材メーカー

定尺工法・現場リストラ・PL法対応

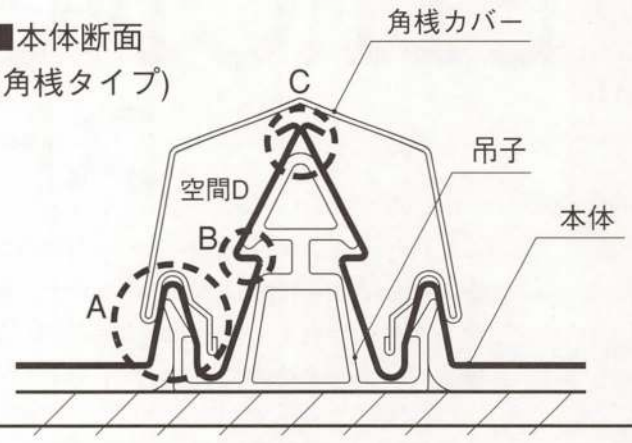
元旦TRX PAT.P

特許出願中12件　意匠登録出願中124件

元旦TRXは、吹き上げ荷重
800kg/m²に耐える
防水・耐風圧性能の新型屋根。

・広い空間Dで毛細管現象を防止。
・屋根本体Cに隙間がなく、正圧に強い。
・A・B二点を固定、負圧に特に強い。
・定尺工法により、現場成形を不要にし「現場リストラ」を実現。経済性を格段に高めました。

■本体断面
(角桟タイプ)



製造発売元 元旦ビューティ工業株式会社

本　社　〒252　神奈川県藤沢市湘南台1-1-21　TEL(0466)45-8771
大阪支店　〒541　大阪府大阪市中央区高麗橋2-6-10　新高麗橋ビル TEL(06) 223-1841
全国7支店22営業所

全国9,000人のネットワーク 責任施工体制
施工元旦会

YUME TRONICS

夢×技=∞
無限大

安らぎと喜びがある。
生み出すための第一歩は
夢からもらった。
形を築くための第一歩は
技からもらった。
ふたつの可能性が出会う時
私たちのフィールドは
無限大です。

何時もあなたの街で、
お会いしている
クリハラ。

私達の生活環境に必要な
電気設備・エネルギー
情報通信・環境の分野で
企画、設計、施工、保守に
わたる一貫したシステムで
事業を展開しています。



創業1919 あなたの街でお会いしています
K栗原工業株式会社

本社／〒530　大阪市北区角田町1−1(東阪急ビル)　TEL.06(313)1101
東京本店／〒105 東京都港区芝大門1−4−8(浜松町清和ビル)　TEL.03(3432)1901

結露防止と防火
防音の決定版

モクセン板

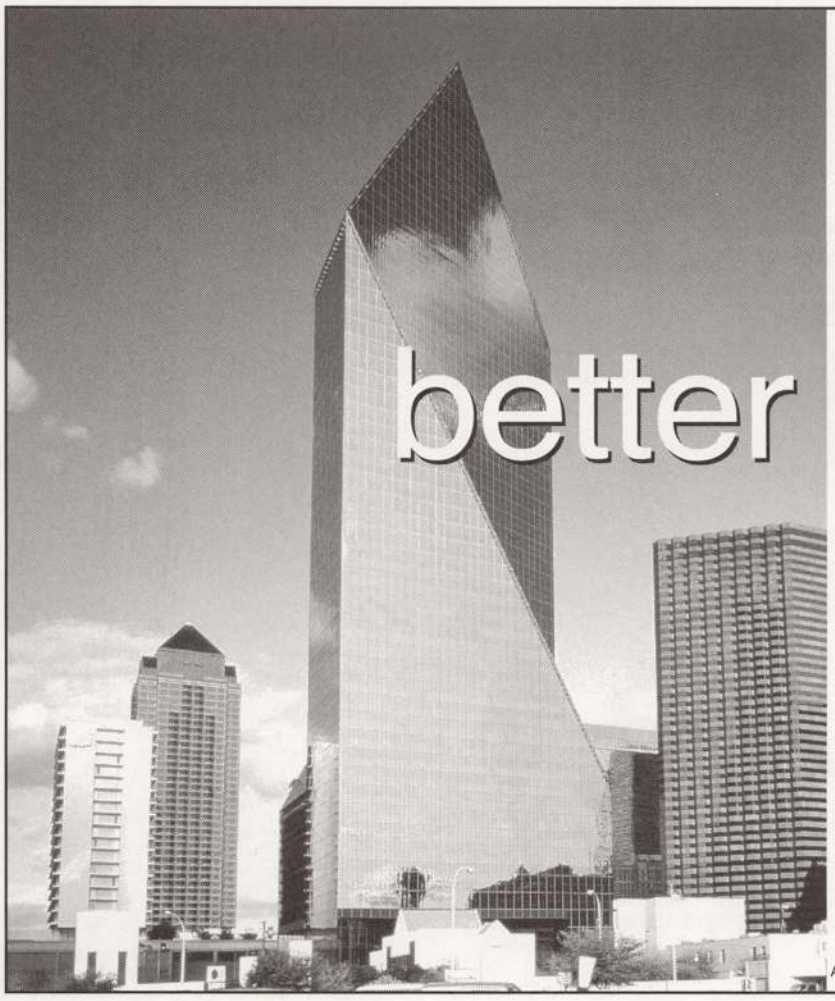
STRONG BOARD
ストロングボード

◆ストロングボード（普通モクセン板）準不燃（個）2696
◆ストロングボードK（型枠兼用モクセン板）準不燃（個）2696
◆ＳＴスーパー（スレート瓦・伸銅品・一般瓦専用耐火野地）R0166
◆ストロングボード耐火30（一般不燃屋根材用耐火野地）R170，R0234
（厚さ25ミリ・30ミリ・40ミリ・50ミリ　タルキ91センチ間隔で耐火被覆なし）
◆モクセンZ・片平板（セラミック粉混入モクセン板）準不燃（個）2848・2696

※地震に強いベタ基礎床の防湿 ═══ 防湿・対震・省エネ・工費節減・防蟻・防腐

KFK 神戸不燃板工業株式会社

〒673-05 兵庫県三木市志染町三津田 TEL.(0794)87-3121㈹ FAX.(0794)87-3123



ALLIED BANK TOWER

三協アルミ

暮らしにいちばんの快適さをお届けしたい。
住宅用建材からビル用建材まで。
三協アルミの技術です。

三協アルミニウム工業株式会社
〒933-8610 富山県高岡市早川70 広報室 TEL 0766-20-2332
ホームページ http://www.sankyoalumi.co.jp/

ガラリはタテ、タテは三基のタテ型ルーバ

取扱商品（主要分）

1．タテ型防水ガラリ ……【サンキルーバ】大きな開口率【50%】ながら、暴風雨の時でも100%近く雨水は侵入しません。

2．平面用防水ガラリ ……【スカイパーゴラ】雨水と暑い日射は防ぎ、空気と光は通す一種の屋根材です。【厚さ：70mm & 100mm】

3．タテ型遮音防水ガラリ ……【エースルーバ】大きい遮音性能【500Hz：TL=11dB】を兼ね備えた防水ガラリです。

アルミ製ガラリ等の専門メーカー

三基ルーバ株式会社

本社 〒104 東京都中央区八丁堀4-13-5
TEL：03(3551)7506㈹
FAX：03(3551)7568

大阪支店 〒541 大阪市中央区北久宝寺町4-4-2
TEL：06(245)5140
FAX：06(245)5242

千葉研究所 TEL：043(445)3144
名古屋営業所 TEL：052(211)3808
福岡営業所 TEL：092(481)1982

Engineering and Service



人類は今、グローバル・パワーで環境破壊を
懸命にくい止めようと努力している
星を汚した現代人……
次代人にきれいな星を渡したい。

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2-1-61
ツイン21MIDタワー11階
電話（06）949-1371

あの人と私は、
いま同じ空気を吸っている。

同じ空気の中で、いろんな人が共に仕事をしたり、生活をしています。
〝空気と水のエンジニアリング〟を推進する、SUGA。
きれいな空気、きれいな水を求めて。
都市生活のさまざまなシーンで、
クリアで心地よい空間を提供します。



心地よさのトータルエンジニア
SUGA
須賀工業株式会社
本社 03-3434-7111
大阪支社 06-441-5171

設計の夢をカタチにしたい。



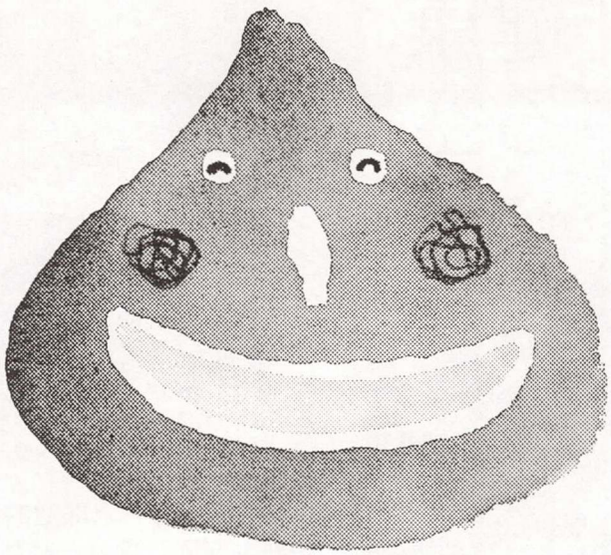
住友金属グループの一員として、新しい鉄の可能性を見つめる住友金属建材。
高度な設計要求に応え、付加価値の高いチタン・ステンレス・鋼板製品と施工技術を提供します。

交野市立総合体育館
設計監理■東畑建築事務所
施工■前田建設工業

住友金属建材株式会社 建築工事部

本　社　〒550　大阪市西区江戸堀2-1-1 江戸堀センタービル　TEL.06-447-2862　FAX.06-447-2930
東京本社　〒103　東京都中央区日本橋小伝馬町7-2 古賀オールビル　TEL.03-3660-1906　FAX.03-3660-1953

わはは、ハート。



ほっと、ネット。

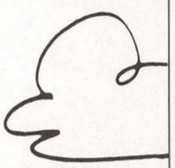
オフィスビルを、もっと知的に、使いやすく。工場やプラント施設を、明るく、クリーンに、効率的に。すべての街を、そして、すべての人を、元気に、豊かに、イキイキと…。私たちは「電気」「水」「空気」「情報」を通じて、みんなに幸せを届ける総合設備事業のクリエイティブ・カンパニー。だれにも負けない大きな笑顔で、どこよりも快適な環境を創造します。

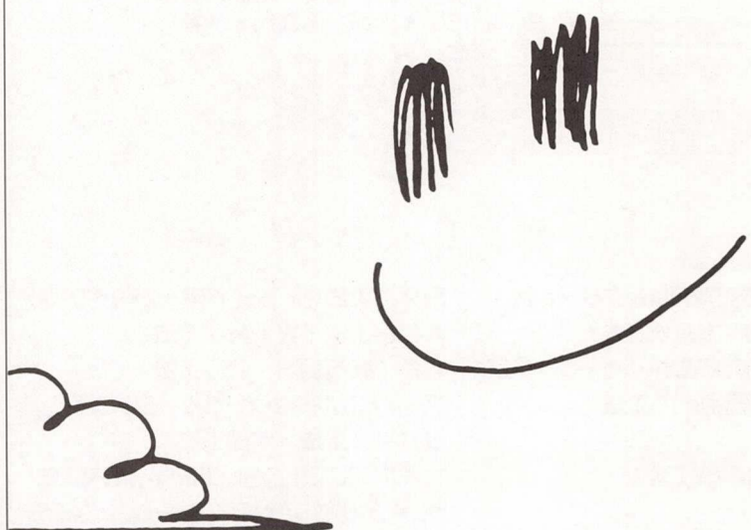


いろんな快適、笑顔でつなぐ。

住友電設

商品は空気です。





熱と空気のエンジニア

株式会社

大気社

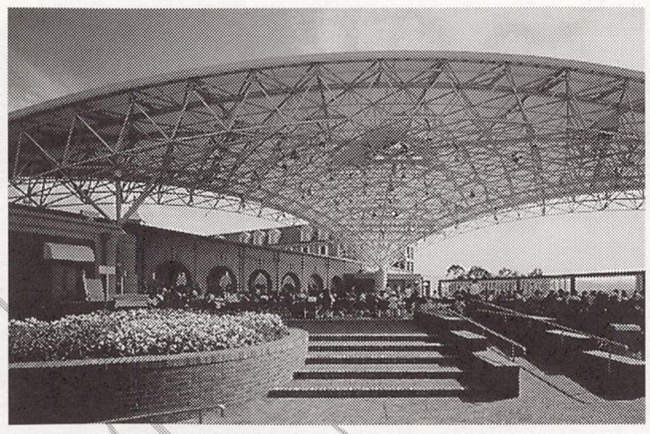
●営業種目

空気調和設備/給排水衛生設備/塗装プラント
公害防止関連設備の設計・製作・施工

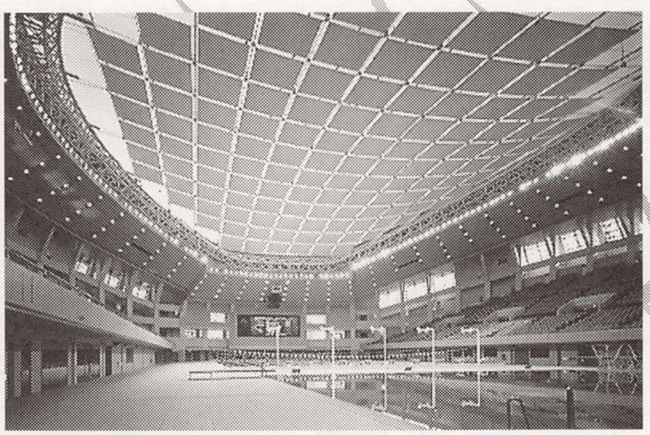
本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル　☎03-3344-1851(代)

大阪本社・大阪支社　大阪市北区中之島3-2-18
住友中之島ビル　☎06-448-5851(代)

ふれあい・健康の輪が拡がる空間



神戸フルーツフラワーパーク
設計／東畑建築事務所　施工／フジタ・村本JV



大阪プール
設計／東畑建築事務所　施工／フジタ・鴻池・藤木JV

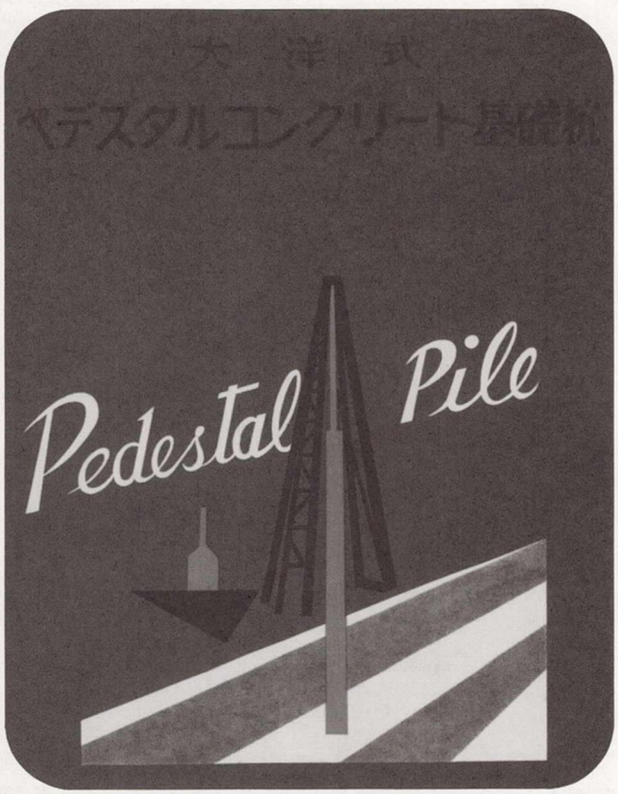
自由なフォルムと開放的な空間を創り出す膜ルーフ。
斬新な空間に優れた機能性を付加したTMトラス。
太陽工業はこれからのまちに必要な人の輪が拡がる
建築空間をお届けします。

太陽工業株式会社　空間建築事業部
建築システム事業部

大阪市淀川区木川東4-8-4　〒532　☎（06）306-3071（膜）・（06）306-3078（トラス）
東京都目黒区東山3-22-1　〒153　☎（03）3714-3470・（03）3714-3471
名古屋・札幌・仙台・北関東・広島・福岡

●イリノイ・ニューヨーク
●一級建築事務所　特定建設業者大臣許可（特-5）第381号
●㈳日本膜構造協会正会員　㈶日本体育施設協会特別会員
インターネットホームページhttp：//www.taiyokogyo.co.jp/

大洋基礎株式会社
TAIYO FOUNDATION CO., LTD.



本　　社　〒103 東京都中央区日本橋小舟町３－４
(03)3663-5561　(代表)
大阪支店　〒541 大阪市中央区北久宝寺町２－１－10
船場吉兆ビル(06)267-5311　(代表)
支　　店　東京・新潟・福岡・地盤改良部
営 業 所　名古屋・広島・南九州・沖縄
出 張 所　仙台

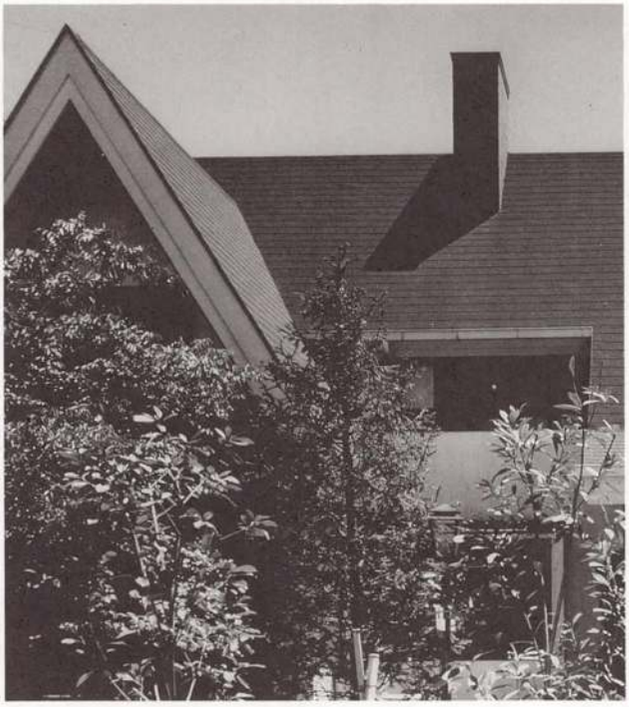
から　45年

営　業　種　目

●場所打鋼管コンクリート杭　耐震杭工法(NKTB・SKTB・KKTB・SMTB)
●場所打拡底杭工法　ACE工法・WING工法
●全周回転式オールケーシング工法　岩盤・転石掘削・CD工法
●一般場所打杭工法　アースドリル工法・オールケーシング工法
リバース工法・深礎工法
●地盤改良工法　エポコラム工法・CSL工法・表面改良工法
サンドコンパクション工法・ドレーンパイプ工法
パックドレーン工法・サンドドレーン工法

くっきり、鮮やか。

――屋根はいま、新しい表情をもった



柔らかな質感、鮮やかなライン、深い色どり。美しい葺き味でフネンシングル・一文字は日本の屋根に確実に定着してきました。親しめる建物や環境づくりにあわせて選んだ、新色9色がそろって、さらに個性的、さらに魅力的になりました。

三星フネンシングル
一文字

西日本三星シングル工事協同組合
田島ルーフィング株式会社

大 阪：〒550 大阪市西区京町堀1-10-5　TEL(06)443―0431
神 戸：〒650 神戸市中央区栄町通5-1-22　TEL(078)362―6121
広 島：〒730 広島市中区西平塚町8-13　TEL(082)246―8625
福 岡：〒810 福岡市中央区大名2-4-35　TEL(092)724―8111

空間づくりは、
快適から成熟へ。

Maturity Design

マチュリティデザイン

［Maturity（マチュリティ）＝成熟、円熟、完成されたもの］

それは時代の空間を創造するタカシマヤ建装事業本部のテーマです。

「快適」を超えて様々な面で「充足」をもたらす空間づくり。

私たちは、これからの成熟社会にふさわしい事業を推進してゆきます。

Takashimaya
建装事業本部

〒556 大阪市浪速区日本橋3-5-25 TEL(06)632-3190
〒103 東京都中央区日本橋茅場町2-12-7 TEL(03)3668-8202



あなたの、
いちばん心地良い場所はどこですか。
きっと、多くの方が、
大自然の中をイメージされることでしょう。
私たちは、そんな快適さを
あらゆる建物の内に
創造していきたいと考えています。
もっとナチュラルに、
いつもあなたのそばに、ダイダンです。

Always With You.

—光と空気と水を生かす—
ダイダン

未来を創造する大同鋼板の製品

〝もっと快適に、もっと機能的に〟を合言葉に、
当社の多彩な製品群は、常に未来的空間をクリエートします。

耐火断熱壁パネル

新製品 耐火イソバンドBL

断熱壁パネル

断熱壁パネル イソバンドBL

断熱壁パネル イソバンド

断熱屋根パネル

断熱屋根パネル イソダッハ



大同鋼板株式会社

■本社・尼崎製造所 〒660 尼崎市杭瀬南新町3－2－1 ☎(06) 487-1717(代)
■営業本部
商品営業部 〒541 大阪市中央区高麗橋2－3－7 ☎(06) 203-1164(代)
プロジェクト営業部 〒541 大阪市中央区高麗橋2－3－7 ☎(06) 203-0751(代)
東京支店 〒103 東京都中央区日本橋1－13－1（日鐵日本橋ビル） ☎(03) 3279-0751(代)
札幌営業所 〒060 札幌市中央区北2条西4-1（北海道ビル） ☎(011) 251-8091(代)
東北営業所 〒980 仙台市青葉区中央2-2-10（仙都会館ビル） ☎(022) 225-1481(代)
北陸営業所 〒930 富山市桜橋通5-13（富山興銀ビル） ☎(0764) 32-9898(代)
名古屋営業所 〒450 名古屋市中村区名駅南1-24-30（名古屋三井ビル本館） ☎(052) 564-7258(代)
中国営業所 〒730 広島市中区中町7-22（住友生命広島平和大通りビル） ☎(082) 240-1601(代)
九州営業所 〒812 福岡市博多区博多駅前1-15-20（日本団体生命福岡ビル） ☎(092) 481-3543(代)
■湖南製造所 〒520-32 滋賀県甲賀郡甲西町高松町4－2 ☎(0748) 75-1311(代)

最先端のハーモニー。

さまざまな先端技術が調和して、「快適」という名のハーモニーを奏でる。トーエネックのエンジニアリングは、まさにそんなイメージです。電気設備をはじめ、情報通信・冷暖房・空調・防災設備など・・・。システム設計から施工・保守まで、高度で総合的な技術力を活かし、全国主要都市を拠点に幅広いネットワークでみなさまにお応えしています。オフィスビルやマンション、ホテル、工場、さらにはコミュニティ施設。あらゆるスペースを、心地よい技術のハーモニーで包み込みたい。インテリジェント&ヒューマン。私たちは、トーエネックです。



先端技術で、システムする。
TOENEC
株式会社 トーエネック
本　店/名古屋市中区栄1-20-31 〒460 ☎(052)221-1111
東京本部/東京都豊島区巣鴨1-3-11 〒170 ☎(03)5395-7111
大阪本部/大阪市淀川区新北野3-8-2 〒532 ☎(06)305-2181

バケツ4745杯

TOTOの節水便器なら、年間にバケツ4745杯節水できます。(当社比※)

※バケツは、一杯を4Lとして計算しています。◎4人家族、1人1日に大1回小2回使用するとして計算→従来シリーズに対しNEW ZG・ZS NEW CSシリーズは、約33%、18,980L／年を節水できます。



なぜ、TOTOの便器だけがこんなに節水できるのか。その答えは、高い技術力もさることながら、早くから"節水"に取り組んできたTOTOの姿勢にあります。もっと少ない水で便器がキレイに洗えれば、水という資源を守ることができる。より少ない水で便器がキレイに洗えれば、水道料金をグッと抑えることができる。この発想が便器の節水力に磨きをかけます。今回の「新節水便器シリーズ」では、洗浄水量(1回の洗浄に必要な水量、これが重要)を減らすことで節水力を大幅に向上させました。水のムダと家計の出費を抑えるなら、TOTOの節水便器。TOTOの節水便器が確実です。

TOTO 新節水便器シリーズ。
ネオレスト
NEW CSシリーズ
NEW ワンピース
NEW ZG・ZS

便器は節水力
TOTOの節水便器

◎商品についてのお問い合わせは、TOTOお客様相談室 フリーダイヤル 0120-03-1010まで。受付時間9:00~17:30(土、日、祝日を除く)

「耐火=安心？」という疑問

「安心」のための「耐火」。しかし「耐火」だから「安心」とは言えません。
セラミック系耐火被覆材「アスガード」は、「耐火」「耐水」「耐震」被覆材です。

「アスガード」安心の理由① 「耐水」

耐水性が非常に高いので、
外部の雨がかりでも安心。



大阪府茨木市
カトーレック倉庫
H 7.10 施工

「アスガード」安心の理由② 「耐震」

付着・圧縮強度が
非常に高いので、
阪神大震災でも剥
落等なし。



神戸市長田区
北町ゴルフレンジ
H 6.11 施工

「アスガード」は無粉塵・無公害しかもリサイクル商品。環境や人体にも「安心」です。詳しいお問合せは……

しあわせ環境クリエイター
東邦レオ株式会社
TOHO LÉO

大阪支店 大阪市中央区上町1丁目1-28 〒540 ☎(06)762-2100(代)
名古屋営業所 名古屋市西区幅下1丁目10-10 〒451 ☎(052)581-2001(代)
神戸営業所 神戸市西区竜ヶ岡3丁目11-3 〒651-24 ☎(078)967-7151(代)
事業所 東京・北関東・金沢 広島・岡山・高松・松山・福岡

快適な明日を提案する
TOYO Shutter

耐震補強・省エネ外装改修システム
BUILFINE®

ビルに居たまま、
耐震補強と
外装リニューアル。



日本のビルを生まれ変わらせる新工法『ビルファイン・マーク2』。

外装改修システム『ビルファイン』をさらに発展させて、既存建物の外側構面に補強ブレースやその他の装置を配置することで、耐震補強と外装リニューアルを同時に行う新工法『ビルファイン・マーク2』。工事中も、建物内部はそのまま使用できます。（鹿島建設株式会社との共同開発）

東洋シヤッター株式会社
本 社〒540 大阪市中央区南新町1-2-10 TSビル
☎ 06 (943) 6571
東京本社〒106 東京都港区六本木6-3-18 第一地所麻布ビル
☎ 03(3479)2911

東熱



時代の呼吸に応える技術

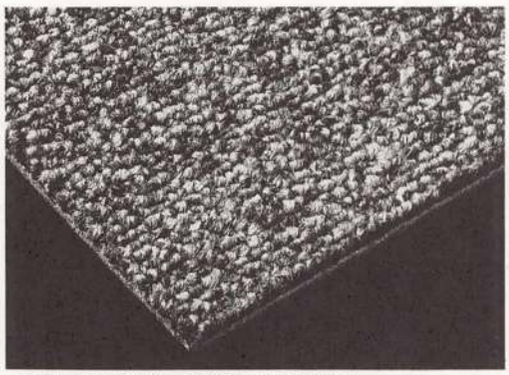
東洋熱工業株式会社

本　　社　〒104東京都中央区京橋2-5-12　TEL03-3562-1351
大阪支店　〒550大阪市西区靭本町3-1-27　TEL06-443-8071

多色

新発売。多色感あふれる色彩が特長

GA7000



•BCFナイロン100% •8,900円/m²（税抜き）

多彩

プリントタイルカーペット

GF2300



•BCFナイロン100% •10,300円/m²（税抜き）

◆東リ タイルカーペット◆

TOLI

東リ株式会社

■西日本営業開発部　〒540 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル　TEL.06（943）1645
■大阪ショールーム　〒540 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル7F　TEL.06（943）1649

nichicon

高調波環境レベルの改善に
ニチコンの技術がお役に立ちます。

◆ハイテク機器にひそむ、電気のウイルス。
◆通産省"高調波抑制対策ガイドライン"制定。
※「高調波対応お客様相談室」を設けております。
お気軽にどうぞ。

取扱品目

高調波の監視と測定
高調波電圧監視装置・高調波分析器・高調波過電流警報装置

高調波の流入対策
高調波対応高圧進相コンデンサ・直列リアクトル

高調波の流出対策
交流フィルタ・アクティブフィルタ・ハイブリッドパワーフィルタ



ニチコンの
高調波対策技術

ニチコン株式会社 京都市中京区御池通烏丸東入 上原ビル3階 〒604 TEL.075-231-8461 FAX.075-256-4158
支店/東京 TEL.03-5493-3611・大阪 TEL.06-362-6421・名古屋 TEL.052-223-5581 営業所／札幌・仙台・水戸・栃木・熊谷・八王子・沼津・長野・広島・鳥取・高松・福岡

祝 株式会社 東畑建築事務所 創立65周年

ニチベイは、快適な光空間の創造を目指します。


商品名／電動ウカイ式ロールスクリーン(特殊仕様)

窓装飾と間仕切りの専門メーカーとして、
つねにマーケットニーズを見つめ、
ホームユースからコントラクトユースまで、
幅広い商品づくりを心がけてきました。
これからも、ニチベイは、
機能性とデザイン性に富んだ、
さまざまな商品を通じて
快適空間の創造を目ざします。

株式会社ニチベイ
本　社/〒103 東京都中央区日本橋3-15-4
ビル事業部営業推進室 /〒103 東京都中央区日本橋3-15-4　TEL.(03) 3272-2233
〒540 大阪市中央区北浜東1-8　TEL.(06) 949-2806
ニチベイホームページ・アドレス http://www.nichi-bei.co.jp

水と空気の協奏曲。

——奏でるのは西原の技術です。——



給排水衛生・空調・防災設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

〒531 大阪市北区中津6丁目8番4号 TEL (06)458-3628



マルエス 日新

総合防水メーカー

日新工業株式会社

営業本部 〒103 東京都中央区日本橋久松町9-2 TEL 03(5644)7211(大代)

東京・横浜・千葉・大宮・大阪・名古屋・福岡・札幌・仙台・広島・高松・金沢

ミズ太郎

既存防水層を撤去しない防水施工

環境保全と
省力化の単層防水 メカトップ工法

改質アスファルトシート機械固定法



LIVEWARE

ライブウエア

＜機械と機能を人間らしい感性で紬ぐ＞

高度情報社会は、私たちのコミュニケーションの
あり方を大きく変えようとしています。
今こそ、もっと人に優しく、人でなければできないことを
提供する必要があると考えます。
JATOがめざすのは、そんなきわめて人間的なモノづくりです。

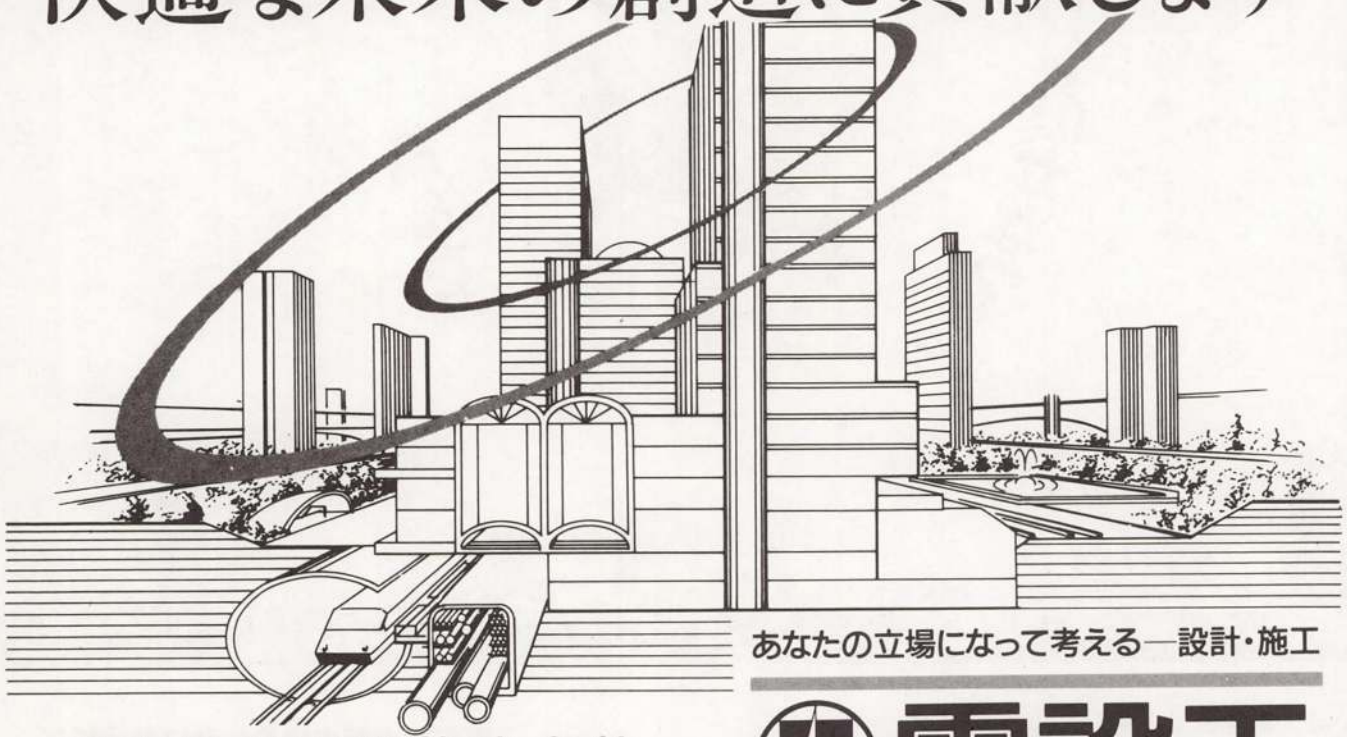
JATOは、ハードウェア(機械)とソフトウェア(機能)に
ヒューマンウェア(人間の感性)を融合し、調和のとれた最適なシステムを作り出すことを
LIVEWARE〈ライブウエア〉と名づけました

営業品目●ホール音響システム●スタジオAVシステム●会議場AVシステム●各種宴会場・専門結婚式場AVLシステム●特殊音響照明システム●各種一般・防災放送システム●地下鉄集中自動放送システム●CATVシステム●CCTVシステム●入室管理システム●セキュリティシステム●ホテルフロント会計システム●ホテル客室管理システム●ホテルベイシステム●フロントキー管理システム●特殊インターホンシステム●空調システム●産業用省力・自動制御システム

JATO 日本通信小野特機株式会社

〒530 大阪市北区末広町1番22号 TEL 06-313-1351 FAX 06-313-0582
支店／東京 営業所／神戸・広島・四国・九州・北京

快適な未来の創造に貢献します



あなたの立場になって考える―設計・施工

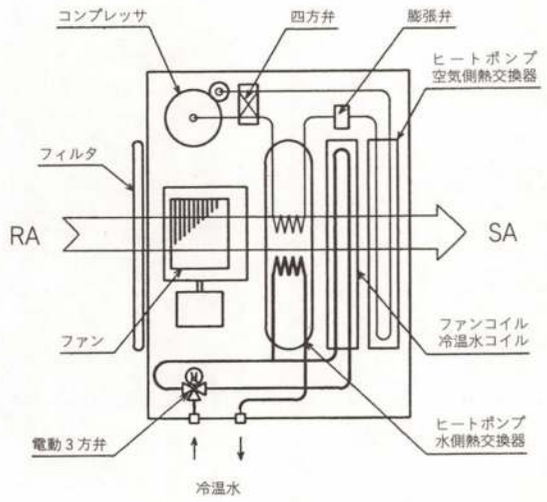
日本電設工業株式会社

本　店　東京都台東区池之端1－2－23
TEL (03) 3822－8811(大代表)
大阪支店　大阪市北区豊崎3丁目17－15
TEL (06) 372－3533

電設工

冷暖自在・ホテル向け空調ユニット

リニューアルに最適　FB−230L



ユニット基本構造図

特長

●既存の冷温水２管式システムで、自動冷暖房が可能です。
●冷水・温水に関らず、設定した室温に対し、冷房・暖房・送風の自動運転を行なうので、体感温度の違うお客様の微妙なニーズにきめ細かく対応できます。
●小容量コンプレッサー（300W）搭載ですので、低騒音です。
●４管式への改修工事がいらず、既存のファンコイルユニットからＦＢ−230Ｌに更新するだけなので、リニューアル工事の工期短縮および工事費の低減がはかれます。

運転例

・ファンコイル回路
通常負荷安定時、冷水／温水によりファンコイル冷房／暖房運転。
・ヒートポンプ回路
負荷が大きい場合はファンコイル回路で使用した冷水／温水をヒートポンプ回路水側熱交換器に直列接続して、コンプレッサの運転により、冷房／暖房能力（ファンコイル５deg＋ヒートポンプ５deg＝水温差10deg利用）を倍増させます。
また、中間期等で温水通水時の冷房、冷水通水時の暖房などの逆モード運転が可能です。

日本ピーマック株式会社

本社・工場　〒243-02 神奈川県厚木市飯山3150　☎(0462)47-1611　FAX(0462)47-5660

大阪支店 ☎(06) 362-6655　札幌営業所 ☎(011)232-1151
東京営業部 ☎(03)5473-7781　東北営業所 ☎(022)225-0820
東京サービス部 ☎(03)5473-7791　広島営業所 ☎(082)227-5155
名古屋支店 ☎(052)243-1521　九州営業所 ☎(092)712-1760

Victor
JVC
＊JVCは、日本ビクターの世界ブランドです。

Victor Original Sound Systems

VOSS



時間（とき）を彩る音。

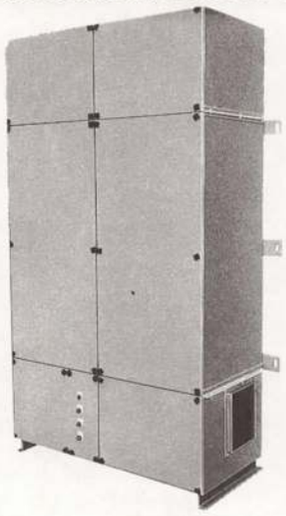
音創りのコンセプトはハイスピード・ハイファイ。小音量でも素早く遠くまで行き渡るパンチ力（ハイスピード感）、声や音を個性豊かに表現する暖かいハート（ハイファイ性）を獲得したVOSS。アンプ/スピーカー/ミキサーなど豊富な製品ラインアップに加え、音響設備の設計から施工までをトータルシステムとして取り組むビクター。コンベンションホールや会議場など各々の音響空間が求めるキメ細かなニーズに対応し、その個性に合わせて、鮮やかな時間（とき）を彩ります。

●お問い合わせは——**日本ビクター株式会社** システム営業本部　近畿システム支店
（〒543）大阪市天王寺区小橋町10-16 ☎(06)768-5356

VICTOR CREATES IT.

大型ビルの個別分散、ゾーニング空調に対応した
省スペース、床置形全熱交換機ユニット

ECONOVENT V



▶省スペース
●機械室設置にも、柱間の壁面設置にも対応する、省スペースな床置形全熱交換器ユニット。

▶省エネルギー
○高効率で全熱交換ができる回転型全熱交換器使用。

▶システム性
○ゾーニング空調に対応可能。

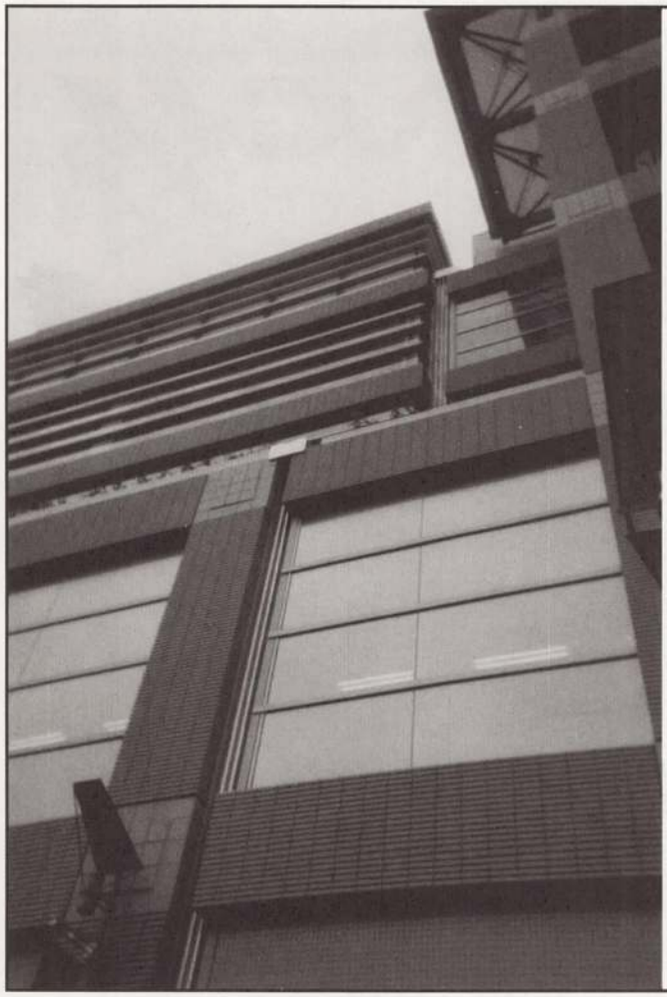
▶操作性
○各ゾーンごとに操作可能。

▶メンテナンス
○メンテナンス容易。

	型式	EVU-15V		EVU-20V		EVU-25V	
要目	電源	1φ-200V-50/60Hz		3φ-200V-50/60Hz		3φ-200V-50/60Hz	
	外形寸法(mm)	780W×1760H×490D		1083W×2075H×580D		1233W×2225H×580D	
	送風機特性(Hz)	(50Hz)	(60Hz)	(50Hz)	(60Hz)	(50Hz)	(60Hz)
	風量(CMH)	1500	1500	2000	2000	2500	2500
	熱交換素子	アルミニウム素子		アルミニウム素子		アルミニウム素子	
	消費電力(W)	800	1100	1600	2200	1700	2300
	電流値(A)	4.3	5.6	6.2	7.0	6.5	7.3
	騒音値 dB(A)	41	43	43	44	43	44
	エアフィルター	フィレドン FS1705(給・排気共通)					
	重量(Kg)	145		220		250	

Fläkt
日本フレクト株式会社

本　　社　〒107 東京都港区赤坂5-2-39 円通寺ガデリウスビル
TEL. 03(5563)7676(代)　FAX. 03(5563)7654
大阪支店　〒530 大阪市北区芝田1-4-8 北阪急ビル
TEL. 06(374)1355(代)　FAX. 06(375)1369
名古屋支店　〒460 名古屋市中区錦2-18-5 白川第6ビル
TEL. 052(211)6230(代)　FAX. 052(211)6345
広島営業所　〒735 広島県安芸郡府中町青崎中11-4 高山ビル
TEL. 082(285)9520(代)　FAX. 082(284)5190



世界で初めての新型 EXP.J
BBS タイプ発売
(縮小時150ミリ、伸長時800ミリ)

【免震用 EXP.J】—ビルテック
±250mmから±1,200mmまで適応できます。

【一人用ゴンドラ】—スーパーステージ
左右上下に移動でき、広い面積をメンテナンスできます。

技術で奉仕の

(株)パラキャップ社
(東京・大阪・東北・名古屋)
0120-124-099

ゆとりと潤いがいっぱいのビル

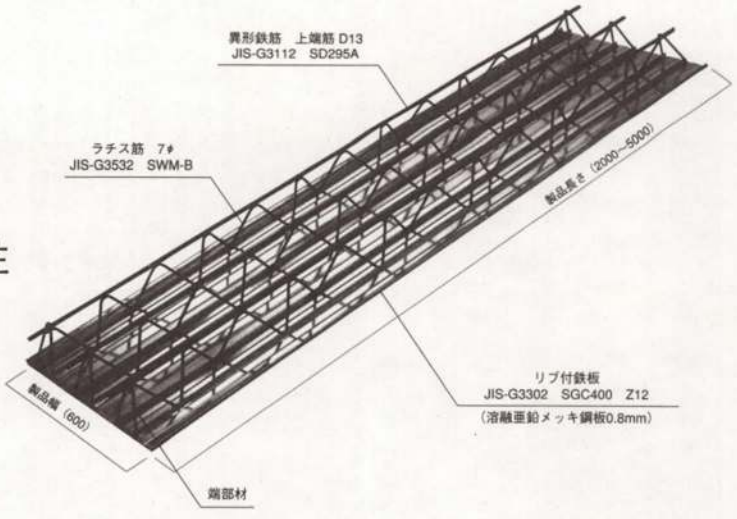
日立プラント建設は、数多くの空調システムの研究・開発を通じて、ますます複雑化・多様化する環境ニーズにお応えし、ゆとりと潤いのある環境づくりを追求していきたいと考えています。



日立プラント建設

本　社／ 東京都千代田区内神田1−1−14（〒101） ☎03−3292−8111
●札幌 011−737−1330 ●仙台 022−263−3261 ●東京 03−5281−0121
●横浜 045−451−1551 ●名古屋 052−261−9331 ●大阪 06−266−1931
●広島 082−249−2460 ●福岡 092−262−7600

フェローNCデッキ
トラス筋付合成スラブ
意匠登録・実用新案・特許 出願済



☆合理的構造　☆工期短縮
☆工事費低減　☆高い安全性
☆広い設計範囲

株式会社 富士昭

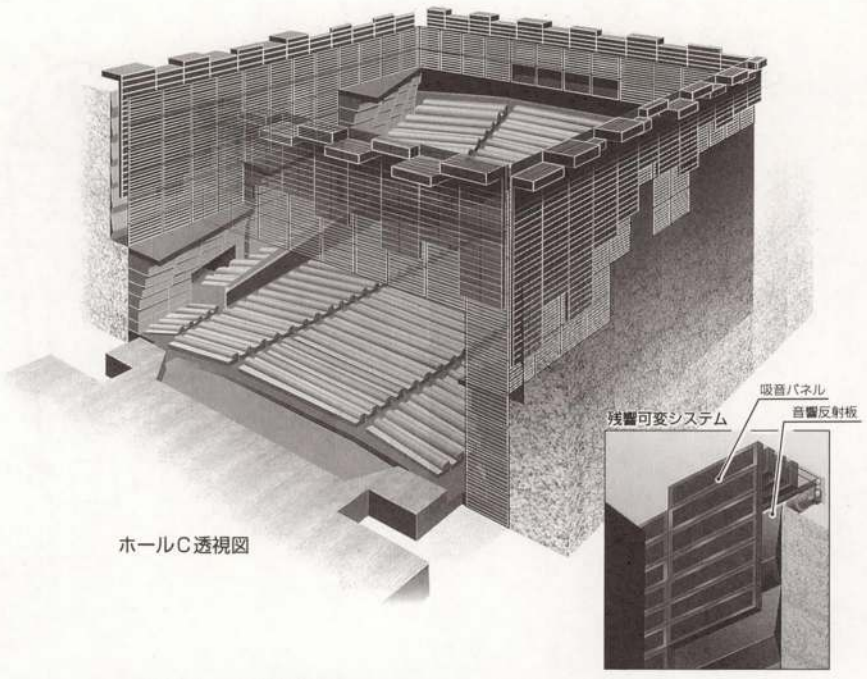
《大　　阪》〒540 大阪市中央区農人橋1-4-33　アメリカーナビル
TEL06-910-0081㈹ FAX06-910-0080
《名古屋営業所》〒460 名古屋市中区栄3-32-23　青木ビル西館2F
TEL052-242-3605㈹ FAX052-242-3626

文化シヤッター

世界の演出家たちが認めた残響可変システム

旧都庁舎跡地に誕生した東京国際フォーラム。当社は"動かす技術"でホールの音響効果の演出に貢献。ホールCの四面の内壁に吸音パネルシャッターを設置し、開閉パターンを操作するシステムで音楽専用ホールに匹敵する音響を実現しました。



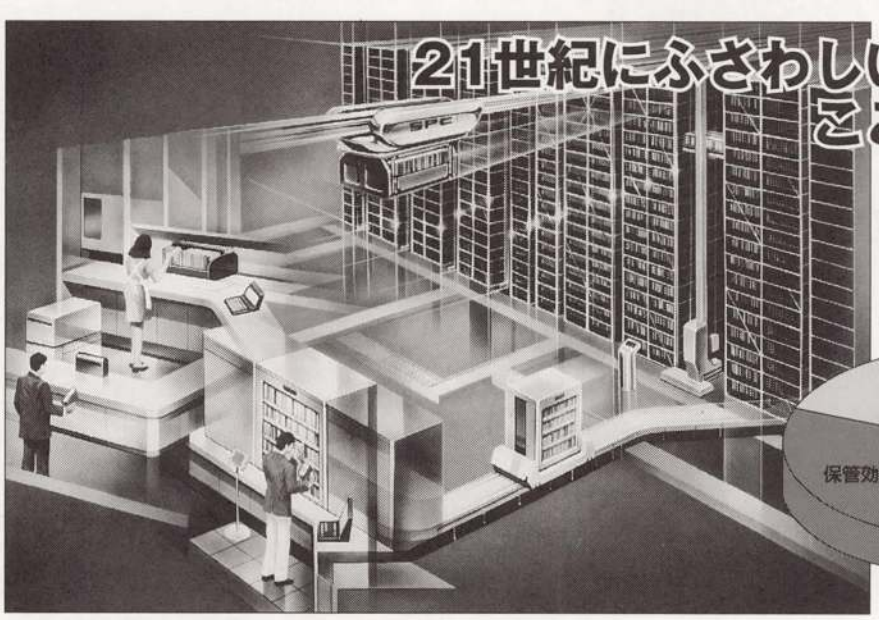


ホールC透視図

夢を動かす技術がある。ここにも、文化シヤッター。

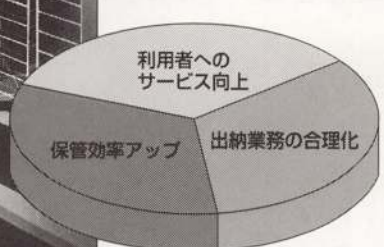
文化シヤッター株式会社 〒174 東京都板橋区志村3-26-4
営業推進部／☎03(5269)6688
北海道営業推進部／首都圏営業推進部／中部営業推進部／関西営業推進部／九州営業推進部

自動書庫搬送システム



21世紀にふさわしい理想の図書館が、ここから生まれます。

閉架書庫の保管・管理から搬送までを完全自動化！
利用者にも図書館にもゆとりをもたらす画期的システムの誕生です。



自動化で時間・空間・労力を大幅セーブ

ESTABLISHED IN 1869

Ⓜ丸善【環境デザイン事業部】

大阪市中央区博労町3-3-2 TEL(06)251-2679 FAX(06)251-3855
東京／札幌／仙台／横浜／名古屋／金沢／京都／岡山／広島／福岡
建築業許可…建設大臣許可(特-9)第13308号
一級建築士事務所…登録番号 東京都知事登録第29143号 大阪府知事登録(ロ)12664号

思いやりのある地球環境づくりに貢献します。

MIYAZAKI

現状にマッチしたミヤザキの内装材

不燃・準不燃	ミヤライト	金属化粧板	ミヤメタル
難燃ミヤノン小巾板	ミヤノン	金属化粧板	ミヤモール
甲種・乙種	ミヤドア	金属化粧板	うるしパネル
不焦	ミヤガード	耐候性木材	テクノスーパー
化粧シート	エースウッド	ウォールシステム	Progetto 25

宮崎木材工業株式会社

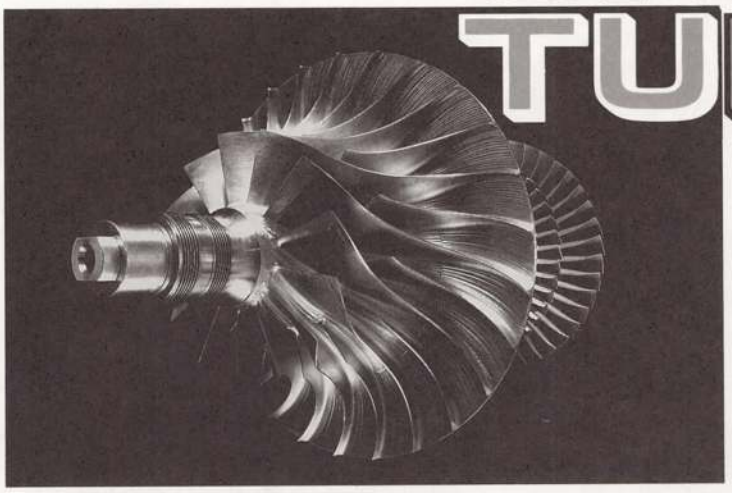
〒616　京都市右京区太秦下角田町5
TEL075(864)7000(大代表)　FAX075(882)6926

■東京支店 ☎03-3555-2541　■広島営業所 ☎082-232-3344
■大阪支店 ☎06-231-5723~4　■福岡営業所 ☎092-831-3310
■京都営業所 ☎075-212-8151　■開発営業所 ☎075-864-7000
■横浜営業所 ☎045-474-0916　■古川工場 ☎075-922-9183
■名古屋営業所 ☎052-262-4421　■陳列場 ☎075-231-6337

"E"こと、咲かせる。
YANMAR
人と自然とテクノロジーの和を広げます。
E。その語感は、"いい=GOOD"。
E。それは EARTH。
E。それは、ECOLOGY,ENERGY,
ECONOMY,ENGINEERING,
ENSURE,EVOLUTION…

GAS TURBINE

一歩進んだヤンマーガスタービン





自家発電設備に関する多年の経験と優れた技術によりヤンマーが独自に開発した国産ガスタービン発電装置です。構造・作動がシンプルで信頼性が極めて高く、しかも、高効率で優れた経済性を実現。軽量・小形・コンパクトで設置場所を選びません。ヤンマーガスタービン発電装置ATGシリーズは、自家発電装置に最も適した原動力として注目を集めています。

●消防法の基準をすべて満たした型式認定商品です。

ヤンマーガスタービン発電装置
ATGシリーズ187.5~2500kVA

ヤンマーディーゼル株式会社 〈本社〉大阪市北区茶屋町1番32号〒530 ☎(06)376-6223
●カタログご希望の方は、本社、宣伝部まで。

もっと素敵に 創・快・環

YAMATAKE

こんな管理システムを待っていた！

1台4役 Smart & Simple

「スマートタッチ」は、延床面積3000m²前後の建物で、その威力を発揮する管理パネルです。建物内の各設備機器の[発停操作][週間/年間スケジュール運転][運転状態監視][積算メータの計量]などが行え、オプションでプリンタも付けられます。しかも、全点窓表示のアナンシエータタイプですので、どなたにでも簡単に操作できます。また、たてよこ30cmというコンパクトな壁掛けタイプで、設置場所を選びません。

新製品



関東電気保安協会理事長賞受賞

山武ハネウエルの

SmartTouch

小型集中管理パネル スマートタッチ

山武ハネウエルは、空調・衛生・電気設備から防災・セキュリティまでの制御・管理を、高度なビルディング・オートメーションにより統合化。便利で快適なビル環境の創造をはじめ、安全性の向上、ライフサイクルコストの低減など、オーナーにも利用者にもさまざまな「創・快・環」をお届けしています。

■ご相談は、お気軽にお電話で。(大阪地区)

06(881)3371

※その他、全国の弊社支店・営業所および販売店へご相談ください。

山武ハネウエル株式会社

ビルシステム事業部

●大阪支店／〒530 大阪市北区天満橋1丁目8番30号 OAPタワー

●本　社／〒150 東京都渋谷区渋谷2-12-19

ヨドコウ

半径5m対応

ワンタッチかん合式

ヨドルーフ 瓦棒400

強さと作業性を備えた美しいアーチ屋根！

●優美なアールデザインが建物のグレード感をアップ。

●軽くて、耐久性にすぐれた金属製。

●独自のかん合部が雨水の浸入を防止。



快適な生活環境を創造する

淀川製鋼

本　社　大阪市中央区南本町4丁目1番1号　〒541　☎(06)245-1256

東京支社　東京都中央区新富1丁目3番7号(ヨドコウビル)　〒104　☎(03)3551-7941

新年のご挨拶

平成10年元旦

(50音順)

青山幸夫

株式会社　青山建築積算事務所 代表取締役

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-6-10本町西井ビル
電話06(443)0430
〒610-1125 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14-6
電話075(331)8082

浅海伸之

浅海電気株式会社　代表取締役社長

〒530-0047 大阪市北区西天満3丁目7番4号　電話06(362)8701
〒665-0845 自宅・宝塚市栄町2丁目10番26—1102号
電話0797(81)1174

五十嵐定義

財団法人　日本建築総合試験所　理事長

〒565-0873 吹田市藤白台5丁目8番1号　電話06(872)0391

市川宏

会長

株式会社　東畑建築事務所　取締役会長

〒541-0044 大阪市中央区伏見町4-4-10　電話06(202)0391
〒658-0063 自宅・神戸市東灘区住吉山手4丁目4-32
電話078(811)0216

今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社　代表取締役

〒547 大阪市平野区加美北5丁目11番12号
電話06(792)4425代
〒547 大阪市平野区平野北2丁目9番15号
電話06(796)1839

岩橋重文

株式会社　岩橋設計　代表取締役

〒640-8392 和歌山市中之島1672　電話0734(31)7859
〒640-8392 自宅・和歌山市中之島1661　電話0734(28)2389

上西圭治

株式会社　大気社　代表取締役会長

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル7階
電話06(448)3603
〒659-0025 自宅・兵庫県芦屋市浜町12-14　電話0797(22)5949

植野知雄

株式会社　寿建築積算事務所　所長

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1丁目16-29　つるのすビル
電話06(244)1561代
〒599-8126 自宅・堺市大美野5—9　電話0722(37)1162

歌俊美

株式会社　歌建築設計事務所　代表取締役

〒649-6414 和歌山事務所：和歌山県那賀郡打田町打田316
電話0736(77)2711
〒537-0021 大阪事務所：大阪市東成区東中本3-16-23-304
電話06(977)0625

梅田能邦

大晃設備株式会社　取締役社長

〒554-0012 大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電話06(466)4779
(ダイヤルイン)



多井幸男

(オオ イ)

多井建築研究所　所長

〒657 神戸市灘区曽和町3丁目1—11　電話078(821)6133

岡野節壽

日本電設工業株式会社　大阪支店　専務取締役 支店長

〒531 大阪市北区豊崎3丁目17—15　電話06(372)3533
〒560 自宅・豊中市蛍池東町2—6—11　電話06(841)3832

副会長

岡本行善

株式会社　昭和設計　代表取締役社長

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-800号 オーク1番街
電話06(575)5555
〒659 自宅・芦屋市翠ヶ丘町6-16-403　電話0797(31)3201

恩庄治郎

大阪化工株式会社　代表取締役社長

〒565-0821 吹田市山田東1—12—12　電話06(876)2334
〒565-0821 自宅・吹田市山田東1—12—12　電話06(877)1406

数井利美

株式会社　西村建築事務所　取締役社長

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-8 楠六パレスビル
電話078(521)0205～0207
〒654-0103 自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39—13
電話078(792)5862

久米宏和

社団法人 大阪建設業協会　専務理事

〒540-0031 大阪市中央区北浜東1番30号　電話06(941)4821

取締役会長　小西岬
取締役社長　橋本正章

株式会社　小西設計

〒550-0012 大阪市西区立売堀1町12—16　電話06(532)4051

小林四郎

住友電設株式会社　相談役

〒550-0011 大阪市西区阿波座2—1—4　電話06(537)3430
〒662-0093 自宅・西宮市西平町19—11　電話0798(74)6621

名誉会長

佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役会長

〒540-0034 大阪市中央区島町2丁目4番7号　電話06(943)1371代
〒662-0064 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798(72)1569

新年のご挨拶

平成10年元旦

（50音順）

城口庸平

株式会社　大阪城口研究所　取締役社長

〒530-0017 大阪市北区角田町２番15号　電話06(372)7151代

知見義夫

名誉正会員

元・本会理事

〒601 自宅・京都市南区西九条春日町48　電話075(691)3860

内藤正克

株式会社　内藤建築設計事務所　代表取締役会長

〒675-1379 兵庫県小野市上本町240 小野ビル　電話0794(62)4757代
〒675-1362 自宅・兵庫県小野市久保木町1063　電話0794(62)4668

仙田良行

株式会社　カンダン　取締役社長

〒558-0055 大阪市住吉区万代６丁目１番１号　電話06(676)2100

辻本豊

株式会社　ツジモトユタカ設計事務所　代表

〒640 和歌山市東長町中ノ丁20番地　電話0734(26)2030
〒640 自宅・和歌山市東長町中ノ丁20番地
電話0734(26)0576

中原英雄

株式会社　創美設計　代表取締役

〒530-0041 大阪市北区天神橋3丁目2番10号 ルート南森町ビル
電話06(881)1778

田中忠明

大阪エスピー紙工株式会社　代表取締役社長

〒540 大阪市中央区玉造２丁目25番20号 電話06(765)5650代
FAX06(765)5655
〒614 自宅・八幡市八幡福禄谷98-7　電話075(971)0395

傳馬正明

ムツミ産業株式会社　代表取締役

〒550 大阪市西区靱本町１丁目17番15号
電話06(441)0378大代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東2丁目13番22－507
電話06(651)0566



蜷川守男

大阪装飾株式会社　代表取締役

〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目13番24号　電話06(444)1410
〒665 自宅・兵庫県宝塚市社町3番10号　電話0797(72)6045

取締役会長　高橋慶夫
取締役社長　上田宏二
株式会社　高橋上田設計事務所

〒550-0013 本社・大阪市西区新町1-4-21 大幸ビル　電話06(533)0972
大阪事務所・　〃　電話06(533)0971
〒162-0824 東京事務所・東京都新宿区揚場町1-21 電話03(5261)8081
飯田橋升本ビル
〒651-0083 神戸事務所・神戸市中央区浜辺通5-1-14
神戸商工貿易センタービル17F　電話078(222)7347
〒802-0081 九州事務所・北九州市小倉北区紺屋町11-10 林ビル
電話093(551)5543
京都事務所・東播事務所・マニラ事務所

福谷剛

株式会社　ゼネラルプリンティング　代表取締役社長

〒542-0063 大阪市中央区東平1丁目4-17　電話06(763)2541
〒666-0129 川西市緑台１丁目８－７　電話0727(93)0409

立野一郎

株式会社　ユニオン　会長

〒550-0015 大阪市西区南堀江２丁目13番22号　電話06(532)3188

福原裕治

財団法人　大阪市建築技術協会　理事長

〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町１丁目２番7-1300号
あべのメディックス13階　電話06(636)1777
〒610-0357 自宅・京都府京田辺市山手東１丁目47番地11
電話0774(65)2813

谷進

浦安工業株式会社大阪支店　専務取締役支店長

〒530 大阪市北区天満２丁目３－５　電話06(351)7502
FAX06(353)2160
〒530 自宅・大阪市北区天神橋3丁目10-30-507
電話06(358)6900

名誉会長・名誉正会員

東畑謙三

株式会社　東畑建築事務所　取締役名誉会長

〒541-0044 大阪市中央区伏見町４-４-10　電話06(202)0391
〒658-0063 自宅・神戸市東灘区住吉山手4-4-35
電話078(851)5043

牧英二

日建設計　取締役社長

〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06(203)2361

玉川公弘

株式会社　西原衛生工業所大阪店　代表取締役社長

〒531-0071 大阪市北区中津６丁目８番４号　電話06(458)3628
〒659-0015 自宅・芦屋市楠町１-５　電話0797(22)8166

徳岡昌克

株式会社　徳岡昌克建築設計事務所　代表取締役

〒530-0047 大阪市北区西天満6-3-11-205　電話06(314)1688
〒661-0965 尼崎市次屋3-6-60　電話06(499)0701
〒810-0041 福岡市中央区大名1-8-33-703 電話092(716)5110
〒520-0501 滋賀県滋賀郡志賀町北小松1157
電話0775(96)1149
〒532-0033 自宅・大阪市淀川区新高6-6-18
電話06(391)8182

真塚達夫

株式会社　東畑建築事務所　取締役社長

〒541-0044 大阪市中央区伏見町４－４－10
電話06(202)0391
〒546-0044 自宅・大阪市東住吉区北田辺６－18－７

新年のご挨拶

平成10年元旦

（50音順）

松田恒彦

株式会社ART建築設計事務所　代表取締役所長
〒530-0044 大阪市北区東天満2丁目3-10 トップス天満ビル
電話06(357)5351代
〒546-0042 大阪市東住吉区西今川2丁目8-7
電話06(701)4571

松原満佐子

有限会社 柳々堂　取締役
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-3　電話06(443)0167～8
FAX06(443)1826

松本弘

西日本建設業保証株式会社　取締役社長
〒550-0012 大阪市西区立売堀2丁目1番2号　電話06(543)2553

三谷忠義

株式会社　三谷設計　代表取締役
〒694-0051 島根県大田市久手町波根西777-1
電話08548(2)8121代
〒694-0051 自宅・島根県大田市久手町波根西225-2
電話08548(5)8320

副会長

薬袋公明

日建設計　取締役会長
〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06(203)2361

村石全

株式会社 クトクコーポレーション
ミユキ建設株式会社　代表取締役社長
〒556-0022 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号　電話06(568)3671
〒596-0011 工場・岸和田市木材町9番地の3　電話0724(37)2524

八木重喜

YAGISO BRICKS
八木惣株式会社　常務取締役
〒593-8322 堺市津久野町3丁28-10　電話0722(62)3838
〒593-8322 自宅・堺市津久野町3丁28-10　電話0722(61)0443

矢野卓生

中央電設株式会社　取締役社長
（旧社名　中央電気工業株式会社）
〒530-0051 大阪市北区太融寺町3番24号　電話06(312)8881代表

山内恒男

株式会社石本建築事務所　取締役 大阪支所長
〒541-0054 大阪支所・大阪市中央区南本町2-6-12
（サンマリオン大阪）　電話06(251)7507
〒102-0074 本社・東京都千代田区九段南4-6-12 電話03(3262)7161
札幌・名古屋・九州・東北・横浜・中国・PORTLAND

山本貴士

朝陽電気株式会社　代表取締役
〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号　電話06(385)1361代
朝日ビルディング内
〒565-0873 自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号
電話06(871)0851

和田克朗

財団法人　大阪住宅センター　理事長
〒542-0081 大阪市中央区南船場4丁目4番3号
御堂筋アーバンライフビル4F
電話06(253)0071

和田眞一

株式会社　東和組　代表取締役社長
〒530-0047 大阪市北区天満4丁目5番14号 電話06(363)4051代
〒659-0065 自宅・芦屋市公光町3番8号　電話0797(22)3282

和中勝

株式会社　和中商店　取締役会長
〒531 大阪市北区豊崎5丁目8番11号　電話06(371)0731～5
〒150 東京都渋谷区桜丘町11－5 電話03(3464)9723
〒453 名古屋市中村区黄金通3丁目34番地
電話052(481)7338
〒662 自宅・西宮市大畑町10-22　電話0798(67)0386

事務局職員一同



新年のご挨拶

平成10年元旦

設計事務所有志

健康で豊かな生活文化の創造に貢献する

株式会社 **A.R.I 建築事務所**



代表取締役　建築家
亀井　晃治

■本　　社／大阪府大阪市中央区谷町7-3-4-203　〒542-0012
TEL 06-768-1771　FAX 06-768-1406
■東京支店／東京都千代田区東神田1-7-8　東神田大治ビル内
■神戸支店／兵庫県神戸市東灘区本山北町6-17-24
■創　　立／昭和37年4月1日　　■資　　本／7,600万円
■登　　録／一級建築士事務所　　大阪府知事　(リ)第1848号
■作　　品／帝塚山学院大学、帝塚山学園大学、関西外国語大学、
大阪明浄女子短期大学など多数
■グループ／(株)arix

浅井謙建築研究所株式会社

KEN ASAI ARCHITECTURAL RESEARCH INC.

大阪事務所　〒530 大阪市北区西天満2-9-4
TEL. 06 (361) 0035　FAX. 06 (361) 0149
神戸事務所　〒651 神戸市中央区御幸通4-2-20三宮中央ビル5F
TEL. 078 (272) 0333　FAX. 078 (272) 0331
東京事務所　〒160 東京都新宿区新宿6-28-8　ラ・ベルティ新宿
TEL. 03 (5272) 8941　FAX. 03 (5272) 1864

代表取締役　**浅井　謙**

株式会社 **伊東建築設計事務所**

代表取締役　岡　本　清　彦

〒556 大阪市浪速区元町2丁目12番30号 難波KIビル　電話 大阪(06)646-0161㈹

株式会社 **伊藤建築設計事務所**

代表取締役会長　鋤　納　忠　治
代表取締役社長　織　田　愈　史

本　　社　〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目2番13号(名古屋センタービル)　電話〈052〉222-8611
東京事務所　〒101-0021 東京都千代田区外神田三丁目5番12号(聖公会神田ビル)　電話〈03〉5294-6211

ISHIMOTO

株式会社 **石本建築事務所**

代表取締役会長　古　畠　誠　一
代表取締役社長　菅　原　道　雄
取締役大阪支所長　山　内　恒　男

本　　社　〒102-0074 東京都千代田区九段南4—6—12　電話03(3262)7161
大阪支所　〒541-0054 大阪市中央区南本町2-6-12(サンマリオン大阪)　電話06 (251) 7507代
支　　所　札幌・名古屋・九州　　事務所　東北・横浜・中国・PORTLAND

URABESEKKEI
株式会社 浦辺設計
URBAN DESIGN & ARCHITECTURE FOR BEAUTIFUL ENVIRONMENT

代表取締役 松村慶三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル〒530-0001 電話 06(341)1680
岡山事務所 岡山市磨屋町10-12・交通オアシスビル〒700-0826 電話 086(233)6010

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

代表取締役社長 岡本行善

本 社 〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-800号 オーク1番街 TEL 06—575—5555

株式会社 瀬戸本淳建築研究室

代表取締役 瀬戸本淳

〒650-0002 神戸市中央区北野町2丁目7—1—120 TEL078-222-1665(代)

株式会社 創美設計

代表取締役 中原英雄

大阪市北区天神橋3丁目2番10号 ルート南森町ビル 〒530-0041 TEL.(06)881-1778代表

株式会社 大建設計
DAIKEN SEKKEI, INC.

代表取締役社長 小林正春
常務取締役 大阪事務所所長 島幸一郎

大阪市西区京町堀1丁目13番20号 大建設計大阪ビル 電話06-449-6800(代)
札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・長野・京都・神戸・広島・北九州・福岡

アルパック
株式会社 地域計画建築研究所

代表取締役社長 金井萬造

本社・京都事務所・〒600 京都市下京区四条通高倉 大和銀行京都ビル6F
PHONE.075-221-5132(代) FAX.075-256-1764
大阪事務所・〒540 大阪市中央区城見1-4-70 住友生命OBPプラザビル15F
PHONE.06-942-5732(代) FAX.06-941-7478
名古屋事務所・〒460 名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークビジネスセンタービル13F
PHONE.052-265-2401 FAX.052-249-3925
東京事務所・〒160 東京都新宿区新宿2-5-16 霞ビル401号
PHONE.03-3226-9130(代) FAX.03-3226-9560
九州事務所・〒810 福岡市中央区天神1-15-35 ホンダハピエ6F
PHONE.092-731-7671 FAX.092-731-7673

株式会社 東海設計

代表取締役社長 小坂忠勝

本　　社　名古屋市中区栄2丁目6番1号(白川ビル別館)　〒460 TEL052-202-1241(代表)
東京事務所　東京都中央区八丁堀3丁目1番1号(京橋第3長岡ビル)　〒104 TEL03-3555-0474(代表)

東西建築サービス株式会社

取締役社長 新原徹郎

本　社　〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目7番6号　電話 06-202-3626㈹
支　社　〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町2丁目1番1号　電話 03-3663-1765㈹
(住友銀行浅草橋ビル4階)
広島出張所　〒730-0029 広島県広島市中区三川町2番6号　電話 082-245-4801㈹
(くれしん広島ビル4階)

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長 市川宏
取締役社長 眞塚達夫

本社・大阪事務所　大阪市中央区伏見町4丁目4番10号 電話(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2丁目4番3号(永田町ビル) 電話(03)3581-1251
名古屋事務所　名古屋市中区錦1丁目13番26号(三井生命伏見ビル) 電話(052)223-3931
九州事務所　福岡市博多区博多駅前2-2-1(福岡センタービル) 電話(092)472-8737

建築・土木の設計監理

日建設計

代表取締役会長 薬袋公明
代表取締役社長 牧英二

大阪	541	大阪市中央区高麗橋4丁目6－2	電話 (06) 203-2361
東京	112	東京都文京区後楽2丁目1－3	電話 (03) 3813-3361
名古屋	460	名古屋市中区栄4丁目15－32	電話 (052) 261-6131
支所・その他	東北(仙台)・神奈川(横浜)・北陸(富山)・神戸・広島・九州(福岡) シンガポール・ソウル・クアラルンプール		

株式会社 日積サーベイ

会長 生島道春
社長 加藤哲也

本社	〒540-0012 大阪市中央区谷町3－1－9 (MG大手前ビル)	TEL(06) 944－2755代表
SSDセンター	〒540-0012 大阪市中央区大手通2－1－6 (MG大手通ビル)	TEL(06) 944－9348代表
㈱東京日積	〒110-0016 東京都台東区台東4－14－8 (シモジン・パークビル)	TEL(03)3836－1271代表
日積設計監理㈱	〒550-0003 大阪市西区京町堀1－10－8 (福岡ビル)	TEL(06) 444－2706

株式会社 安井建築設計事務所

取締役会長 佐野正一
取締役社長 佐野吉彦

本社 〒540-0034 大阪市中央区島町2丁目4番7号 電話 06(943)1371(大代)
支社 東京・名古屋・大阪・神戸・広島・福岡

新年のご挨拶

平成10年元旦

建設業有志

株式会社 あめりか屋

取締役会長　前野 慶太郎
取締役社長　前野 脩

〒530-0005 大阪市北区中之島四丁目3番25号 電話 (06) 444—1501

人・都市・自然のシンフォニー

Asanuma

株式会社浅沼組

取締役社長 浅沼健一

本社・大阪本店　大阪市天王寺区東高津町12番6号　電話 06(768)5222
東京本店　東京都新宿区荒木町5番地　電話03(5269)3111
名古屋支店　名古屋市中村区名駅南三丁目3番44号　電話052(571)5571
支店　北海道・東北・横浜・神戸・広島・九州

空間に新しいエナジー

ANDO 安藤建設

取締役社長 沖田幸作　取締役支店長 吉村昌明

本社　東京都港区芝浦3丁目12－8　電話(03)3457－0111(代)
大阪支店　大阪市福島区福島6丁目3－21　電話 (06)453－2190(代)

---

imanishi

株式会社今西組

取締役社長　今西邦夫

本社　大阪市天王寺区上本町6丁目9番21号　TEL06 (779) 3361
支店　東京都新宿区内藤町1番地　TEL03(3354) 0581
営業所　京都・奈良・西宮・神戸・埼玉

大之木建設株式会社

取締役社長　伊藤隆一
広島支社長　大之木雄次郎

本社　呉市中央3丁目12番4号　電話　0823(26)1511番
支社　広島市中区本川町3丁目1番5号　〒730-0802　電話　082(231)5244番
支店　東京都港区麻布台2丁目2番12号　三貴ビル4F　電話　03(3585)3655番
〃　福岡市城南区神松寺2丁目13番24号　電話　092(863)7171番



株式会社 大林組

取締役会長　大林芳郎
取締役社長　向笠慎二

東京本社　東京都千代田区神田司町2丁目3番地　電話　03（3292）1111番
本　　店　大阪市中央区北浜東4番33号　電話　06（946）4578番
支　　店　札幌・東北・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州



株式会社 奥村組

取締役社長　奥村正太郎

本　　社　大阪市阿倍野区松崎町2の2の2　電話 大阪(06) 621-1101(代表)
東京本社　東京都港区元赤坂1の3の10　電話 東京(03)3404-8111(代表)
支　　社　東京・関西
支　　店　札幌・東北・北関東・横浜・東関東・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州・福岡

快適な環境を創造する

鹿島
KAJIMA CORPORATION

代表取締役社長　梅田貞夫
専務取締役関西支店長　豊田佳徳

本　　社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話 03(3404)3311(大代)
関西支店　大阪市西区阿波座1－3－15　電話 06（536)3311(大代)



株式会社 柄谷工務店

取締役社長　柄谷順一郎

本　　社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(415) 2 8 0 0 (大代)
支　　店　大阪・神戸　営業所　西宮・三田・高砂・西播磨



共立建設株式会社 関西支店

取締役支店長　飯塚英雄

支　店　〒540-0026 大阪市中央区本町2－2－5　TEL 06－ 942－2491（代表）
本　社　〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1－16－10　TEL 03－3461－6141（代表）



株式会社 熊谷組 大阪支店

取締役社長　松本良夫
常務取締役大阪支店長　山﨑諒

本　　社　東京都新宿区津久戸町2番1　電話03(3260)2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話06（353)2516番

公成建設

代表取締役社長　絹川　治

本　　社　〒600-8322　京都市下京区五条通西洞院西入　☎075-365-8300
大阪支店　〒531-0072　大阪市北区豊崎2丁目4番3号　☎06-375-1121
東京営業所　〒141-0021　東京都品川区上大崎3－3－9－215　☎03-3442-1100
名古屋営業所　〒453-0023　名古屋市中村区若宮町3丁目48　☎052-471-1223

株式会社 金剛組

代表取締役　金剛利隆

本　　社　〒543 大阪市天王寺区四天王寺1丁目14番29号　TEL 大阪06（779）7731㈹
FAX 大阪06（779）7133
関東支店　〒350-02 埼玉県鶴ヶ島市脚折町1丁目40番12号　TEL 埼玉0492（87）0301
FAX 埼玉0492（87）0300

SANWA

三和建設株式会社

取締役社長　森本晴夫

本社・本店　大阪市淀川区加島1丁目55番6号　〒532-0031　電話 06(301)6636
東京・京都・神戸・高槻

人がつくる、人の場所。

SHIMIZU CORPORATION

清水建設

取締役社長　今村治輔
専務取締役大阪支店長　村上謙一郎

本　　社　東京都港区芝浦1－2－3　電話 03(5441)1111
大阪支店　大阪市中央区本町3－5－7　電話 06（263）2800

SEKISUI HOUSE

積水ハウス株式会社

代表取締役社長　奥井　功

本　　社　〒531-0076　大阪市北区大淀中1丁目1番88号（梅田スカイビル）　☎06（440）3111
東京本社　〒151-0053　東京都渋谷区代々木2丁目1番1号（新宿マインズタワー）　☎03(5352)3111

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長　錢高一善

本　　社　大阪市西区西本町2丁目2番11号
なにわ筋ツインズ　ウエスト
大阪(06)531—6431
東京本社　東京都千代田区一番町31番地
東京(03)3265—4611
支社・支店　大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国
九州
URL http://www.zenitaka.co.jp

大成建設株式会社

TAISEI

取締役社長　平島　治
専務取締役大阪支店長　遠藤郁夫

本　社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル　TEL03(3348)1111大代表
大阪支店　大阪市中央区南船場1丁目14番10号　TEL06(268)8500
支　店　東京・名古屋・九州・札幌・東北・広島・横浜・北信越・四国・千葉・関東・神戸

DNC. 大日本土木株式会社

代表取締役社長　甕（もたい）　哲司

東京本社　〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町2丁目35番地　電話03（3268）5511
大阪支店　〒530 大阪市北区堂島二丁目2番2号 近鉄堂島ビル　電話06（341）5211

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541 大阪市中央区本町4丁目1－13　電話 大阪（252）1201番(大代表)

信用と技術の

鉄建

TEKKEN

専務取締役大阪支店長　東田敏男

大阪支店　〒541 大阪市中央区瓦町3－3－7　電話 06（201)1881(代表)
本　社　〒101 東京都千代田区三崎町2－5－3　電話 03(3262)3411(代表)

戸田建設株式会社

代表取締役社長　戸田守二
取締役大阪支店長　河口允昭

本　社　〒104-0031　東京都中央区京橋1丁目7番1号　TEL 東京03(3562)6111
大阪支店　〒550-0005　大阪市西区西本町1丁目13番47号　TEL 大阪06（531)6095
支　店　東京・千葉・関東・横浜・北陸・神戸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

南海辰村建設

取締役社長　芝谷昭
専務取締役大阪本店長　服部勇治

〒556-0011　大阪市浪速区難波中3丁目5番19号　電話 06（644)7823番

NIHON KENSETSU

日本建設株式会社

取締役社長　三　浦　結　市

大阪本社　大阪市中央区備後町１丁目６番15号　TEL（06）226-0630(代表)
東京本社　東京都文京区小石川２丁目６番22号　TEL（03)3818-6081(代表)
支　　店　東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

不動建設株式会社

取締役社長　市　吉　正　信

大阪本社　大阪市中央区平野町4丁目2番16号　電話　０６（２０１）９２０３番
東京本社　東京都台東区台東1丁目2番1号　電話　０３（3837）６００９番
支　　店　北海道・東北・千葉・横浜・名古屋・神戸・広島・四国・南四国・九州・北九州

FUJIKI

株式会社　藤木工務店

取締役社長　藤　木　鐵　三

本　　社　〒540-0028　大阪市中央区常盤町 1-3-8　☎06-966－0400(代)
東京本社　〒160-0008　東京都新宿区三栄町23-4　☎03-3357-1600(代)
本支店　大阪・東京・横浜・京都・倉敷・四国・福岡

豊國建設株式会社

代表取締役　松丸哲也

本　社　〒530-0042 大阪市北区天満橋2丁目3番1号 ☎06(353)1001(代)
支　店　東京・東北　　FAX06(353)1091・1092
営業所　北上・新井・福井・京都・舞鶴・加古川・益田・福岡・神戸・西宮

Matsumura

株式会社松村組

取締役社長　福　田　耕　作

本社・大阪本店　大阪市北区東天満１丁目10番20号　電話 大代表 大阪(353) 1131
東京本店　東京都千代田区内幸町1丁目1番2号　電話 大代表 東京(3502)1211
支　　店　名古屋・札幌・東北・広島・九州・神戸・京都・横浜

MICHIDA

株式会社　道田工務店

本　店／〒651-0087 神戸市中央区御幸通6丁目1番20号 TEL(078)252-2211　FAX(078)252-3927
(三宮山田東急ビル)
本　社／〒666-0016 川西市中央町18番21号 TEL(0727)57-9777(代) FAX(0727)58-2360

望月建設株式会社

代表取締役会長　望月小太郎
代表取締役社長　松村利重

本　社　大阪市北区中崎西2丁目3番12号　〒530-0015　電話 大阪 (375)2345(代表)

株式会社 森組

取締役社長　森　幸彦

本　社　大阪市中央区道修町4丁目5番17号　〒541-0045　電話(06) 201-2761
大阪本店　大阪市中央区道修町4丁目5番17号　〒541-0045　電話(06) 201-2762
東京本店　東京都中央区日本橋浜町3丁目23-1　電話(03)3808-2071
支　店　東北・横浜・北陸・名古屋・奈良・神戸・中国・四国・九州
営業所　滋賀・京都・和歌山・紀泉・高石・西宮・松山・北九州・熊本

保存と開発に取り組む…

数寄屋建築

株式会社 安井杢工務店

代表取締役　安井洋太郎

本　社　〒617 京都府向日市上植野町御塔道42　TEL (075)933−0012㈹　FAX (075)933−4931
東京事務所　東京都練馬区東大泉3-22-11-401　TEL・FAX (03)3925−0798

YAMAOKA

山岡建設株式会社

代表取締役　山岡週治

〒540-0036　大阪市中央区船越町2丁目2番1号　TEL06-941-2590

株式會社 米田工務店

代表取締役会長　米田良男
代表取締役社長　米田髙明

本　社　〒543　大阪市天王寺区逢阪1丁目1番7号　TEL 大阪(06)771-7771代表
FAX 大阪(06)771-5077代表

新年のご挨拶

平成10年元旦

団体・報道・建材・設備工事有志

財団法人 大阪建築防災センター

理事長　小西　岬

〒540-0011 大阪市中央区農人橋2－1－10(大阪建築会館5F)　電話 06(943)7253

社団法人 日本建築協会京都支部

支部長　望月秀祐

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入 建設会館別館　電話075(211)2857・2877

社団法人 日本建築協会中国支部

支部長　古林敏郎

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1丁目8-4日興ビル内　TEL 082(244)2111

社団法人 日本建築協会東海支部

支部長　小宮三辰

〒460-0008 名古屋市中区栄4丁目3－26(昭和ビル5階)　電話052(261)1451

社団法人 日本建築協会和歌山支部

支部長　小池康雄

〒640-8045 和歌山市卜半町38番地 建築士会館内　電話0734(23)2562

社団法人

日本建築材料協会

会　長　柴田藤祐

〒550-0003　大阪市西区京町堀1丁目8番3号　電話06(443)0345

建築
CAD

建築総合学科（3年/昼）　CAD製図科（1年/昼）
建築学科（2年/昼・夜）　建築CAD科（1年/夜）
建築設備科（2年/昼・夜）　建築実務専科（1年/昼）

専修学校
＜明治28年創立＞

学校法人
福田学園

大阪工業技術専門学校

〒530-0043　大阪市北区天満1-9-27　☎06(352)0091　0120-0910-19

もっとも信頼され、読まれている情報紙

創業43年

株式会社

建設日報社

代表取締役社主　重村登龍
代表取締役社長　重村一

本　社　〒550-0006 大阪市西区江之子島1-7-3 TEL06(444)2405-9
別　館　〒550-0006 大阪市西区江之子島1-6-2 TEL06(444)6431-4

建設通信新聞

株式会社

日刊建設通信新聞社関西支社

関西支社長　霜崎　等

〒540-0026 大阪市中央区内本町1－3－5　電　話 06(944) 9191代表
内本町山森・住友生命ビル　FAX 06(944) 9197
本社・〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-13-7　電　話 03(3259)8711代表

大阪府耳順会

（大阪府OB建設技術研究会）

会　長　山地英雄(三建設計)　副会長　牧田顯治　名手宏彦(ミサワホーム)
幹　事　両国　寛(クリハラント)　林　貞夫(立興建設)　兵本宣弘(東急建設)　上野　勇(栗本建設工業)　辻田幸治(建設産業協会)
野村昌史(松村組)　廣畑　哲(不動建設)　恒吉正樹(西田工業)　八木常美(大都工業)
会計幹事　竹山歡一(服部建設)　福家　敬(鉄建建設)　監事　森岡　瀞(東芝)　石橋輝雄(大鉄工業)

会合場所　㈳日本建築協会　☎06－348－0635　FAX 06－348－0634

会員の親睦と講演――――――入会歓迎!!

社団法人 日本建築協会

建築クラブ

代表　佐野正一

事務局　日本建築協会

〒530-0001　大阪市北区梅田1-1-3-2100　大阪駅前第3ビル21階
電　話（06）348－0635　FAX（06）348－0634

Digital Pri-Press

AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社　〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-351-5428 Fax.06-351-5299

UMEHIKO

株式会社 梅彦

代表取締役 二野為之助

本社 大阪市北区中崎西3丁目1番2号 電話06(377)3500大代
FAX06(377)3501大代
工場 茨木市豊川3丁目1番6号 電話0726(43)5185代

TOF（フッ素樹脂積層被覆鋼板）、COM（耐酸被覆鋼板）製造及び責任施工
金属製屋根、外装工事業

OSHÍMA OHYO

代表取締役社長 貞利政和
本社／大阪本店 大阪市旭区太子橋1-15-22 TEL 06-954-6521
支店、営業所 東京・名古屋・新居浜・四日市・岡山・広島・宇部・福岡
工場 新居浜・寝屋川
大島応用化学工業株式会社

建築用板硝子販売施工

キムラ硝子建材株式会社

代表取締役 木村雅秀

〒540-0037 大阪市中央区内平野町3丁目2番11号 電話 06(941)4181㈹

人と文化のふれあいをつくる

SANSEI YUSOKI Sansei

三精輸送機株式会社

代表取締役 本多孟

本社：大阪府吹田市江坂町1丁目13-18 〒564 ☎ 06(385)5621㈹
東京支店：東京都渋谷区千駄ヶ谷5の29の11 ☎ 03(3356)5651㈹
福知山工場：福知山市長田野町2丁目45番地 ☎ 0773(27)1211㈹
営業所：札幌・青森・秋田・仙台・名古屋・金沢・広島・九州・沖縄

住友金属建材株式会社

社長 津田和明

本社 大阪市西区江戸堀2-1-1 江戸堀センタービル TEL 06-447-2830㈹
東京本社 東京都中央区日本橋小伝馬町7-2 古賀オールビル TEL 03-3660-1901㈹

TAJIMA 株式会社 タジマ

東京営業本部　〒101 東京都千代田区岩本町3-11-13　電話(03)5821-7731　FAX(03)3862-5908
大阪営業所　〒550 大阪市西区京町堀１－10－５　電話(06) 441-5951　FAX(06) 444-2596

田島ルーフィング株式会社
東西アスファルト事業協同組合

東　京：〒101　東京都千代田区岩本町３－11－13　電話 (03)5821—7711
大　阪：〒550　大阪市西区京町堀１－10－５　電話 (06) 443—0431

DIC 大日本インキ化学工業株式会社

常務取締役 支社長　所澤　新　　取締役 支店長　中野近幸

土木建築材料
販売促進プロジェクト

〒541 大阪市中央区久太郎３丁目５—19
TEL (06) 252-6161

TOYO Shutter 東洋シヤッター株式会社

代表取締役社長　岡田　敏

本　社　〒540-0024 大阪市中央区南新町1-2-10（ＴＳビル）電話(06) 943—6571
東京本社　〒106-0032 東京都港区六本木6-3-18（第一地所麻布ビル）電話(03)3479—2911

株式会社 西原衛生工業所大阪店

代表取締役社長　玉川公弘

本　社　大阪市北区中津６丁目８番４号　電話 大阪(06)458—3628
支店・営業所　福岡・北九州・宮崎・京都・神戸・天理・川西

日本電植株式会社

代表取締役社長　松村信人

〒530-0043　大阪市北区天満２丁目５—15　TEL06-352-7502㈹　FAX06-355-2714

マルエス印▲ルーフィング▲シングル▲メルタン21(トーチ工法)

日新工業株式会社 大阪支店

大阪支店長　佐々木通博

本社営業所　東京都足立区千住東２－23－４　☎東京(3882)2424（代）
大阪支店　大阪市西区新町１丁目12番22号　☎大阪(533)3191大代表
出張所　名古屋・広島・福岡・札幌・山形・工場／東京・埼玉・山形

日本アスファルト防水工業 協同組合 関西支部

支部長　友長幸男

大阪市西区新町１丁目12番22号　日新工業株式会社大阪支店内
電話（533）３１９１　大代表

超高層ビルから 一戸建てまで
愛される夢を育てる

日立冷熱株式会社 代理店
日立化成工業株式会社 代理店
新明和工業株式会社 代理店
BRIDGESTONE 代理店

三協アルミニウム工業㈱ 代理店
立山アルミニウム工業株式会社 代理店
信越ユニット株式会社 代理店
昭和ロック株式会社 代理店
庭づくりのパイオニア GLOBEN

ムツミ産業株式会社

代表取締役　傳馬正明

〒550 大阪市西区靱本町１丁目17番15号　電話（06）大代表 441－０３７８番 出張所：東京・京都・北九州

山本窯業化工株式会社

YAMAMOTO YOGYO

代表取締役社長　山本泰通

本　　社　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町41-20　TEL(06)338-8601　FAX(06)338-8606
大阪営業部　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町８－７　TEL(06)338-8701　FAX(06)384-0557
営 業 所　東京・北関東・名古屋・静岡・広島・岡山・福岡・仙台／福崎工場

UNION CORPORATION
http://www.artunion.co.jp/

ドアハンドルの
株式会社ユニオン

代表取締役 社長　立野純三

■本社
大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ☎06(532)3188 ㊠06(533)3747
■大阪支店・ショールーム
大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ☎06(532)3731 ㊠06(532)0568
■東京支店
東京都江東区白河2-9-5 〒135-0021 ☎03(3630)2811 ㊠03(3630)2816
■東京ショールーム
東京都港区虎ノ門2-3-22 〒105-0001 ☎03(3506)1717 ㊠03(3506)1718
■名古屋営業所・ショールーム
名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454-0805 ☎052(363)5221 ㊠052(363)5255

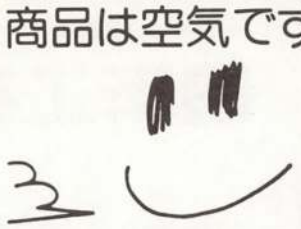
ITEMS
●建物用ドアハンドル
●レバーハンドル
●ケアシステムーハンドバー
●クロセットドア
●ドアストップーエッセ
●サインシステムーピクト
●消火器収納ケースーアルジャン
●フロアシステム
●都市景観ーランドボール・エキスボール
●キャスタル+メタルアート
●アーキパーツ

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　琴浦　健

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話 06(202) 3071（代表）
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町1－4－1　電話 03(3502)6111（大代）
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・横浜・東関東・北関東・京都・神戸・四国

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131代
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06-363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・茨城・大宮・千葉・山梨・静岡・福井・滋賀・和歌山・松江・長崎・沖縄
出張所　青森・秋田・盛岡・川崎・富山・岐阜・三重・鳥取・岡山・高松・下関・大分・熊本・宮崎・鹿児島

Digital Pri-Press



AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-351-5428　Fax.06-351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
郵便番号542 電話 大阪（06）768－5031 代表
メンテナンス部　電話　大阪（06）768－1651 代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
郵便番号112　電話（03）5689－2351 代表

夢×技=∞ 無限大

何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
K 栗原工業株式会社
本社/〒530 大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL 06(313)1101
創業1919

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア
東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電話 06(361)3671(代)
支店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電話 03(3666)1478(代)
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

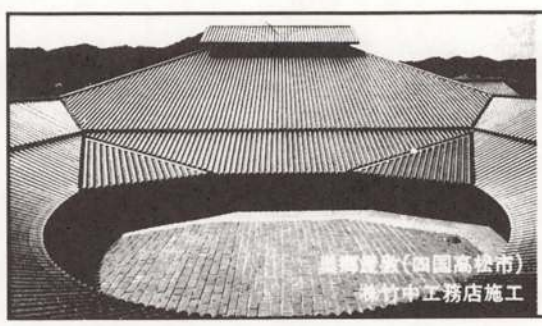
電気設備 ㊋ 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本社 〒530 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル) 電話06(385)1361(代)
大阪営業所 〒564 吹田市垂水町3丁目34-6 電話06(385)1361(代)
京都営業所 〒615 京都市右京区西京極葛野町21 電話075(311)1185(代)
神戸営業所 〒650 神戸市中央区浪花町59(神戸朝日ビル) 電話078(333)7756(代)

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
まちと暮らしにあふれるクリエイティブカンパニーをめざす
住友電設株式会社
大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
常務取締役支社長 馬田栄
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話 大阪(202)0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
㈱ 株式会社 川岸窯業商店
本社 大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－532－0461(代表)
FAX.06－535－5181
天理営業所 天理市丹波市新町49

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
SANPO
三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納秀一
本社 〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル) TEL.06(364)1471・FAX.06(364)5533
東京支社 〒105 東京都区西新橋3-6-3 ランディック新橋ビル TEL.03(5472)3311・FAX.03(5472)0085
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城3-12-14 TEL.052(991)5131・FAX.052(914)7535
神戸支店 〒657 神戸市灘区友田町3-6-11K・Tビル TEL.078(842)6411・FAX.078(842)6416
堺研究所 〒590 大阪府堺市三宝町七丁369 TEL.0722(27)8408・FAX.0722(27)1424



〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ナニワ瓦株式会社
☎ 五六一～七四一六
ファックス 五六一～七四五四
あらゆる屋根工事の相談は、
屋島豊旅(四国高松市)
旅館中工務店施工

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547 大阪市平野区加美北3－4－5
TEL.06(792)5858 FAX.06(792)2810

新鮮
情報処理／編集・企画／印刷・製本
ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。
ND
日本電植株式会社
〒530 大阪市北区天満2丁目5番15号 TEL.06(352)7502(代)
FAX.2F事務所 06(355)2714 3F制作 06(357)7250

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子501

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木3－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)



デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

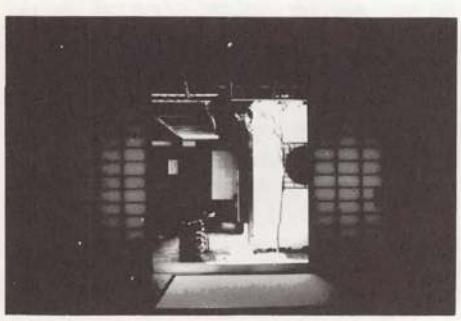
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

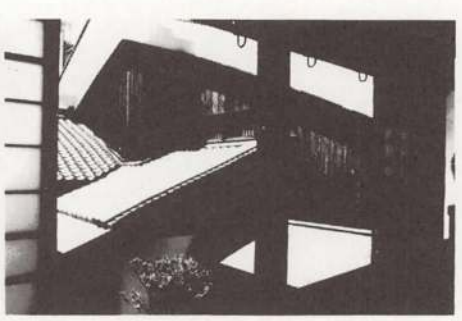
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）877－1581







テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ―― コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL.03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL06(391)1081～2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

建築技術選書〈特装版〉

企画/日本建築協会

学芸出版社

〒600京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

(Tel)075-343-0811(Fax)075-343-0810

水にまつわるトラブルの事例・解決策

建築編

「建築漏水」編集委員会編

B5判/208頁/2色刷

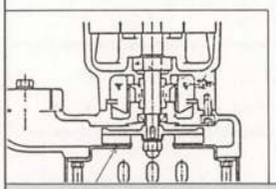
定価4120円（本体4000円）

設備編

「設備漏水」編集委員会編

B5判/184頁/2色刷

定価4120円（本体4000円）



✹解決のノウハウ集

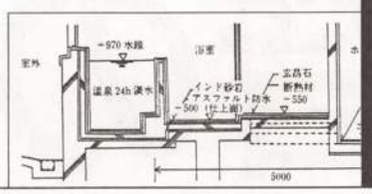
あり得ないと思っても，不具合となっているのが現実

各社で実際に生じた事例をもとに整理・分析

現状⇨原因⇨処置⇨再発防止策までを図解で詳説

トラブル予防と対策にすぐ役立つ《チェックリスト》掲載

デザイナーを目指す人，施工監理のオーソリティーを志す人へ



建築編

大林組，鹿島，清水建設，竹中工務店，大成建設，松村組の6社を中心に，実際に発生した事例をもとに社内教育メンバーが整理・分析

〈目次〉

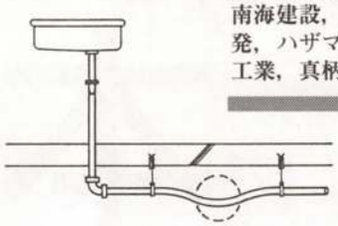
陸屋根/勾配屋根等/パラペット

外壁/サッシ・開口部/トップライト/出入口まわり/バルコニー

樋/床・その他/地下/結露

用語解説/チェックリスト

設備編



浅沼組，朝日工業社，安藤建設，奥村組，鹿島，金山工務店，熊谷組，鴻池組，五洋建設，佐藤工業，清水建設，新菱冷熱工業，須賀工業，住友建設，西武建設，錢高組，大成建設，大和ハウス工業，竹中工務店，鉄建建設，戸田建設，東海興業，東急建設，東洋建設，飛島建設，南海建設，西原衛生工業所大阪店，西松建設，日産建設，日本国土開発，ハザマ，長谷工コーポレーション，フジタ，不動建設，前田建設工業，真柄建設，松村組，三井建設の38社が情報提供

〈目次〉

給水/給湯/排水

器具まわり

換気/空調/電気/その他/腐食

チェックリスト

［プロのノウハウ］

高木任之◀著　日本建築協会◀企画

都市計画法を読みこなすコツ

▶目次
1 法律でいう「都市計画」とは何か
2 都市計画では何を決めるか（都市計画の内容）
3 都市計画を決定する・都市計画を実施する（その手続き）
4 市街化調整区域内の市街化を抑制する
5 市街化区域内の整備を進める
6 都市計画事業を進めやすくする
7 事業を実施して都市計画を実現する（市街地開発事業）
8 街づくりを誘導するシステム（地区計画等）

四六判■288頁
定価■2472円

平成8年施行の新用途地域と
阪神大震災後の最新条項を
盛り込んだ
都計法のハンドブック

建築関連法規を読みこなすコツ

▶目次
1 道路・下水道と建築基準法
2 水・ガス・電気と建築基準法
3 特殊建築物と建築基準法
4 文化財保護法と建築基準法
5 消防法と建築基準法（その1）
6 消防法と建築基準法（その2）
7 都市計画法と建築基準法（地域・地区）
8 区画整理・再開発法制と建築基準法
9 建築士法・建設業法と建築基準法

四六判■288頁
定価■2472円

関係法令を建築関係者のために
とりあげた待望の解説書

▶姉妹書「新版 建築基準法を読みこなすコツ」
「建築物の消防法を読みこなすコツ」

学芸出版社　〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL075-343-0811　FAX075-343-0810

［プロのノウハウ］

2色刷

経験に基づいて
施工現場管理の
ノウハウを結集

鉄筋工事・本音（ホンネ）の現場学

工事の約束事を示し，合理化を図り，
生産性向上へのチェックポイントを解説。

▶目次
1 鉄筋とコンクリート
2 鉄筋の約束事……概要／外力と応力のはなし／建築基準法・日本建築学会標準仕様書の鉄筋に関する定め
3 鉄筋工事の問題点……台直し／かぶり厚さ不足／鉄筋の材質／鉄筋の重なり，その他
4 鉄筋工事の管理ポイント……概要／材料の発注／施工図／施工要領書／コンクリートのひび割れと鉄筋／工事のチェックポイント
5 鉄筋工事の将来……鉄でない鉄筋／鉄筋の替わりに繊維を使う／錆びない鉄筋／鉄筋継手の多様化／鉄筋先組み／鉄筋の結束／鉄筋とPC／プレストレス／梁貫通補強
6 鉄筋工事の歴史

荒川治徳■著
四六判■208頁
定価■2266円
企画■日本建築協会

学芸出版社　〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL075-343-0811　FAX075-343-0810



カーテンウォール用非汚染形超耐候性フッ素樹脂塗料

YBフッカロン（カイナータイプ）

YBフロン160（中温焼付タイプ）新発売

YBフロンCW（低温焼付タイプ）新発売

第2工業塗料本部	東京 TEL.03-3472-3136 大阪 TEL.06-2 0 3-5015

PC・RC素材（現場施工・吹付）用非汚染形仕上げ塗料

アレスセラフッソ

建築塗料本部	東京 TEL.03-3472-3111 大阪 TEL.06-2 0 3-5012

ALESCO 関西ペイント

東　京／〒140　東京都品川区東大井5丁目24-15
大　阪／〒541　大阪市中央区伏見町4丁目3-6

インターネットホームページ http://www.kansai.co.jp



'97-'98
タジマ建物別・部位別・機能別提案［高齢者ケア施設の環境と床ソフト］
人と空間を見つめたヒューマナイジングフロア

これからの高齢者ケア施設の床

居室は

ACフロア［木目調］

「さわやかに通り過ぎる風。——四季がかおる。
そのかおりを胸いっぱい吸って、あらたな気分。」

入居者にとっての居室は、長い時間を過ごす生活の拠点です。四季折々の風がかおる、自宅にいるような安心感と心地よく、くつろげる空間づくりが大切です。そして、入居者と介護者のために、安全性や清潔感、メンテナンス性などに配慮した床材が必要となります。タジマACフロア（木目調）は、温かく落ちついたナチュラルな色彩と、親しみやすさを感じる木目柄により、居室に最も適した床材です。

連続気泡フォームバックビニル床シート
全色抗菌仕様 **ACフロア 28 35 60**

［木目調］滑りにくく、疲れにくく、重歩行に耐え、手入れが容易で衛生的です。車椅子も移動しやすく、転倒時の衝撃をやわらげます。

材質区分●連続気泡フォームバックビニル床シート DO
寸　法●2.8mm（厚さ）×1,820mm（幅）×9m
　　3.5mm（厚さ）×1,820mm（幅）×9m
　　6.0mm（厚さ）×1,820mm（幅）×9m
色　数●57色　梱　包●9m／巻


ACフロア 28
4,400円/㎡
（工事費別）


ACフロア 35
5,500円/㎡
（工事費別）


ACフロア 60
9,000円/㎡
（工事費別）

株式会社タジマ
営業本部　〒101　東京都千代田区岩本町3-11-13　TEL.03(5821)7731　FAX.03(3862)5908
東京営業所　〒101　東京都千代田区岩本町3-11-13　TEL.03(5821)7741　FAX.03(3861)3615
大阪営業所　〒550　大阪市西区京町堀1-10-5　TEL.06(441)5951　FAX.06(444)2596

床の情報とトータルなソフトを提案するタジマショールームへぜひお越しください。
TAJIMA SHOWROOM
A.M.9:30～P.M.5:30（土・日・祝日休館）
アドレス：http://www.tajima-inc.com　TEL.03(5821)7731